授 業 計 画

平成 24 年度

Syllabus 2012

健康科学部 栄養マネジメント学科

健康科学部

栄養マネジメント学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の「十七条憲法」に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー（AP）

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1．自ら学ぼうとする意欲のある人
2．自己を見つめ、自己をふり返る努力ができる人
3．多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー（CP）

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3 つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

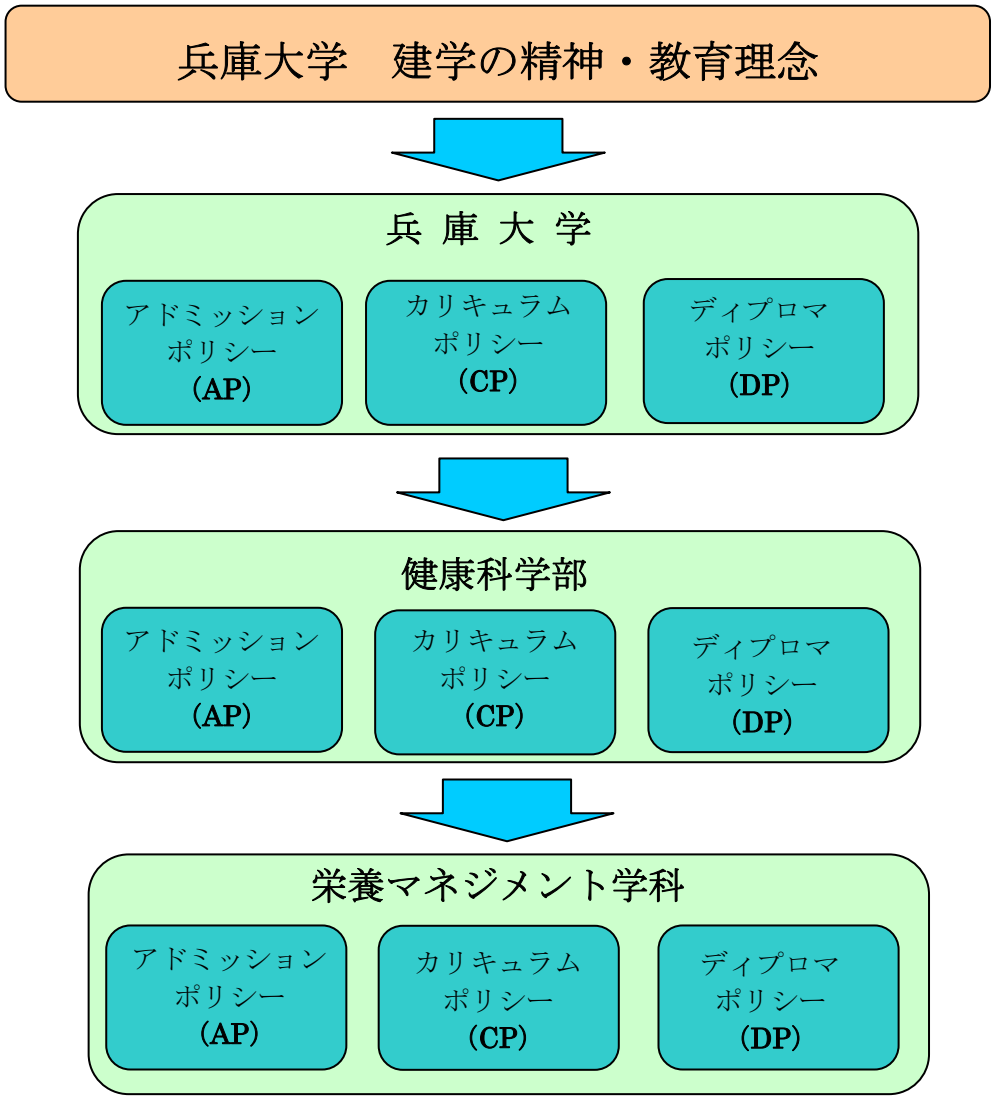
1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

ディプロマポリシー（DP）

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力



みなさんは、

AP に基づいて入学し、

CP に沿って学び

DP に定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。	・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。	・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

--◇--

３つの方針（ポリシー）について

アドミッションポリシー
・本学に入学して学ぶために必要な能力や意欲についての考え方を示しています。

カリキュラムポリシー
・本学で学ぶ内容や科目を、教育目標に合わせて組み立てるための方針を示しています。

ディプロマポリシー
・本学において必要な単位を履修し、学位を取得するために卒業するまでに身につけることが必要な能力を示しています。

栄養マネジメント学科ポリシー

栄養マネジメント学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性を礎とし、管理栄養士をはじめとした「食」と「健康」のスペシャリストの養成を目指します。

アドミッションポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

1. 「食を通じて人々の健康の維持と増進および疾病予防と回復のために役に立つ仕事がしたい」という姿勢を持ち、その仕事を通して自己の向上を目指す人
2. 自己の成長のために、自己を謙虚にみつめ、改善を心がける努力ができる人
3. 仲間と共に学び、共に成長する事に喜びを感じ、協力して意欲的に取り組むことのできる人人

カリキュラムポリシー

・栄養マネジメント学科のディプロマポリシーに示された３つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 高校から大学への円滑な移行をはかり、大学で学ぶ姿勢を身につける
2. より広い視野をもち総合的に判断する能力を身につける
3. 実践的な食の専門家となるために、周囲と協力して課題発見・問題解決できる能力を身につける
4. 社会人としての一般常識および食の専門家としての誇りを礎に、生涯に渡る自己研鑽の姿勢を身につける
5. 地域住民を対象とした実践活動を通し、応用力とコミュニケーション能力を強化する

ディプロマポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身に付けた人に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力
2. 食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力
3. 自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

カリキュラムマップ

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目の区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○														
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）	食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）	学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）	洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）	方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）	主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）	現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）	与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）	他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）	他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）	新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）	科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）	データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）	常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）	食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）
基礎科目	日本語（読解と表現）	◎														
	英語	◎														
	コンピュータ演習	◎														
	生物基礎	◎														
	化学基礎	◎														
教養科目	宗教と人生						◎									
	生命倫理学							◎								
	哲学							◎								
	文学							◎								
	芸術							◎								
	色彩とデザイン									◎						
	心理学									◎						
	仏教と現代社会									◎						
	国際理解と文化Ⅰ（キリスト教）									◎						
	国際理解と文化Ⅱ（イスラム教）									◎						
	法と社会							◎								
	日本国憲法									◎						
	人権の歴史				◎											
	政治学				◎											
	社会学							◎								
	経済学				◎											
	化学		◎													
	生物学		◎													
	食と健康		◎													
	実用英語(初級)									◎						
	実用英語(中級)									◎						
	中国語(初級)									◎						
	中国語(中級)									◎						
	韓国語(初級)									◎						
	韓国語(中級)									◎						
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）						◎									
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）						◎									
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）						◎									
	私のためのキャリア設計											◎				
専門教育科目 Ⅰ群（領域に関する科目）	基礎ゼミⅠ	◎														
	基礎ゼミⅡ	◎														
	栄養のための基礎生物化学	◎														
	実験基礎演習			◎												
	調理基礎演習Ⅰ	◎														
	調理基礎演習Ⅱ						○		◎							
	医学概論		◎													
	コミュニケーション論									◎						
	バイオテクノロジー		◎													
	食料経済		◎													
	健康科学	○	◎													
Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習					○						◎				
	情報処理と栄養統計Ⅰ											○	◎			
	情報処理と栄養統計Ⅱ												○	◎		
	公衆衛生学Ⅰ（公衆衛生）	○						◎								
	公衆衛生学Ⅱ（健康管理）		○					◎								
	社会福祉概論	◎														
	生化学Ⅰ	◎														
	生化学Ⅱ	○	◎													
	生化学実験Ⅰ			◎												
	生化学実験Ⅱ				○	◎										
	栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	◎														
	栄養解剖学・人体生理学Ⅱ		◎													
	栄養解剖学実験			◎												
	人体生理学実験				◎											
	臨床病態学Ⅰ	◎														
	臨床病態学Ⅱ		◎													
	生体防御論		◎													
	食品学Ⅰ	◎	○													
	食品学Ⅱ		◎													
	食品学実験Ⅰ			○		◎										
	食品学実験Ⅱ					◎										
	食品衛生学		◎					○								
	食品衛生学実験			○		◎										
	食品機能論		◎													
	調理学		◎			○										
	調理学実験			◎					○							
	調理学実習Ⅰ						○		◎							
	調理学実習Ⅱ								◎	○						

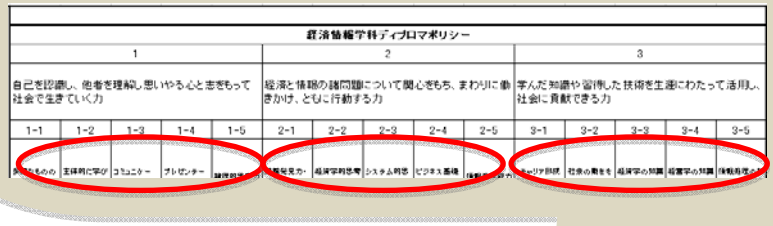
授業科目の区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため：特に重要=◎　重要=○														
			栄養マネジメント学科ディプロマポリシー														
			1					2					3				
			食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力				
			1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
			食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）	食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）	学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）	洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）	方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）	主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）	現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）	与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）	他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）	他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）	新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）	科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）	データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）	常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）	食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）
専門教育科目	Ⅲ群（専門に関する科目）	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）	○	◎													
		基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）	○	◎													
		栄養学実習						◎									
		応用栄養学Ⅰ（ライフステージ栄養）		◎													
		応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）		◎													
		栄養管理学			○	◎											
		栄養管理学実習		◎						○							
		基礎栄養教育論		◎													
		健康栄養教育論		◎													
		基礎栄養教育実習			○			◎									
		健康栄養教育実習							◎			○					
		実践栄養教育演習												◎			
		臨床栄養学Ⅰ		○			◎										
		臨床栄養学Ⅱ		○													◎
		臨床栄養学実習							○	◎							
		臨床栄養管理学										◎					
		臨床栄養管理演習									○				◎		
		公衆栄養学Ⅰ					◎										
		公衆栄養学Ⅱ		◎													
		公衆栄養活動実習								○					◎		
		給食経営管理論															◎
		メニュー管理実習		◎													
		給食管理実習								○	○	◎					
		フードサービスマネジメント演習							◎	○							
		総合演習															◎
		卒業演習Ⅰ										◎					
		卒業演習Ⅱ															◎
		給食管理臨地実習（校外実習）										◎				○	
		臨床栄養臨地実習													◎	○	
		公衆栄養臨地実習														◎	
		学校栄養教育論Ⅰ	◎	○													
		学校栄養教育論Ⅱ		◎								○					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ					◎										
		卒業研究Ⅱ													◎		

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには５つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは５つ以上記載されている科目もあります。



科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

科目名							
担当者氏名							
授業方法		単位		選択区分		開講年次	
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 多様なものの見方、考え方 ○ 1-2 主体的に学び考える力 ○ 2-4 ビジネス 基礎力 ○ 3-1 キャリア 形成力 ○ 3-4 経営学の知識の応用						

《授業の概要》

《テキスト》

《参考図書》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ　（全角22文字）	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15 回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

健康科学部栄養マネジメント学科
【卒業要件単位数】

■平成 24(2012)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	14 単位	14 単位	7 科目
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	16 単位	16 単位	9 科目
	Ⅲ群（専門に関する科目）	15 単位	15 単位	8 科目
	卒業研究	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		53 単位	—	—
合　　計		124 単位	57 単位	30 科目

■平成 23～21(2011～2009)年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		30 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	12 単位	12 単位	6 科目
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	16 単位	16 単位	9 科目
	Ⅲ群（専門に関する科目）	15 単位	15 単位	8 科目
	卒業研究	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		51 単位	—	—
合　　計		124 単位	55 単位	29 科目

平成 24（2012）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成24年度（2012年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分	授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目	日本語（読解と表現）	演習	2						2								［辻本 恭子］・［野田 直恵］	13
	英語	演習	2				△		2								（平本 幸治）	14
	英語	演習	2						2								［小泉 毅］	15
	コンピュータ演習	演習	2				△		2								原田 昭子	16
	コンピュータ演習	演習	2						2								湯瀬 晶文	17
	コンピュータ演習	演習	2						2								（河野 稔）	18
	生物基礎	講義	2						2								［池内 敢、他］	19
	化学基礎	講義	2						2								［中本 捷八朗、他］	20
教養科目	宗教と人生	講義	2							2							（本多 彩）	21
	生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	22
	哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	23
	文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	24
	芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	25
	芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	26
	心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	27
	仏教と現代社会	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	28
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	29
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	30
	色彩とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）・（稲冨 恭）	31
	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	32
	日本国憲法	講義		2			△		②		②		②		②		［笹田 哲男］	33
	人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		（西脇 修）	34
	政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	35
	社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	36
	経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	37
	化学	講義		2				A	②		②		②		②		［岡本 一彦］	38
	生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	39
	食と健康	講義		2						②		②		②		②	亀谷 小枝	40
	実用英語（初級）	演習		2						②		②		②		②	［加藤 恭子］	41
	実用英語（中級）	演習		2							②		②		②			
	中国語（初級）	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	42
	中国語（中級）	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	43
	韓国語（初級）	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	44
	韓国語（中級）	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	45
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2			△			②		②		②		②	（三宅 一郎）	46
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	（徳田 泰伸）	47
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	48
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	49
	私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	50

◇は栄養士免許必修科目
○は管理栄養士国家資格必修科目
△は栄養教諭必修科目
※　食品衛生管理者･食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。・・・・・A
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

《基礎科目》

科目名	日本語（読解と表現）				
担当者氏名	辻本 恭子、野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
授業内容は、大学での学習、日常生活、社会生活で活用する、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などである。毎回問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、辞書を引きながら問題を解いていく。

《授業の到達目標》
漢字、慣用表現を適切に使用し、読解できる。主語と述語をしっかりと呼応して用いることができる。助詞を適切に使用できる。敬語を適切に使用できる。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席しなければ単位を与えない。授業時に複数回実施する小テスト（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考文献》
授業時に、指示する。

《授業時間外学習》
当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《備考》
毎回、設問を解くので、必ず国語辞典を持参すること。電子辞書も可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	同音異義語・同訓異義語	漢字には同じ音を持つものがたくさんあり、それらの意味による使い分けを学ぶ。
3	四字熟語	四字熟語には多くの種類があり、それらを理解する。それによって、日本文化の理解や、日常のコミュニケーションの理解に繋げる。
4	慣用表現・ことわざ	慣用表現は永く使い慣らされてきた表現。ことわざは教訓や生活の知恵を簡単に覚えることができる。
5	慣用表現・故事成語	故事成語は昔の出来事や書物を出典とする慣用表現。日常生活の知識として有効である。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
7	主語と述語	主語と述語を関係づけて理解し、文章の骨格を学ぶ。述語の型として、動詞・形容詞・形容動詞について学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の違い、「に」と「へ」の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	主語と述語、助詞の用法について復習する	主語と述語、助詞などについて復習し、発展問題を解く。
11	敬語	尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	敬語についてまとめを行う。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
学生生活に密着した英語表現とTOEIC Test形式の練習問題を中心に編集されたテクストを利用して、実際的なコミュニケーション能力を養成します。テクストを着実に読み進み、内容、語義、文法事項、発音などを確認します。CDを用いて音声面の練成を試みます。小テストにより基本的な知識が定着するように努めます。

《授業の到達目標》
日常生活や職場で遭遇する英語による情報を理解でき、実際的なコミュニケーションに必要な表現を使いこなせる、実用的な英語を身につけることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
『TOEIC Test Fundamentals』
クリストファー・ブルスミス他（南雲堂）

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、テクストを精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1 Campus Life	学生生活を始めるにあたって、友人達との日常会話表現を学ぶ。
2	Unit 2 Homestay	外国のホームステイ先での日常会話表現を学ぶ。
3	Unit 3 Making Friends	学生生活での新しい友人との出会いの日常会話表現を学ぶ。
4	Unit 4 At a Party	パーティーでの日常会話表現を学ぶ。
5	Unit 5 In the Cafeteria	大学内のカフェテリアでの日常会話表現を学ぶ。
6	Unit 6 In the Library	大学内の図書館での日常会話表現を学ぶ。
7	Unit 7 Talking about the Weather	天候に関する日常会話表現を学ぶ。
8	Unit 8 Making Telephone Calls	電話における日常会話表現を学ぶ。
9	Unit 9 Weekend Activities	学生生活の週末の過ごし方に関する日常会話表現を学ぶ。
10	Unit 10 Driving	自動車の運転に関する日常会話表現を学ぶ。
11	Unit 11 At a Bank	銀行の窓口での日常会話表現を学ぶ。
12	Unit 12 Shopping	買い物に関連する日常会話表現を学ぶ。
13	Unit 13 Internet Shopping	インターネットに関連する日常会話表現を学ぶ。
14	Unit 14 At a Photo Shop	写真屋さんでの日常会話表現を学ぶ。
15	Unit 15 At a Campus Bookstore	大学内の本屋さんでの日常会話表現を学ぶ。

《基礎科目》

科目名	英語				
担当者氏名	小泉 毅				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
リスニングの基礎から総復習をはかる。Phonicsによる基本の音を勉強し、歌、会話と発展していく。

《授業の到達目標》
英語に親しませる事を目標とし、とくに基礎から聞いて→話す事に力点をおき、英語が聴けるようになったと自信を持たせたい。そして、将来、英検、TOEIC、TOEFLにチャレンジする自信をつけさせたい。

《成績評価の方法》
英検ノートづくり、クラスでの発表、小テスト、宿題を総合して評価する。定期テストはしない。なぜなら英語学習は毎日コツコツ聞くことが大切だからです。発表（40%）、宿題（30%）、小テスト（30%）授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない。

《テキスト》
プリントを配布しますから、専用のバインダーと辞書を持ってきてください。〔Enjoy　Engolish〕（長崎出版）

《参考文献》
NHKラジオの「新基礎英語Ⅰ」を家で聴く事を宿題とします。本の購入は問いません。とにかく聴いて英語になれることです。

《授業時間外学習》
毎回宿題を出します。宿題内容は、音読をして、丁寧にノートに書いて、暗唱までする。又、図書館の参考図書をよく利用してください。この他、DVD、VIDEO、TV等で生の英語にどんどん触れて感銘を受けた作品などの紹介や、感想文を英語で記録する。

《備考》
1.出席重視です。2.席を決めていつもパートナーと一緒に発表する。3.恥ずかしがらないで、英語で話して下さい。4.授業は英語力アップのため全て英語で話します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	自己紹介	授業の説明、自己紹介、評価の説明
2	初めての人に会う ありがとう	小テスト、会話（挨拶）、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
3	場所を聞く いつ練習するの？	小テスト、会話、Phonics（Alphabet）英検５級リスニングテスト
4	何時ですか？	小テスト、会話、Phonics（子音）①英検４級リスニングテスト
5	電話で話す	小テスト、会話、Phonics（子音）②英検４級リスニングテスト
6	なぜと理由を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）①英検３級リスニングテスト
7	体調を聞く	小テスト、会話、Phonics（母音）②英検３級リスニングテスト
8	計画を聞く	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習①　英検５級（全体）
9	許しを得る	小テスト、会話、Phonicsを使った読解練習②　英検５級（全体）
10	～しましょうか？ ～しませんか？	小テスト、会話、Phonics（silent　E）①　英検４級（全体）
11	値段を聞く	小テスト、会話、Phonics（silent　E）②　英検３級（全体）
12	～はいかがですか？と物をすすめる	小テスト、会話、Phonics（polite　vowels）①　英検準２級（全体）
13	乗り物で行き先を尋ねる・道を尋ねる	小テスト、会話、Phonics（polite　vowels）②　英検５、４級の総復習
14	いい考えねと自分の考えをいう	小テスト、会話総復習、Phonics総復習①　英検３級総復習
15	総復習	小テスト、会話総復習、Phonics総復習②　英検準２級総復習

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	原田 昭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》
各種ソフトウェアやインターネットを使用して、コンピュータの基本的な活用能力であるコンピュータ・リテラシの演習を中心に行うとともに、情報処理に関する幅広い知識の習得も目指します。
ワープロや表計算、電子メールなどのインターネット、プレゼンテーション活動など、幅広いコンピュータによる具体的な問題解決方法を学習する。

《授業の到達目標》
大学のコンピュータ環境になれる。
授業内容の報告書をメールで提出しまとめる能力を向上する。
ワープロの文章機能だけでなく、図やイラスト、写真等を利用して食に関する媒体が作成できるようになる。
表計算ｿﾌﾄでは、栄養価ﾃﾞｰﾀで計算機能を学習するだけでなく、ｸﾞﾗﾌを作成しｸﾞﾗﾌを読み取り、ｺﾒﾝﾄが書けるようになる。
PPでプレゼンの資料作成し、発表能力を高める。

《成績評価の方法》
提出物の完成度(80%)、プレゼンの完成度（20%）

《テキスト》
適宜資料配布

《参考文献》
なし

《授業時間外学習》
授業時間以外にも積極的にコンピュータを利用して、少しでもキーボードを早く打てるように練習したり、授業で習得したものを活用して、コンピュータやインターネットを利用する時間を自分で作ってください。

《備考》
休んだときは、その埋め合わせをしておかないと授業進行に支障が出る場合が多いので、注意が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要説明 実習室の概要説明	コンピュータへの登録 キーボードとマウスの操作 Windowsの基礎（１）
2	Windowsの基礎（２）	ファイルの提出、配布資料の取り込み ファイルの整理、保存など基礎的なことを学ぶ。
3	インターネット	電子メールの利用準備、送付など
4	インターネット	情報検索（図書館の利用を含む）
5	ワープロソフト（１）	2002年度センター試験問題である幼児のエネルギー摂取状況の英語論文を翻訳し、日本語を入力
6	ワープロソフト（２）	レポートの形式でまとめる
7	ワープロソフト（３）	レポートの形式でまとめる
8	表計算ソフト（１）	1日の献立をExcelに入力
9	表計算ソフト（１）	Excelによる表の修飾方法やA4にバランスよく収め、印刷結果が見やすい資料を作成する
10	表計算ソフト（２）	献立の成分表を入力、合計や割合の計算
11	表計算ソフト（３）	成分表の三食配分についてグラフ作成
12	表計算ソフト（４）	PFCバランスのグラフ作成
13	パワーポイント（１）	献立表の食材についてのプレゼンテーション資料作成
14	パワーポイント（１）	PPでのグラフ作成、アニメーション設定
15	パワーポイント（１）	各自が持ち時間5分のプレゼンを行い、聴衆の学生は評価をする。

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

コンピューティング環境は私たちの生活に不可欠なものとなっており、このことは大学の授業においても同様である。授業では、「コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面でコンピュータが有用であるか」を少しでも身につけることを目指しつつ、コンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーションの基礎を演習する。なお、内容は大学の設備状況や講義の進捗状況等により、変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、コンピュータの基礎的な知識や能力（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分、あるいは、今後受講することになる専門科目などで必要となるコンピュータに関する知識や技能の基礎を身につけることを目標とする。

とりわけいくつかのソフトウェア環境において、基礎的な作業を自力で行えるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の授業・課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（１００％）。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考文献》

①『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経ＢＰ社　②『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店　③『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経ＢＰ社　④『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版　⑤「コンピュータリテラシ」、「オフィスソフト」についての各種解説書

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。

授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。触って、どういう操作をすればどのような反応を示すのかを注意深く観察して下さい。そうすれば上達も早くなることでしょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	コンピュータ演習の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明 （大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	環境設定	演習教室の利用環境の設定 コンピュータの利用の準備
3	電子メールの設定とタイピング練習	電子メール環境の設定 電子メールの操作方法を知る
4	操作の基礎	タイピングとその練習 ファイルとテキストファイルについて
5	基礎の確認	基礎的な知識の確認 課題ファイルのやり取りについて知る
6	簡単な情報検索	検索における論理演算について知る 情報検索の基礎を知り、簡単な情報検索を行う
7	ワープロソフト（1）	ワープロソフトと画像ソフトの基本を知る アプリケーションソフトの連携について知る
8	ワープロソフト（2）	ワープロソフトを利用するとともに、プリントアウトについて知る
9	プレゼンテーションソフト（1）	プレゼンテーションソフトの基本を知る ワープロソフトとの違いを知り、書き換えを行う
10	プレゼンテーションソフト（2）	プレゼンテーションソフトを用いて発表用スライドを作成する 他のアプリケーションソフトとの連携について知る
11	表計算ソフト（1）	表計算ソフトの基本操作を知る
12	表計算ソフト（2）	数式や関数についての基本を知る
13	表計算ソフト（3）	表計算ソフトと他のアプリケーションソフトとの連携について知る
14	総合演習（1）	実際のプレゼンテーションとその手順について知る
15	総合演習（2）	コンピュータ演習のまとめ

《基礎科目》

科目名	コンピュータ演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力を修得します。
ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報モラルなど、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》
○パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
○目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
○ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》
○実習での提出課題（80%）と情報モラルに関するレポート等の提出物（20%）で評価します。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません

《テキスト》
○毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
○配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考文献》
矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社.
情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2011)『インターネット社会を生きるための情報倫理 2011』実教出版.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》
この科目では復習が重要です。操作や利用方法を次の授業で生かせるように、日ごろからパソコンを利用して練習しておきましょう。
とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では、3回の授業ごとにまとめ課題があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》
学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。
また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／授業前アンケートの実施
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	電子メールによるコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネット上の情報の検索
5	インターネット(3)	情報モラル
6	文書作成(1)	レポート形式の文書の作成
7	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト（図やイラストの利用）
8	文書作成(3)	まとめ課題
9	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
10	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成
11	プレゼンテーション(3)	まとめ課題
12	プレゼンテーション(4)	まとめ課題の発表／相互評価
13	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
14	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用
15	データ処理(3)／まとめ	まとめ課題／授業全体のふり返り

《基礎科目》

科目名	生物基礎				
担当者氏名	池内 敢、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の生態系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト７０％、平常点３０％）

《テキスト》

「改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考文献》

「アクセス生体機能成分－管理栄養士・栄養士のために」
五明紀春他著（技報堂出版）

「細胞の分子生物学」アルバーツ他著（ニュートンプレス社）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能	細胞は生物の基本単位
2	細胞をつくる物質・細胞膜の性質	細胞膜は半透膜・・・半透膜ってどんな膜？
3	酵素の機能と性質・体細胞分裂	酵素は働き者
4	呼吸と光合成	好気呼吸と嫌気呼吸・・・酸素がいらない呼吸もある？
5	生殖・減数分裂	生物はどうやって増えるのか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
8	遺伝Ⅱ 連鎖と組換え	遺伝子はシャッフルされて遺伝する
9	核酸の構造とタンパク質合成のしくみ	遺伝子からタンパク質へ
10	神経伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク
11	血液・腎臓・肝臓の働き	体の中の道路と工場
12	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ
13	免疫系	細胞性免疫と体液性免疫　体を外敵から守るしくみ
14	生態系と人間	炭素の循環からみた環境問題 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《基礎科目》

科目名	化学基礎				
担当者氏名	中本 捷八朗、他				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
授業期間の２/３を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の
１/３の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》
大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があってこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉学が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》
アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び出席状況を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト７０％、平常点３０％）

《テキスト》
「食を中心とした化学」　北原・塚本・野中・水崎著
（東京教学社）

《参考文献》
上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎　化学入門コース１」　竹内敬人著（岩波書店）

《授業時間外学習》
授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》
食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造	物質を構成する原子と、原子を構成する陽子・電子・中性子
2	原子の結合	いろいろな結合　イオン・共有・配位・水素結合
3	化学反応式	$CH_4 + 2O_2 \rightarrow CO_2 + 2H_2O$ の意味
4	熱化学反応式	ガスコンロ・・・都市ガスを燃やすと熱が出るのは？
5	酸化・還元	物質が電子を得ること・失うこと
6	水の三態	氷・水・水蒸気、違いはなにか？
7	溶解・浸透圧	ナメクジに塩をかけると・・・
8	酸と塩基	酸味の原因
9	コロイド	豆腐、ゼリー、人体・・・コロイドとはなにか？
10	有機化学Ⅰ　有機化合物	炭素を中心とする化学
11	有機化学Ⅱ　官能基の働き	良い匂い・悪い臭い
12	有機化学Ⅲ　糖質・脂質	人間の活動をもたらすエネルギー源
13	有機化学Ⅳ　タンパク質	酵素の働き
14	ビタミン・ミネラル	化学と栄養 この講義全体のポイント再チェック
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《教養科目》

科目名	宗教と人生				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
この講義は、まず宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深めることから始める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではない。宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（とくに仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に自ら取り組む力を養う。
兵庫大学の建学の精神と仏教の理念についての学びを深める。

《授業の到達目標》
われわれの日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。
さらに現在、社会で起こっている様々な課題を、スピリチュアル・ケア、宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約20%
定期テスト　約50%　　この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
　定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～　思惟館
　宗教セミナー
　宗教ツアー
　花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、正の面や負の面、その機能についての理解を目指す
2	宗教の類型	分布や性格によって分けられる宗教の類型を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	イスラームを知る①	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
5	イスラームを知る②	イスラームの広がりやムスリムの生活についての理解を目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が政治や福祉に与えた影響について学ぶ
8	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
9	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
10	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
11	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
12	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
13	日本の宗教を知る①	身近にあるさまざまな宗教を取りあげて日本宗教の特性を理解することを目指す
14	日本の宗教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
15	現代社会と宗教	宗教と社会、文化、医療、福祉について学ぶ

《教養科目》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《授業の到達目標》
・生命倫理学とは何か説明できる。
・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《成績評価の方法》
毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《テキスト》
市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》
『生命倫理学入門［第3版］』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業時間外学習》
授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《備考》
自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》
哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》
平常のレポートにて評価する。

《テキスト》
適宜資料を配付する。

《参考文献》
そのつど紹介する。

《授業時間外学習》
哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がりに努めてみよう。
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《授業の到達目標》
文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》
身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》
日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
『日本美術の特質』　八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》
各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》
レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について　　版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から　－１	現代の美術作家紹介　DVD
3	現在の美術の状況から　－２	現代の美術作家紹介　DVD
4	現在の美術の状況から　－３	現代の美術作家紹介　DVD
5	日本の信仰	自然崇拝　神道　仏教
6	仏教美術 －１	飛鳥時代　天平時代　DVD　　仏教の伝来　法隆寺　薬師寺　興福寺　東大寺の仏像
7	仏教美術 －２	平安時代　鎌倉時代　DVD　　東寺の曼陀羅と仏像、興福寺　東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術　－１	鎌倉時代～室町時代　DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術　－２	室町時代～桃山時代　DVD　狩野派他
10	日本の美術　－３	桃山時代　DVD　桃山期の文化
11	日本の美術　－４	桃山時代～江戸時代　DVD　桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術　－５	江戸時代　DVD　琳派
13	日本の美術　－６	江戸時代　DVD　奇想の絵師
14	日本の美術　－７	江戸時代　DVD　浮世絵
15	まとめ	芸術について

《教養科目》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》
授業中に随時紹介

《授業の到達目標》
1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》
毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・課題レポート（100%）

《備考》
特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

人間を理解すること，とりわけ「心」について理解することは，社会において適応的な生活を行う上でとても重要です．本授業では，心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき，これまでにわかっている知見を整理し，人間の心の多様性を理解します．プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに，簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い，視覚的，体験的理解を重視します．

《授業の到達目標》

○「心理学」にはどのような領域があるか類別できる．
○種々のデータを基に，心を科学的な視点から説明できる．
○心に関する共通的な性質と個人差を説明できる．

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆，森敏昭，遠藤由美，玉瀬耕治/有斐閣
（より深く勉強したい人向き）
『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
（内容が難しすぎると感じる人向き）

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています．読んでおくようにしてください．この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません．前もって内容を意識することが大切です．
・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください．

《備考》

・心理学を学ぶには，日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説．《序章§1～9》
2	情報，入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ．《第1章§1～2，§6～7》
3	覚えているって，どういうこと？(記憶)	記憶のプロセス，記憶にまつわるいくつかの事象．《第3章§4》
4	どうやって，学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方．条件づけなど．《第3章§1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方．《第2章§5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅰ	私たちが欲するものを分類．《第2章§1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅱ	欲求の階層．思うようにいかないときの行動．《第2章§2～4》
8	君って，どんな人？(性格)	性格という，分かっているようで分からないものに対する心理学の見方．《第4章§1，第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観．《第4章§2～3》
10	あの人って，きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質．《第6章§1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果．《第6章§4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷．《第6章§2》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論．心理療法にも言及．《第5章§4，第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり．
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解．

《教養科目》

科目名	仏教と現代社会				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》
※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
※現代仏教についての理解をめざす
※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約30%
定期テスト　約40%　　この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
　定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～　思惟館
　宗教セミナー
　宗教ツアー
　花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

＊キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

＊キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち　初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

＊日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。

＊配布する資料が散在しないように整理しておく。

＊新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

＊私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

《教養科目》

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》
・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
・授業終了後に課すレポート(50%）と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%）で評価する。
・レポートの提出遅れについては減点する。
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》
臼杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか 』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行　金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》
・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目》

科目名	色彩とデザイン				
担当者氏名	浜島 成嘉、稲冨 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

本授業は色彩とデザインの両分野について取り上げる。前者においては色彩が私たちの生活にどのような影響を与えるのか、感覚的、科学的視点から理解出来るように解説する。後者においては、身の回りの様々なデザインと価値感との関連について多面的に考察する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「色彩体系」「色の見え方」「色彩の感情効果」「色彩調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を「色」で理解できるようにする。またデザイン一般に関する基礎知識を身につけるとともに、デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、カラーリング課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード１２９a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考文献》

・『生活と色彩』(朝倉書店)
・『カラーコディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
・『世界デザイン史』(美術出版社)
・『近代椅子学事始』(ワールドフォトプレス)
・『北欧デザイン(1)～(3)』（プチグラパブリッシング)
・『20 世紀ファッションの文化史』(河出書房新社)

《授業時間外学習》

・予習の方法 シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
・復習の方法 授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
・学期末レポート 「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11 週(予定)に提示する。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めない。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。(担当:浜島)
2	色の知覚	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され最終的には脳で感じているという色知覚について学ぶ。(担当:浜島)
3	色の感情効果	赤、橙、黄、青など、それぞれの色相がもっている、色の感情効果について。 色の連想、象徴について解説し、色の嗜好性と性格についてふれる。(担当:浜島)
4	色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明。(担当:浜島)
5	配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それに従ってに配色を考えれば良い。メージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。(担当:浜島)
6	デザインの概念	実用品、贅沢品、芸術作品という観点からデザインを理解する。(担当:稲冨)
7	ギリシア・ローマ期からゴシックの様式	クラシックなデザインの系譜 について理解する。(デザインの歴史(1))(担当:稲冨)
8	ルネサンスから新古典の様式	科学技術の発展を背景としたデザインの変化について理解する。(デザインの歴史(2))(担当:稲冨)
9	アーツ・アンド・クラフツからモダニズムの様式	社会の変化とデザインの関わりについて理解する。(デザインの歴史(3))(担当:稲冨)
10	建築とインテリア	建築・椅子のデザインを通じて、材料・技術の発展について理解する。(担当:稲冨)
11	ファッションデザイン	20 世紀ファッションの系譜と大衆化現象の関わりについて理解する。(担当:稲冨)
12	和風のデザイン	懐石料理と茶室の背景を理解し、和風デザインの系譜について学ぶ。 (担当:稲冨)
13	映像デザイン	映画・ドラマを通じて、映像作品の構造と文法を理解する。(担当:稲冨)
14	プロダクトデザイン	アメリカ・イタリア・北欧のプロダクトデザインと社会の関連について理解する。(担当:稲冨)
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。(担当:浜島、稲冨)

《教養科目》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》
目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》
適宜指示する

《授業の到達目標》
リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》
予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》
講義への参加40％および定期試験による評価60％。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下の平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
１．「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
２．日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
３．日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂 現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》
『憲法学教室 全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第３版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（１）	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（２）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（１）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（２）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（１）	①「法の下の平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（２）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（３）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（４）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（５）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（１）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（２）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（３）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》
現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》
様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》
定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》
テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
共生教育のすすめ　仲田　直
これでわかった！部落の歴史　私のダイガク講座　上杉聰
これでなっとく！部落の歴史　続私のダイガク講座　上杉聰

《授業時間外学習》
配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》
出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくらたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

○政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
○現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（１）予習の方法：毎日の政治に関するニュースを関心をもって接すること。
（２）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の３側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の３局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞄、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

(1) 社会学的ものの見方ができるようになる
(2) 社会を理解するために、社会学的道具を使うことができるようになる
(3)みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
○ 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴惠（2007, 有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類〈社会的カテゴリー〉
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域〈公的領域〉、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	（適宜指示を行う）
15	学習の総まとめ(2)	（適宜指示を行う）

《教養科目》

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》
「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》
・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》
平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》
特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》
授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》
・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう（1）	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう（2）	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割（1）	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割（2）	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう（1）	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう（2）	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう（3）	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方を用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①．１０問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。　②．10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。　①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著　和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady、G.E.Humiston著　若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー　一般化学 上・下」 東京化学同人。（1991）J.N.Spencer、G.M.Bodner、L.H.Rickard 著　渡辺　正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造Ⅰ	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造Ⅱ	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造Ⅲ	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造Ⅳ	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造Ⅴ	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造Ⅰ	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造Ⅱ	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造Ⅲ	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態Ⅰ	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態Ⅱ	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液Ⅰ	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液Ⅱ	溶液の性質の続き。
13	化学反応Ⅰ	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応Ⅱ	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応Ⅲ	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期、Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつくられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》
生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》
ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。
全回出席が原則。

《テキスト》
使わない。　図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》
授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。　『細胞の分子生物学』　アルバーツ他著、
『生命と地球の歴史』　丸山茂徳・磯崎行雄著、
『「共生」とは何か』　松田裕之著、

《授業時間外学習》
ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》
いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつくられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。　組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的増加（指数関数）の増加のものすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きているだけであるのに、主体性があって、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長いが細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナップスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

《教養科目》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》
・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》
「食生活論　第3版」　福田靖子、小川宣子編　（朝倉書店）

《参考文献》
「食生活論」　遠藤金次他編　（南江堂）
「健康と食生活　改訂版」　吉田勉編　（学文社）
「私たちの食と健康」　吉田勉監修　（三共出版）

《授業時間外学習》
・毎回、テキストをしっかり読んで勉強してくること。
・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》
・授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

《教養科目》

科目名	実用英語（初級）				
担当者氏名	加藤 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
ビジネスシーンや日常生活に即した各テーマに応じた内容のリスニング問題、リーディング問題を解く。全ての基本である文法事項に関しては毎回学習し、必要に応じて英語における音声変化も確認しながら、実用的な英語運用に結びつく知識や技術を身につけたい。

《授業の到達目標》
TOEICの問題形式に慣れること、スコア400を取ることを目標にする

《成績評価の方法》
平常点30%、毎回の講義後に実施する小テスト30%、定期試験40%

《テキスト》
"Ultimate Solution to the TOEIC Test" by Tatsuo Kimura and David Coulson. Macmillan Languagehouse

《参考文献》

《授業時間外学習》
次回の授業内容を予習し、基本的な語彙の確認をしておくこと。

《備考》
毎回辞書を持参すること（携帯電話の辞書は不可）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	Pre-Test
2	UNIT 1 : Shopping	Part 1, Part 5, Part 6 の演習
3	UNIT 2 : Office Routine	Part 2, Part 5, Part 7 (Single passage)の 演習
4	UNIT 3 : Eating out	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
5	UNIT 4 : Conferences	Part 4, Part 5, Part 6 の演習
6	UNIT 5 : Travel	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
7	UNIT 6 : Personnel	Part 2, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
8	Review	UNIT 1～UNIT 6 の復習
9	UNIT 7 : Customer Service	Part 3, Part 5, Part 6 の演習
10	UNIT 8 : Education	Part 4, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
11	UNIT 9 : Finances	Part 1, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
12	UNIT 10:Household Routine	Part 2, Part 5, Part 6 の演習
13	UNIT 11:Office Management	Part 3, Part 5, Part 7 (Single passage) の演習
14	UNIT 12 : Health	Part 4, Part 5, Part 7 (Double passage) の演習
15	Review	Post-Test

《教養科目》

科目名	中国語（初級）				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》
・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは　発音1	挨拶の言葉1　中国語の音節　声調　ドリル　（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日　　発音2	挨拶の言葉2　単母音　復母音　ドリル　（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう　発音3	挨拶の言葉3　子音1　ドリル　（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり　発音4	挨拶の言葉4　子音2　鼻音　ドリル　（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
7	第6課 動詞　・　助詞	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第７・８課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

《教養科目》

科目名	中国語（中級）				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。
○中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》
・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課　文法	①数の言い方　・　お金の言い方　②形容詞の文
2	第10課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課　文法	①年月日、曜日の言い方　②年齢の言い方
4	第11課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課　文法	①量詞（ものの数え方）　②動詞の重ね方
6	第12課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課　文法	①時刻の言い方　②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課　文法	①時間量の言い方　②完了の「了」の使い方
10	第14課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課　文法	①前置詞「給」　②助動詞「可以」「能」
12	第15課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課　文法	①現在進行形の言い方　②助動詞「会」
14	第16課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

《教養科目》

科目名	韓国語（初級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子　朝日出版社

《参考文献》
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利　他編著　小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲　監修・熊谷明泰編集　白水社、2011年
『韓国語を学ぶⅡ』
韓在熙・岡山善一郎　白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
テキストに付いているＣＤを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音＋母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第１課　私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は(助詞）ついて学習する。
8	第２課　お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が(助詞）について学習する。
9	第３課　ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第３課まで復習、練習問題を通じて確認する。　自己紹介の練習を行う。
11	第４課　近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第５課　学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所＋에서)を学習する。
13	第６課　私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第６課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	韓国語（中級）				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』　金眞・柳圭相・芦田麻樹子　朝日出版社

《参考文献》
油谷幸利　他編著　『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』　小学館、2004年
塚本勲　監修・熊谷明泰編集　『パスポート朝鮮語小事典』白水社、2011年
韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第７課　友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』　『～합니다体』、～と(助詞）ついて学習する。
3	第８課　日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第９課　キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review ３	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目（2）：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課　今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課　公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課　合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review ４	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課　KTXで３時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課　韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課　道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》
価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）
受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）
学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
　学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》
この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その１）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その２）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院)　○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)　○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）　○『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》
毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	１年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自１日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	１０週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しあう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）　『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
　実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）　『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
　実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）				

《授業の概要》
仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（1）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。　（2）長期に亘るキャリアについて考える。　（3）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》
（1）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。　（2）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（3）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。　（4）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》
（1）筆記試験　50%
（2）課題提出物　30%
（3）授業への取組姿勢　20%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》
（1）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社　（2）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房　（3）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社　（4）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》
（1）次回のプリントを読んでおくこと
（2）「読む力」の課題をしておくこと
（3）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》
（1）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える（1）	生活経営とは何か
2	生活を考える（2）	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活（1）	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活（2）	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール（映画の場面から考える）
9	キャリア発達理論（1）	職業キャリアからライフキャリアへ（スーパー）
10	キャリア発達理論（2）	組織におけるキャリア発達（シャイン）
11	キャリア発達理論（3）	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶことの大切さ（クランボルツ）
12	キャリア発達理論（4）	転機へのアプローチ（シュロスバーグ）、視点の変化（ハンセン）
13	生涯学習の必要性（1）	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性（1）	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

平成 23～21（2011～2009）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成23年度（2011年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2				△		2									
		コンピュータ演習	演習	2				△		2									
		生物基礎	講義	2						2									
		化学基礎	講義	2						2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2							2								
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	55
		生涯発達心理学	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	56
		人間関係論(含カウンセリング)	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	57
		哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	58
		文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	60
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	61
		心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	62
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	63
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	64
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	65
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（稲冨 恭）	66
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）	67
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		［大串 和久］	68
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	（平本 幸治）	69
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	［安井 重雄］	70
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		（金子 哲）	71
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	［野田 直恵］	72
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	73
		日本国憲法	講義		2			△		②		②		②		②		［笹田 哲男］	74
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		（西脇 修）	75
		政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	76
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	（斎藤 正寿）	77
		社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	78
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	（吉原 惠子）	79
		経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	80
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	（山本 真弓）	81
		物理学	講義		2					②		②		②		②		湯瀬 晶文	82
		化学	講義		2				A	②		②		②		②		［岡本 一彦］	83
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	84
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	亀谷 小枝	85
		コンピュータ応用演習	演習		2						②		②		②		②	（河野 稔）	86
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	［Michael. H. FOX］	87
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		［Michael. H. FOX］	88
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	［Michael. H. FOX］	89
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［本多 雄一郎］	90
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［本多 雄一郎］	91
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［竹内 節］	92
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［竹内 節］	93
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	94
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	95
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	96
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	97
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	（三宅 一郎）	98
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2			△			②		②		②		②	（徳田 泰伸）	99
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	100
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	101
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	102
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	［山本 清美］	103
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		［山本 清美］	104
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	［山本 清美］	105

◇は栄養士免許必修科目
○は管理栄養士国家資格必修科目
△は栄養教諭必修科目
※　食品衛生管理者･食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。・・・・・A
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて
　　履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成22年度（2010年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2				△		2									
		コンピュータ演習	演習	2				△		2									
		生物基礎	講義	2						2									
		化学基礎	講義	2						2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2						2									
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	55
		生涯発達心理学	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	56
		人間関係論(含カウンセリング)	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	57
		哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	58
		文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	60
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	61
		心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	62
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	63
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	64
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	65
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（稲冨 恭）	66
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）	67
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		［大串 和久］	68
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	（平本 幸治）	69
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	［安井 重雄］	70
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		（金子 哲）	71
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	［野田 直恵］	72
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	73
		日本国憲法	講義		2			△		②		②		②		②		［笹田 哲男］	74
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		（西脇 修）	75
		政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	76
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	（斎藤 正寿）	77
		社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	78
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	（吉原 惠子）	79
		経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	80
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	（山本 真弓）	81
		物理学	講義		2					②		②		②		②		湯瀬 晶文	82
		化学	講義		2				A	②		②		②		②		［岡本 一彦］	83
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	84
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	亀谷 小枝	85
		コンピュータ応用演習	演習		2						②		②		②		②	（河野 稔）	86
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	［Michael. H. FOX］	87
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		［Michael. H. FOX］	88
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	［Michael. H. FOX］	89
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［本多 雄一郎］	90
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［本多 雄一郎］	91
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［竹内 節］	92
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［竹内 節］	93
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	94
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	95
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	96
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	97
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	（三宅 一郎）	98
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2			△			②		②		②		②	（徳田 泰伸）	99
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	100
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	101
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	102
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	［山本 清美］	103
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		［山本 清美］	104
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	［山本 清美］	105

◇は栄養士免許必修科目
○は管理栄養士国家資格必修科目
△は栄養教諭必修科目
※　食品衛生管理者･食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。・・・・・A
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて
　　履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成21年度（2009年度）入学者対象
（　　）は兼担、［　　］は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
基礎科目		日本語（読解と表現）	演習	2						2									
		英語	演習	2				△		2									
		コンピュータ演習	演習	2				△		2									
		生物基礎	講義	2						2									
		化学基礎	講義	2						2									
教養科目	人文系	宗教と人生	講義	2						2									
		生命倫理学	講義		2						②		②		②		②	［浅沼 光樹］	55
		生涯発達心理学	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	56
		人間関係論(含カウンセリング)	講義		2						②		②		②		②	（森田 義宏）	57
		哲学	講義		2						②		②		②		②	［三浦 摩美］	58
		文学	講義		2					②		②		②		②		［安井 重雄］	59
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［柳楽 節子］	60
		芸術	講義		2						②		②		②		②	［岩見 健二］	61
		心理学	講義		2					②		②		②		②		（北島 律之）	62
		宗教と文化Ⅰ（仏教）	講義		2						②		②		②		②	（本多 彩）	63
		宗教と文化Ⅱ（キリスト教）	講義		2					②		②		②		②		［穂積 修司］	64
		宗教と文化Ⅲ（イスラム教）	講義		2						②		②		②		②	［重親 知左子］	65
		生活とデザイン	講義		2					②		②		②		②		（稲冨 恭）	66
		色彩学	講義		2					②		②		②		②		（浜島 成嘉）	67
		音楽表現	演習		2					②		②		②		②		［大串 和久］	68
		アメリカ文学	講義		2						②		②		②		②	（平本 幸治）	69
		論説と評論	講義		2						②		②		②		②	［安井 重雄］	70
		歴史学	講義		2					②		②		②		②		（金子 哲）	71
		日本語表現法	演習		2						②		②		②		②	［野田 直恵］	72
	社会系	法と社会	講義		2						②		②		②		②	［國友 順市］	73
		日本国憲法	講義		2			△		②		②		②		②		［笹田 哲男］	74
		人権の歴史	講義		2					②		②		②		②		（西脇 修）	75
		政治学	講義		2					②		②		②		②		（斎藤 正寿）	76
		国際関係論	講義		2						②		②		②		②	（斎藤 正寿）	77
		社会学	講義		2					②		②		②		②		（吉原 惠子）	78
		ジェンダー論	講義		2						②		②		②		②	（吉原 惠子）	79
		経済学	講義		2					②		②		②		②		（石原 敬子）	80
	自然系	数学	講義		2						②		②		②		②	（山本 真弓）	81
		物理学	講義		2					②		②		②		②		湯瀬 晶文	82
		化学	講義		2				A	②		②		②		②		［岡本 一彦］	83
		生物学	講義		2					②	②	②	②	②	②	②	②	（本多 久夫）	84
		食と健康	講義		2						②		②		②		②	亀谷 小枝	85
		コンピュータ応用演習	演習		2						②		②		②		②	（河野 稔）	86
	語学系	英語Ⅰ	演習		2						②		②		②		②	［Michael. H. FOX］	87
		英語Ⅱ	演習		2							②		②		②		［Michael. H. FOX］	88
		英語Ⅲ	演習		2								②		②		②	［Michael. H. FOX］	89
		フランス語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［本多 雄一郎］	90
		フランス語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［本多 雄一郎］	91
		ドイツ語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［竹内 節］	92
		ドイツ語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［竹内 節］	93
		中国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［佟 曉寧］	94
		中国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［佟 曉寧］	95
		韓国語Ⅰ	演習		2					②		②		②		②		［李 知妍］	96
		韓国語Ⅱ	演習		2						②		②		②		②	［李 知妍］	97
	体育系	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2						②		②		②		②	（三宅 一郎）	98
		健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義		2			△			②		②		②		②	（徳田 泰伸）	99
		健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習		2					②		②		②		②		（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	100
		健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習		2						②		②		②		②	（三宅一）・（徳田）・（樽本）・（矢野）	101
	キャリア系	特別講義	講義		2					②		②		②		②			
		私のためのキャリア設計	講義		2					②		②		②		②		［有働 壽恵］	102
		就職基礎能力Ⅰ	講義		2						②		②		②		②	［山本 清美］	103
		就職基礎能力Ⅱ	講義		2							②		②		②		［山本 清美］	104
		就職基礎能力Ⅲ	講義		2								②		②		②	［山本 清美］	105

◇は栄養士免許必修科目
○は管理栄養士国家資格必修科目
△は栄養教諭必修科目
※　食品衛生管理者･食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。・・・・・A
※　学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて
　　履修できる科目である。

《教養科目 人文系》

科目名	生命倫理学				
担当者氏名	浅沼 光樹				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
医療技術の進歩は、これまでの人間観や生死観と食い違いを生じ、私たちの方が医療技術の進歩に合わせて考え方を変えざるをえなくなっています。授業ではこのような事態から生じる問題について考えていきます。

《授業の到達目標》
・生命倫理学とは何か説明できる。
・生命倫理学ではどのようなことが問題となるのか説明できる。
・生命倫理学の主要概念（インフォームド・コンセント、パターナリズム批判、選択的中絶など）を説明できる。

《成績評価の方法》
毎回、授業の終わりにミニ・レポートを書いていただき、その記述形式と記述内容によって評価します。（内訳：記述形式50%、記述内容50%）

《テキスト》
市販のテキストは使用せず、プリントなどを配布し、それに基づいて授業を行います。

《参考文献》
『生命倫理学入門［第3版］』今井道夫、産業図書、2011
『生命倫理学を学ぶ人のために』加藤尚武・加茂直樹（編）、世界思想社、1998

《授業時間外学習》
授業で試聴するVTRについての詳しい解説は次回に行います。事前に関連文献の紹介も行いますので、それを参考にし、VTRの内容を振り返り、自分の考えを再吟味しておいてください。

《備考》
自分の理解度を確認しつつ、不明な点はレポートの質問欄などを利用して質問してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	この授業では何をどのように学ぶのか(授業の進め方、評価方法)を理解する。
2	生命倫理学とは何か	生命倫理学の成立事情およびその位置づけについて理解する。
3	生殖技術(1)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
4	生殖技術(2)	生殖技術の発展・拡大に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
5	安楽死	安楽死裁判の諸事例をもとに安楽死に関する倫理的問題について理解する。
6	説明と同意	インフォームド・コンセントの理念とその問題点について理解する。
7	キュアとケア	「キュア偏重からケア重視へ」という現代医療の基本動向について理解する。
8	出生前診断と選択的中絶	出生前診断と選択的中絶に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
9	医療資源の配分	医療資源の配分に伴なって生じる倫理的問題について理解する。
10	障害をもつ子を産む	障害を持つ子を産み育てることについて、その実情、問題について理解する。
11	幼児虐待	いくつかの事例をもとに幼児虐待の実情、原因、対策について理解する。
12	ターミナルケア	キューブラー=ロスのターミナルケア論について理解する。
13	死とは何か(1)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
14	死とは何か(2)	人間にとって死とは何を意味するのかということについて考察する。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返りつつ、理解不十分な箇所がないか確認する。

《教養科目 人文系》

科目名	生涯発達心理学				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
発達とは何か、生涯発達とは何かについて考える。発達に及ぼす生得性と環境に影響やその重要さについて学ぶ。乳児期から老年期までの各発達段階ごとの認知的・社会的特徴や発達課題や段階特有の問題やその対処などについて学ぶ

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中随時紹介する

《授業の到達目標》
＊発達・生涯発達とはなにか、について説明できる
＊発達心理学で用いられる基礎的な用語や概念について説明できる
＊発達におよぼす遺伝や環境の要因について説明できる

《授業時間外学習》
授業内容を復習しておく・・・次回授業での内容・用語についての質問に答えられるようにしておく

《成績評価の方法》
試験１００％

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 生涯発達心理学とは	オリエンテーション　発達の概念　発達の原理　　発達観の変遷
2	発達と環境が発達に及ぼす影響	遺伝と環境　野生児の記録　　家系研究　　双生児研究　　親の養育態度
3	乳児期の心理１	乳児期の認知　感覚運動的知能　脱馴化　愛着　基本的信頼感/不信
4	幼児期の心理１	幼児の認知　前概念思考期　直観的思考期　象徴機能　3項関係　心の理論 ことばの獲得
5	幼児期の心理２	社会性の発達　　遊びの発達　　自律性／恥・疑惑　　主導性／罪悪感
6	児童期の心理１	児童期の認知発達　具体操作期　クラスの概念　脱中心化　勤勉性／劣等感
7	児童期の心理２	ギャング集団　　道徳性の発達　向社会的行動の発達　学校ストレス　　心身症
8	青年期の心理１	過渡期　文化相対論　自我の覚醒　自主自律の要求　異議申し立て　精神的離乳
9	青年期の心理２	第2反抗期　　脱衛星化　　感情の論理　　理想主義　　自己主張・自己顕示
10	青年期の心理３ 成人期の心理１	自我同一性の確立　再衛星化　職業への準備　恋愛と結婚　青年から成人へ 仕事と家庭
11	成人期の心理２	一家を構える　親意識　仕事における自己拡大　仕事と家庭　親密性/孤立　愛
12	中年期の心理１	個性化　第2の人生　生活の再構造化　体力・性的能力・人間関係・思考の危機
13	中年期の心理２	生殖性／停滞　世話　更年期　自殺　夫婦の危機　子どもの成長と独立
14	老年期の心理１	加齢と老化　統合性／絶望　　英知　　高齢者のパーソナリティ
15	老年期の心理２ まとめ	引退の危機　健康の危機　死の危機　サクセスフルエイジング

《教養科目 人文系》

科目名	人間関係論（カウンセリングを含む）				
担当者氏名	森田 義宏				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
現代社会の中で人間関係はストレスの主要な原因となっている。しかし、困ったときに支えてくるのは良好な人間関係である。人間関係の基本であるコミュニケーション、リーダーシップ、対人認知、交流分析などの理論とスキルを実践的な観点から学ぶ。

《テキスト》
使用しない

《参考文献》
授業中随時紹介する

《授業の到達目標》
＊人間関係に関する専門用語について説明できる。
＊自分を取り巻く人間関係について把握できる。
＊自分の対人関係の在り方を理解できる。
＊人間関係に起因する問題に向きあい、対処できうスキルを身につける。

《授業時間外学習》
身の回りで生じた人間関係のトラブルや問題を記録しておく

《成績評価の方法》
試験８０％　提出物２０％

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 現代社会の人間関係	ゲマインシャフトとゲゼルシャフト　ヤマアラシのジレンマ　　個室化・個人化　私事化
2	人間関係論の始まり	科学的管理　ホーソン研究　照明実験　能率の論理・心情の論理
3	集団とリーダーシップ１	集団の分類　集団の機能　集団決定　向社会性　リーダーシップ特性論
4	集団とリーダーシップ２	オハイオ研究　リーダーシップ行動論　状況理論　成熟理論
5	対人関係と自己理解１	ジョーハリーの窓　自己概念　　自己概念の形成　公的自己意識　私的自己意識
6	対人関係と自己理解２	自己評価と他者評価　客観的自己理解　パーソナリティ　価値観　パーソナリティの把握
7	対人関係と自己理解３	印象形成　　対人魅力　ソシオメトリー　　愛他的行動
8	対人関係の類型	共感性　恋愛類型　対人類型　愛着の内的作業モデル
9	対人関係とコミュニケーション１	コミュニケーションプロセス　文脈　ノイズ　ことばの意味論　　外延　内包
10	カウンセリング１	アドバイス・ガイダンス・カウンセリング・セラピー　ロジャースの人間観　自己概念・現実
11	カウンセリング２	カウンセリングの過程　ラポート　受容　積極的傾聴　共感的理解　沈黙　感情の反射　問題への気づき　洞察
12	対人関係の分析１	交流分析　自我機能　自我防衛機制　　構造分析　３つの心　　エゴグラム
13	対人関係の分析２	交流分析　交流パターン　平行的（相補）交流　交叉的交流　仮面的交流　　ゲーム分析
14	対人関係の分析３	交流分析　ストローク　ストローク論　脚本分析
15	対人ストレスと人間関係スキル	lazalus & Folkmanモデル　対人ストレスイベント　　ストレスコーピング　バーンアウト　　アｓーション　ソーシャルスキル

《教養科目 人文系》

科目名	哲学				
担当者氏名	三浦 摩美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
哲学は、言語活動を通して概念的に把握しようとする知的営みである。授業では、原因や根拠の探求として開かれた古代ギリシャの哲学から近代哲学までの哲学思想について概観し、哲学とは何かについて理解できるようにする。また、哲学的真理の探究者である人間の認識の働きと言語の関係について、さらに、行動と言語の関係について、現代の言語哲学をもとに考察したい。

《授業の到達目標》
哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
思考と言語の関係について、哲学的な観点から理解できるようにする。
人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。

《成績評価の方法》
平常のレポートにて評価する。

《テキスト》
適宜資料を配付する。

《参考文献》
そのつど紹介する。

《授業時間外学習》
哲学のテーマについて、自己なりの考察や感想を加えてみよう。そのためには、各哲学者の著作や哲学の概説書にふれ、学習の深化と広がりに努めてみよう。
平常に幾つかのレポートを提出してもらうことになります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学とは何か	哲学のはじまり 神話の世界から自然哲学へ
2	ミレトスの自然哲学	タレスの自然哲学とミレトスの思想家たち
3	イオニアの自然哲学	デモクリトス、アナクサゴラスの哲学
4	人間学の誕生	自然の探求から人間の探求への転回 ソクラテスの哲学思想
5	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの形而上学の原理
6	アリストテレスの自然論と形而上学	アリストテレスの自然哲学
7	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの自然学の原理と形而上学の原理
8	デカルトの認識論	知識の源泉 デカルトの哲学の原理
9	ロックの認識論	知識の源泉 ロックのタブララサ説
10	自己とは何か	知覚の因果説と自我問題
11	他者とは何か	知覚の因果説と他我問題
12	言語的相対主義	ソシュールの記号言語論
13	語用論的言語学	オースティンの発話行為論
14	言語コミュニケーション論	行動とコミュニケーションに関する言語の働き
15	まとめと課題問題	まとめ 課題問題の提出

《教養科目 人文系》

科目名	文学				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
言葉は、事実の説明や日常のコミュニケーションのためだけにあるのではなく、それ以上に人間を豊かにすることができる。そういった言葉の可能性を追求したものが文学である。授業では、古典文学と現代小説を読む。古典には現代でも通用する価値観が語られ、現代小説ではまさに現代社会の問題が語られている。そこから、表現や心のあり方を考える。

《授業の到達目標》
文学の言葉を読み解き、表現力を身につけ、また現代社会を生きていく上で参考となる価値観を身につける。

《成績評価の方法》
授業回数の3分の2（10回）以上出席すること。授業時の意見文やレポートなどの平常点（30%）、定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、作品の一部分をコピーして配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
授業中に指示した作品や、配布したコピーを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『平家物語』を読む	『平家物語』前半の主人公、平清盛の描き方、生き方について考える。
3	『平家物語』を読む	平清盛に反旗を翻した源頼政について考える。
4	『平家物語』を読む	源義経、平知盛らについて考え、また『平家物語』の無常観や死生観、運命観について学ぶ。
5	随筆文学を読む	鴨長明『方丈記』を読み、長明の生き方について考える。
6	随筆文学を読む	吉田兼好『徒然草』を読み、兼好の生き方について考える。
7	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から、妖怪・霊鬼に関する不思議を描いた説話を読む。
8	説話文学を読む	『宇治拾遺物語』の中から童子・博打・狂惑などを描いた説話を読む。
9	和歌と短歌を読む	古典短歌と現代短歌を読む。万葉集・古今集・新古今集や、現代の俵万智『サラダ記念日』などの短歌を取り上げる。
10	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
11	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
12	現代小説を読む	『蹴りたい背中』など、高校生を主人公とした小説を読む。
13	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
14	現代小説を読む	『沖で待つ』など、社会人として会社やその他の職業に取り組むことを内容とした小説を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた、古典文学と現代小説についてまとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	柳楽 節子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
日本の美術を知ることは、私達日本人について考えることでもあります。この講義では日本美術の歴史をたどりながら、日本美術の特質とは何か、過去に存在したものと現在あるものがどのような関連性をもっているか、などについて探ります。実物資料をはじめ視聴覚資料を多く提示し、受講学生がこれまで知らなかった日本美術の面白さを発見することができる授業をめざします。

《授業の到達目標》
身近な生活の中に日本の美を見出すことができるとともに、芸術全般に興味を持ち、楽しみながら自ら広く学ぶことができる。

《成績評価の方法》
日本美術及びそれに関連する内容をテーマとしたレポートの作成と提出（100%）により評価する。授業には10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
『日本美術の特質』　八代幸雄（岩波書店）他

《授業時間外学習》
各授業時に所定の内容を指示する。

《備考》
レポートの作成と提出要領については12月中旬に連絡する予定である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	担当教員自己紹介	私の版画制作と日本美術について　　版画作品及び立体作品の提示
2	現在の美術の状況から　－１	現代の美術作家紹介　DVD
3	現在の美術の状況から　－２	現代の美術作家紹介　DVD
4	現在の美術の状況から　－３	現代の美術作家紹介　DVD
5	日本の信仰	自然崇拝　神道　仏教
6	仏教美術 －１	飛鳥時代　天平時代　DVD　　仏教の伝来　法隆寺　薬師寺　興福寺　東大寺の仏像
7	仏教美術 －２	平安時代　鎌倉時代　DVD　　東寺の曼陀羅と仏像、興福寺　東大寺の運慶・快慶
8	日本の美術　－１	鎌倉時代～室町時代　DVD水墨画の発達と室町期の文化
9	日本の美術　－２	室町時代～桃山時代　DVD　狩野派他
10	日本の美術　－３	桃山時代　DVD　桃山期の文化
11	日本の美術　－４	桃山時代～江戸時代　DVD　桃山期～江戸期の文化
12	日本の美術　－５	江戸時代　DVD　琳派
13	日本の美術　－６	江戸時代　DVD　奇想の絵師
14	日本の美術　－７	江戸時代　DVD　浮世絵
15	まとめ	芸術について

《基礎科目 人文系》

科目名	芸術				
担当者氏名	岩見 健二				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考文献》
授業中に随時紹介

《授業の到達目標》
1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》
毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》
・授業には、１０回以上の出席をもって成績評価の対象とする。
・課題レポート（100%）

《備考》
特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期パリで制作し客死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

《教養科目 人文系》

科目名	心理学				
担当者氏名	北島 律之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

人間を理解すること，とりわけ「心」について理解することは，社会において適応的な生活を行う上でとても重要です．本授業では，心の学問である心理学の科学的な考え方に基づき，これまでにわかっている知見を整理し，人間の心の多様性を理解します．プロジェクタにより図や映像を多く示すとともに，簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い，視覚的，体験的理解を重視します．

《授業の到達目標》

○「心理学」にはどのような領域があるか類別できる．
○種々のデータを基に，心を科学的な視点から説明できる．
○心に関する共通的な性質と個人差を説明できる．

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%
レポート・小テストなど10%
受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』齋藤勇(編)/誠信書房

《参考文献》

『心理学』無藤隆，森敏昭，遠藤由美，玉瀬耕治/有斐閣
（より深く勉強したい人向き）
『イラストレート心理学入門』齋藤勇/誠信書房
（内容が難しすぎると感じる人向き）

《授業時間外学習》

・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています．読んでおくようにしてください．この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません．前もって内容を意識することが大切です．
・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください．

《備考》

・心理学を学ぶには，日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です．

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心理学の科学的な考え方や心理学内の各分野についての概説．《序章§1～9》
2	情報，入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ．《第1章§1～2，§6～7》
3	覚えているって，どういうこと？(記憶)	記憶のプロセス，記憶にまつわるいくつかの事象．《第3章§4》
4	どうやって，学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方．条件づけなど．《第3章§1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方．《第2章§5～9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅰ	私たちが欲するものを分類．《第2章§1～3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション)Ⅱ	欲求の階層．思うようにいかないときの行動．《第2章§2～4》
8	君って，どんな人？(性格)	性格という，分かっているようで分からないものに対する心理学の見方．《第4章§1，第5章》
9	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達を概観．《第4章§2～3》
10	あの人って，きっとこうなんだ(社会的認知)	他人を判断することにおける様々な性質．《第6章§1～2》
11	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果．《第6章§4》
12	メディアから伝わるもの(メディア心理学)	メディアによる効果とその変遷．《第6章§2》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識のいくつかの理論．心理療法にも言及．《第5章§4，第8章》
14	これまで何を学んだか？(振りかえり)	これまでの内容の振りかえり．
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解．

《教養科目 人文系》

科目名	宗教と文化Ⅰ（仏教）				
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義ではまず幅広く仏教文化を解説する。さらに仏教思想と人間や社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。社会や文化を通して宗教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》
※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
※現代仏教についての理解をめざす
※仏教徒社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》
受講態度　約30%
小テスト・レポート　約30%
定期テスト　約40%　　この3項目で評価する。
講義中に質問するのである程度の予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《テキスト》
特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考文献》
講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》
学内で行われる宗教行事への積極的な参加
　定例礼拝　毎週水曜日　12時15分～　思惟館
　宗教セミナー
　宗教ツアー
　花まつり法要　など

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	具体的な事例を取り上げて基本となる教えについての理解をめざす
3	仏教文化の概説	仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	現代宗教文化①	現代の文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
5	現代宗教文化②	現代の日本文化を取りあげて宗教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における宗教①	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における宗教②	社会を読み解くカギとして宗教を学び両者の関係を理解することをめざす
8	日本仏教の概説①	日本仏教の流れと発展について学ぶ
9	日本仏教の概説②	日本仏教の発展と教えについての理解をめざす
10	仏教と社会①	仏教の世界的な展開を学び社会と仏教の関係についての理解をめざす
11	仏教と社会②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
12	浄土仏教の展開	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
13	日本浄土仏教と文化	日本を舞台に浄土仏教が育んできた文化についての理解をめざす
14	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
15	仏教の生命観	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	宗教と文化Ⅱ（キリスト教）				
担当者氏名	穂積 修司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

誤解や偏見によって宗教への警戒感が広まっている中、キリスト教を考察することによって、宗教を理解しその豊かさを認識することは、グローバル化が進み多様な価値観の中を生きねばならない今日の若者にとって、極めて重要なことである。

本講義では、キリスト教とそれが生み出した文化を学び、自分とは違う人々と共に生きる視点を、講義のほか、ビデオ等視聴覚教材やレポートによって身につけるようにしたい。

《授業の到達目標》

＊キリスト教についての一般的知識を得ることによって、キリスト教という宗教がどのような宗教であるか、理解できるようになる。

＊キリスト教の本質を学ぶことによって、キリスト教の価値観と自分たちの価値観の違いを知り、自分たちと違う価値観を持って生きている人々の文化や生き方が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

毎回の講義後に実施する小テスト（30%）、各分野の学習後に課すレポート（30%）、期末レポート（40%）

但し、授業の性格上、出席し講義を聞くことが大切なので、全体の授業日数の3分の1以上欠席した場合は単位が取れないので留意すること。

《テキスト》

「聖書」（授業中に配布する）

《参考文献》

『信じる気持ち　初めてのキリスト教』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2007、『キリスト教徒の出会い/聖書資料集』富田正樹著（日本キリスト教団出版局）2004、『知って役立つキリスト教大研究』八木谷涼子著（新潮OH!文庫）2001、『不思議なキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011

《授業時間外学習》

＊日頃からキリスト教の聖典である聖書を読んでおく。

＊配布する資料が散在しないように整理しておく。

＊新聞等でキリスト教に関する記事があれば目を通しておく。

《備考》

＊私語や携帯電話の使用等、授業態度の悪い者は退席してもらう。授業の途中で許可なく退出した者は欠席扱いとする。レポートは指定された期日までに提出しなければ受け付けない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	シラバスで授業の紹介をする。 ビデオを使って、キリスト教を学習する意欲を呼び起こす。
2	キリスト教を知る	キリスト教の教派ができた歴史や、様々な教派の特徴を紹介する。 特に、カトリック教会とプロテスタント教会の違いを紹介する。
3	キリスト教を知る	2012年度の日本基督教団の教会暦を通し、身近なところにあるキリスト教の影響を紹介する。
4	キリスト教を知る	毎週日曜日に行われている礼拝を通し、キリスト教の祈りや賛美について紹介する。
5	キリスト教を知る	洗礼式、聖餐式や結婚式、葬式など、キリスト教の儀式について紹介する。
6	日本のキリスト教を学ぶ	日本のキリスト教会の歴史を紹介する。
7	日本のキリスト教を学ぶ	キリスト教の日本社会への影響について紹介する。
8	聖書について学ぶ	聖書（旧約聖書と新約聖書）とはどのような書物で、何が書いてあるのかを紹介する。
9	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の成り立ちについて紹介する。
10	キリスト教の本質を学ぶ	キリスト教という宗教の展開について紹介する。
11	キリスト教の本質を学ぶ	神について、イエス・キリストについて紹介する。
12	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
13	聖書の言葉に学ぶ	イエスの言葉と行為について紹介する。
14	キリスト教の価値観について学ぶ	キリスト教に影響を受けた人の言葉と生き様を紹介する。
15	まとめ	今まで学習してきたことを振り返り、キリスト教がどのような宗教であるかを整理する。

科目名	宗教と文化Ⅲ（イスラム教）				
担当者氏名	重親 知左子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
世界におけるムスリム（イスラーム教徒）の数は約15億人、総人口の1/4を占める。日本在住のムスリムやモスク（イスラームの礼拝所）も増加している。この授業を通してイスラームに関心を持ち、激動期に入ったイスラームをめぐる国際情勢への理解を深めることを目的とする。授業においては毎回VTRを視聴し、新聞記事も利用して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》
・イスラームの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
・イスラームにおける日常生活の規範について説明できる。
・政治経済面からイスラームに関わる国際問題を把握できる。
・日本におけるイスラームをめぐる現状を把握できる。
・イスラームに関わる世界のニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》
・授業終了後に課すレポート(50%) と、VTR視聴ごとに課すレポート(50%) で評価する。
・レポートの提出遅れについては減点する。
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。

《テキスト》
テキストは使用しない。毎回プリントを配付する。

《参考文献》
臼杵陽『アラブ革命の衝撃 世界でいま何が起きているのか 』青土社、2011/ 大川玲子・島崎晋『図解 これだけは知っておきたいコーラン入門』洋泉社、2007/ 河田尚子『イスラームと女性』国書刊行会、2011/小杉泰・長岡慎介『イスラームを知る12 イスラーム銀行 金融と国際経済』山川出版社、2010/ 桜井啓子『日本のムスリム社会』筑摩書房、2003

《授業時間外学習》
・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
・イスラームに関する内外のニュースをチェック、考察する。
・可能な範囲でイスラームとの接点を持つ（例：モスクの見学）。

《備考》
・授業欠席回数は、授業実施回数の1/3以下であること。
・講義の妨げとなるので、私語は慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラーム	今日のイスラームをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラームの現状を把握する。
2	イスラームの成立と発展	イスラームの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラームの基本的信仰内容(1)	イスラームの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラームの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラームの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラームの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラーム(1)	飲食におけるイスラームの規範について学ぶ。
8	日常生活の中のイスラーム(2)	服装におけるイスラームの規範について学ぶと同時に、イスラーム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラーム(3)	冠婚葬祭におけるイスラームの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラーム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラームの規範について学ぶ。
11	イスラーム圏の映画鑑賞	イスラーム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラーム(1)	経済面からイスラーム金融について、社会面からイスラーム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラーム(2)	政治面からイスラームと民主主義について考察する。
14	国際理解とイスラーム(3)	国際政治の面からパレスティナ問題を中心に、帝国主義によるイスラーム世界の衰退とその影響について考察する。
15	日本とイスラーム	日本とイスラーム圏の交流を歴史的に検証する。

《教養科目 人文系》

科目名	生活とデザイン				
担当者氏名	稲冨 恭				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

我々の生活は携帯電話から超高層ビルに至るまで、たくさんの「もの」に取り囲まれています。それらは実用的価値を満たすだけで
はなく、社会的価値、美的価値が反映された、価値観の総体として捉える事ができます。本講義では、このような価値観を配分する行為がデザインであるとの視点に立ち、身の回りのものと価値との関連について多面的に考察します。

《授業の到達目標》

○デザイン一般に関する基礎知識を身につける。
○デザインが決定されるに至った背景、要因について分析的に理解する能力を身につける。
○デザインが生活における価値観の反映である事を理解する。

《成績評価の方法》

授業中に毎回実施するレポート(70%)、及び、学期末に実施する学期末レポート(30%)によって評価します。また授業ノートの提出が単位認定の必要条件になります。

《テキスト》

テキストは用いません。

《参考文献》

・以下のような文献が授業の理解を深めます。
・『世界ﾃﾞｻﾞｲﾝ史』阿部 公正、美術出版社,1995
・『近代椅子学事始』島崎 信、ﾜｰﾙﾄﾞﾌｫﾄﾌﾟﾚｽ,2002
・『北欧ﾃﾞｻﾞｲﾝ(1)～(3)』 渡部 千春、ﾌﾟﾁｸﾞﾗﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ,2004
・『20世紀ﾌｧｯｼｮﾝの文化史』成実 弘至、河出書房新社,2007

《授業時間外学習》

○予習の方法：シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査しておいてください。 ○復習の方法：授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作して下さい。 ○学期末レポート：「学期末レポート」の執筆を行って下さい。課題は第11 週(予定)に提示します。

《備考》

遅刻は交通機関の遅延、公的な原因に基づくもの以外、一切出席回数に含めません。出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	デザインとは何か	実用品と贅沢品と芸術作品について(ガイダンス)
2	建物のかたちと理由	住宅と家族の生活の関わり(建築デザイン)
3	携帯電話が欲しくなるわけ	携帯電話のデザインにみるマーケティング手法(プロダクトデザイン)
4	なぜ椅子はこんなにたくさんの種類があるのか	椅子のデザインを通じて考える材料・技術の発展(プロダクトデザイン)
5	Ｈ＆ＭとＧＡＰを比較する	北欧デザインにみるデザインと社会体制の関連(プロダクトデザイン)
6	ウェッジウッドが好きな人は何が好きなのか	クラシックなデザインの系譜(デザインの歴史(1):ギリシア・ローマ期からゴシックの様式)
7	機械式時計はなぜ復権したか	科学技術の発展を背景としたデザインの変化(デザインの歴史(2):ルネサンスから新古典様式)
8	モダンの意味	社会の変化とデザインの関わり(デザインの歴史(3):アーツ・アンド・クラフツからモダニズム)
9	おもしろくない映画がなぜ名画に選ばれるのか	映画・ドラマにみる映像作品の構造と文法(映像デザイン)
10	エコカーに乗らないとだめですか	自動車デザインの歴史とパラダイムシフト(インダストリアルデザイン)
11	シャネルVSユニクロ	20 世紀ファッションの系譜と大衆化現象(ファッションデザイン)
12	関西人が東京で迷子になってしまう原因	世界の都市における都市形態の決定要因(都市デザイン)
13	床の間は単なる無駄なスペースか	懐石料理と茶室の背景(和風デザインの系譜)
14	授業のまとめ	デザインと価値観の関わりについて
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーションと講評

《教養科目 人文系》

科目名	色彩学				
担当者氏名	浜島 成嘉				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
私達の生活は色に囲まれた色彩化の時代となり、衣・食・住など生活環境はカラフルになっている。色は用い方を間違えると視覚上や心理面において、むしろ不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどの様な影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》
色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論を理論だけでなく「色」でも理解しなければ、色彩学を理解した事にはならない。色彩理論の理解だけでなく、色で活用し応用する事ができなければ、その理論の知識は全く意味の無いものになってしまいます。理論を色でも理解することがポイントです。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した場合は単位を与えない。小テスト(５０点)、カラーリング課題(５０点)

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
『生活と色彩』(朝倉書店)

《授業時間外学習》
「非常出口」の表示はベース(地色)のが白と緑色の２種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛らしい色はどの様な色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	色彩と生活	色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。
2	色の見え方	色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。
3	色の感情効果(１)	赤、橙、黄、青などそれぞれの色相がもっている、色の感情効果について。
4	色の感情効果(２)	色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。
5	色彩体系(カラーシステム)	色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。
6	色名	平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。
7	色のイメージ	同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。
8	色の見え方の現象	日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。
9	配色調和(１)	美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。
10	配色調和(２)	「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。
11	色の伝達性	言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。
12	色彩と文化	国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。
13	「衣」(ファッション)の色彩	各シーズン(春、夏、秋、冬)に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。
14	「食」の色	美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。
15	「住」の色	「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。

《教養科目 人文系》

科目名	音楽表現				
担当者氏名	大串 和久				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む） ◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》
歌唱・器楽活動を実践するとともに鑑賞まで範囲をひろげながら、楽しく音楽を表現する力を身に付けていきます。健康な心身をもって各自の可能性を最大限に活かせるよう歌唱を中心とした演習を行います。また、歌唱曲に関連する器楽曲を簡易なアレンジにて電子ピアノ（個人練習とスピーカによる全員合奏）で演習したり、リズムを打ち鳴らしながらの歌唱等、さらに鑑賞を通じて幅広い音楽表現ができるよう進めていきます。

《授業の到達目標》
○歌声を出すしくみを理解し、自分の体で実践したうえで楽曲をのびのびと歌うことができる。
○簡易なキーボードアレンジの楽曲をパート演奏を重ね楽しく合奏したり、和太鼓演奏も自らが楽しんで積極的に参加することができる。
○自分以外の人が行う演奏活動や行動を集中して聴き見ることによって一層自分の表現の幅をひろげることができる。

《成績評価の方法》
①欠席が1/3を超える者は成績評価の対象とならない。
②授業点30%(座席指定。真面目で積極的な授業参加を評価)。
③レポート･課題等の提出20%(提出期日厳守)。
④授業中に実施の小テスト50%(定期試験は実施しない)。小テストは全員の前での実技(歌唱･ピアノ･和太鼓),筆記を含む。

《テキスト》
『４訂版　歌のミュージックランド　〈楽しい歌とコーラス〉』（教育芸術社）

《参考文献》
『The Sound of Music: Piano Duets』(WILLIAMSON MUSIC)
『ピアノソロ サウンド・オブ・ミュージック』(ヤマハミュージックメディア)
『21世紀の音楽入門　１～７』(教育芸術社)

《授業時間外学習》
原則的に予習の必要はない（必要な時のみ事前に指示する）。毎回の授業時の実践が一番大切であり、復習については毎回の授業内容を再確認して不明な点があれば質問したり図書館やWebで調べる等、各自で対応すること。

《備考》
1.遅刻･早退は20分まで出席(減点)扱い。
2.講義室の使用上の注意事項を厳守し、特に室内は飲食厳禁、携帯電話の使用厳禁(発覚時は減点)。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	『音楽表現』授業内容の説明と実践	シラバスを用いての詳細説明。ラップ等の芯２本と空き箱を６回までに用意。発声の基本＝呼吸（腹式・胸式）及び発声･響き等の説明と実践。簡易なアンケート調査。
2	歌う～自分の身体のメカニズムを知ろう	前回の説明内容を活かした実践＝呼吸と発声。テキストの中から歌唱。
3	歌う～のびのびと歌おう1 聴き入って見る～鑑賞1	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
4	歌う～のびのびと歌おう2 聴き入って見る～鑑賞2	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
5	歌う～のびのびと歌おう3 聴き入って見る～鑑賞3	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
6	歌う～のびのびと歌おう4 聴き入って見る～鑑賞4	発声。テキストの中から歌唱。 関連曲の鑑賞。
7	歌う～のびのびと歌おう5 聴き入って見る～鑑賞5	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
8	歌う～のびのびと歌おう6 聴き入って見る～鑑賞6	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞。
9	歌う～のびのびと歌おう7 聴き入って見る～鑑賞7	発声。テキストの中から歌唱。器楽（打楽器）を交えた歌唱。 関連曲の鑑賞・総まとめ（筆記テスト）。
10	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう1 和太鼓を打ち鳴らそう1	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
11	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう2 和太鼓を打ち鳴らそう2	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
12	やさしいｱﾚﾝｼﾞで弾こう3 和太鼓を打ち鳴らそう3	ピアノ演奏。 和太鼓演奏。
13	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう1	全員の前で一人１曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
14	歌って、弾いて、打ち鳴らして、聴こう2	全員の前で一人１曲ずつ演奏（詳細事項は授業中に指示）。
15	総合復習とレポート提出	Ⅰ期の総まとめとレポート作成・提出。

《教養科目 人文系》

科目名	アメリカ文学				
担当者氏名	平本 幸治				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
１９世紀半ば、アメリカ合衆国が文化的にも物質的にもイギリス本国やヨーロッパから独立し、新興国として世界に台頭し始めた時代、アメリカ・ルネサンス期（１８３０－６０）の文学に関して考察します。この時代の思潮や文化的背景のイメージをつかむために、作家・思想家の紹介ビデオや解説を参考にしながら、実際に英文テクストを精読しアメリカ文学作品を味わってみたいと思います。

《授業の到達目標》
アメリカ・ルネサンス期に輩出した思想家・作家並びにその作品群を紹介し、異文化的なアメリカ合衆国の文化・社会の基底をなす精神性を主体的に解することができるようになることを目標とします。

《成績評価の方法》
期末レポート（５０％）、授業中に実施する小テスト（５０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
適宜参考となる文献や資料を紹介します。

《授業時間外学習》
配布されるプリントの次回の学習範囲の単語や慣用句などの意味を調べ、精読しておいて下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	アメリカ文学史の概要	１７７６年に独立を宣言をしたアメリカ合衆国の文学史を概観します。
2	アメリカ・ルネサンスの概要	１８００年代半ば多くの思想家や作家を輩出したアメリアカ・ルネサンス期を概観します。
3	思想家　Emerson	Ralph Waldo Emerson（１８０３－８２）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
4	EmersonのNature	EmersonのNatureの基底をなす思想を紹介・解説します。
5	EmersonのEssays	EmersonのEssaysの中心となる概念を紹介・解説します。
6	思想家　Thoreau	Henry David Thoreau（１８１７－６２）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
7	ThoreauのWalden	ThoreauのWaldenの基底をなす思想を紹介・解説します。
8	ThoreauのCivil Disobedience	ThoreauのCivil Disobedienceの中心となる概念を紹介・解説します。
9	作家　Hawthorne	Nthaniel Hawthorne（１８０４－６４）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
10	HawthorneのThe Scarlet Letter（１）	HawthorneのThe Scarlet Letterの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
11	HawthorneのThe Scarlet Letter（２）	HawthorneのThe Scarlet Letterの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
12	作家　Melville	Herman Melville（１８１９－９１）の伝記と文化的・社会的背景を概観します。
13	MelvilleのMoby-Dick（１）	MelvilleのMoby-Dickの前半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
14	MelvilleのMoby-Dick（２）	MelvilleのMoby-Dickの後半部分のストーリー展開と山場を紹介し、解説します。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、具体的な成果を説明することができるように総括します。

《教養科目 人文系》

科目名	論説と評論				
担当者氏名	安井 重雄				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
現代に関する、教育、社会、芸術などさまざまの文章を読み、それぞれの論者の考え方を理解し、それに対する自らの意見を述べる。文章は、新書本、雑誌、新聞などのものを用いる。ひとつのテーマについて、３～４回の授業を行う。

《授業の到達目標》
文章をしっかり読み、他人の多様な考え方について理解し、その上で自らの意見を述べることができる。

《成績評価の方法》
授業回数（15回）の３分の２（10回）以上出席しないと単位を認定しない。その上で、授業中に行う評論についての意見文の提出（30%）と定期試験（70%）によって評価する。

《テキスト》
毎回、コピーを配布する。

《参考文献》
授業中に指示する。

《授業時間外学習》
配布したコピーを熟読して授業に臨むこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業方法の説明	15回の授業で取り上げる文章や、授業の流れについて説明する。
2	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
3	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
4	日本文化に関する評論を読む	芸術と仕事との関係、芸術のあり方についての評論を読む。
5	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
6	社会に関する評論を読む	格差社会、貧困についての評論を読む。
7	社会に関する評論を読む	競争、市場経済についての評論を読む。
8	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
9	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
10	家族・家に関する評論を読む	家族と生活、結婚、高齢化についての評論を読む。
11	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
12	人間の身体についての評論を読む	身体とは何か、身体は自分のものなのに自分の自由には出来ない、そういった身体について考えた評論を読む。
13	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
14	人間の身体についての評論を読む	身体のサイズになぜ大小があるのか、身体はどのように出来ているのか、そういった身体について考えた評論を読む。
15	授業のまとめ	これまで読んできた評論の内容について振り返り、まとめる。

《教養科目 人文系》

科目名	歴史学				
担当者氏名	金子 哲				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
歴史って、嫌だよね。奇々怪々な暗記にウンザリしたよね。あの、年表ってヤツもヤナ奴だよね。でも、安心して！　この講義じゃ、「物知り歴史」や「暗記物の歴史」は扱わないからネ。覚えるんじゃなくて、感じて欲しいんだ、「人間の変わらない 思考方法」を。扱う主な事象は、人間の感性が最も鮮やかになる「自由＝非日常・反秩序のアヤシゲな時空間」です。日本の前近代を多く取り扱います。

《授業の到達目標》
１．時代・地域・文化が異なれば、全く異なる異なる思考・価値観が存在することを納得できる。２．現代人の魂の根底に、そのような思考・価値観との共通項が潜んでいることに気付き、共感することができる。３．人間の価値感の根底にある「自由」について一生をかけて考え続けて行く「シード（種）」を獲得できる。

《成績評価の方法》
学期の最後に行うペーパーテストで評価します。自筆ノート（ワープロ書き不可、コピー不可）と直接配布したレジュメ（コピー不可）の持ち込みのみ可とします。

《テキスト》
なし

《参考文献》
勝俣鎮夫『戦国時代論』←学術書だけど、読みやすくブッ飛んだ内容。／網野善彦『増補　無縁・公界・楽』←必読教養書。危険な内容。／橋爪大三郎『はじめての構造主義』←「柔らか頭」のための基本書。／今村仁司『排除の構造』←頭痛に襲われたいという方へ。／『週間朝日百科　日本の歴史』←前衛的な内容を平易でグラフィカルに読みやすく。

《授業時間外学習》
この講義に出席するにあたっては、常識を一度捨て、柔軟な思考ができる状態になるよう、頭の柔軟運動をしてください。その際には、前回の講義をよく思い出し、反芻してください。そして、参考文献を一読してみることをお奨めします。格段に講義が理解しやすくなります。

《備考》
常識と衝突します。常識的価値観・思考で十分という方には不向きです。大学教員の責務として、最新の研究成果を反映させます。故に授業計画とは完全に一致しない場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	当該講義の目的
2	歴史の捉え方・時間のイメージ	「直進的な時間」と「循環する時間」、「西洋の時間」と「東洋の時間」。
3	歴史の見方	アナール歴史学＝社会史における、見方・考え方。
4	反秩序の場１	「市」「盛り場」「遊郭」「悪所」「アジール（避難所）」と「聖なる場」・「性なる場」
5	反秩序の場２	荒ぶる神仏の場＝後戸空間、下級宗教者、芸能民
6	反秩序の場３	「辺境」「マージナル・マン」「倭寇」
7	反秩序の時	「祭」「小正月」「盆」
8	中心と周縁１	「王と乞食」「第三項排除」「排除の構造」「均質化原理」「差異化原理」
9	中心と周縁２	「権力」「自由」
10	自由の図像学	「絵巻物」「乞食」「市」「寺社」
11	自由からの闘争	「ナチス」「大政翼賛会」「強制収容所」「監獄国家」
12	新自由主義への批判	「交換」「互酬」「再配分」「自由主義」「ロイック＝ヴァカン」「軽犯罪法」
13	歴史は終焉するか	「フランシス＝フクシマ」「中国化する日本」「宋」「市場の連鎖」「均質化原理」「差異化原理」
14	総括１	全体を振り返る
15	総括2	全体を振り返る

科目名	日本語表現法				
担当者氏名	野田 直恵				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ○ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） ◎ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

論文やレポートの基本的な書き方を、実践を通して身につけることが目標である。具体的には、さまざまな論文に接しながら、文体や様式・資料の収集法・資料に基づく問題の発見の仕方・論旨の展開法といったことを学び、各自でもテーマに沿った文献調査や発表という段階を踏んで論文の完成を目指す。そのほか、言語知識を深めるための課題演習も行う。本講義は「日本語（読解と表現）」の応用発展編にあたる。

《授業の到達目標》

○論文やレポートの一般的なスタイルについて説明できる。
○状況に応じて用語を使いわけできる。
○基本的な手順にそって論文やレポートを作成できる。
○資料調査を通じて問題点を発見できる。

《成績評価の方法》

（1）授業内における発表等（質疑応答も含む）の内容および姿勢30%
（2）課題等の提出状況およびその内容20%
（3）定期試験（レポート試験）50%

《テキスト》

『新版　大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）小笠原喜康、講談社、2009
その他、必要に応じてプリントも配布する。

《参考文献》

『国語表現ハンドブック　新訂版』長谷川泉他（編著）、明治書院、1986
『ゼミ・論文発表のためのPowerPoint』富士通オフィス機器株式会社、FOM出版、2006

《授業時間外学習》

（1）授業時に配布する課題プリント等を指定時までに仕上げること。（提出または提示を求める。）
（2）教科書の指定箇所や配付資料等を指定時までに通読しておくこと。（理解度確認のための小テストを課すことがある。）

《備考》

授業内容をふりかえって不明な点が出てきた場合は、遠慮なく質問してください。（授業時以外も可。メールでの質問も受け付けます。）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	論文の種類	さまざまな分野における論文のスタイルの共通点と相違点とを理解する。
2	論文の鉄則	論文を書くにあたって守らねばならないことを理解する。
3	論文の構造	「第１回」で扱った論文の共通点から、それらの基本的な構造を理解する。
4	論者の視点	「第１回」で扱った論文の論者の立場で論者が問題意識を持った経緯を考え、論者が問題を把握するまでの過程を理解する。
5	論者の工夫	「第１回」で扱った論文の論者がどのように問題を論じているかを読みとり、その論者なりの問題を論じ方を理解する。
6	論文の善し悪し	さまざまな論文を読み、わかりやすい論文の特徴について理解する。
7	テーマの模索	「第５回」までの学習内容に基づき、各自の論文のテーマを模索する。
8	資料の収集	各自のテーマに基づいて必要と思われる資料を想定し、それらの入手方法を検討する。
9	資料の取捨	各自で集めた資料の要素を類別し、論の構成に必要なものと参照にとどめるものとを選択吟味する。
10	構想を立てる	「第３回」・「第４回」の学習内容をふまえ、論のおおまかな展開を考えて構想を立てる。
11	全容の確認	構想に基づいて下書きを結論部分まで仕上げ、論の全体の流れを確認する。
12	論点の整理	「第５回」・「第６回」の学習内容をふまえ、論点をさらに明確にするための工夫を試みる。
13	客観性の獲得	下書きに基づいて発表を行い、質疑応答を通じて客観的に論の整合性を検討する。
14	文の推敲	下書きをいったん清書し、最終的な修正に取り組む。
15	まとめ	完成した論文を提出し、これまでの学習内容を再確認する。

《教養科目 社会系》

科目名	法と社会				
担当者氏名	國友 順市				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本的人権を中心に学び、広く私たちの身の回りで起こりうる法律問題を取り上げて講義をする。

《テキスト》
目先哲久・國友順市編著「新・レッスン法学」嵯峨野書院

《参考文献》
適宜指示する

《授業の到達目標》
リーガル・マインド（法的ものの考え方）の習得を目指す。

《授業時間外学習》
予習として、講義内容をシラバスで確認し、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、復習としては、当日の講義内容を再確認すること。

《成績評価の方法》
講義への参加40％および定期試験による評価60％。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法とは何か	法の一般的定義、法と社会、法と道徳、法の適用
2	基本的人権Ⅰ	プライバシー権
3	基本的人権Ⅱ	表現の自由
4	基本的人権Ⅲ	生存権
5	基本的人権Ⅳ	自己決定権
6	基本的人権Ⅴ	信教の自由
7	基本的人権Ⅵ	法の下の平等
8	契約の自由	契約の意義・効力
9	損害賠償	損害賠償の基本
10	家族と法Ⅰ	結婚・離婚、内縁
11	家族と法Ⅱ	親子、親権
12	家族と法Ⅲ	相続
13	罪と罰	犯罪と刑罰
14	日常生活のアクシデント	交通事故、医療事故、製造物責任
15	裁判	裁判制度

《教養科目 社会系》

科目名	日本国憲法				
担当者氏名	笹田 哲男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権」「平和主義」等）について講説する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」や「子どもの学習権」、また「日本の防衛と国際貢献」などについては、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《授業の到達目標》
１．「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」などについて理解する。
２．日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
３．日本国憲法と現代社会とのかかわりを、裁判例の研究なども通じながら、具体的に理解する。

《成績評価の方法》
第15週の授業時間中に実施する筆記試験（テキスト持込可）の結果で100%評価する。

《テキスト》
『改訂 現代の法学ー法学・憲法ー』野口寛編著、建帛社、2009

《参考文献》
『憲法学教室 全訂第２版』浦部法穂、日本評論社、2006
『憲法 第３版』辻村みよ子、日本評論社、2008

《授業時間外学習》
授業中、その都度、指示する。

《備考》
法的思考を培い、社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義（１）	①前文の「平和主義」関係部分、第９条の内容について説明することができる。②第９条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義（２）	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史（１）	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史（２）	日本国憲法下で、古典的な私法原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）にどのような修正が加えられてきたか、について説明することができる。
7	基本的人権の保障（１）	①「法の下の平等」原則について説明することができる。②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」についての現状と課題を説明することができる。
8	基本的人権の保障（２）	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障（３）	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障（４）	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障（５）	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権（１）	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権（２）	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権（３）	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学修内容を再確認するとともに、その学修成果を具体的に説明することができる。

《教養科目 社会系》

科目名	人権の歴史				
担当者氏名	西脇 修				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》
現代社会の人類の三課題は平和・環境・人権です。事実認識的には、戦争・環境汚染・差別です。特に、人権問題は人間自身、ひいては私自身の問題であります。その意識形成には歴史性や文化性等が大きな関わりをもっています。また、人権を護るため法整備もなされました。現代社会の諸問題を歴史的背景をふまえて総合的人権論を講じます。

《授業の到達目標》
様々な社会的事実を人権問題の側面から捉えることができるようになりましょう。
差別を見抜く力を身につけましょう。
人権侵害、被差別状況に気がつくようにしましょう。
人権感覚を豊かにしましょう。

《成績評価の方法》
定期試験（課題に対する記述式）100%

《テキスト》
テキストは使用しませんが、必要に応じて資料を配布します。

《参考文献》
共生教育のすすめ　仲田　直
これでわかった！部落の歴史　私のダイガク講座　上杉聰
これでなっとく！部落の歴史　続私のダイガク講座　上杉聰

《授業時間外学習》
配布資料の内容で不明な点は各自で学習し、質問するようにして下さい。

《備考》
出席を重視しますが私語を慎むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基本的人権とは何か①	日本国憲法にうたわれている基本的人権について総合的に考えます。
2	基本的人権とは何か②	日本国憲法にうたわれている基本的人権について個別に考えます。
3	日本古代の身分制について	平安時代末期までの律令制から身分制を考えます
4	日本中世の身分制について	江戸幕府が開かれるまでの無縁所を通して身分制を考
5	日本近世の身分制について	士農工商等の身分制の成立について考えます。
6	近代の身分制について	近代化の名の下につくられた身分制を考えます。
7	浄穢の思想について	浄いと穢れはどのようにつくらたのかを、インドの思想を通して考えます。
8	貴賤の思想について	貴いと賤しいはどのようにつくられたのかを、中国の思想を通して考えます。
9	女性差別の歴史	「元始女性は太陽であつた」にも関わらず、女性差別はいつからつくられたのかを考えます。
10	障がい者差別の歴史	障がい者差別はいつからつくられたのかを考えます。
11	民族差別と外国人差別の歴史	日本は単一民族国家ではありません。元来、多民族国家でした。外国人に対する差別も考えます。
12	部落差別の歴史①	被差別部落がつくられた歴史を考えます。
13	部落差別の歴史②	日本の人権宣言といわれる「水平社宣言」から解放運動を考えます。
14	差別被差別からの解放	人権教育と共生教育について考えます。
15	まとめ	人権の歴史を総括します。

《教養科目 社会系》

科目名	政治学				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

○政治学のボキャブラリーを使用して、現実に起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
○現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考文献》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
他の参考文献は講義をすすめながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

（1）予習の方法：毎日の政治に関するニュースを関心をもって接すること。
（2）復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の３側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の３局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞄、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

《教養科目 社会系》

科目名	国際関係論				
担当者氏名	斎藤 正寿				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第１次世界大戦と戦間期、第２次世界大戦、脱植民地化と第３世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》
○自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
○20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》
学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》
教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考文献》
高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本［帝国主義～現代］篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》
講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを１枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》
・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（１）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（２）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（３）	アジアの近代
5	第１次世界大戦（１）	列強の対立・再編
6	第１次世界大戦（２）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（１）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（２）	ワシントン体制
9	第２次世界大戦（１）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第２次世界大戦（２）	極東の危機、日中戦争
11	第２次世界大戦（３）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（１）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（２）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第３世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《教養科目 社会系》

科目名	社会学				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《授業の到達目標》

(1) 社会学的ものの見方ができるようになる
(2) 社会を理解するために、社会学的道具を使うことができるようになる
(3)みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《成績評価の方法》

○ 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
○ 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴惠（2007, 有斐閣アルマ）

《参考文献》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000, 日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学的ものの見方	社会学の成立、個人と社会
2	行為の分析 (1)意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者
3	行為の分析 (2)アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会
4	行為の分析 (3)スティグマ	スティグマ、レイベリング、パッシング
5	行為の分析 (4)正常と異常	正常、異常、コンテキスト、分類〈社会的カテゴリー〉
6	行為の分析 (5)予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界
7	行為の分析 (6)社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレイム申し立て活動、対抗クレイム
8	社会集団と秩序 (1)ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブ
9	社会集団と秩序 (2)規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持
10	社会集団と秩序 (3)社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織
11	社会集団と秩序 (4)不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会
12	社会は求められる (1)共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーション
13	社会は求められる (2)国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公共領域〈公的領域〉、福祉国家論、アナーキズム
14	学習の総まとめ(1)	（適宜指示を行う）
15	学習の総まとめ(2)	（適宜指示を行う）

科目名	ジェンダー論				
担当者氏名	吉原 惠子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について、多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

(1)ジェンダーについて社会学的に語ることができるようになる。
(2)日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できるようになる。
(3)講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できるようになる。

《成績評価の方法》

○ 毎回実施する「作業シート」の提出（配点：文章作成能力および知識の定着度45%）
○ 「学習のまとめ」シート（「持ち込み可」）を完成させること（配点：協力して学ぶ力、データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度：55%）

《テキスト》

『女性のデータブック　第４版』井上輝子・江原由美子編（2005，有斐閣）

《参考文献》

『ジェンダーの社会学』江原由美子（放送大学教育振興会）
『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編（世界思想社）
『社会学がわかる事典』森下伸也（日本実業出版社）
『ジェンダー入門』加藤秀一（朝日新聞社）
『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子（有斐閣）

《授業時間外学習》

(1)テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。(2)毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに利用するためファイリングして活かしてください。(3)毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ジェンダー論の基礎(1)	ジェンダーとは何か？（ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス／ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学）
2	ジェンダー論の基礎(2)	「性」の多様性と「女らしさ／男らしさ」の形成
3	結婚・家族はどう変わったか(1)	少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択：少子化とジェンダー
4	結婚・家族はどう変わったか(2)	男の子育て／女の子育て：ケアとジェンダー
5	結婚・家族はどう変わったか(3)	高齢者の生活実態：ケアとジェンダー
6	学習のまとめとワークショップ①	（適宜、学習内容を提示します）
7	女の時間／男の時間(1)	アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン：労働とジェンダー
8	女の時間／男の時間(2)	非正規雇用、雇用管理、賃金格差：雇用とジェンダー：雇用とジェンダー
9	学習のまとめとワークショップ②	（適宜、学習内容を提示します）
10	学校の中のジェンダー(1)	ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム：教育とジェンダー
11	学校の中のジェンダー(2)	進路形成と進学、専攻分野の分化：教育とジェンダー
12	マスメディアとジェンダー(1)	メディアのなかの女性像／男性像、メディア行動、メディア産業：情報社会とジェンダー
13	学習のまとめとワークショップ③	（適宜、学習内容を提示します）
14	性・こころ・からだ(1)	性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ：性とジェンダー
15	性・こころ・からだ(2)	セクシュアリティと暴力、性の商品化：性とジェンダー

科目名	経済学				
担当者氏名	石原 敬子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》
「経済学」というと、“企業”“お金儲け”などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれません。たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》
・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》
平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》
特に指定しません。
毎時間プリントを配布します。

《参考文献》
授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》
・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
・第11週目を終わった頃に復習用教材(自習用)を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。 授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。 「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。 IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命が私たちの暮らしやビジネスの世界にもたらしたことについて考察します。
6	企業戦略について考えよう（1）	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう（2）	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割（1）	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割（2）	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう（1）	市場のはたらきでは解決できない問題としてどのようなものがあるのか、考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう（2）	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方を用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう（3）	産地偽装などの問題がなぜ起きるのか、食の安全を守るにはどのような制度が必要かなど、消費に関わる身近な問題について経済学の考え方を用いて考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

《教養科目 自然系》

科目名	数学				
担当者氏名	山本 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
毎時間始めに計算問題のトレーニングを行う。
毎時間のように違ったトピックを取り上げ、高校までの数学とは違った角度から講義を行い、一般教養を身につける。

《授業の到達目標》
日常生活にも役立つ計算力を身につける。
数学を通じて「考える力」、「集中力」、「論理力」を身につける。

《成績評価の方法》
試験(80%）、毎回の授業の前後に実施する小テスト（20%）

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
必要に応じて授業中に紹介する。

《授業時間外学習》
復習：その日に学んだことをノートにまとめ直し、理解不足の個所は例題を再び自分自身の手を動かして解くこと。
予習：前回の授業を再び復習し本当に理解てきているかどうか見直しておくこと。次回の復習テストに備えておくこと。

《備考》
毎時間遅刻せずに出席すること。
相談の上内容を変更する場合がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	数について	自然数、整数、有理数、実数を理解する。
2	循環小数について	有理数、無理数を小数で書き表すとどのようになるかを理解する。
3	最大公約数，最小公倍数	素数、素因数分解を理解し、最大公約数、最小公倍数の計算をできるようになる。
4	計算を速く行う方法	因数分解を用いれば速く計算できる方法などを学ぶ。
5	指数計算	指数に関する定義や指数法則を知り、指数計算ができるようになる。
6	検算	検算が速くなる方法などを知る。
7	数学の雑学（1）	フィールズ賞、円周率πについてなどを知る。
8	数学の雑学（2）	地震のマグニチュードと震度の意味の違いなどについて知る。
9	数学の雑学（3）	数の単位や白地図の色分け問題などについて知る。
10	数学の雑学（4）	5次方程式の一般解の公式は、存在しない話題などを知る。
11	利子	複利計算を理解する。
12	数列	数列の定義を理解し、等比数列についてより深く学ぶ。
13	等比数列の和	まず記号Σの意味を理解し、等比数列の和を計算できるようになる。
14	借金の計算	10日で1割の利子がつき、10日ごとに1万円ずつ借り続けると100日目にはいくらの借金になるかなどの計算ができるようになる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認する。

《教養科目 社会系》

科目名	物理学				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

近年、自然科学分野のみならず、幅広い分野において物理学的な世界観が取り入れられ、それらの分野の理解のためにも物理学の考え方は重要となっている。

この授業では物理の考え方を知るために、簡単な例とともに、「物理学はどのようにものを見るのか」から始まり、「物理学とは何か」・「物理学の考え方とはどのようなものか」に向かって話を進める。なお、受講生の状態により内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この授業では物理学の考え方の基本を身に付け、一見複雑な現象あるいはお互いに何の関係もないように見える複数の現象の影に隠されている真理や共通性を見抜こうという姿勢を身に付けることを目標とする。とりわけいくつかの具体例において、物理学的な観点から理由を挙げて説明できるようになることを目指す。

《成績評価の方法》

毎回の授業への取り組(２０％)、レポート及びペーパーテスト等(８０％)により評価する予定であるが、詳細はオリエンテーションにおける履修者の意見も交えて決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考文献》

①『物理学とは何だろうか（上・下）』 朝永振一郎 岩波書店 ②おもしろい物理学（本編・続編・続続編）』 ペレリマン 社会思想社現代教養文庫 ③『研究者のための上手なサイエンス・コミュニケーション』 英国物理学会監修 東京図書 ④『物理入門コース』全１０巻 岩波書店 ⑤『非平衡系の秩序と乱れ』 沢田康次 朝倉書店

《授業時間外学習》

毎回の授業の復習を行うこと、特に例題などを自分の頭で考え、計算してみること。

機会を見つけて授業での考え方を実生活の中で実践してみること。

《備考》

人類が持つ「世界観・考え方」は多様ですが、その中でも物理的世界観・考え方は最も幅広く強力なものの一つであり、自然科学分野の基礎となっています。ぜひ挑戦してみて下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明と履修者の意見の確認、及び、評価方法の決定 （大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	物理の考え方（１）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（１）
3	物理の考え方（２）	物理学の考え方と数学の簡単な復習（２）
4	力学の初歩と基本定理（１）	サンプル実験１ 静止状態と力の計算
5	力学の初歩と基本定理（２）	力の釣り合いと慣性の法則および作用反作用の法則
6	力学の初歩と基本定理（３）	加速度と運動方程式（１）
7	力学の初歩と基本定理（４）	加速度と運動方程式（２）
8	力学の初歩と基本定理（５）	サンプル実験２ 運動量とその保存
9	力学の初歩と基本定理（６）	簡単な例を少し数式で考える
10	電磁気学（１）	光や波の性質について（１） 光や波の基本的性質を考える、サンプル実験３
11	電磁気学（２）	光や波の性質について（２） 身の回りの現象を考える
12	相対論	時空間４次元の世界
13	身のまわりの物理学	統計力学・熱力学、非平衡系の物理学
14	総合演習（１）	問題演習と実験
15	総合演習（２）	これまでのまとめ

《教養科目 自然系》

科目名	化学				
担当者氏名	岡本 一彦				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私たちの生活の中で、近代から現代にかけ目を見張る勢いで発展してきた科学・技術によって生み出されてきた多種多様な化学物質が利用されており、また生命現象の理解もそれによって飛躍的に進み、その恩恵を受けています。化学物質に関する情報が数多く見られる現代、それらに関心を持ち、正しく理解し、評価できることが大切である。そのための教養としての化学的知識の修得をねらいとする。

《授業の到達目標》

今までに広範な領域の知識を量と質の面で吸収してきたと思うが、大抵はまる暗記の形で学習することが多かったのではないかと考えられる。この授業では化学知識の基本事項である原子の構造、化学結合、分子構造、物質の状態、化学反応などを解説する中で、学生は、学び方として暗記ではなく、自らの科学的思考を通してしか理解が期待できないことに気付き、自らが主体的に問題解決に立ち向かう態度が養われる。

《成績評価の方法》

①．１０問程度、60分の定期試験結果で評点の90%。　②．10問程度の小問で2回宿題として提出を求めるが、その提出評価が10%。　①と②を併せて100%として評価する。

《テキスト》

プリントを使用。授業の進度に合わせ、予定の数回前には配布する。

《参考文献》

E.F.Neuzil著　和田悟朗訳「教養の化学」東京化学同人（1970）。J.E.Brady、G.E.Humiston著　若山信行、一國雅巳、大島泰郎訳「ブラディー　一般化学 上・下」 東京化学同人。（1991）J.N.Spencer、G.M.Bodner、L.H.Rickard 著　渡辺　正訳「スペンサー基礎化学上・下」東京化学同人（2012）など

《授業時間外学習》

授業の前にどのような項目を学習するのか前もってプリントに目を通しておく。より大事なことは、授業が終わった後、講義の余韻がまだ残っている間に授業の復習をし、より深い理解に努めてほしい。また、村山斉著「宇宙は何でできているのか」（幻冬舎新書）や一般科学雑誌「ニュートン」なども思考訓練になるかと思うので、ページをめくって見てほしい。

《備考》

授業は毎回、前回の内容に続けて新しい項目を解説していくので、特別な事情がない限り授業を休まないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	原子の構造Ⅰ	これからの授業の概要を説明した後、授業の本題に入る。人はいつごろから原子という概念を持ったのか。電子の発見。
2	原子の構造Ⅱ	原子核の発見。ラザフォード原子モデルからボーア原子モデルへ。電子は粒子の性質と波動という相反する性質を持つということ。
3	原子の構造Ⅲ	電子は粒子でもあり、波動でもあるというのはどういうことなのか。それからどんな発展があったのか。
4	原子の構造Ⅳ	シュレディンガー方程式と原子核の周りの電子の取り得る状態について。原子の電子配置。
5	原子の構造Ⅴ	原子の電子配置と周期律。
6	化学結合と分子構造Ⅰ	化学結合の種類。イオン結合。原子の電子配置とイオン形成の関係。
7	化学結合と分子構造Ⅱ	共有結合。原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造。
8	化学結合と分子構造Ⅲ	原子の電子配置と共有結合形成の関係および分子構造の前回からの続き。極性共有結合と無極性共有結合。極性分子と無極性分子および分子の性質との関係。
9	物質の三態Ⅰ	気体、液体、固体の状態をイメージに描く。状態間の変化は何によって起こるのか。温度は物質のどのような状態を表すものなのか。
10	物質の三態Ⅱ	物質の凝固点や沸点が物質によって高い、低いがある。これに関係する事柄。なぜ沸点や凝固点が一定の温度なのか。
11	溶液Ⅰ	溶液の種類。濃度の種類と表し方。溶解の仕組み。溶液の性質。
12	溶液Ⅱ	溶液の性質の続き。
13	化学反応Ⅰ	酸や塩基とは何か。酸・塩基の反応について。溶液の酸性、塩基性の強さ。
14	化学反応Ⅱ	酸・塩基の性質の続きで、緩衝液について説明。酸化反応と還元反応について。
15	化学反応Ⅲ	酸化・還元反応と電池との関係。今までの概括的まとめ。

《教養科目 自然系》

科目名	生物学				
担当者氏名	本多 久夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期、Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
この生物学は、生物についての事柄の羅列ではない。いったん自分と同じものをつくれる能力（自己増殖能）を持ったものが出現したら、その後どのような世界がつくられるかについての体系的記述である。具体的な内容は授業計画でのべる。

《授業の到達目標》
生きものが代々生き続ける仕組みを、遺伝子と細胞をキーワードとして理解できるようになる。遺伝子をともなって代々生き続けることで、進化が必然であることが理解できる。進化の歴史を学ぶことで、エネルギー資源枯渇問題やCO2問題などの本質がわかるようになる。

《成績評価の方法》
ペーパーテスト(8割)とレポート(2割)により評価する。
全回出席が原則。

《テキスト》
使わない。　図表などのプリントを逐次配布する。これを切り抜き貼りつけながらノートをつくること。

《参考文献》
授業の準備には以下の書籍等にお世話になった。図書館にある。　『細胞の分子生物学』　アルバーツ他著、
『生命と地球の歴史』　丸山茂徳・磯崎行雄著、
『「共生」とは何か』　松田裕之著、

《授業時間外学習》
ノートを整備すること。授業時間にノートの左半分に、配布資料の図表などを貼り付ける場所を空けながら、聴いたことと板書をメモする。時間外に配布資料を切り抜き貼り付け、右半分の余白に把握したことを自分の文章でまとめて記す。

《備考》
いつも話している人の顔を見ながら聞くこと。ノートをとるために下を向くことは極力避ける。ノートには要点を素早くメモする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生物と非生物の違い	生物の自己増殖は、設計図（ゲノム）の増殖からはじまる。
2	設計図の複製・物づくり	ゲノムからいろいろな酵素（タンパク質）がつくられ、その酵素が生体物質を合成して身体をつくる。
3	細胞・組織	細胞はとぎれのない細胞膜で完全におおわれている。細胞膜に漏れができたら細胞は死ぬ。　組織は細胞からできている。組織と聞いたら細胞がどうなっているか考えよう。
4	器官・個体	シート状の組織が器官を作る。個体は器官の集まりであるから、入り組んだシートでできた袋であるといえる。
5	自己増殖が続くと	ネズミ算的増加（指数関数）の増加のものすごさを理解し、増加の頭打ちを表現するロジスティック関数の基本を学ぶ。
6	生物にみられる主体性	生物個体は生きられているから生きているだけであるのに、主体性があって、目的や意図をもつかのように感じられることがある。これはなぜか。
7	生物にある巧みな調節	ネガティブフィードバックはこれまで通りを続ける調節であり、ポジティブフィードバックはこれから造りあげ成長する時に起こる。
8	脳	神経はとても細長いが細胞である。信号が伝わるとは、そこを活動電位が移動することである。神経細胞と神経細胞の間にも信号は伝わる。これは物質の分泌による。
9	神経系	神経細胞間の連結はシナップスとよばれる。ここに薬物や神経毒が働く。
10	同じ病気にかからない	免疫の細胞たちが通信しながらの連携プレーして異物である病原体を殺す。
11	知らないものを認識する	身体は、まだこの世に出現していない異物の侵入にも備えている。これは免疫学の大きな謎であったが、謎は細胞生物学により解かれた。
12	地球の歴史	生命のないところに生命ができる。その生命が地球を変えた。地表に酸素ガスがあるのも、巨大な石灰岩の陸があるのも生物の仕業である。
13	人も地球を変えた	いま人類が地球に行っていること。ヒト以外の動物ではありえない個体密度で生活している。そこから生じる問題、炭酸ガス問題など。
14	進化は進歩とはかぎらない	いまも進化は起こっている（抗生剤に対する耐性菌の出現など）。進化は近視眼的に良し悪しを判断して進む。
15	利己と利他	個体どうしの三つ関係、搾取（捕食と寄生）・競争・共生。共生関係は助け合いの関係だが、どちらも利己的にふるまってもできてしまう関係である。

《教養科目 自然系》

科目名	食と健康				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
誰もが健康で活動的な生活をしたいと望んでいる。そのためには個々のライフスタイルに応じた食事形態で、適切な栄養素を摂取することが重要である。本講座では、食品のもつ栄養・感覚・生体調節機能、食環境、食情報、ライフサイクルに応じた食生活、生活習慣病について理解する。加えて、健全な食生活（目指すべき食生活）について自ら考える能力を身につけることを目指します。

《授業の到達目標》
・基礎的な栄養学の知識、食品の機能性や食文化、ライフサイクルに応じた食生活のあり方について理解し、説明できる。
・現在の日本の食生活の問題点を理解し、健全な食生活のあり方について説明できる。
・自らの食生活を見つめ直し、改善する能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
・課題レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記テスト：50%の割合で評価する。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》
「食生活論　第3版」　福田靖子、小川宣子編　（朝倉書店）

《参考文献》
「食生活論」　遠藤金次他編　（南江堂）
「健康と食生活　改訂版」　吉田勉編　（学文社）
「私たちの食と健康」　吉田勉監修　（三共出版）

《授業時間外学習》
・毎回、テキストをしっかり読んで勉強してくること。
・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
・日頃から食や健康に興味を持ち、情報を入手しておくこと。

《備考》
・授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明するので、できるだけ出席すること。
・課題レポートは指定した書式・内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明 食生活の現状と課題	授業方針と計画・成績評価の方法について確認する。 食生活の現状と課題について理解する。
2	食品の栄養的機能(1)：栄養・栄養素の定義	栄養とは・栄養素とは何か。5大栄養素の化学的特性や体内での役割について理解する。
3	食品の栄養的機能(2)：栄養素の分類	糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルについて、各栄養素の定義や構造、機能について理解する。
4	食品の栄養的機能(3)：栄養素の生理的役割	食欲のしくみや各栄養素の消化、吸収、代謝について理解する。
5	食品の栄養的機能(4)：食事バランス	食生活指針、食品成分表、食事摂取基準、食事バランスガイド等について理解し、自分の現在の食生活について考察する。
6	食品の感覚的機能と生体調節機能	食品のもつ感覚機能（二次機能）および生体調節機能（三次機能）について理解する。
7	食の精神的機能	食事の認知システムと記憶の機能について理解する。
8	食の社会的機能	日本の食形態の変化と心の病について理解する。
9	食の文化的機能	日本の食文化について理解し、食文化伝承の意義と現在の日本の食文化の問題点について考える。
10	食の教育的意義(1)：家庭と社会	家庭や社会における食の役割について理解する。
11	食の教育的意義(2)：環境と情報	食におよぼす環境問題や食情報の役割と問題点について理解する。
12	ライフサイクルと食生活(1)：妊娠・乳幼児期	妊娠期と乳幼児期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
13	ライフサイクルと食生活(2)：学童・思春期	学童期と思春期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
14	ライフサイクルと食生活(3)：壮・中・老年期	壮・中年期と老年期の栄養の特徴と食生活の問題点について理解する。
15	生活習慣病	生活習慣病の原因や食事対策について理解するとともに、自らの健全な食生活のあり方について考える。

科目名	コンピュータ応用演習				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
「コンピュータ演習」の学習成果である「情報リテラシー」を発展させ、これからの情報社会に適応できる能力である、「情報フルーエンシー」を身につけることが目標です。
大学生活や社会生活に必要となる、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実践的な活用方法を修得します。毎回の授業は、問題解決のために各自が自分のペースで主体的に取り組む、自学自習形式で進めます。

《授業の到達目標》
○読みやすさに配慮した書式や適切なレイアウト設定をした文書を作成できる。
○各種データを加工し集計し、それらの特徴や傾向を読み取るために表やグラフにまとめられる。
○口頭発表の資料として、文章やデータを図表やグラフなどの適切な表現手段にまとめてスライドを作成できる。

《成績評価の方法》
○課題の提出物80点、授業中に出題する質問への回答（ミニッツペーパーに記入）20点の合計100点満点のうち、60点以上を合格とします。
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えません。

《テキスト》
○授業内容は、eラーニングのシステムや専用のWebサイトで公開します。
○その他に必要な資料は、適宜配布します。

《参考文献》
○矢野文彦監修(2009)『情報リテラシー教科書 インターネット・Word・Excel・PowerPoint』オーム社.
○奥村晴彦(2007)『基礎からわかる情報リテラシー』技術評論社.
その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介します。

《授業時間外学習》
提出課題を仕上げることが、主な授業時間外学習となります。復習としては、各ソフトの操作方法や活用上のポイントなどの技能を自ら扱えるように練習してください。また、その技能を扱えることがその回以降の授業で前提となるので、復習することが予習にもなります。

《備考》
パソコンやインターネットを自分の道具として使いこなすには、日ごろからパソコンなどを積極的に利用すること、つまり「習うより慣れる」ことが重要です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価など／eラーニングの利用
2	文書作成(1)	ワープロによる文書作成の基礎
3	文書作成(2)	図と図形を利用した文書の作成
4	文書作成(3)	表を利用した文書の作成
5	文書作成(4)	文書全体のレイアウト
6	データ処理(1)	表形式データの基本的な処理
7	データ処理(2)	関数を利用したデータ処理
8	中間のまとめ	文書作成とデータ処理（ここまで）のふり返り
9	データ処理(3)	さまざまなグラフの作成
10	データ処理(4)	グラフ作成とワープロとの連携
11	データ処理(5)	データベース機能
12	プレゼンテーション(1)	一般的な発表用スライドの作成
13	プレゼンテーション(2)	視覚的な効果の活用
14	プレゼンテーション(3)	口頭発表に関連する技術
15	授業全体のまとめ	学習のふり返り

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅰ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅱ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	英語Ⅲ				
担当者氏名	Micael. H. Fox				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《授業の概要》

別紙参照

《テキスト》

《参考文献》

《授業の到達目標》

《授業時間外学習》

《成績評価の方法》

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《教養科目 語学系》

科目名	フランス語Ⅰ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。そのために、まずフランス語の発音の特徴や単語の読み方を習得し、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行うことで自己紹介や日常の会話表現を覚えていきながらフランス語の運用能力を養成していきます。

《授業の到達目標》

普段のあいさつができる。自分の紹介や人の紹介をしたり、簡単な質疑応答ができる。

《成績評価の方法》

(1) 授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《テキスト》

『やさしいサリュ』　田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業時間外学習》

毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	発音とあいさつ	アルファベットの紹介、　日常のあいさつを覚える。
2	発音とつづり字	つづり字の読み方
3	名前・職業について	自分や相手の名前・仕事を言ったり、たずねる。
4	国籍をめぐる表現	自分や相手の国籍をたずねたり、答える。
5	言葉をめぐる表現	話せる言葉をたずねたり、自分の話す言葉をいう。
6	勉強について	何を学んでいるかを言ったり、相手にたずねる。
7	親族について	家族構成について言ったり、相手にたずねる。
8	年齢について	年齢をたずねたり、自分の年齢を言う。
9	食事をめぐる表現	食べる、飲む表現、レストランでの注文。
10	趣味をめぐる表現	趣味や好き嫌いを言ったり、相手にたずねる
11	疑問詞の用法（誰）	たずねる（誰ですか？）
12	形容詞の用法	人や物の姿･形を描写する。
13	疑問詞の用法（何）	たずねる（それは何ですか？）
14	疑問詞の用法（どんな）	たずねる（どんな人ですか？）
15	まとめ	自己表現の総括

科目名	フランス語Ⅱ				
担当者氏名	本多 雄一郎				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
フランス語を学ぶことは世界にいる数億の人々が新たにあなたの友人に加わるということなのです。この授業では、Ⅰ期に引き続き、フランス語の基礎的な仕組みを学んでいきます。そして常に口頭練習を行いながら、日常生活の表現や自分の願望や考えを述べる表現を習得してフランス語の運用能力をさらに養成していきます。

《授業の到達目標》
普段の生活の様々な状況において必要な表現を身につけ、日本についてフランス人に説明したりできる表現力を養う。

《成績評価の方法》
(1)授業中に会話の応答が出来ているか、筆記問題が出来ているかという授業中の参加度(50%) (2)定期試験(50%)

《テキスト》
『やさしいサリュ』 田辺保子他（著）、駿河台出版、2008

《参考文献》

《授業時間外学習》
毎時間、前回の会話表現の確認をするので、授業で覚えた表現を自宅でも反復して練習すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	普段の行動の表現	様々な場所へ行く表現
2	時刻の表現	いつどんなことをするかを言う。
3	時刻をめぐる疑問	何時にどうするかたずねる。
4	簡単な過去の表現	近い過去（～したばかりです）
5	簡単な未来の表現	近い未来（～するつもりです）
6	理由をめぐる表現	理由を尋ねたり、答える。
7	自分の生活の表現	自分の日常の暮しを言ったり、相手にたずねる。
8	天候の表現	時候のあいさつ
9	道案内をめぐる表現	フランスや日本での乗り物の乗り方や道順をたずねたり、答える。
10	命令･依頼の表現	様々な状況でひとに命令･依頼する表現を覚える。
11	比較の表現	日本とフランスの比較を表現する。
12	過去の表現	過去の様々な経験を言う。
13	過去の具体的な表現	過去の旅行について語る。
14	未来の表現	これからの希望を語る。
15	まとめ	日常生活の表現の総括

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅰ　　GermanⅠ				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって、さまざまな文化に触れることができるでしょう。

《授業の到達目標》
今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《成績評価の方法》
事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《テキスト》
在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》
適宜資料を配布する

《授業時間外学習》
必ず予習をして聴講すること

《備考》
教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってくること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音	アルファベート、母音と子音の発音。
2	つづりの読み方と発音、動詞と文章	動詞の人称変化、文の作り方。
3	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞	名詞の文法上の性と定冠詞、不定冠詞。
4	つづりの読み方と発音、格の用法	名詞と冠詞の格変化。
5	つづりの読み方と発音、前置詞	前置詞の格支配。
6	つづりの読み方と発音、名詞の複数形	名詞の複数形の作り方と格変化
7	つづりの読み方と発音、冠詞の仲間	冠詞類の格変化。所有冠詞と否定冠詞。
8	つづりの読み方と発音、補足準備編１	不規則変化動詞と命令形。
9	つづりの読み方と発音、話法の助動詞	話法の助動詞の人称変化、文の作り方。
10	つづりの読み方と発音、未来形	未来形の作り方と用法。
11	つづりの読み方と発音、複合動詞	分離動詞と非分離動詞、文の作り方。不定詞句。
12	つづりの読み方と発音、人称代名詞、再帰代名詞	人称代名詞と再帰代名詞の格変化。再帰動詞。
13	つづりの読み方と発音、形容詞	形容詞の用法と格変化。
14	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する変化	名詞、冠詞などと格変化の復習。
15	つづりの読み方と発音、動詞に関する変化	動詞の人称変化、話法の助動詞、命令形などの復習。

《教養科目 語学系》

科目名	ドイツ語Ⅱ　　GermanⅡ				
担当者氏名	竹内 節				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
「話す、聞く、書く、読む」など、人と人とのコミュニケーションを取るには最低限の規則があります。それが「文法」です。初歩的な文法事項を段階的に習得することによって「文法」が身につきます。ヨーロッパの言語を学ぶことによって英語にはない新しい次元が開けます。

《授業の到達目標》
今まで学んできた英語との違いを意識することによって、ドイツ語を学ぶ手がかりとなります。またその文化の一端に触れることができます。

《成績評価の方法》
事前に告知して小テストを行うほか、ノートの提出、それに定期試験によって評価する。

《テキスト》
在間進『あきらめない！練習本位ドイツ語文法』（三修社）

《参考文献》
適宜資料を配布する

《授業時間外学習》
必ず予習をして聴講すること

《備考》
教科書はもちろん、独和辞典を購入し、講義には必ずもってくること。必ず予習してくること。板書した説明や練習問題はノートに書くこと。誤りは赤で修正すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	つづりの読み方と発音、名詞と冠詞に関する復習	名詞の性、定冠詞と不定冠詞。格変化。
2	つづりの読み方と発音、動詞に関する復習	規則変化動詞、不規則変化動詞の人称変化。
3	つづりの読み方と発音、動詞の三基本形	過去形の作り方、過去人称変化。
4	つづりの読み方と発音、過去分詞	過去分詞の作り方と用法。
5	つづりの読み方と発音、現在完了形	現在完了形の人称変化、完了の助動詞。文の作り方。
6	つづりの読み方と発音、受動形	受動形の人称変化、受動文の作り方。
7	つづりの読み方と発音、補足準備編２	副文と接続詞。並列の接続詞、従属の接続詞。副文の作り方。
8	つづりの読み方と発音、接続法１	接続法第一式の人称変化と用法。
9	つづりの読み方と発音、接続法２	接続法第二式の人称変化と用法。
10	つづりの読み方と発音、発展編１	zu 不定詞句とその用法。
11	つづりの読み方と発音、発展編２	形容詞の比較変化とその用法。
12	つづりの読み方と発音、発展編３	関係代名詞。副文の復習。
13	つづりの読み方と発音、発展編４	接続法に関する復習。
14	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習１	名詞と冠詞、冠詞類の格変化。
15	つづりの読み方と発音、主要文法事項の復習２	動詞の人称変化。

《教養科目 語学系》

科目名	中国語Ⅰ				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を軸に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》

・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》

・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは　発音1	挨拶の言葉1　中国語の音節　声調　ドリル　（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日　　発音2	挨拶の言葉2　単母音　復母音　ドリル　（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう　発音3	挨拶の言葉3　子音1　ドリル　（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり　発音4	挨拶の言葉4　子音2　鼻音　ドリル　（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	DVD視聴、書き取り
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
7	第6課 動詞　・　助詞	ポイントの練習　会話文　ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
10	第8課 助動詞・動詞・指示代名	助動詞の位置・動詞「有」　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第７・８課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞・方位詞	動詞「在」・方位詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
13	第9課 前置詞・場所代名詞	前置詞・場所代名詞　ポイントの練習　会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る　ドリル　（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語Ⅱ				
担当者氏名	トウ 曉寧				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
この講義は中国語初級・中国語Ⅰの続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《授業の到達目標》
○発音　中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
○挨拶　文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
○文法　基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
○会話　簡単な日常会話ができる。
○中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》
・授業の参加（出席３分の２以上を求める）とその成果20%
・課題のなどの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
・定期試験60%（なお、試験はテキストなどの「持ち込み不可」にて実施する）

《テキスト》
『しゃべってもいいとも　中国語　』
陳　淑梅　・　劉　光赤、　朝日出版社,　2010

《参考文献》

《授業時間外学習》
・予習の方法
　①CDを聞くこと
　②新出単語をチェックすること
・復習の方法
　①CDを聞くこと
　②会話文を暗誦すること

《備考》
・中国語初級と中級をペアでとるのがお勧めです
・毎回出席をとる
・授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課　文法	①数の言い方　・　お金の言い方　②形容詞の文
2	第10課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課　文法	①年月日、曜日の言い方　②年齢の言い方
4	第11課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課　文法	①量詞（ものの数え方）　②動詞の重ね方
6	第12課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課　文法	①時刻の言い方　②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課　文法	①時間量の言い方　②完了の「了」の使い方
10	第14課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課　文法	①前置詞「給」　②助動詞「可以」「能」
12	第15課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課　文法	①現在進行形の言い方　②助動詞「会」
14	第16課　会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語Ⅰ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
金眞・柳圭相・芦田麻樹子　朝日出版社

《参考文献》
『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
油谷幸利　他編著　小学館、2004年
『パスポート朝鮮語小事典』
塚本勲　監修・熊谷明泰編集　白水社、2011年
『韓国語を学ぶⅡ』
韓在熙・岡山善一郎　白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
テキストに付いているＣＤを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音＋母音の後に来る子音、支えると意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第１課　私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니다体）、～は(助詞）ついて学習する。
8	第２課　お名前は何ですか。	～です・ですかの（해요体）、～が(助詞）について学習する。
9	第３課　ここは出口ではありません。	～ではありません（名詞文の否定）、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第３課まで復習、練習問題を通じて確認する。　自己紹介の練習を行う。
11	第４課　近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第５課　学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所＋에서)を学習する。
13	第６課　私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習。
14	Review 2	第5課と第６課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語Ⅱ				
担当者氏名	李 知妍				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
韓国語(ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。
文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。
韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2.簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3.韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》
授業への取り組み姿勢30%、レポート20%、小テスト10%、期末テスト40%

《テキスト》
『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』　金眞・柳圭相・芦田麻樹子　朝日出版社

《参考文献》
油谷幸利　他編著　『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』　小学館、2004年
塚本勲　監修・熊谷明泰編集　『パスポート朝鮮語小事典』白水社、2011年
韓在熙・岡山善一郎『韓国語を学ぶⅡ』白帝社、2012年

《授業時間外学習》
テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》
発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、韓国語初級を必ず受講してから韓国語中級を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	韓国語初級で学習内容を再確認し、質疑応答
2	第７課　友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』　『～합니다体』、～と(助詞）ついて学習する。
3	第８課　日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第９課　キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review ３	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目（2）：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課　今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課　公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課　合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review ４	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課　KTXで３時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課　韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課　道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)				
担当者氏名	三宅　一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。
体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深める。
健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力”“自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）
受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）
学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配付する。

《参考文献》
『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）
『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）
『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他（杏林書院）
『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
　下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
　学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《備考》
この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その１）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その２）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《　　ﻩ　7

科目名	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）				
担当者氏名	徳田 泰伸				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2　4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
受講者には体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進め、体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《授業の到達目標》
健康とスポーツの関わりについて理解を深め、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等やスポーツの見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶことができる。
健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、「生涯を通して積極的に健康づくりができる力」「自己の健康管理ができる力」を身につける事ができる。

《成績評価の方法》
小テスト、授業内課題の提出、レポート課題
小テスト（２０％）各分野の学習後に課すレポート課題（６０％）平常点（２０％）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
○『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦(大修館書院)　○『運動適応の科学～トレーニングの科学的アプローチ～』竹宮隆・石河利寛著(杏林書院)　○『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）　○『からだの‘仕組み’のサイエンス』―運動生理学の最前線―加賀谷淳子他(杏林書院)

《授業時間外学習》
毎時間授業内容の復習と予習を必要とする。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	１５週の授業内容について説明する
2	体力の考え方	体力の考え方と構造
3	体力の測定と評価方法	１年Ⅰ期に実施した体力測定を基にそのデータを利用して自分の体力を分析してみる
4	加齢変化と性差	体力の加齢変化と性差
5	運動生理学の基礎	具体例を踏まえ学生同士が意見を述べる内容とする
6	バイオメカニクスの基礎	具体例を踏まえ運動の実践例を述べていく
7	運動栄養学の基礎	具体例を踏まえ日常生活の中での食について運動との関わりを説明する
8	トレーニング論の基礎	各自の体力に合わせ日頃の運動習慣を身につけるため、いかにトレーニングを行うかについて述べていく
9	健康の考え方	国民の健康に対する取り組み、男女差、年齢差等実践例を踏まえ説明する
10	健康づくりと運動処方	各自１日の健康・運動に対する具体的な運動実践をいかに時間的流れを加味して取り組むか説明する
11	運動づくりと運動実践	１０週目を踏まえ具体的に教室外に出て実践をしてみる
12	健康と体力の関係	各自の意見発表を通じて健康と体力についてそれぞれの考え方を論議しあう
13	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える①
14	今後の体力づくり	今後の健康づくりについて考える②
15	学習	学習のまとめ

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目 体育系》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)				
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《授業の到達目標》
自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライススタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《成績評価の方法》
評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
ただし授業回数の１／３以上欠席した場合単位は与えない。
毎時間の受講成果をﾉｰﾄにまとめて提出(50%)
随時テーマに対するレポート提出(20%)
学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》
特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考文献》
『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館） 『からだロジー入門』（宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》
＜予習方法＞
シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
＜復習方法＞
実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》
服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・ﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙ・バドミントン・インディアカ・卓球　等の中から１種目実施。
4	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク　等の中から１種目実施。
5	③屋外種目（グランド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール　等の中から１種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
8	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
11	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（ﾃﾆｽｺｰﾄ・周辺）
14	③屋外種目（グランド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グランド）
15	体力テスト（２回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《教養科目 キャリア系》

科目名	私のためのキャリア設計				
担当者氏名	有働 壽恵				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
仕事は私たちが生活を営むうえで重要な位置を占めている。この授業では一人一人が価値観と人生観に基づき、（1）自分らしい生き方と考え、日々の生活のなかで仕事とどのように向き合い、どのような関係を築くのかを検討する。　（2）長期に亘るキャリアについて考える。　（3）経済的な背景をも踏まえながら生活経営の視点で検討する。

《授業の到達目標》
（1）家族・家計・仕事の諸問題を多面的にみることができる。　（2）ライフキャリアを主体的に考える準備ができる。（3）生活と仕事の諸課題について自ら調べ、問題の所在を検討し、解決方法を探る態度を身につける。　（4）収集した情報を分析し、検討を加え、意見をまとめて説明できる。

《成績評価の方法》
（1）筆記試験　50%
（2）課題提出物　30%
（3）授業への取組姿勢　20%

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》
（1）大竹文雄・白石小百合・筒井義郎編著『日本の幸福度』日本評論社　（2）矢澤澄子・岡村清子編『女性のライフキャリア』勁草書房　（3）最相葉月著『ビヨンド・エジソン』ポプラ社　（4）スペンサー・ジョンソン著・門田美鈴訳『人生の贈り物』ダイヤモンド社

《授業時間外学習》
（1）次回のプリントを読んでおくこと
（2）「読む力」の課題をしておくこと
（3）新聞を読み、社会の動向を把握しておくこと

《備考》
（1）毎回「聴く力」テストを行う

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生活を考える（1）	生活経営とは何か
2	生活を考える（2）	生活経営における就労の意味、家計、家計収支の構造と実態、生涯賃金
3	社会の変化と生活（1）	産業構造の変化と職業
4	社会の変化と生活（2）	労働力率の変化とライフイベント
5	職業の選択(1)	個人と職業の関係、パーソンズ
6	職業の選択(2)	キャリアの定義、ライフステージとライフロール、発達課題と職業的発達課題
7	職業の選択(3)	職業的自己概念、職業的発達課題とライフロール
8	職業の選択(4)	職業の選択とライフロール（映画の場面から考える）
9	キャリア発達理論（1）	職業キャリアからライフキャリアへ（スーパー）
10	キャリア発達理論（2）	組織におけるキャリア発達（シャイン）
11	キャリア発達理論（3）	チャレンジすることの大切さ、失敗から学ぶことの大切さ（クランボルツ）
12	キャリア発達理論（4）	転機へのアプローチ（シュロスバーグ）、視点の変化（ハンセン）
13	生涯学習の必要性（1）	エンプロイアビリティとは、キャリアを支えるスキル
14	生涯学習の必要性（1）	キャリアを支えるスキルの獲得
15	まとめ	振り返り

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅰ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
コミュニケーションの基本を学び、キャリアアップにつながる実習中心の授業とします。
自らの行動パターンの分析を通し対人折衝能力を高めます。
スピーチ・プレゼンテーションを経験することで自らの考えを伝える方法を身につけます。

《授業の到達目標》
学生生活をはじめ様々な場面での他人との円滑なコミュニケーションをとる為に必要なことを学習する。
基本から応用まで「なぜ、そうなるのか」といった疑問や不安を解消することを目標とします。
同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム１単位－「コミュニケーション能力」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・発言を奨励：40％
授業中に実施するレポート及び実技試験：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
プリント資料（講師作成）
テキストは使用しない

《参考文献》
ホスピタリティの教科書：林田正光　あさひ出版
あいさつの教科書：挨拶教育研究会　中経済出版
あたりまえだけどとても大切なこと：ロン・クラーク　草思社
日本語練習帳：大野晋　岩波新書

《授業時間外学習》
新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめ発表の練習をしておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	本講座の説明・各自の明確な目標設定を行う
2	キャリアの振り返り	今までの自分のキャリアを見つめて意図的に大学生活に活かす方法を探る
3	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する①
4	スピーチ	発表の仕方、発声方法をはじめパブリックスピーキングのポイントを習得する②
5	行動分析	自らの行動パターンの特性を把握する。
6	行動分析	他人の行動パターンを推測し、対応方法を考える
7	行動分析	ケーススタディを通し、実際に対応方法を習得する
8	相手の立場に立つ	ブラインドウオークゲームを通して相手の立場に立つ方法を探る
9	正しい伝達方法	実習を通し物事の分かりやすい伝え方を学ぶ
10	グループディスカッション	集団の中でのコミュニケーション力を磨く
11	相互インタビュー	他人に関心を持ち感じの良い会話力を養う
12	コーチング	コミュニケーションスキルの基本を学ぶ
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの基本を学び実習に向けて準備する
14	プレゼンテーション	実際にプレゼンテーションを実習し分かりやすい方法を習得する
15	総まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認しまとめる

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅱ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
過去に1度は学んだことがある問題でもなかなか正解できないのがSPI適性検査です。本科目ではSPIの基礎知識－言語能力・非言語能力分野について詳しく説明し短時間に正解答できる能力の習得をねらいとします。
就職試験に必要な「読む、書く、計算する」力を磨きます。

《授業の到達目標》
本番の就職試験を想定した実践力を養い、就職戦線に勝ち残るための基礎能力―言語・非言語能力(国語力・計算)の向上を図っていきます。
各受講生が自らの能力が向上したと自信が持てるよう指導いたします。同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム２単位－「基礎学力読み書き・計算」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施の小テスト：以上40％
筆記試験：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
最新最強のＳＰＩクリア問題集13年版：成美堂出版
プリント資料（講師作成）

《参考文献》
筆記試験の完全攻略
　　内定ロボット　日経ナビ＆就職ガイド編集部

フィンランドメソッド実践ドリル
　　諸葛正弥　毎日コミュニケーションズ

《授業時間外学習》
新聞を読んだりニュースを見たりしておくこと。
毎回配付される資料について目を通しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ＳＰＩ非言語能力問題模試実施を通し就職活動に必要なＳＰＩ基礎知識を知る
2	ＳＰＩ検査対策	非言語能力問題模試(解答解説)・ＳＰＩ言語能力模試実施・計算の基本などを通して高得点を得られる能力を養う
3	ＳＰＩ検査対策	ＳＰＩ言語能力問題(解答解説)・国語の知識について高得点を得られる能力を養う
4	ＳＰＩ検査対策	ＳＰＩ検査、その他筆記試験の攻略法について学ぶ
5	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び３級合格の漢字能力を身につける
6	「読む」「書く」	漢字検定試験出題問題を学び２級合格の漢字能力を身につける
7	「読む」「書く」	四字熟語、ことわざなどの知識を深め国語能力の向上を図る
8	数学の基礎知識	前半の授業で学んだＳＰＩ非言語能力分野についてより詳しく学ぶ
9	数学の基礎知識	仕事の中で使う計算の応用について学習する
10	言語能力の応用	今まで学んできたことを基礎にＳＰＩ検査言語能力の向上を図る
11	グラフと資料の読み方	グラフと資料から正しい情報を読み取るための基礎知識を学ぶ
12	ビジネス文書１	ビジネス文書の種類と基本構成を学ぶ
13	ビジネス文書２	社内文書と社外文書の違いを学びそれぞれを作成する知識を身につける
14	ビジネス文書３	報告書、議事録、企画書作成の知識を身につける
15	総まとめ	総まとめ・筆記試験

《教養科目 キャリア系》

科目名	就職基礎能力Ⅲ				
担当者氏名	山本 清美				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2～4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ◎ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） ○ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
社会人として必要なビジネスマナーを大学生活に即して学びます。あわせて会社の仕組み、税金、為替相場、ローンと金利等社会常識をビジネスシーンでの様々なケースを想定し、DVD学習や実習により学んでいきます。

《授業の到達目標》
「社会で働くこと」を前提にビジネスマナーの基礎知識を習得し周りの人々との良い人間関係を築く為の常識力を高めます。合わせて「自分らしさ」を表現し社会に貢献できる即戦力を養うことを目標とします。
同時にＮＰＯ法人日本人材教育協会認定のＹＥＳプログラム２単位－「ビジネスマナー・社会人常識」の習得も目標とします。

《成績評価の方法》
平常点（授業参加態度を重視する）・授業中に実施する実技試験：40％
筆記試験（記述式）：60％
授業欠席回数が授業実施回数の３分の1以上欠席した者には単位を与えない

《テキスト》
はじめてのビジネスマナー
　　株式会社　同友館発行　著者　東条文千代

《参考文献》
ビジネス基本ルール120：PHP研究所
日本語練習帳：大野晋　岩波新書

《授業時間外学習》
新聞に目を通し興味のあるニュースについて自分の意見をまとめておくこと。
授業時間内に配布された資料を次週までに目を通しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ビジネスマナーの基本を学ぶ上での心構えを身に付ける。マナーとは何かを説明することができる
2	第一印象	第一印象の重要性と形成する５つの要素を理解する
3	言葉遣い	感じの良い言葉遣いを身に付けるため必要な発声方法と正しい敬語の知識を身につける
4	言葉遣い	間違った敬語の使い方を学ぶことで感じの良い言葉遣いを身につける
5	感じの良い話し方と聴き方	感じの良い話し方と聴き方をするために必要なポイントを理解する
6	電話応対の基本	ビジネスの場で重要な電話応対について基本を学ぶ
7	電話応対の応用	電話応対の中で特に難しいとされる道案内、苦情の応対について学ぶ、あわせて携帯電話のマナーについても学ぶ
8	実習：企業への電話	就職活動を意識して企業へのアポイントメントをとる電話のかけ方を学ぶ
9	会社訪問	会社訪問の心構え、身だしなみから自己紹介、席次、名刺の受け渡しなどを実習を通して学ぶ
10	ビジネス文書１	ビジネス文書の基礎知識から会社訪問後の礼状の書き方、封筒のあて名書きまでを実習を通して学ぶ
11	ビジネス文書２	FAX送信状とEメールについて学び実務に生かすことができる
12	会社の仕組み	社会と会社のつながりと仕組みについて学び、どのような働きをしているかを説明することができる
13	経済活動の基礎知識	経済活動の基本―為替相場、ローンと金利、税金などについて学び説明することができる
14	就職活動をひかえて身だしなみチェック	インターンシップ研修、企業訪問、教育実習、就職活動の際の身だしなみについて詳しく学び実践で活用することができる
15	総まとめ	これまでの学習内容を振り返り今後の自らの課題を明確にする

平成 24（2012）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	基礎ゼミⅠ	演習	2						2								*1	111	
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2							*1	112	
		栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2								本澤 真弓	113	
		実験基礎演習	演習	2						2								亀谷 小枝	114	
		調理基礎演習Ⅰ	演習	2						2								富永 しのぶ	115	
		調理基礎演習Ⅱ	演習		2						2							富永 しのぶ	116	
		医学概論	講義	2					Ⓔ		2							[村田 幸生]	117	
		コミュニケーション論	講義		2					2								[脇本 忍]	118	
		バイオテクノロジー	講義		2				Ⓔ							2				
		食料経済	講義		2											2				
		健康科学	講義	2							2							松村 末夫	119	
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習	演習	2							2							湯瀬 晶文	120	
		情報処理と栄養統計Ⅰ	講義		2		○	△				2								
		情報処理と栄養統計Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		公衆衛生学Ⅰ（公衆衛生）	講義	2		◇	○	△	Ⓓ					2						
		公衆衛生学Ⅱ（健康管理）	講義		2		○	△							2					
		社会福祉概論	講義		2	◇	○	△						2						
		生化学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2							本澤 真弓	121	
		生化学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓑ			2								
		生化学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ			3								☆
		生化学実験Ⅱ	実験		1		○	△	Ⓑ				3							☆
		栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2							大西 隆仁	122	
		栄養解剖学・人体生理学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓑ			2								
		栄養解剖学実験	実験		1	◇	○	△				3								☆
		人体生理学実験	実験		1		○	△					3							☆
		臨床病態学Ⅰ	講義		2	◇	○	△	Ⓔ			2								
		臨床病態学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓔ				2							
		生体防御論	講義		2		○	△	Ⓒ					2						
		食品学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ	2								中井 玲子	123	
		食品学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓒ					2						
		食品学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ		3							中井 玲子	124	☆
		食品学実験Ⅱ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ						3					☆
		食品衛生学	講義	2		◇	○	△	Ⓓ				2							
		食品衛生学実験	実験		1		○	△	Ⓓ					3						☆
		食品機能論	講義		2		○	△								2				
		調理学	講義	2		◇	○	△		2								松尾 千鶴子	125	
		調理学実験	実験	1		◇	○	△			3							松尾 千鶴子	126	☆
		調理学実習Ⅰ	実習	1		◇	○	△				3								☆
		調理学実習Ⅱ	実習		1		○	△					3							☆

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅲ群（専門に関する科目）	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ	2								松村 末夫	127	
		基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ		2							松村 末夫	128	
		栄養学実習	実習	1		◇	○	△	Ⓔ			3								☆
		応用栄養学Ⅰ（ライフステージ栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）	講義		2		○	△								2				
		栄養管理学	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		栄養管理学実習	実習		1		○	△						3						☆
		基礎栄養教育論	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		健康栄養教育論	講義		2	◇	○	△					2							
		基礎栄養教育実習	実習		1	◇	○	△					3							☆
		健康栄養教育実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		実践栄養教育演習	演習		2		○	△									2			
		臨床栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△				2								
		臨床栄養学Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		臨床栄養学実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		臨床栄養管理学	講義		2		○	△						2						
		臨床栄養管理演習	演習		2		○	△							2					
		公衆栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		公衆栄養学Ⅱ	講義		2		○	△						2						
		公衆栄養活動実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		給食経営管理論	講義		2	◇	○	△					2							
		メニュー管理実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		給食管理実習	実習		1	◇	○	△	Ⓔ					3						☆
		フードサービスマネジメント演習	演習		2		○	△							2					
		総合演習	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅰ	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅱ	演習		2		○	△									2			
		給食管理臨地実習（校外実習）	実習		1	◇	○	△						2						☆
		臨床栄養臨地実習	実習		2		○	△							4					☆
		公衆栄養臨地実習	実習		1		○	△								2				☆
		学校栄養教育論Ⅰ	講義		2			△						2						
		学校栄養教育論Ⅱ	講義		2			△							2					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習		3											3				
		卒業研究Ⅱ	演習		3												3			

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年Ⅰ期に「フードスペシャリスト論」「フードコーディネート論」を開講する。

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄のⒶ～Ⓔは食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

Ⓐ～Ⓓ別表第14にかかげた科目・Ⓔは別表第15にかかげた科目

Ⓐ化学関係（教養科目「化学」）修得のこと） Ⓑ生物化学関係 Ⓒ微生物関係 Ⓓ公衆衛生学関係 Ⓔその他関連科目

Ⓐ～Ⓓ群から1科目以上、最低修得単位数（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ）22単位以上

最低修得単位数合計（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓔ）40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 細川・内田・眞鍋・湯瀬・中井・増村・福本・

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成24年度（2012年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職に関する科目	教職概論	講義		2			△		2								[上寺 常和]	129
		教育原理	講義		2			△		2								(廣岡 義之)	130
		教育史	講義		2			▲							2				
		教育心理学	講義		2			△					2						
		教育制度論	講義		2			△			2							(廣岡 義之)	131
		教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			△					2						
		教育方法・技術論	講義		2			△					2						
		教育方法論	講義		2			△							2				
		生徒指導論(進路指導を含む)	講義		2			△				2							
		教育相談(カウンセリングを含む)	講義		2			△			2							(琴浦 志津)	132
		事前事後指導	講義		1			△							1				
		栄養教育実習	実習		1			△								3			
		教職実践演習（栄養教諭）	演習		2			△									2		

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミＩ				
担当者氏名	細川 敬三・ 内田 亨・眞鍋 祐之・湯瀬 晶文・中井 玲子・増村 美佐子・福本 恭子・				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。また、学ぼうとする意識も不可欠である。そこで、この基礎ゼミでは学ぶための基礎力養成を目指す。

授業はチュータークラスごとに行い、毎回のテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミではその中でも特に２つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、「聴く」「読む」ことであり、もう一つは学ぶ姿勢を維持するための専門家への動機づけである。

これによって、継続して必要な情報を自ら取り入れるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

レポート等提出物（５０％）、および、毎回の授業態度と筆記試験（５０％）で評価する。

ただし、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。また、欠席回数が全授業回数の３分の１以上の場合は成績評価の対象外とする。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。なお、ノートに関する指示があるので注意すること。

《参考文献》

『知へのステップ』 学習技術研究会編著 くろしお出版
『新・知の技法』 小林康夫・船曳建夫編 東京大学出版
『理科系の作文技術』 木下是雄
各種国語辞典・辞書（電子辞書含む）

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出されるので、次回授業までに完成させておくこと。　基本的に欠席しないことを前提としてるが、万一の場合は、次回授業までに授業内容や課題内容を確認するとともに、内容を理解して課題を完成させておくこと。すなわち、次の授業時に「まだできていない」というような発言の無いようにしておくこと。

《備考》

ひとこと：本当の学びにはおもしろさがあります。教員とともに、学ぶ楽しさを感じていきましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	基礎ゼミ１の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明
2	大学生の学び	高校生までの勉強と大学生としての学びの違いを知る
3	聴き方（1）	「聞く」と「聴く」の違いと授業の聴き方
4	聴き方（2）	「聴く」ために
5	２種類の文章	異なるタイプの文章（論理的な文章と小説） 本学科の学生としてこれから多く触れる文章の特徴を知る
6	論理的な文章の読み方（1）	論理的な文章の読み方の着目点を知る 「聴く」ことと「読む」ことの相違点を知る
7	論理的な文章の読み方（2）	論理的な文章の読み方の手順を知る
8	論理的な文章を読む	論理的な文章を読む
9	論理的な文章の要約	論理的な文章を要約するための着目点を知る
10	管理栄養士概論（1）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
11	管理栄養士概論（2）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
12	管理栄養士概論（3）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
13	管理栄養士概論（4）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
14	管理栄養士概論（5）	管理栄養士に関する理解を深め、自ら目指す管理栄養士像をもつ
15	まとめ	大学生としての心構えのまとめ

《専門教育科目　Ⅰ群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミⅡ				
担当者氏名	細川 敬三・ 内田 亨・眞鍋 祐之・湯瀬 晶文・中井 玲子・増村 美佐子・福本 恭子・				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。また、学ぼうとする意識も不可欠である。そこで、この基礎ゼミでは学ぶための基礎力養成を目指す。

授業はチュータークラスごとに行い、毎回のテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミではその中でも特に２つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、「書く」「話す」ことであり、もう一つは自らが目指す将来像（管理栄養士像）を確立することである。

これによって、継続的に必要な情報を自ら取り入れ伝えるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

レポート等提出物（５０％）、および、毎回の授業態度（５０％）で評価する。

ただし、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。また、欠席回数が全授業回数の３分の１以上の場合は成績評価の対象外とする。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてプリント配布、ファイル配付等を行う）。

《参考文献》

『知へのステップ』 学習技術研究会編著 くろしお出版
『新・知の技法』 小林康夫・船曳建夫編 東京大学出版
『理科系の作文技術』 木下是雄
各種国語辞典・辞書（電子辞書含む）

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出されるので、次回授業までに完成させておくこと。基本的に欠席しないことを前提としてるが、万一の場合は、次回授業までに授業内容や課題内容を確認するとともに、内容を理解して課題を完成させておくこと。すなわち、次の授業時に「まだできていない」というような発言の無いようにしておくこと。

《備考》

ひとこと：教員とともに、学ぶ楽しさを体験してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション タイムマネジメント（１）	基礎ゼミ２の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明 大学生としての学びを成り立たせるためのタイムマネジメントを知る
2	タイムマネジメント（２）	タイムマネジメントに向けて、実際の生活を把握する
3	レポートとは（１）	レポートとは何か レポートの文章と内容、考察などについて知る
4	レポートとは（２）	わかりやすい文章を知る 効果的なアカデミック・ライティングのために
5	レポートとは（３）	わかりやすい文章を知り、実践する（１）
6	レポートとは（４）	わかりやすい文章を知り、実践する（２）
7	プレゼンテーションとは	プレゼンテーションとは何か プレゼンテーションの種類と特徴を知る
8	プレゼンテーションの補助ツールについて	プレゼンテーションの補助ツールを知る プレゼンテーションの流れを知る
9	プレゼンテーションの準備	テーマを決めてプレゼンテーションの準備をする
10	プレゼンテーション実践（１）	プレゼンテーションを行う（１）
11	プレゼンテーション実践（２）	プレゼンテーションを行う（２）
12	大学生としての学習のまとめ	大学生としての心構えのまとめ
13	視野を大きく広げる（１）	研修会に参加（１） 栄養士を目指す学生のための研修会
14	視野を大きく広げる（２）	研修会に参加（２） 栄養士を目指す学生のための研修会
15	視野を大きく広げる（３）	研修会に参加（３） 栄養士を目指す学生のための研修会

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	栄養のための基礎生物化学				
担当者氏名	本澤 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》

外界から摂取した物質を利用して生命を維持する栄養という営みを理解するうえで基盤となる各種栄養素や生体成分の化学構造および特性、身体の基本単位である細胞についての基本的事項を学習する。

《授業の到達目標》

生体における複雑な生命現象の理解の基礎となる人体の構造と機能について、細胞レベルや物質・分子レベルで理解できるよう、細胞に関する基礎知識および生体成分の化学構造に関する基礎知識を身につける。（1）細胞の構造とオルガネラの機能、（2）生体成分の糖質、脂質、タンパク質、核酸などの有機化合物の基本構造と特徴が説明できる。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。出席率は評価対象としない。授業の欠席回数が、授業実施回数の３分の1以上の者は、成績評価対象外とする。

《テキスト》

『化学・生化学一人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ）　大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2011

《参考文献》

特に指定しない。（授業時に適宜指示する）

《授業時間外学習》

各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認し、授業内容の整理と知識の定着をこころがけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《備考》

授業進行の妨げになるので、私語は厳禁です。授業には積極性と集中力をもって望んで下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞（1）	細胞を基本単位とする生体の生体の階層性（組織、器官、系。個体にいたる階層性）について理解する。
2	細胞（2）	細胞小器官（オルガネラ）の耕造とその役割について理解する。
3	細胞（3）	生体膜（細胞膜）の耕造と膜タンパク質の役割について理解する。
4	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（1）	各栄養成分の生理的意義、栄養素の分類（生理的役割に基づく分類、化学構造に基づく分類）について理解する。
5	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（2）	有機化合物の基本となる炭素骨格、共有結合などの有機化学の基礎知識をふまえ、栄養素や生体成分の化学構造式について理解する。
6	糖質の化学（1）	糖質の分類、単糖類の基本構造、異性体、各種誘導体の化学構造について理解する。
7	糖質の化学（2）	二糖類とその結合様式およびホモ多糖とヘテロ多糖（グリコサミノグリカンなど）について理解する。
8	脂質の化学（1）	脂質の分類、脂肪酸の基本構造、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の化学構造について理解する。
9	脂質の化学（2）	トリアシルグリセロール（TG）、リン脂質、糖脂質の化学構造について理解する。
10	タンパク質の化学（1）	アミノ酸の基本構造とその結合様式、アミノ酸の分類について理解する。
11	タンパク質の化学（2）	タンパク質の構造と１次、２次、３次、４次構造の特徴について理解する。
12	タンパク質の化学（3）	タンパク質の分類（成分による分類、機能による分類など）について理解する。
13	核酸の化学	ヌクレオチドの基本構造、五炭糖および塩基の種類、核酸の構造について理解する。
14	ビタミンの化学	水溶性ビタミンおよび脂溶性ビタミンの化学構造上の特徴について理解する。
15	まとめ	上記学習内容を再確認・整理し、各有機化合物の化学構造上の特徴について理解する。

《専門教育科目　Ⅰ群（領域に関する科目）》

科目名	実験基礎演習				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》
栄養マネジメント学科では多種類の化学実験が開講されるため化学実験に必要な基礎的な知識や技術の素養を身につける必要がある。そこで本演習では、一般的な実験器具、試薬類の分類と特徴、物質量および物質濃度の単位について学び、化学実験に不可欠な化学計算に慣れると共に試薬溶液の調製方法、代表的な分析手技の実例などの項目を組み合わせて、学生各自がこれらの基本的事項を習熟できるように演習形式で実施する。

《授業の到達目標》
・一般的な実験器具、試薬類の分類や特徴について理解し、説明できる。
・実験に必要な濃度表示について理解し、濃度計算ができる。
・簡単な試薬の調製ができる。
・容量分析、比色分析の原理や方法を理解し、実験を実施することができる。併せて、その実験結果に基づいたレポートを指定した書式や内容を守って期限内に提出することができる。

《成績評価の方法》
・課題および実験レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記試験：50%の割合で成績評価を行う。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする（授業開始から30分以内、30分以上の場合は欠席）。

《テキスト》
随時、プリントを配付する。

《参考文献》
「身のまわりの食品分析実験」安藤達彦・吉田宗弘編　（三共出版）

《授業時間外学習》
・配布する資料プリントを読んで、理解してくること。
・適宜課題を出すので、その課題をやってくること。
・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。
・実験結果については、データを整理・分析して、レポートを作成すること。

《備考》
・授業初回に講義・演習・実験時および実験室でのルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業概要の説明	授業展開・成績評価方法の説明、安全・防災上の諸注意について理解する。
2	器具の種類と用途	反応用ガラス器具、保存用ガラス器具、測容用ガラス器具、その他の器具の特徴や用途、洗浄・乾燥方法等について理解する。
3	測定の体系	測定の表記法、物理量と単位、有効数字について理解する。
4	溶液の濃度の表し方	溶液の概念および溶液の濃度の表し方（主に%濃度とモル濃度）について理解する。
5	濃度表示の確認	物理量や単位、有効数字、溶液の濃度について、演習問題に取り組みながら再確認し、理解を深める。
6	規定濃度の理解	規定濃度について、%濃度やモル濃度との違いを確認し、演習問題に取り組みながら規定濃度について理解する。
7	試料採取と重量測定(1)	天秤や器具の扱い方、規定濃度について再確認し、実際に0.1N水酸化ナトリウム溶液を作成する。
8	試料採取と重量測定(2)	標準液について理解するとともに、第7週とは異なる天秤や器具の扱い方について確認し、実際に0.1N蓚酸標準液を作成する。
9	酸と塩基、pHの概念	酸と塩基、pHの概念について、演習問題に取り組みながら理解する。
10	pHと緩衝液	pHや緩衝作用、緩衝液について理解し、実際にリン酸緩衝液を作成し、緩衝作用を確認する。
11	容量分析(1)	容量分析の理論を理解し、0.1N蓚酸標準液による0.1N水酸化ナトリウム溶液の標定実験を行う。
12	容量分析(2)	中和滴定による未知試料中の酸濃度の測定を行い、容量分析の原理や方法、実験手技について理解を深める。
13	比色分析(1)	比色分析の理論および分光光度計の原理や使用方法について理解する。
14	比色分析(2)	比色分析を用いて、実際に溶液の吸光度を測定し、検量線の作成と未知試料中の特定成分の測定を行う。
15	学習のまとめ	提出した課題やレポートをもとに演習問題に取り組み、学習内容を再確認する。

《専門教育科目　Ⅰ群（領域に関する科目）》

科目名	調理基礎演習Ⅰ				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
食品を好ましい形に変え、整える調理はすばらしい作業である。おいしい料理を作るためには水、熱、そして道具を使い限られた時間の中で、自己の心と技と感性で作られる。料理を作るためにはさまざまな調理技術が必要となる。最も基本となる技術は包丁を使いこなすことである。授業を通してさまざまな食品に対応できる、包丁を使いこなす技術を体得できるよう繰り返し演習を行う。

《授業の到達目標》
食品を料理に適した切り方ができるようなるため、切り方を覚える。
包丁を使いこなす技術として、目的に応じた切り方を判断して、速く、きれいにそろったきり方ができるようになる。
料理ごとの基本調味を理解して正しく調味ができるようになる。

《成績評価の方法》
・実技試験50%、筆記試験50%

《テキスト》
調理の基本技術と実習（社団法人　全国調理師養成施設協会）

《参考文献》
必要に応じて授業時に紹介する

《授業時間外学習》
調理技術、調理操作は授業で習ったら習得できるものではなく、経験を重ねて身に付くものであることから、日常生活の中で日々調理の機会をつくることが、一番の近道である。そこで、技術上達のため調理する機会を毎日つくり、授業で行った調理操作を練習しておくこと。

《備考》
実習着は清潔にしてアイロンを当てたものを着用すること。頭髪は帽子から出ないようにし、爪は短く整えること。30分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で1回欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	調理基礎演習Ⅰの授業内についての説明、実集室の使い方。授業評価の方法。
2	基本の切り方Ⅰ	切り方の名称 包丁の持ち方と扱い方
3	基本の切り方Ⅱ	輪切り、皮むき1
4	プロの調理技術	プロの料理人による講演と調理のデモンストレーション
5	基本の切り方Ⅲ	いちょう切り、皮むき2、くし形きり
6	基本の切り方Ⅳ	せん切り1
7	基本の切り方Ⅴ	せん切り2、拍子切り、短冊切り
8	基本の切り方Ⅵ	せん切り3、さいの目切り、色紙切り
9	基本の切り方Ⅶ 調味の基本Ⅰ	せん切り4、あられ切り 計量
10	基本の切り方Ⅷ 調味の基本	せん切り5、みじん切り1 計量（調味料の容量と重量）
11	基本の切り方Ⅸ 調味の基本	せん切り6、みじん切り2 計量（調味料の容量と重量）
12	基本の切り方Ⅹ 食品の目安量Ⅰ	せん切り7、千六本 食品の重量把握1
13	基本の切り方Ⅺ 食品の目安量Ⅱ	せんきり8、乱切り、面取り 食品の重量把握2
14	実技試験	実技試験（切り方、基本調味）
15	まとめ	要点確認

《専門教育科目　Ⅰ群（領域に関する科目）》

科目名	調理基礎演習Ⅱ				
担当者氏名	富永しのぶ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
おいしい料理を作るための調理手法別に調理の特性を理解し実践する。
料理に応じた食材の適量の把握、基本調味を理解して基本献立の組み合わせについて演習を行う。

《授業の到達目標》
Ⅰ期に引き続き包丁を使いこなす技術の向上をめざし、速く、きれいに作業ができるようになる。
料理ごとの常用量の把握と基本調味を理解して正しく調味ができるようになる。
1食の基本献立を作成できるようになる。

《成績評価の方法》
・実技試験50%、筆記試験50%

《テキスト》
調理の基本技術と実習（社団法人　全国調理師養成施設協会）
※Ⅰ期に購入済み

《参考文献》

《授業時間外学習》
調理技術、調理操作は授業で習ったら習得できるものではなく、経験を重ねて身に付くものであることから、日常生活の中で日々調理の機会をつくることが、一番の近道である。そこで、技術上達のため調理する機会を毎日つくり、授業で行った調理操作を練習しておくこと。

《備考》
実習着は清潔にしてアイロンを当てたものを着用すること。頭髪は帽子から出ないようにし、爪は短く整えること。30分以上の遅刻は欠席、遅刻3回で1回欠席とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	調理基礎演習Ⅱの授業内についての説明、実集室の使い方。授業評価の方法。
2	基本の切り方Ⅰ	食材の切り方 包丁の手入れ
3	基本の切り方Ⅱ 調理操作と調味Ⅰ	食材の切り方 汁の特徴　和風だし1（昆布、かつお）、汁物の調味
4	基本の切り方Ⅲ 調理操作と調味Ⅱ	食材の切り方 汁の特徴　和風だし2（煮干だし）、汁物の調味
5	基本の切り方Ⅳ 調理操作Ⅲ	食材の切り方 青菜のゆで方、和え物の調味
6	基本の切り方Ⅴ 調理操作Ⅳ	食材の切り方 酢の物調味
7	基本の切り方Ⅵ 調理操作Ⅴ	食材の切り方 調味料割合
8	基本の切り方Ⅶ 調理操作Ⅵ	食材の切り方 煮物の特徴　調味料割合
9	基本の切り方Ⅷ 調味の基本Ⅰ	食材の切り方 煮物の要点、煮物の種類、調味時期
10	基本の切り方Ⅸ 調味の基本	食材の切り方 料理の作業手順と作業計画
11	基本調理Ⅰ	料理の作業手順と作業計画 基本献立の献立作成1
12	基本調理Ⅱ	基本献立の献立作成2
13	基本調理Ⅲ	基本献立の献立作成3
14	実技試験	実技試験（基本献立の料理）
15	まとめ	要点確認

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	医学概論				
担当者氏名	村田 幸生				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
医療は現在、多くの問題に直面している。医者不足や医療費など制度やハード面で語られることが多い。しかし医療の専門が細分化した現在、それらを各論としてとらえるのではなく、「医療とは何か」「健康とは何か」という原点に返り、死生観、医療の目的などソフト面を重視して講義する。各テーマにつき、毎回私の医師としての体験談も紹介する。自分たちの将来の「健康」の中における役割と目的を考えてほしい。

《授業の到達目標》
現代社会における医療・医学・介護・看護システムおよびその問題点を学習する。自分が将来これらに仕事として携わる時に、何を目的とするのか、「考える」ことのできることを授業全体の目標とする。

《成績評価の方法》
学期末に筆記試験を行う（全評価の９０％）。第９週にて、レポートの提出を求め、評価を行う（全評価の１０％）。

《テキスト》
特になし。各回プリントを配布する。

《参考文献》
①『医療の限界』小松秀樹著　（新潮新書）
②『スーパー名医が医療を壊す』村田幸生著　（祥伝社新書）
③『平穏死のすすめ』石飛幸三　（講談社）

《授業時間外学習》
講義中に提示した医療、健康に対する考えを、みなさんのお父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんにも話してあげて、感想をまた授業やレポートでフィードバックしていただければ幸いです。

《備考》
おそらくみなさんの「健康」「栄養」「老い」に対する考えは、これから毎年変化してゆきます。将来「あの時の話、これのことだったのかな」と思い出していただければ幸いです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	日本人の医療観、死生観	過剰な健康ブームおよび病院での死が受け入れられなくなった日本人の健康観、死生観について考える。
2	生活習慣病の治療	日本で急増中の生活習慣病の治療、およびその難しさについて考える。
3	がんの治療	日本のがん治療、とくに医者の間でも賛否両論の抗がん治療について考える。
4	医療と栄養	経管栄養はよくないことなのか？　高齢者は口から食べられなくなった時、どうするのか？などについて考える。
5	医療におけるコミュニケーション	医者の説明はなぜわかりにくいのか？「説明」する難しさについて考える。
6	日本の介護制度	日本の介護制度およびその問題点について考える。
7	救急医療の問題点	なぜ救急受け入れ不能が起こるのか？について考える。
8	地域診療の問題点	なぜ地方は医者不足なのか？について考える。
9	医療経済（医療はサービスか？）	医療はサービス業足り得ない現場のジレンマについて。
10	医学の研究とは	医療における研究の意義と目的について。
11	健康食品、民間療法とは	医療の中における健康食品、民間療法の位置づけ。
12	医療ミスとは何か	日本の医療事故、医療訴訟の問題点について考える。
13	和魂洋才と現代医療（１）	医療における日本人のあうんの呼吸とプラス思考について。
14	和魂洋才と現代医療（２）	現代医療では和魂洋才がうまくいかない理由を考える。
15	ロスタイムライフ論	医療、介護の目的、「老い」「健康」の意味について考える。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	コミュニケーション論				
担当者氏名	脇本 忍				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）				

《授業の概要》
社会心理学のコミュニケーション領域について講義をおこなう。特に、私たちの日常生活における、人と人との対人関係。さらに二者間における対人魅力や相互作用に関するメカニズムについて、先行研究や映像資料の紹介を交えながら授業展開する。

《授業の到達目標》
コミュニケーションに関する理論と応用について習得し、日常生活における人間関係形成の一助になること。

《成績評価の方法》
定期試験　60%　　提出レポート40%

《テキスト》
指定しない。適時資料を配布する。

《参考文献》
社会心理学（培風館）他。

《授業時間外学習》
必要の際、適時説明する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業運営
2	心理学の種類	周辺領域との関係性についての解説
3	心理の要素	ヒトの感情・認知・行動などの各要素についての解説
4	遺伝と環境	ヒトの感情・認知・行動などの各要素の源泉について、遺伝説環境説の立場からの解説
5	コミュニケーション１.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション１.
6	コミュニケーション２.	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション2.
7	対人識別判断	心理学実験の実施
8	社会的態度	価値観・ライフスタイルに関する心理アセスメントの実施
9	社会的感情	心理アセスメントと臨床心理学との関係性
10	社会的認知	対人認知と対人コミュニケーション
11	社会的動機	心理学実験の紹介を中心に解説
12	対人魅力１.	恋愛に関する理論と心理アセスメントの実施
13	対人魅力２.	対人関係の形成と崩壊
14	復習および検証	講義一連の確認と復習
15	まとめ	コミュニケーション心理学Ｉのまとめ

《専門教育科目　Ⅰ群（領域に関する科目）》

科目名	健康科学				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
健康とは何かに始まり、食生活、運動、睡眠、こころ、年齢、環境など、健康状態に影響を与える諸条件・因子がどうあるべきかを理解する。

《授業の到達目標》
健康とは何かを理解し、何をどうすれば、健康の維持・増進に役立ち、あるいは、健康をそこなうことになるのかを理解する。

《成績評価の方法》
定期試験(100%)の結果によって評価する。

《テキスト》
『改訂　ライフスキルのための健康科学　改訂第2版』成和子編著　宮本慶子・城川美佳共著（建帛社）2010

《参考文献》
適宜紹介する。

《授業時間外学習》
あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《備考》
分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康について	健康の定義、ライフサイクルにおける健康上の課題について説明する。
2	健康について	保健福祉サービス、生活習慣病について説明する。
3	日常生活と健康	食生活―健康な食生活について説明する。
4	日常生活と健康	食生活－わが国の食生活の現状、健康志向と健康食品、食行動における選択について説明する。
5	日常生活と健康	日常生活活動－エネルギー必要量の算定、運動習慣の必要性、適正体重の維持について説明する。
6	日常生活と健康	睡眠－睡眠および睡眠障害について説明する。
7	日常生活と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用等の健康関連行動について説明する。
8	日常生活と健康	こころの健康―ストレス、心身症、うつ病等について説明する。
9	ライフステージと健康	家族計画、思春期・青年期の健康問題について説明する。
10	ライフステージと健康	壮年期、高齢期の健康問題について説明する。
11	環境と健康	感染症、食中毒について説明する。
12	環境と健康	地球環境問題、ノーマライゼーションについて説明する。
13	トピックス	救急蘇生法、臓器移植、海外渡航に関わる問題、安楽死づいて説明する。
14	トピックス	ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、内分泌撹乱化学物質について説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	健康情報処理演習				
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎　3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）				

《授業の概要》

「情報社会」等という言葉をよく耳にするが、こうした言葉に踊らされることなく、かつ正確に対応するためには道具（コンピュータ全般）について慣れ親しむことも不可欠である。授業では、コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面で有用であるかを判断して利用できるようになることをめざし、複数のアプリケーションを用いた演習を行う。なお、内容は講義の進捗状況等により多少変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、マニュアルなどを利用しながらコンピュータを利用して自力で問題を解決する能力の涵養を基本に考える。そして、この道具としてのコンピュータという観点からコンピュータを動作させるための手順の総体としてのソフトウェアを中心にして計算機そのものであるハードウェアも含めたコンピュータの知識（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分を習得できる。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（１００％）が、詳細は初回授業時に決定する。

なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考文献》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経ＢＰ社
『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店
『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経ＢＰ社
『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版
「統計学」、「コンピュータリテラシ」、「オフィスソフト」についての各種解説書

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。

授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。適切な情報を仕入れて自らの頭で考えながらコンピュータと向かい合えば、１年ほどでスペシャリストになることも可能です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的や概要の説明（大切なので履修希望者は必ず出席のこと） 課題などと成績に関する説明、履修者の意見の確認
2	電子メールと情報検索	本学の電子メールシステムならびに情報検索の復習 情報源とその特性
3	コンピュータのハードウェア	コンピュータの基本要素とハードウェア
4	コンピュータのソフトウェア	ｎ進数と情報表現 情報量と文字コード
5	ワープロソフト	ワープロソフトにおけるアプリケーションの連携 伝えたい情報を限られた範囲でまとめる
6	プレゼンテーションソフト（１）	テーマに沿って伝えたい内容を考え、基礎情報を集める ワープロソフトとの違いを確認しプレゼンテーションソフトに載せる準備をする
7	プレゼンテーションソフト（２）	より詳細な情報を収集し、プレゼンテーションソフトに向けてまとめる
8	表計算ソフト（１）	数式や関数についての基本を知る 検索関数を用いたデータの検索（１）
9	表計算ソフト（２）	より高度な関数の利用 検索関数を用いたデータの検索（２）
10	表計算ソフト（３）	関数を用いた栄養価計算の方法を知る
11	表計算ソフト（４）	食事摂取基準の調査を行う 栄養価の計算結果をよりわかりやすく表示する
12	表計算ソフト（５）	表計算ソフトにおけるグラフの使い分けについて知る
13	総合演習（１）	栄養価計算の結果をプレゼンテーションソフトで表現する
14	総合演習（２）	プレゼンテーションを行う（一部）
15	総合演習（３）	データの安全性 これまでのまとめ

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学I				
担当者氏名	本澤 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》

生化学とは広範で複雑、多岐にわたる種々の生命現象を、細胞レベル、物質・分子レベルで解明する学問である。本講義では、栄養を理解する上で特に必須となる生化学の諸分野に重点をおき、各栄養素の細胞内での代謝反応を中心課題とする。これによって、生体の基本単位である細胞、酵素および主要生体成分の合成・分解反応とそれらの調節機構について理解する。栄養素の生体内での種々の代謝過程とその意義を理解する。

《授業の到達目標》

種々の生命現象のうち、栄養素摂取にともなう生体反応である各栄養素の細胞内での代謝過程についての専門知識を身につける。これにより、酵素の触媒作用による糖質・脂質・タンパク質の代謝過程（合成反応および分解反応）とその意義、さらに相互の関係性を理解し、細胞レベルでおよび物質レベルで把握できる。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。　　出席率は評価対象としない。欠席回数が、授業実施回数の1／3以上の者は、成績評価対象外とする。

《テキスト》

『化学・生化学一人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ）　大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2011

《参考文献》

特に指定しない（生化学および栄養性化学に関係する書籍を学生各自が参考にすること）

《授業時間外学習》

1年1期開講科目「栄養のための基礎生物化学」の学習内容を基礎とするので、各週の授業で扱う有機化合物について、事前に予習して下さい。また、各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認して、内容の整理と知識の定着を心がけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《備考》

授業進行の妨げになるので私語は厳禁です。授業には、積極性と集中力をもって望んで下さい。各回授業の復習は理解度の向上に効果的です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	酵素の構造と特性（1）	生体における化学反応に必要な活性化エネルギーと酵素の触媒作用、酵素の構造上の特徴、酵素反応の補助因子等について理解する。
2	酵素の構造と特性（2）	酵素の基質特異性（作用特異性）や、酵素活性に影響を及ぼす種々の因子とその効果についで理解する。
3	酵素の構造と特性（3）	生体の多様な化学反応に対応した酵素作用の分類およびその働き、酵素反応の調節の仕組みについて理解する。
4	生体エネルギー学と代謝の概要（1）	自由エネルギー、異化反応・同化反応の解説を通してATPの役割を理解し、高エネルギーリン酸化合物の特徴を学習する。
5	生体エネルギー学と代謝の概要（2）	糖質、脂質、タンパク質の生体におけるエネルギー代謝の全体像を理解する。
6	糖質の代謝（1）	グルコース代謝の概要、解糖系および基質レベルのリン酸化によるATPの生成について理解する。
7	糖質の代謝（2）	グルコースの嫌気的代謝およびクエン酸回路一電子伝達系を含む好気的代謝を比較し、その特徴を理解する。
8	糖質の代謝（3）	糖新生過程およびグリコーゲン代謝を理解する。
9	糖質の代謝（4）	五炭糖リン酸経路およびコリ回路などについて、理解する。
10	脂質の代謝（１）	脂質代謝の概要、脂肪酸の合成およびエイコサノイドの合成、脂肪酸の分解（β-酸化系）について理解する。
11	脂質の代謝（2）	トリアシルグリセロール（TG)およびリン脂質の合成・分解について理解する。
12	脂質の代謝（3）	コレステロールの合成、ケトン体の生成機序について理解する。
13	アミノ酸の代謝（1）	アミノ酸プールを中心とするアミノ酸代謝から、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路について学習し、アミノ酸の異化過程を理解する。
14	アミノ酸の代謝（2）	体内合成可能な可欠アミノ酸の合成過程およびアミノ酸から合成される種々の含窒素化合物について理解する。
15	アミノ酸の代謝（3） まとめ	アミノ酸の炭素骨格の利用（糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸）についての学習を通して、糖質および脂質代謝との相互関係を理解する。

《専門教育科目　Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学・人体生理学 Ⅰ				
担当者氏名	大西　隆仁				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
細胞と組織、消化器系、呼吸器系、循環器系等の構造と機能について概説する。

《授業の到達目標》
適切な栄養指導を行うためには、病態を理解する必要があり、正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、管理栄養士に必要な人体の構造と機能について理解することを目標とする。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
レポートや筆記試験により評価する。

《テキスト》
栄養解剖学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　（志村二三夫、岡純、山田和彦　編、羊土社）

《参考文献》
系統看護学講座　専門基礎①　解剖生理学　第７版（坂井建雄、岡田隆雄　著、医学書院）、
人体の構造と機能　第2版（佐藤昭夫　著、医歯薬出版）

《授業時間外学習》
学習教科内容の予習、復習をする。レポートを作成し期限内に提出する。

《備考》
私語を慎むこと。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	栄養を理解するための解剖生理学に向けて
2	細胞と組織（1）	細胞の構造と機能
3	細胞と組織（2）	人体組織の構造と機能
4	細胞と組織（3）	器官の構造と機能
5	消化器系（1）	口腔、咽頭、食道、胃の構造と機能
6	消化器系（2）	小腸、大腸の構造と機能
7	消化器系（3）	肝臓、胆嚢と膵臓の構造と機能
8	呼吸器系（1）	呼吸器の構造と機能
9	呼吸器系（2）	呼吸の調節
10	循環器系（1）	心臓の構造と機能
11	循環器系（2）	血管の構造と機能
12	循環器系（3）	血圧の調節
13	血液、造血器、リンパ系(1)	血液、リンパ系と骨髄
14	血液、造血器、リンパ系(2)	血液の細胞成分と血漿成分
15	まとめ	復習と問題

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学Ⅰ				
担当者氏名	中井　玲子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

食を扱う者の基礎知識である食品「成分」の特徴を中心的に学ぶ。食生活の歴史的変遷、現在の食生活とその問題点の概略から学習をスタートし、食品に含まれる成分の科学つまり栄養上の役割やおいしさに関わる成分、その他の生体調節機能物質や有害成分についても学ぶ。また保存、調理や加工時の変色など様々な変化の原因となる食品成分の変化ににについてそのしくみや「食感」に関係の深い食品の物性についても学習する。

《授業の到達目標》

○「食品成分の特徴」を説明できるようになる。
○「食品と身体の関わり」概要を説明できるようになる。
○「調理、加工時に伴う食品成分の変化」について説明できるようになる。
○「食品の物性」について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。授業開始時刻より10分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
・成績評価点数＝Σ各項目評価(各得点率%×100)/評価項目数
（項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験）

《テキスト》

『食品学Ⅰ』菅原龍幸・福澤美喜男編著（建帛社）
『五訂増補食品成分表〈2010〉』
香川芳子（女子栄養大学出版部）

《参考文献》

『改定ニューライフ食品学』
森 一雄･赤羽義章･小垂 眞著（建帛社）
『食品学１（総論）』伊吹文男著（培風館）

《授業時間外学習》

○予習の方法:教科書の指定の箇所を読んでおくこと。
○復習の方法:毎回講義終了後にノート整理をするなど内容の再確認を行うこと。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして「ほったらかし」にならないように。

《備考》

本科目は、高校までの化学知識をベースとして話が展開する。特に食品成分の多くは有機化合物であるため、有機化学の基礎を十分に学習しておく必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス 人間と食品	コース概略と受講上の注意などを理解する。 「人間と食品」の領域について理解する。
2	食品成分表	「食品成分表」について理解する。
3	食品成分の化学（一次機能）①	食品中の「水分」について理解する。
4	食品成分の化学（一次機能）②	食品中の「炭水化物」について理解する。
5	食品成分の化学（一次機能）③	脂質（１） 食品中の「脂質」の基本について理解する。
6	食品成分の化学（一次機能）③	脂質（２） 食品中の「脂質」の周辺知識について理解する。
7	食品成分の化学（一次機能）④	食品中の「タンパク質」について理解する。
8	食品成分の化学（一次機能）⑤	食品中の「無機質とビタミン」について理解する。
9	嗜好成分の化学（二次機能）	食品中の「色、香り、味」に関する物質について理解する。
10	前半の振り返り	理解度の確認を目的としてテストを実施し、また補足解説を行う。
11	食品中の機能性成分（三次機能）と有毒成分	食品中の「機能性成分（三次機能）」と「有毒成分」について理解する。
12	食品成分の変化①	食品中の調理、加工、保存時における「炭水化物」と「脂質」の変化について理解する。
13	食品成分の変化②	食品中の調理、加工、保存時における「褐変、光酸化、酵素反応」について理解する。
14	食品の物性	食品の「コロイド、レオロジー」、「官能検査」について理解する。
15	コースのまとめ	理解度の確認を目的としてテストを実施し、また補足解説を行う。

科目名	食品学実験Ⅰ				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》

本科目において受講者は、講義「食品学Ⅰ」で学んだ内容のうち、特に食品成分表を主要な題材として取り上げ、食品成分表に記載されている一般成分および微量成分の分析値はどのようにして測定されるのか、各成分の化学的性質はどのようなものなのかということについて実験を通して理解を深めることをめざす。また、実験データと共に食料調達の現状について情報整理することで社会科学的視野の養成も図る。

《授業の到達目標》

○「食品成分表」に掲載されている一般成分の分析方法を説明できるようになる。
○「一般成分の特徴」について説明でき、その検出方法を習得する。
○「地球温暖化と食料問題」について主体的に考え、伝え、適切な行動を取ることができるようになる

《成績評価の方法》

・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。授業開始時刻より10分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
・成績評価点数＝Σ各項目評価(各得点率%×100)/評価項目数
（項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験）

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考文献》

『五訂増補食品成分表〈2010〉』香川芳子(女子栄養大学出版部)
『５訂日本標準食品成分表 分析マニュアルの解説』
日本食品分析センター(編),中央法規出版
『基礎からの食品・栄養学実験』村上俊男(編著),建帛社
『食品分析機器のてびき』山田次良,三共出版
『食品学Ⅰ』菅原龍幸・福澤美喜男編著(建帛社)

《授業時間外学習》

○予習の方法:配付した実験書（プリント）を読んでくること。また、適宜課題を出すので、その課題をやってくること。
○復習の方法:毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

・実験の都合上、所定の時間割コマ数（2コマ）を超えて実験を行うこともあるので留意すること。ただし、時間割上、次の授業が続いて開講されている場合には配慮する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス 炭水化物（糖質）	コース概略と受講上の注意（化学実験上の諸注意および安全対策など）を理解する。 炭水化物（糖質）について定性実験を通して理解を深める。
2	タンパク質①	タンパク質について定性実験を通して理解を深める。
3	タンパク質②	定量実験（１）分解：タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める。
4	タンパク質③	定量実験（２）蒸留・滴定 ：タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める（継続）。
5	脂質①	定性実験：脂質について定性実験を通して理解を深める。 定量実験（１）抽出：脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について理解を深める。
6	脂質②	定量実験（２）測定：脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について理解を深める（継続）。
7	水分① 確認テスト①	水分の定量実験（１）測定1回目：水分の定量法「常圧加熱乾燥法」について理解を深める。確認テスト①：前半の内容を振り返り、理解度を確認する。
8	水分① 灰分①	水分の定量実験（２）測定２回目：「常圧加熱乾燥法」について理解を深める（継続）。　灰分の定量実験（１）灰化　：灰分の定量法について理解を深める。
9	灰分② エネルギー値算出	定量実験（２）測定：灰分の定量について理解を深める（継続）。 エネルギー値算出法について理解を深める。
10	定性実験の復習実験	炭水化物、タンパク質、脂質について定性実験のポイントを復習し理解を深める。
11	ビタミンＣ及びフードマイレージ学習の概要説明	ビタミンＣ定量実験の概略を理解し、「フードマイレージ」「地産地消」「旬産旬消」をキーワードとして、地球温暖化防止の問題と食料調達の現状について学習を深める。
12	ビタミンC①	定量実験（１）サンプル溶液の調製 ビタミンＣの定量法について理解を深める。
13	ビタミンC②	定量実験（２）オサゾン生成・抽出 ビタミンＣの定量法について理解を深める（継続）。
14	ビタミンC③	定量実験（３）HPLC測定 ビタミンＣの定量法について理解を深める（継続）。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。 また、理解度を確認するため、確認テスト②に取り組む。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学				
担当者氏名	松尾 千鶴子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

人間が食べるという行動には、生理的・精神的意義があり生活の原点である。調理学は、物と心の接点である食べ物を対象とし、人々の心身の健康を目指しながら、調理の過程における変化や調理に関する事柄を科学的に究明し、食生活の実践・指導に必要な基礎的知識を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

・調理学の文化的・科学的側面を理解して、食生活の実践や指導時に活用することができる。
・食品の調理性を踏まえた調理ができる。

《成績評価の方法》

定期試験 60%、小テスト(必要に応じて予告をして実施) 20%、課題レポート等の提出物 20%、（授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは試験を受けることができない。）

《テキスト》

『調理学』 川端 晶子、畑　 明美（建帛社）

《参考文献》

『日本食品大事典』 杉田 浩一他編（医薬出版）
『総合調理科学辞典』 調理科学研究会(光生館)
『日本食品標準成分表 2010』 香川 芳子（女子栄養大学出版部）

《授業時間外学習》

テキストをよく読んでください。読後に大切な事項に蛍光ペンで印をつける。できればノートにその箇所を転記すると、更に読み返すことになるので理解を深めることに繋がる思います。

《備考》

他学生の学習の妨げになる特に私語は慎み、前向きに取り組むことを望みます。分からないことは質問してください。点呼で出欠をとります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理学の概要（調理と調理学、調理文化）	調理学は、どういう学問なのかについての基本的な考え方を理解し、「どのような食べ方をしたらよいか」を理解する。
2	調理学の概要（食事計画）	食事の意義、食事構成の基礎知識を理解し、健康な生活のための食事計画を理解する。
3	おいしさの科学（おいしさとは何か、評価）	食事がおいしいということは健康状態が良好の証しといわれる。食べ物のおいしさが形成される要素とその評価方法について理解する。
4	食品の調理機能 植物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、穀類、イモ類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
5	食品の調理機能 植物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、豆類、野菜類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
6	食品の調理機能 植物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
7	食品の調理機能 植物性食品(4)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、きのこ類、海藻類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
8	食品の調理機能 動物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類野の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
9	食品の調理機能 動物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
10	食品の調理機能 動物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、卵類、乳類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
11	食品の調理機能 抽出食品素材(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、でん粉類、油脂類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
12	食品の調理機能 抽出食品素材(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、ゲル化素材（寒天、ゼラチン等）の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
13	食品の調理機能 調味料等	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、調味料、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
14	調理操作と調理機器(1)	調理とよんで行っている（主として家庭）様々な操作やその条件、調理機器について学び、食べ物の安全・安心、おいしさとのかかわりを理解する。
15	調理操作と調理機器(2)	調理とよんで行っている（主として家庭）様々な操作やその条件、調理機器について学び、食べ物の安全・安心、おいしさとのかかわりを理解する。

《基礎科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実験				
担当者氏名	松尾 千鶴子				
授業方法	実験	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》
調理学（調理）の理論と原理を検証し、知識を理解・定着させ、基本的な実験操作技能や厳密で着実な作業態度を培い、調理時の食品の取り扱い方や調理技術の向上に繋がることを目指します。

《テキスト》
『クッキング エクスペリメント』 四宮 陽子（学建書院）

《参考文献》
適宜、紹介します。

《授業の到達目標》
・食品の組成が加,調理の過程においてどのように変化するかを科学的に理解し、調理時に活かすことができる。
・正確な実験試料の調製、実験方法がその実験結果に関与することを認識することができる。
・実験の結果（現象）について理論的に説明することができる。

《授業時間外学習》
テキストによって実験の目的、方法等を把握して授業に臨み、実験結果の考察に際し、関連する図書を調べましょう。

《成績評価の方法》
定期試験 50%、課題レポート等の提出物 50%、（授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のときは試験を受けることができない。）

《備考》
授業での事故防止のため諸注意を厳守してください。日常食の料理、広くは食べ物に関心を持ち、素材の変化や味・食感等の違いを知るために調理をすることを勧めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業のはじめにあたって	食品の容量と重量との関係や食品の切り方を理解し、定着させ、試料の正確な調製が重要であることを理解する。
2	嗜好性に関する実験	官能検査の実施にかかわる基礎知識を学び、識別・嗜好試験により食べ物の基本的な味を体得する。
3	米の調理機能	洗米、浸漬、炊飯における米の変化を理解し、飯としての評価をする。
4	小麦粉の調理機能	小麦粉のたんぱく質の採取、その特性を利用した食べ物（うどんやパン）をつくり評価する。
5	卵の調理性(1)	鮮度の判定法を学び、加熱による殻付き卵・卵液の凝固性について理解する。
6	卵の調理性(2)	卵白の起泡性、卵黄の乳化性について理解し、顕微鏡観察によりその性状を詳細に知る。
7	魚・肉類の調理性	調理方法、加熱温度、調味液等による肉質の変化を理解し、それらの食感について評価する。
8	乳類・乳製品の調理性	牛乳組成の特性、生クリームの起泡性とバターへの構造上の変化を理解する。
9	豆の調理性	餡の調製をとおして種類による組織・成分の違い、テクスチャーや味との関係を理解し、顕微鏡観察で細胞の大きさを知る。
10	調理と温度(1)	食品の温度変化は調理と深くかかわること、また食べ物の温度の適否はおいしさの要因の１つであることを理解する。
11	調理と温度(2)	飲み物の好ましい温度及びでん粉添加汁物の保温性の測定、測定結果をエクセル表を用いて集計し判定をする。
12	調理と色(1)	食塩による野菜の放水、食品の天然の色の保持に関する基礎的知識を理解する。
13	調理と色（2）	メイラード反応、カラメル化反応を把握し、調理過程で生成される新たな色について理解する。
14	ゼリーの物理的性質	寒天とゼラチンゼリーを調製し、それぞれのゼリーの特性を理解する。（テクスチャー試験器、官能検査）
15	乾物類の取り扱い	日常食によく用いられる乾物の戻し方と料理に見合った量について理解する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
私たち、生物（動物）は、食物を摂取しなければ生きていけない。食物には私たちが生きていくために必要なさまざまな栄養素が含まれている。私たちが摂取した食物中の栄養素が、体内でどのように加工され、利用されているのかを学習し、理解する。

《授業の到達目標》
下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《成績評価の方法》
定期試験(100%)の結果により評価する。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
『Ｎブックス　基礎栄養学　第３版』林淳三編著（建帛社）2010

《参考文献》
『サクセス管理栄養士受験講座６基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）／『系統看護学講座専門基礎分野生化学人体の構造と機能２』三輪、中恵著（医学書院）／『統看護学講座専門基礎分解剖生理学人体の構造と機能１』坂井、岡田著（医学書院）2010／『最新栄養学第９版専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修（建帛社）

《授業時間外学習》
あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に相当する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《備考》
分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養の概念とその歴史	栄養の意味と意義、生体の成り立ち（細胞と生体成分）とその機能を説明する。
2	栄養の概念とその歴史	栄養学の歴史（栄養素と消化酵素の発見、体内酵素と代謝作用の発見）を説明する。
3	摂食行動	食欲がどのようにして生じるのか、食欲と摂食行動のサーカディアンリズムを説明する。
4	摂食行動／栄養と生体防御	栄養と病気の関係を説明する。
5	消化・吸収と栄養素	消化器系の構造と機能、消化液、消化酵素の種類と栄養素を説明する。
6	消化・吸収と栄養素	消化の調節と吸収機構、栄養素の体内動態、栄養素の生物学的利用度について説明する。
7	糖質の栄養	糖質の構造と働き、糖質の消化・吸収、血糖とその調節について説明する。
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路を説明する。
9	糖質の栄養	糖質がどのようにしてエネルギー源として利用されるのか、糖質と他の栄養素との関係を説明する。
10	脂質の栄養	脂質の構造と性質、脂質の消化と吸収の過程を説明する。
11	脂質の栄養	脂質の代謝と移動・輸送の過程、脂肪酸および脂質の栄養機能を説明する。
12	脂質の栄養	脂質と肥満の関係、インスリン抵抗性にかかわる因子と臓器、食事摂取基準と栄養摂取状況を説明する。
13	タンパク質の栄養	タンパク質とアミノ酸の構造と働きを説明する。
14	タンパク質の栄養	タンパク質の消化と吸収の過程、タンパク質の代謝経路を説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
基礎栄養学の後半部分であり、授業のねらい及び概要は基礎栄養学Ⅰと同じ。

《授業の到達目標》
下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《成績評価の方法》
定期試験(100%)の結果により評価する。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
『Ｎブックス　基礎栄養学 第３版』林淳三編著（建帛社）2010

《参考文献》
『サクセス管理栄養士受験講座６基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）／『系統看護学講座専門基礎分野生化学人体の構造と機能２』三輪、中恵著（医学書院）／『統看護学講座専門基礎分解剖生理学人体の構造と機能１』坂井、岡田著（医学書院）2010／『最新栄養学第９版専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修（建帛社）

《授業時間外学習》
あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《備考》
分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の栄養	タンパク質の栄養価、タンパク質と他の栄養素との関係、タンパク質の食事摂取基準、タンパク質の不足と過剰について説明する。
2	ビタミンの栄養	ビタミンの種類と構造について説明する。
3	ビタミンの栄養	ビタミンの代謝と栄養学的機能、ビタミンと他の栄養素との関係について説明する。
4	無機質（ミネラル）の栄養	無機質の一般的機能、カルシウム、リン、マグネシウムの機能、摂取基準について説明する。
5	無機質（ミネラル）の栄養	カリウム、ナトリウム、他の微量元素の機能、摂取基準について説明する。
6	水、電解質	水の機能、電解質の代謝、酸塩基平衡の調節について説明する。
7	エネルギー代謝	エネルギーの変換、エネルギーの必要量と消費量、エネルギー代謝の測定について説明する。
8	エネルギー代謝	基礎代謝、活動時エネルギー量、食品のエネルギー量について説明する。
9	栄養と遺伝子	遺伝病とは、栄養と遺伝子、遺伝子多型について説明する。
10	栄養と遺伝子	倹約遺伝子、栄養と癌、酸化ストレスと栄養素について説明する。
11	生理機能をもつ非栄養素	食物繊維、難消化性オリゴ糖について説明する。
12	生理機能をもつ非栄養素	糖アルコール、アルコール、その他の非栄養素について説明する。
13	栄養と健康	わが国の栄養と健康状況の推移、栄養評価について説明する。
14	栄養と健康	栄養摂取適量、食と健康２１について説明する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教職概論				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを拒否することまではいかないが迷っている人、教員になりたい人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業の本質である。過去の歴史の問題点を回顧しつつ、その時々に教育という営みがいかに大きな精神的影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための質的経験を蓄積する授業である。

《授業の到達目標》

教員になるという決意をするために、古典を読む力の要請が必要である。それとともに、その力を応用することができる資質の要請が求められている。そのためには独創性と子どもたちや子どもたちの保護者への教育的サービスを実施することができる能力を養成しなければならない。教員の資質能力としてコミュニケーショ力を身につける必要がある。これらのことを認識する必要が存在する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加(討論、グループ学習の営み、ディベートなどへの参加)40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著　『新しい教職概論・教育原理』
関西学院大学出版会　2008年

《参考文献》

上寺常和著　『教職論』　日本教育研究センター　2004年

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。また、多くの教育関係古典書に接する必要がある。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	教職概論の全体像を把握するために、読破しなければならない書籍を紹介し、その読み方、整理の仕方などを紹介し、それらを整理体系化する力の養成に取り掛かる。
2	教職の歴史	古代から近世までの学校と教員の起源とその展開を理解できる能力を、体験的に養成する。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を明確に理解する能力を身につける。
4	進路指導の意義と課題	教員組織を善く理解し、教員同士の協力とは一体何なのか、キャリア教育の指導とは一体何なのか、そこに求められる教師力とは一体何なのか理解する。
5	教員養成と免許制度	師範学校制度と戦後の開放性教員養成との比較を試み、現代日本において求められる教員養成とは一体何なのか吟味し、求めるべき教員像について考えてみる。
6	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究することで、教員養成の課題をみつける。教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
7	教員像について	聖職か、労働者か、専門性をもつ専門家と見なすのか、考察することで教師のアイデンティティを探究する。教師像の自ら探究する力を自ら養成する。
8	教師の仕事と役割	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導、生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考え、教師評価を考察する。
9	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
10	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が公務分掌の中に位置づけられている。副校長に始まり、道徳指導教諭，主幹などが設けられている。分析と解明をする。
11	教師の職場環境	教師の勤務実態、職務上の義務と未分譲の義務、安全管理などについて考察し、課題を明確にする力を養う。
12	教師と地域社会と保護者	モンスターペアレンツの登場により教育現場の混乱はいっそう深刻になっていることを理解し、教師・地域社会・保護者の関係のありようを考察する。
13	各種審議会と教員の資質・能力の向上について	多くの審議会で、教員の資質向上が展開されてきた。それらの中で、特徴がある答申を取り上げて教員の資質・能力の向上について整理し、発展の方向性を考察する。
14	教員免許更新制について	10年ごとの教員免許更新制について、問題点と本来の目的との関わりを評価することを心がけることにする。
15	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員養成の課題は、教員養成の資質・能力の向上が常に主張されるが、改革の留まることは考えられない。今後取り組むべき課題について、自ら見つけ出す力を養成する。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育原理				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
本講義では、人間形成の意義と課題を教育原理的側面から論じてゆきたい。そのうえで、多くの教育問題が発生する今日的課題として、ボルノーの教育思想を中心として、様々な教育思想家の主張を援用し、学校生活を含めた人間関係の深化、生きる意味を探究する援助者としての教師論などを論ずる。

《授業の到達目標》
教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析することができるようにすることを目指す。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《テキスト》
1．『ボルノー教育学入門』　広岡 義之著
（風間書房）2012年

《参考文献》
必要があれば講義の際に紹介する。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	講義の開始に当たり、どのような姿勢で受講するべきかを理解する。
2	教育の目的と目標　1	教育を通していかにして人間形成が可能となるかを考察する。
3	教育の目的と目標　2	個人主義的な教育と集団主義的な教育のかかわりについて考察する。
4	教育における信頼について	教員に求められる教育的愛情、使命感、責任感について理解する。親と子どもの信頼関係についても説明することができる。
5	林竹二の教育実践論	林竹二の「深さのある授業」について、具体的事例を説明することができる。
6	教育における徳論の重要性について	教師の信念、謙虚さ、畏敬の念等の教育的意味を考えることができる。
7	言語と教育について	言語教育の重要性が新学習指導要領でも指摘された。それを受けて言葉の教育的課題を理解する。
8	連続的形式と非連続的形式の教育	主としてボルノーの『実存哲学と教育学』で展開される両者の特徴について考える。
9	家庭教育について	家庭教育の重要性について「私的空間」という切り口で考察する。
10	平和教育について	平和教育の重要性がこれほど問われている時代はない。そのため平和教育の土台づくりを教育学的に考察する。
11	高齢者教育について	高齢化社会に突入した現代にあって、高齢者教育のポイントがどこにあるのか理解する。
12	環境教育について	今ほど環境の大切さを考えることが求められている時代はない。特に環境倫理との関連において説明することができる。
13	生命尊重について	生命軽視の風潮が教育界においても問題となっている。人間の生死について本質的な概念が説明できる。
14	練習することの意義	問題解決学習等で、地道にこつこつと練習することの意義がやや忘れられがちになっている。改めて練習することの教育学的意義を哲学的に説明することができる。
15	総括	これまでの主題について振り返り、教職の第一歩として、どのような教育的心構えができたかについて説明することができる。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育制度論				
担当者氏名	廣岡 義之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
「テキスト」欄に挙げてある『教育の制度と歴史』の中から重要と思われる項目を中心に、考察を加えて行く。学校の歴史、教育制度の概念、現行の学校教育制度、学校制度（学校体系）の枠組み、学校教育の機能と性格、社会変化と学校教育などにみられる主要原理と課題を分析・検討する。

《テキスト》
1．『教育の制度と歴史』　広岡義之編著
ミネルヴァ書房　2007年

《参考文献》
（仮題）『教育用語付教育法規』 広岡義之編著
ミネルヴァ書房　2012年

《授業の到達目標》
わが国の教育の将来的な改革・再編成の方向を本質的に理解するためには，教育制度の歴史的位置についての認識が必要となる。そこで受講生は、教育制度を鳥瞰することにより，なに故必然的に現代のこうした日本の教育形態や制度が形成されるに至ったのかについて主体的に考えることができるようになる。

《授業時間外学習》
教科書等の指定箇所を熟読し、内容を把握しておくこと。

《成績評価の方法》
講義中の発表・態度50%、講義中の小試験50%。
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者には単位を与えない。

《備考》
この講義は、将来教職に就きたい人、教員免許状を取得したい人達のためにあるので、その人達の学習の妨げになる「私語」や「遅刻」はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	本講義のオリエンテーション	本講義の進め方、受講態度等、予習の仕方について説明することができる。
2	西洋古代・中世の教育制度と教育の歴史	古代・中世の教育の変遷について詳細に理解する。
3	ルネサンス・宗教改革の教育制度と教育の歴史	なぜ中世が終わると宗教改革が生じ、ルネサンスが花開いたのか？　この点について教育の営みを軸に論じることができる。
4	17・18世紀の教育制度と教育の歴史	17世紀の教育思想の代表者コメニウスの教育思想を中心に理解する。18世紀は啓蒙の時代であり、近代社会の先駆的特徴を持つため、その点を説明することができる。
5	西洋近代公教育制度の発達	公教育の、無償性、就学義務、宗派的対立等の原則についての議論を理解する。
6	19・20世紀の教育制度と教育の歴史	フランス革命の自由平等思想に基づく国民の自由主義が前面に押し出されるようになる。代表的教育者フレーベルを中心に彼の教育思想を理解する。
7	西洋「新教育運動」の展開と現代教育制度の動向	新教育運動の代表として、シュタイナー、田園教育舎系の教育者の思想を理解する。また現代教育制度として欧米の教育システムを比較検討することができる。
8	日本古代・中世の教育制度と教育の歴史	大和時代、奈良時代、平安時代、中世の社会変化とそれに伴う教育制度について理解する。
9	日本近世の教育制度と教育の歴史	江戸時代の教育思想、武士の教育制度と教育機関について理解する。
10	近代国家の確立と教育	森有礼と学校令について、教育勅語について、師範学校について詳細に説明することができる。
11	大正デモクラシーと教育	大正自由教育運動について、八大教育主張について、教育制度の拡充について理解する。
12	戦時体制下の教育制度と教育	国民学校と青年学校、学徒動員、学校機能の停止等、戦時体制下の特徴を説明することができる。
13	戦後日本の教育改革および教育制度改革　1	占領軍の管理政策、アメリカ教育使節団、教育法規の制定、単線型学校体系について説明を加えることができる。
14	戦後日本の教育改革および教育制度改革　2	終戦から1940年代まで、1950年代の教育制度の状況、1960年代の教育爆発の時代、1970～80年代の特徴について理解する。
15	現代日本の教育改革	2000年以降の教育改革の諸相を理解する。特に改正教育基本法の特徴について解説することができる。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む）				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐる問題があげられるが、このような問題に対して、日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろうか？悩む人々と治療者の関係という実践の中から生み出された臨床心理学の理論は、人と人との関係が希薄だといわれる現代人にとって新鮮であるかもしれない。このような臨床心理学理論を学び自分なりの気づきや視点をもてるように学ぶ。

《授業の到達目標》
カウンセリングの基礎を学び、ひとの話をしっかり聴けるようになる。自分自身のこころに焦点をあてそこに耳を傾けられるようになること。子どもたちを取りまく様々な問題のサインを見逃さず、自分なりの視点を持てるようになること。

《成績評価の方法》
授業への取り組み30%　レポート・確認テスト等20%　　授業内容の理解50%

《テキスト》
特に指定しない。必要な資料は適宜配布する。

《参考文献》
『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』
　　滝口俊子・田中慶江編　創元社1400円＋税
『特別支援教育のための100冊』
　　特別支援プロジェクトチーム　創元社1800円

《授業時間外学習》
こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。リストの中から自分の最も興味ある1冊を選んで手書き・用紙問わず5枚の感想文を最終授業日までに提出すること。

《備考》
教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	ひとの話しを聴くということ、その心得について
2	カウンセリングの基礎理論	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について
3	カウンセリングの基礎技術	DVD　「初回面接での信頼関係の確立」から学ぶ
4	カウンセリングの実習	簡単なロールプレイを経験して、日常の自分自身の話を聞く態度などをふりかえってみる
5	こころの世界を取り扱うには	相談に来た人が、自由に思いついたことがいえる雰囲気をつくるにはどのようなことに留意すべきか
6	自分のこころをみつめる①	「フォーカシング」の理論
7	自分のこころをみつめる②	「フォーカシング」の体験
8	こころの発達理論	関係性の発達を知り、思春期以降の子どものこころの問題を理解しやすくする
9	子どもたちが育つ環境の問題	大人たちが子どもの成長を妨げている事例について考える
10	学校現場で出会う子どもたちの発達の問題	軽度発達障害についての理解を深める
11	箱庭療法の理論	箱庭療法が生まれた背景と理論について理解を深める
12	箱庭療法から心の治癒過程を知る	DVDに表現された子どもの箱庭療法の事例をみることによって、心の治療過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師にできることとできないことは何か、専門機関にリファーするにあたって教師にできることは何か
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりに考える
15	まとめ	この授業で学んだことをふり返り、今後に活かすべきことは何か考える

平成 23（2011）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	基礎ゼミⅠ	演習	2						2										
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2									
		栄養のための統計学入門	講義		2						2									
		栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2										
		実験基礎演習	演習	2						2										
		医学概論	講義	2					Ⓔ		2									
		臨床心理学	講義		2							2						（琴浦 志津）	137	
		コミュニケーション論	講義		2					2										
		栄養と薬物	講義		2										2					
		バイオテクノロジー	講義		2				Ⓔ							2				
		食料経済	講義		2											2				
		健康科学	講義	2							2									
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習	演習	2							2									
		情報処理と栄養統計Ⅰ	講義		2		○	△				2						原田 昭子	138	
		情報処理と栄養統計Ⅱ	講義		2		○	△					2					原田 昭子	139	
		公衆衛生学Ⅰ（公衆衛生）	講義	2		◇	○	△	Ⓓ					2						
		公衆衛生学Ⅱ（健康管理）	講義		2		○	△							2					
		社会福祉概論	講義		2	◇	○	△						2						
		生化学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		生化学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓑ			2						野田 千征子	140	
		生化学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ			3						亀谷 小枝	141	☆
		生化学実験Ⅱ	実験		1		○	△	Ⓑ				3					野田 千征子・亀谷 小枝	142	☆
		栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		栄養解剖学・人体生理学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓑ			2						大西 隆仁	143	
		栄養解剖学実験	実験		1	◇	○	△				3						大西 隆仁	144	☆
		人体生理学実験	実験		1		○	△					3					内田 亨	145	☆
		臨床病態学Ⅰ	講義		2	◇	○	△	Ⓔ			2						内田 亨	146	
		臨床病態学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓔ				2					内田 亨	147	
		生体防御論	講義		2		○	△	Ⓒ					2						
		食品微生物学	講義		2				Ⓒ						2					
		食品学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ	2										
		食品学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓒ					2						
		食品学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ		3									☆
		食品学実験Ⅱ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ						3					☆
		食品衛生学	講義	2		◇	○	△	Ⓓ				2					[島田 邦夫]	148	
		食品衛生学実験	実験		1		○	△	Ⓓ					3						☆
		食品機能論	講義		2		○	△								2				
		調理学	講義	2		◇	○	△		2										
		調理学実験	実験	1		◇	○	△			3									☆
		調理学実習Ⅰ	実習	1		◇	○	△		3										☆
		調理学実習Ⅱ	実習		1		○	△					3					富永 しのぶ	149	☆

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅲ群（専門に関する科目）	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ	2										
		基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ		2									
		栄養学実習	実習	1		◇	○	△	Ⓔ			3						松村 末夫	150	☆
		応用栄養学Ⅰ（ライフステージ栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2						須見 登志子	151	
		応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）	講義		2		○	△								2				
		栄養管理学	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2					須見 登志子	152	
		栄養管理学実習	実習		1		○	△						3						☆
		基礎栄養教育論	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2						眞鍋 裕之	153	
		健康栄養教育論	講義		2	◇	○	△					2					[藤田 裕子]	154	
		基礎栄養教育実習	実習		1	◇	○	△					3					富永 しのぶ	155	☆
		健康栄養教育実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		実践栄養教育演習	演習		2		○	△									2			
		臨床栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△				2						増村 美佐子	156	
		臨床栄養学Ⅱ	講義		2		○	△					2					[木下 美子]	157	
		臨床栄養学実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		臨床栄養管理学	講義		2		○	△						2						
		臨床栄養管理演習	演習		2		○	△							2					
		公衆栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2	7 7	7 7	7 7	7 7	7 7 7 7 7 7	158	
		公衆栄養学Ⅱ	講義		2		○	△						2						
		公衆栄養活動実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		給食経営管理論	講義		2	◇	○	△					2					和田 早苗	159	
		メニュー管理実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		給食管理実習	実習		1	◇	○	△	Ⓔ					3						☆
		フードサービスマネジメント演習	演習		2		○	△							2					
		総合演習	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅰ	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅱ	演習		2		○	△									2			
		給食管理臨地実習（校外実習）	実習		1	◇	○	△						2						☆
		臨床栄養臨地実習	実習		2		○	△							4					☆
		公衆栄養臨地実習	実習		1		○	△								2				☆
		学校栄養教育論Ⅰ	講義		2			△						2						
		学校栄養教育論Ⅱ	講義		2			△							2					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習		3											3				
		卒業研究Ⅱ	演習		3												3			

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年Ⅰ期に「フードスペシャリスト論」「フードコーディネート論」を開講する。

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄のⒶ～Ⓔは食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

Ⓐ～Ⓓ別表第14にかかげた科目・Ⓔは別表第15にかかげた科目

Ⓐ化学関係（教養科目「化学」）修得のこと） Ⓑ生物化学関係 Ⓒ微生物関係 Ⓓ公衆衛生学関係 Ⓔその他関連科目

Ⓐ～Ⓓ群から1科目以上、最低修得単位数（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ）22単位以上

最低修得単位数合計（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓔ）40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成23年度（2011年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職に関する科目	教職概論	講義		2			△		2										
		教育原理	講義		2			△		2										
		教育史	講義		2			▲							2					
		教育心理学	講義		2			△					2					（大平 曜子）	160	
		教育制度論	講義		2			△			2									
		教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			△					2					［上寺 常和］	161	
		教育方法・技術論	講義		2			△					2					（河野 稔）	162	
		教育方法論	講義		2			△							2					
		生徒指導論(進路指導を含む)	講義		2			△				2						［上寺 常和］	163	
		教育相談(カウンセリングを含む)	講義		2			△			2									
		事前事後指導	講義		1			△							1					
		栄養教育実習	実習		1			△								3				
		教職実践演習（栄養教諭）	演習		2			△									2			☆

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	琴浦 志津				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○　1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○　2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ○　3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
臨床心理学はこころを理解しようとする心理学である。開拓者フロイトは大人の患者との精神分析的治療の中で人のこころの発達における幼児期の体験の重要性を発見した。フロイト以降の研究者はより年少の乳幼児と母親との関係性に焦点をあて内的世界の理解をしようと研究を進めた。この授業ではこれらのこころの研究の歴史を辿り、人と人とが関わることで育まれる関係性の理解と自分自身と他者のこころの理解をめざす。

《授業の到達目標》
１．ひとのこころの不安の源泉はどこにあるかを知る。
２．対人関係上の問題を呈する人々を理解する上で、乳幼児と母親の関係性という視点からみる対象関係論と具体的な子ども像を結びつけてイメージし、より適切な関わりを実践できるように学ぶこと。

《成績評価の方法》
筆記テスト50%　　レポート・確認テスト等20%　　受講態度30%

《テキスト》
保育・教育に生きる臨床心理学　松島恭子監修・篠田美紀編著　光生館　税別2200円
その他必要な資料は適宜配布する

《参考文献》
スクールカウンセラーがすすめる112冊の本　滝口俊子・田中慶江編　　創元社

《授業時間外学習》
授業初回に上記参考図書にある112冊の文献一覧を配布する。できるでけ多くの本を読んで、こころの世界の理解をさらに深めてほしい。そのうち1冊について感想文を手書きで原稿用紙又はレポート用紙に5枚書き授業最終日までに提出すること。

《備考》
テキスト以外にも必要な資料を多く配布するので、Ａ４ファイルを用意して毎回ファイルして下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	臨床心理学とは何か
2	フロイトの発見	無意識をめぐって
3	フロイトの精神分析①	防衛機制等の用語の理解
4	フロイトの精神分析②	フロイトの理論を用いての学習
5	精神分析学からみた乳幼児期①	赤ちゃんの不安の源泉
6	精神分析学からみた乳幼児期②	母子発達理論
7	精神分析学からみた乳幼児期③	分離・個体化過程
8	ウィニコットの対象関係理論①	ホールディング（抱っこ）について
9	ウィニコットの対象関係理論②	描画療法（スクウィグル）
10	遊戯療法	子どもの心理療法としての遊戯療法について
11	ユングの臨床心理学	ユング自身の人生とその心理学
12	箱庭療法	箱庭療法の実際
13	行動療法	行動を客観的にみて治療する行動療法について
14	認知行動療法	考え方・思考のクセに気づき、治療する認知行動療法について
15	臨床心理学の理解について	全体のふりかえりと確認

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	情報処理と栄養統計Ⅰ				
担当者氏名	原田 昭子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） ◎ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
人間と情報処理について基本的なところを学習し、管理栄養士としてアンケート調査の方法、データの種類、データ処理など統計学の記述統計部分を主として学ぶ。応用として、日本食品標準成分表の食材データや国民栄養の現状のデータを活用して、視覚的な提示方法、コメントの書き方などを学ぶ。頭の整理、授業の復習を兼ねて、授業過程の報告書をＷｅｂＭａｉｌで送信する。

《授業の到達目標》
管理栄養士として食育や栄養指導を行うための効果的な媒体（グラフや表）が作成できる。
情報を収集するにあたり、対象者への気配りの必要性に気づくことができる。
日本食品標準成分表などのデータを処理することを通して、食材への興味関心を持つことができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
毎回の講義後に送付する報告書の完成度(30%)、毎回の提出物の完成度(40%)、ランダムに講義開始時に行う小テスト（10%）、定期試験(20%)

《テキスト》
Windows健康情報処理入門 原田昭子著　春風社

《参考文献》
日本食品標準成分表　科学技術庁調査会編　大蔵省印刷局
国民栄養の現状　健康・栄養情報研究会編　第一出版

《授業時間外学習》
授業を受けるにあたり教科書を読んで予習をしておくことが望ましい。
授業終了後は、学習したことをまとめ自分なりのノートを作成する

《備考》
2年次Ⅱ期開講の情報処理と栄養統計Ⅱで講義に使用したデータ、ファイルを活用する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要	シラバスの説明。調査の際での注意、報告書の書き方。 データの種類（型と尺度）による分類、ファイルの準備、Web Mailの使用方法
2	データの分布の特徴	正規分布（歪度・尖度からみる分布の形状）、食品群別シート作成
3	データのグラフ化	質的データである間食頻度のグラフ作成とコメント記述
4	データのグラフ化	食品群別食品数の分布図、グラフの修飾、コメント記述
5	データの加工	収集したデータを分析いやすいように加工する
6	データのグラフ化	量的データであるエネルギー摂取量についてヒストグラム作成しコメント記述
7	分布の比較	エネルギー食事摂取基準と摂取量のヒストグラムを作成しコメント記述
8	正規分布の特徴	菓子類の含有エネルギー分布図を作成、正規分布の特徴を明記する
9	分布の比較	エネルギー食事摂取基準と摂取量について統計量算出、ヒストグラム作成しコメント記述
10	栄養価の比較	野菜類と果実類の栄養価比較するため統計量算出、ヒストグラム作成しコメント記述
11	栄養価の比較	和菓子とケーキの栄養価比較するため統計量算出、ヒストグラム作成しコメント記述
12	データの散らばりの可視化	食品の含有栄養素間の散布図（フルーツ缶詰のカルシウムとリン）、相関係数
13	栄養価の比較	レーダーチャートによる米の栄養分布（玄米、胚芽精米、精白米）
14	摂取状況	ＰＦＣバランスおよびレーダーチャートによる食品群別摂取状況
15	推移状況	複合グラフによる摂取栄養素年次推移状況（エネルギーと脂質について）

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	情報処理と栄養統計Ⅱ				
担当者氏名	原田 昭子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
基礎的な統計的検定（平均値、χ2など）をExcelを利用して学習する。特に、帰無仮説と対立仮説、検定方法、結論の書き方を学ぶ。データの型によって統計処理の方法が異なることを学ぶ
同じデータを利用して、ＳＰＳＳで統計処理を行い、統計ソフトの活用へとつなげる。

《授業の到達目標》
統計的検定の活用方法を理解することができる。
検定した結果について、まとめることができる。
応用として日本食品標準成分表の野菜と果物、ケーキと和菓子のデータを活用し、両者の栄養価の平均の比較を分析、結果をもとにレポートをまとめる。他の科目で学習したことや栄養士として食品に関する考察力を高めることができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
毎回の統計処理結果提出とその完成度(30%)、ランダムに講義開始時に行う小テスト（20%）、レポート（30%）、定期試験(20%)

《テキスト》
『Windows 健康情報処理入門』　原田 昭子（春風社）・・・Ⅰ期と同じテキストです

《参考文献》

《授業時間外学習》
教科書で予習し、授業後、学んだ検定方法をまとめ自分のノートを作成する。
栄養価の比較、考察するために資料を集め、レポート記述に役立てること。

《備考》
Ⅰ期開講の情報処理と栄養統計Ⅰで作成したデータを利用して、統計処理を行うので、この単位未修得者はデータ準備が必要となることを覚悟しておくこと

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要説明、ファイル整理、復習	復習（調査,データ収集の際の注意）、データの種類（型と尺度）と統計量、母集団と標本。平均の検定（母集団の分散が既知の場合、大標本法）
2	平均の検定	母集団の分散が既知の場合、小標本法 母集団の分散が未知の場合、大標本法
3	平均の検定	母集団の分散が未知の場合、小標本法
4	平均の差の検定	平均の差の検定(大標本法)　対応がある場合
5	平均の差の検定	平均の差の検定(大標本法)　対応がない場合
6	平均の差の検定	Weltchの検定
7	レポート課題	平均に関する検定をまとめる
8	栄養価の比較分析	野菜と果実類の検定結果をもとにレポート形式で研究方法と結果、考察を記述（授業外学習としてレポート完成を課題とする）
9	栄養価の比較分析	和菓子とケーキの検定結果をもとにレポート形式で研究方法と結果、考察を記述（授業外学習としてレポート完成を課題とする）
10	χ2検定	牛乳と性別に関して2×2分割の検定
11	χ2検定	学科と健康度に関して2×3分割の検定
12	χ2検定	食中毒の原因食品の推定、予防接種の有効性など応用問題
13	SPSSによる統計処理	平均に関する検定の確認、SPSS統計処理結果印刷用紙に帰無仮説、対立仮説を明記し、検定結果の根拠を述べる
14	SPSSによる統計処理	χ2検定に関してSPSS統計処理結果印刷用紙に帰無仮説、対立仮説を明記し、検定結果の根拠を述べる
15	効果の検定	健康教室の効果の有無を判定する

科目名	生化学II				
担当者氏名	野田 千征子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
この授業では生化学の中でも細胞生物学・分子生物学と相互に深く関わっている分野を取り上げる。すべての生物は細胞からなる。細胞がもつ機能を分子から理解することにより、生命を理解することを目的とする。生物の中でも真核生物に関して、特にヒトの遺伝情報の伝達と遺伝情報の発現、情報伝達と細胞の機能調節に重点を置いて概説する。「生き物はうまくできているなあ」と感じ、生き物の仕組みに興味をもって欲しい。

《授業の到達目標》
（1）細胞の構造と機能（細胞膜、細胞小器官の構造）と働きを説明できる。（2） DNAとRNAの構造を理解し、遺伝情報を子孫へ伝達する、あるいは細胞が増えるときに新たな細胞へ伝達する仕組みを理解する。（3）細胞と細胞の間の情報伝達が生命を維持するために重要であることを理解する。さらに、細胞が情報を受容し、細胞内の機能を調節する仕組みを理解する。

《成績評価の方法》
定期試験を100%とする。なお、試験は「持ち込み不可」にて実施する。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
『サクセス管理栄養士講座　人体の構造と機能及び疾病の成り立ちI』佐々木康人他（著）、第一出版2011

《参考文献》
『マッキー生化学　第4版』市川厚（監修）、化学同人 2009
『リッピンコットシリーズイラストレイテッド生化学』石崎泰樹・丸山敬（監訳）、丸善株式会社 2008
『分子生物学講義中継part1』井出利憲著、羊土社 2010
『分子生物学講義中継part2』井出利憲著、羊土社 2011

《授業時間外学習》
(1) 予習：授業計画に沿って講義を行うので、教科書を読んでおくこと。
(2) 復習：ノートと教科書を読み、授業内容を再確認し、不明な点を調べること、あるいは質問をすること。復習のためのプリント（問題）を随時配布するので、これを活用すること。

《備考》
人体のことに関心をもつことが不可欠です。暗記ではなく「理解して納得する」ように心がけると、楽しく学ぶことができ、自ずと身につきます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人体の構造と機能の概要	まず、生物とはなにか考えよう。人体を構成する成分についてすでに習得済みではあるが、この授業の理解を促すために、基礎的なことを復習し、しっかりと身につける。
2	細胞の構造	すべての生物は細胞からなることを理解し、細胞の構造を理解する。
3	細胞の構造：細胞膜、細胞小器官	細胞を構成している膜、細胞の中に存在している多様な構造体（細胞小器官）とはどのような物質からなり、どのような働きをしているのかについて学ぶ。
4	細胞の増殖	細胞が増えるしくみ、すなわち細胞が分裂・増殖するしくみを理解する。
5	脂質の代謝：脂質の輸送と蓄積	食物として摂取した脂質ならびに人体でつくられる脂質は、どのような形で体の隅々まで運ばれ、そこでどのようにして取り込まれるのかを理解する。
6	アミノ酸、たんぱく質の代謝(1)	体内のたんぱく質は絶えず、分解と合成されていることを理解し、細胞内でたんぱく質がどのようにして分解されるのか、そのしくみについて理解する。
7	アミノ酸、たんぱく質の代謝(2)	たんぱく質を構成しているアミノ酸はたんぱく質合成の材料となるだけでなく、重要な働きをもつ特殊な化合物の生成材料となることを学習する。
8	核酸の構造	核酸はポリヌクレオチドであるから、ヌクレオチドの構造を学んだあとにDNA・RNAとはどのような構造をしているのかを理解する。
9	ヌクレオチドの代謝	ヌクレオチドは体の中でなくてはならないものである。ヌクレオチドが、何から、どのような経路でつくられるのか、分解されたら何になるのかについて学習する。
10	遺伝子とは何か 遺伝子の複製	遺伝子とは何か、その構造と働きを理解する。遺伝子が細胞から細胞へ、親から子へ受け継がれるしくみを理解する。
11	遺伝子の発現：転写	遺伝子の働きに必要なRNA合成「転写」のしくみを理解する。
12	遺伝子の発現：翻訳	「第11回」のRNA合成に引き続いて、遺伝情報をどのようにしてたんぱく質に変えるのか、「翻訳」のしくみを理解する。
13	恒常性維持とその調節機構：細胞間情報伝達	細胞におけるシグナル伝達とは何か、なぜシグナル伝達をするのか、理解する。細胞外からシグナルを受容する仕組みを理解する。
14	恒常性維持とその調節機構：細胞内情報伝達	細胞がシグナルを受容したあと、細胞内部に情報が伝達されるしくみについて理解する。そしてシグナル伝達のカスケード反応について理解を深める。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知識を再確認し、生命を維持するしくみについて理解を深める。

科目名	生化学実験Ⅰ				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》
生化学および栄養生化学的な講義内容を基礎として、それらの科学的事象に関する種々の項目を実験的手法によって確認し、理解を深める。併せて機器を用いた分析の原理および技術を習得する。主に、生体成分各種の化学的特性、酵素および酵素反応諸相の特性、尿および血液成分の分析、免疫に関する実験を実施する。

《授業の到達目標》
・タンパク質・糖質の定性実験、酵素に関する実験、尿・血液成分の分析、免疫実験をとおして、各々の実験原理や方法、生体成分の特性について理解し、説明できる。
・実際に実験を行うことで、各種の実験手法を身につけることができる。
・課題やレポートについて、指定した書式や内容を守って期限内に提出できる。

《成績評価の方法》
・課題および実験レポート：50%（提出遅れについては減点する）、筆記試験：50%の割合で成績評価を行う。
・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。遅刻3回で1回の欠席とする。

《テキスト》
随時、プリントを配付する。

《参考文献》
「生化学実験」林淳三編　（建帛社）
「生化学実験」田代操編　（化学同人）
「はじめてみよう生化学実験」山本克博編（三共出版）

《授業時間外学習》
・事前に配布する資料プリントをしっかり読んで、実験の目的や原理を理解してくること。
・実験内容について再確認し、不明な点や疑問点は質問したり自分で調べたりすること。
・実験結果については、データを整理・分析して期限内にレポートを作成すること。

《備考》
・授業初回に実験時および実験室でのルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の定性実験	ビウレット反応、硫化鉛反応、キサントプロテイン反応の原理や方法を理解するとともに、タンパク質・アミノ酸の化学的な特性を確認する。
2	糖質の定性実験	フェーリング反応、銀鏡反応、セリワーノフ反応の原理や方法を理解するとともに、糖質の化学的な特性を確認する。
3	酵素に関する実験(1)	酵素活性の諸因子による変化および唾液アミラーゼによる消化実験の原理や方法について理解する。
4	酵素に関する実験(2)	唾液アミラーゼを用いた酵素濃度によるデンプン分解の変化について確認する。
5	酵素に関する実験(3)	唾液アミラーゼを用いた反応時間によるデンプン分解の変化について確認する。
6	酵素に関する実験(4)	唾液アミラーゼを用いた反応温度によるデンプン分解の変化について確認する。
7	尿成分の分析(1)	尿成分および尿成分の分析に必要な実験原理や方法、使用機器について理解する。
8	尿成分の分析(2)	クレアチニンの定量実験の原理や方法について理解し、尿中のクレアチニン量を測定する。
9	尿成分の分析(3)	尿素の定量実験の原理や方法について理解し、尿中の尿素窒素と尿素量を測定する。
10	尿成分の分析(4)	ビタミンB1とビタミンCの定性実験の原理や方法について理解し、尿中のビタミンB1とビタミンCの存在を確認する。
11	尿成分の分析(5)	ビタミンB2の定性実験の原理や方法について理解し、尿中のビタミンB2の存在を確認する。
12	免疫（抗原・抗体反応）に関する実験	免疫（抗原・抗体反応）についての基礎知識およびオクタロニー法による抗原抗体反応の原理や方法を理解し、動物血清を用いて抗原抗体反応を確認する。
13	血液成分の分析	血液の成分および電気泳動分析の原理や方法を理解し、セルロースアセテート膜電気泳動による血清タンパク質の分離を確認する。
14	学習のふり返り	タンパク質・糖質の定性実験、酵素実験、尿・血液成分の分析実験、免疫実験から得られた知見を確認し、各々の実験原理や生体成分の特性について理解を深める。
15	学習のまとめ	提出した課題やレポートをもとに問題に取り組み、学習内容を再確認する。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学実験Ⅱ				
担当者氏名	野田 千征子、亀谷 小枝				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
この授業では、「生化学Ⅰ」・「生化学Ⅱ」の授業で学んだことを(1)実験を通じてより深い理解を得ること、(2)研究方法や実験技術を修得することを目的とする。生物とは何かと考えたとき、さまざまな働きを担っている物質の中で、主役としてたんぱく質と遺伝情報をもつDNAを挙げることができる。講義とは違う角度からこれらの生体成分について関心を高めて欲しい。

《授業の到達目標》
・実験の方法と原理を充分に理解し、 その手技を習得する。
・実験によって得られたデータからどのようなことがわかるのかを考察することによって、考える力を養うことが肝要である。

《成績評価の方法》
課題および実験のレポート：50%、筆記試験：50%で評価する。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
プリントを配付する。

《参考文献》
『生化学実験』林淳三編著、建帛社
『生化学実験』田代操編著、化学同人
『基礎生化学実験　第4館　核酸・遺伝子実験Ⅰ 基礎編』日本生化学会編、東京化学同人

《授業時間外学習》
(1)予習：配布物を読み、当日の実験内容を把握して授業に臨むこと。
(2) 復習：ほぼ毎回、実験の目的・方法・結果・考察をレポートとしてを提出することになるので、理解不十分な箇所を自分でしらべ、充実した内容のレポートを作成することを心がける。

《備考》
実験の方法と原理を充分に理解し、各段階での操作が何を目的として行われるのか、その意味を考えながら進めなくてはならない。（ロボットになってはいけない）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	酵素反応速度論に関する実験（1）	トリプシンを用いた酵素反応速度論に関する実験の原理を理解し、酵素実験に必要なp-ニトロアニリンの検量線を作成する。
2	酵素反応速度論に関する実験（2）	トリプシンを用いた酵素反応速度と時間経過および酵素反応速度と酵素量の関係について確認する。
3	酵素反応速度論に関する実験（3）	トリプシンを用いた酵素反応速度と基質濃度の関係について確認する。
4	酵素反応速度論に関する実験（4）	酵素反応速度と基質濃度の関係から最大反応速度とミカエリス定数について理解する。
5	酵素反応速度論に関する実験のまとめ	酵素に関する基礎知識を理解するとともに、酵素反応速度論に関する実験から得られた知見を再確認し、酵素反応速度論に関する理解を深める。
6	タンパク質の定量(1)	３種類のタンパク質溶液を用いて、タンパク質の定量法である紫外部吸収法とLowry法の原理や特性（長所と短所）について理解する。
7	タンパク質の定量(2)	３種類のタンパク質溶液を用いて、タンパク質の定量法である色素結合法の原理や特性（長所と短所）について理解する。
8	タンパク質の分離・精製（1）	ヘモグロビンおよびシトクロームcをゲルろ過カラムクロマトグラフィーによって分離し、その原理を理解する。
9	タンパク質の分離・精製（2）	ヘモグロビンおよびシトクロームcをCM-セルロース（陽イオン交換体）カラムクロマトグラフィーによって分離し、その原理を理解する。
10	核酸に関する実験（1）	DNA二重らせんおよびRNAの模型を作成し、核酸の構造を理解する。
11	核酸に関する実験（2）	DNAの定量法を習得し、2本鎖DNA を加熱すると、1本鎖となることを確かめ、さらに室温にもどすと再結合することも確認する。
12	核酸に関する実験（3）	DNAを取り扱う際の注意点を学ぶ。組み替えDNA作成に有用な制限酵素についての理解を深めるために、実際に制限酵素を使う実験を行う。
13	核酸に関する実験（4）	第12回で酵素反応を行った試料について、アガロース電気泳動により、制限酵素で基質DNAが予測どおりに切断されているかどうかを確認する。
14	後半のまとめ	第8ー12回までの学習内容と提出レポートを確認し、理解を深める。
15	全体のまとめ	問題に取り組み、学習内容を再確認する。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学・人体生理学 II				
担当者氏名	大西　隆仁				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
泌尿器系、内分泌系、神経系、生殖器系などの構造と機能について概説する。

《授業の到達目標》
適切な栄養指導を行うためには、病態を理解する必要があり、正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、管理栄養士に必要な人体の構造と機能について理解することを目標とする。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
レポートや筆記試験により評価する。

《テキスト》
栄養解剖学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　（志村二三夫、岡純、山田和彦　編、羊土社）

《参考文献》
系統看護学講座　専門基礎①　解剖生理学　第７版（坂井建雄、岡田隆雄　著、医学書院）、
人体の構造と機能　第2版（佐藤昭夫　著、医歯薬出版）

《授業時間外学習》
学習教科内容の予習、復習をする。レポートを作成し期限内に提出する。

《備考》
私語を慎むこと。その他、講義室でのルールを守らない場合は、成績評価を行わない場合もあるので注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	体液の調節と尿の生成（1）	腎臓の構造と機能
2	体液の調節と尿の生成（2）	体液の調節、酸塩基平衡、脱水、電解質の異常
3	内臓機能の調節（1）	自律神経系による調節
4	内臓機能の調節（2）	内分泌系による調節①
5	内臓機能の調節（3）	内分泌系による調節②
6	からだの支持と運動（1）	骨の構造と機能
7	からだの支持と運動（2）	筋肉の構造と機能
8	情報の受容と処理（1）	脳と脊髄
9	情報の受容と処理（2）	脳神経と脊髄神経
10	情報の受容と処理（3）	視覚、聴覚
11	情報の受容と処理（4）	平衡覚、味覚、嗅覚、疼痛
12	外部環境からの防御	皮膚の構造と機能、体温の調節
13	生殖・発生と老化のしくみ（1）	男性生殖器、女性生殖器の構造と機能
14	生殖・発生と老化のしくみ（2）	受精と胎児の発生、成長と老化
15	まとめ	復習と問題

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	栄養解剖学実験				
担当者氏名	大西　隆仁				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》
人体の各臓器の構造を理解するため、人体模型の観察やラットの解剖、組織標本のスケッチなどを系統的に組み込んだ実験を行う。

《授業の到達目標》
傷病者に対して適切な栄養指導を行うためには、それぞれの病態とその病態に対する栄養素の効果を熟知しておく必要がある。病態を理解するには正常な人体の構造と機能に関する知識が不可欠である。この科目では、人体各部の器官や組織の名称を知り、位置関係や構造を理解することを目標とする。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
レポート（スケッチ含む）と筆記試験で評価する。

《テキスト》
栄養解剖学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　（志村二三夫、岡純、山田和彦　編、羊土社）

《参考文献》
系統看護学講座　専門基礎①　解剖生理学　第７版（坂井建雄、岡田隆雄　著、医学書院）、
人体の構造と機能　第2版（佐藤昭夫　著、医歯薬出版）

《授業時間外学習》
学習教科内容の予習、復習をすること。レポートやスケッチを作成し期限内に提出すること。

《備考》
実験用白衣を必ず着用し、筆記用具・色鉛筆等を持参すること。下記授業内容の1週は、学則に基づいた4時間分で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	人体模型の観察とスケッチ
2	顕微鏡の取り扱い	上皮組織、支持組織
3	結合組織	筋組織、血管、血液細胞
4	消化器系（1）	唾液腺（顎下腺、耳下腺、舌下腺）、食道
5	消化器系（2）	胃、小腸（十二指腸、空腸、回腸）、大腸
6	消化器系（3）	肝臓、膵臓
7	解剖（1）	ラットの解剖とスケッチ（1）（前半）
8	解剖（2）	ラットの解剖とスケッチ（2）（後半）
9	呼吸器系	気管支、肺
10	尿路系	腎臓、尿管、膀胱
11	生殖系	男性生殖器、女性生殖器
12	皮膚組織	表皮と真皮
13	その他（1）	内分泌系など
14	その他（2）	腫瘍組織など
15	まとめ	復習と問題

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	人体生理学実験				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）				

《授業の概要》
様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。
毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》
○身体の様々な部位の計測や機能測定の意義と原理を理解できる。
○正常の人体機能と、その調整機構を理解できる。

《成績評価の方法》
(1) レポート 55% (2) 定期試験 45%の割合で評価する。また、授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合には、定期試験受験資格を失う。

《テキスト》
実験プリント（適宜配布）

《参考文献》
メディカルノート　検査の基本（下条文武　遍、西村書店）
解剖生理学　人体の構造と機能　第2版　（河田光弘・三木健寿著、　講談社サイエンティフィック）
図説組織学　（溝口史郎　著、金原出版）

《授業時間外学習》
レポートの作成が必須である。感想文や結果だけのレポートにならないように注意すること。実験で得られた結果を基に、そこから発生した疑問について自分なりに調べて考察すること。

《備考》
本実験は、4号館2階212教室（生理学実験室）で行う。実験用白衣を必ず着用し、A4版レポート用紙・筆記用具・色鉛筆・電卓等を持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体計測に関する実験	身長・体重・皮下脂肪厚等の測定による栄養状態の推定法について理解する。
2	バイタルサインの測定	血圧、脈拍、体温、呼吸数の測定による健康状態の推定法について理解する。
3	循環器系に関する実験	心電図の測定、心音の聴取および評価について理解する。
4	呼吸器系に対する実験	肺機能検査、肺活量の測定を通じて肺疾患について理解する。
5	エネルギー代謝に関する実験	安静時代謝量の測定結果より必要エネルギーの推定を行う。また、InBodyを用いた体成分分析について理解する。
6	神経に関する実験	神経に関する実験（視野、反射、自律神経）
7	ホルモンの実験	マウスにインスリン・グルカゴン・アドレナリンなどのホルモンを投与し、血糖値に対する作用を理解する。
8	血液の実験	マウスの血液を染色し、赤血球・白血球・血小板など様々な血球成分について理解する。
9	脳の実験	マウスの大脳を解剖し、その構造について理解する。
10	レントゲン検査に関する実験	実際のレントゲン写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
11	腹部エコー検査に関する実験	腹部エコー写真と腹部ＣＴ写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
12	内視鏡検査に関する実験	内視鏡写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
13	まとめ１	これまでの学習内容を再確認する。
14	まとめ２	これまでの学習内容を再確認する。
15	まとめ３	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	臨床病態学Ⅰ				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。

毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

○細胞から臓器・個体まで、その構造・機能を理解できる。
○これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。
○様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《成績評価の方法》

(1) 小テスト 14% (2) レポート 36% (3) 定期試験 60%の割合で評価する。また、授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合には、定期試験受験資格を失う。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考文献》

人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ （第一出版）
人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅡ （第一出版）

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《備考》

第6回講義後にレポート課題を提示するので、2週間以内に手書きレポートを提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ミトコンドリア	エネルギー産生の場ミトコンドリアでどのようにＡＴＰが合成されていくかを理解する。
2	染色体	染色体中の遺伝情報がどの様に利用されているかを理解する。
3	酸化ストレスと加齢・死	どうして個体は老いていくのか、どうすれば老いないのか、を理解する。
4	インスリン	栄養学には最も重要なホルモンのひとつである。その作用を細胞別に理解する。
5	コルチゾル	ストレスに対抗するホルモンである。その作用を基に様々な疾病を理解する。
6	ウイルス	一般的なウイルス感染症－インフルエンザーを例にして、ウイルスとは何なのかを理解する。
7	自然免疫と獲得免疫	一般的な免疫システムについて理解する。
8	免疫異常・アレルギー	免疫異常による疾病について理解する。
9	メタボリック症候群	肥満に起因する疾患の代表としてメタボリック症候群について理解する。なぜ肥満になると不健康になっていくのかを理解する。
10	脂質代謝異常	体内での脂質代謝について理解し、脂質異常症にいたる機序を理解する。
11	糖代謝異常	体内での糖代謝について理解し、糖原病の症状および治療法を理解する。
12	レニン・アンギオテンシン・アルドステロン系	体内でどの様に血圧がコントロールされているか理解する。
13	浸透圧	浸透圧という言葉の定義を理解する。これが様々な生命現象に利用されていることを理解する。
14	アルコール・薬物中毒	依存症の発症機序を理解し、そうならないためにどうすればよいか、そうなったらどうすればよいか、を理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	臨床病態学Ⅱ				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。

毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものであり、基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養うことを目的とする。

《授業の到達目標》

○細胞から臓器・個体まで、その構造・機能を理解できる。
○これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。
○様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《成績評価の方法》

(1) 小テスト 14% (2) レポート 36% (3) 定期試験 60%の割合で評価する。また、授業欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合には、定期試験受験資格を失う。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考文献》

人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ （第一出版）
人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅡ （第一出版）

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《備考》

第6回講義後にレポート課題を提示するので、2週間以内に手書きレポートを提出すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	糖尿病の発症機序	糖尿病の分類と、それぞれの発症機序の違いを理解する。
2	糖尿病の発症機序合併症	糖尿病による急性期および慢性期合併症について理解する。
3	糖尿病治療薬	糖尿病の発症機序を理解した上で、様々な治療薬の作用を体系付けして理解する。
4	浸透圧調節とその異常	浸透圧の調節機構の破綻による疾患をまとめ理解する。
5	甲状腺ホルモン	代謝を亢進するホルモンである。その作用を基に様々な疾病を理解する。
6	アミノ酸・核酸代謝異常	小児マススクリーニング対象疾患や高尿酸血症について理解する。
7	酸塩基平衡の基礎	酸塩基平衡の定義と、それをを調節するシステムについて理解する。
8	酸塩基平衡の異常	酸塩基平衡の異常を来す疾患について理解する。
9	心肺蘇生法	心肺蘇生の方法とＡＥＤ使用法について理解する。
10	食欲調節と神経性食思不振症	食欲の調節メカニズムと摂食障害について理解する。
11	性ホルモンと更年期障害	性周期の調節システムとその破綻による身体的影響について理解する。
12	骨代謝	骨再構築と血中カルシウムの調節機序について理解する。
13	貧血	様々な種類の貧血の分類と発症機序を理解する。
14	血液凝固	止血のシステムと、その異常による疾患について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品衛生学				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

「食品から生命を衛（まもる）」食品衛生は、食のグローバル化によりますます重要となっている。生肉ユッケによる腸管出血性大腸菌0111感染、原発事故による放射能汚染、農薬汚染など食の安全を脅かす問題が相次いで発生している。食品衛生行政における食の安全に対する取り組みなど、最近の話題も含め食の専門家として知っておかないといけない基礎と実際を学習する。

《授業の到達目標》

① 食品の安全性確保のためのシステムを理解・説明できる（国内産食品・輸入食品の比較）。 ② 食中毒の分類、食品汚染物質、食による感染症などの理解とそれら防止対策の方法を提言できる。 ③ 主要な食品衛生関連法規の理解と事象の根拠を説明できる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度、学習意欲 20% （小試験の成果により評価）。 (2) 定期試験 80% （なお、試験は教科書等の「持ち込み不可」にて実施する）。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》

「新入門食品衛生学」、和泉喬・小田隆弘・貞包治夫・堀井正治・松岡麻男 共著 （南江堂：最新版）

《参考文献》

『食品安全の事典』、日本食品衛生学会 編 （朝倉書店）
： 〈学生版〉 『新訂 原色食品衛生図鑑』、細貝祐太郎・菅原龍幸・松本昌雄・川井英雄 編集 （建帛社）

《授業時間外学習》

(1) 予習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等をノートに整理する。不明点は授業中に質問し、理解を深める。
(2) 復習：授業内容の再確認、不明点は、さらに質問または自分で調べること。 (3) 国内と海外での食品衛生対策はどのように違いがあるのか調べてみる。

《備考》

食とは人を良く （健康に）することであり、本科目を通じ、食の安全性と健康管理に関する知識と技術を身につける。また、日常生活の中で事象観察にも目を向けるよう心掛ける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、食品衛生学へのいざない	「食品衛生学」で何を学ぶのか・・・？
2	食品衛生の概念と定義	プロジェクター（映像）を使い、食品衛生学の全体像を把握し、理解を深める。
3	食品衛生行政	行政システム、食品衛生監視員・食品衛生管理者(責任者)、国産食品と輸入食品
4	食品衛生関係法規	食品衛生法・食品安全基本法・健康増進法など、規格基準、消費期限と賞味期限、表示マーク、国際規格、特別用途食品、特定保健用食品
5	食品と微生物	微生物の種類と性状、微生物の増殖と環境、食品微生物
6	食品の変質とその防止	変質の概要、微生物による変質・腐敗、化学的な変質・油脂の酸敗、変質の防止法
7	食中毒	定義と分類、発生状況、微生物・自然毒・化学物質による食中毒、マスターテーブル法（疫学的方法）
8	食品と感染症	経口感染症の概要、主要な経口感染症
9	経口的寄生虫疾患	寄生虫感染の実態、食品原料別にみる寄生虫
10	有害物質による食品汚染	カビ毒、農薬、有害な金属、内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン）、放射性物質など
11	食品添加物	食品添加物の概念、種類と用途、成分表示、安全性評価
12	食品用の器具・容器包装	食品用の器具とは・・・？容器包装材料の特性、台所用洗浄剤の種類・安全性
13	食品衛生管理	食品衛生対策（家庭内・給食施設など含む）、食品製造総合衛生管理過程、危害分析重要管理点（HACCP）、
14	食品の安全性問題	輸入食品の安全性、牛海綿状脳症（狂牛病、BSE）、遺伝子組換え食品の安全性、放射線照射食品の安全性
15	まとめ（総括）	これまでの学習内容と得られた知識を再認識し、その具体的な事象について説明することができる。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実習Ⅱ				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》

食の管理を担う者として、調理に関する基礎知識、基礎調理操作、食事環境等を通して、多様な調理への応用力を養います。日本料理、西洋料理、中国料理の実習をとうして献立構成を理解し、調理技術の向上と献立作成、作業計画・管理ができるように実習を行う。

《授業の到達目標》

実習を通して調理の理論と実習を関連づけ、食品の調理生、調理操作の向上を図る。
食品の特性、料理の常用量を把握し、調味料割合を理解し適正な調味ができる。
料理の組み合わせを理解し、献立作成ができる。調理作業手順を考え高率のよい作業、行動ができる。

《成績評価の方法》

①授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は成績評価の対象外とする。
②筆記試験70%
③レポート30%

《テキスト》

『たのしい調理―基礎と実習』※1年次購入済み
『食品成分表』※1年次購入済み
その他プリント配布

《参考文献》

『調理と理論』山崎清子他（同文書院）
『コツと科学の調理事典』河野友美他（医歯薬出版）
『日本食品大事典』杉田浩一他（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

調理操作、技術の修得は実習時間だけで身に付くものではないため、各自自宅で調理する機会を積極的に持つことが必要である。実習前には、料理の材料、手順を理解して作業効率を考えて実習できるよう予習を必ずすること。

《備考》

食品衛生、公衆衛生の立場から実習時は、手指・服装・頭髪などの身支度に留意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習Ⅱの概要	授業展開のあらまし、成績評価方法の説明
2	日本料理	
3	西洋料理	
4	中華料理	
5	日本料理	
6	西洋料理	
7	中華料理	
8	日本料理	
9	西洋料理	クリスマス料理
10	日本料理	正月料理
11	自主献立Ⅰ	食品構成から献立作成、発注
12	中華料理	イーストの調理生
13	自主献立Ⅱ	自主献立実習　　作ってみよう自主献立
14	まとめ	
15	実技試験	

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	栄養学実習				
担当者氏名	松村　末夫				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアーシップ力・共感力を含む）				

《授業の概要》
実験動物を、すべての栄養素を含む食餌及び限定した栄養素を含む食餌、または限定した量の食餌で飼育し、ラットの体重や体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、諸臓器等の変化を観察・測定し、観察・測定結果をもとに、各種栄養素のはたらきを理解する。また生体成分の分析・消化酵素の作用についての実習を行う。

《授業の到達目標》
各種栄養素の過不足により、どのような変化が生じ、なぜそのような変化が生じるのかを考えることができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。実習態度（２０％）、レポート（８０％）により評価する。

《テキスト》
なし、実習資料を配布予定

《参考文献》
『Nブックス　実験シリーズ　基礎栄養学実験』木元幸一・鈴木和春編著（建帛社）2009
『小動物を用いる栄養実験』細谷憲政・印南敏・五島孜朗編著（第一出版）1980

《授業時間外学習》
実習の説明をよく聴き、実習内容をよく理解しておくこと。実習資料の内容を理解しておくことレポートを作成すること。
ラットの飼育と観察。

《備考》
注意深く実習・実験を行い、注意深く観察・測定を行い、観察・測定結果が何を意味するものであるのかをしっかりと考えてみましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実習・実験についての説明、討議
2	ラットの飼育	食餌の調製とラットの飼育の開始
3	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
4	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
5	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
6	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果についての討議。異なった食餌の調製とラットの飼育の開始
7	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
8	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
9	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
10	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定
11	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果についての討議。ラットの解剖、諸臓器の観察、測定。
12	ラット諸臓器の成分分析	ラット諸臓器の成分分析
13	消化酵素の作用	栄養素の消化酵素による消化と消化産物の分析
14	ラット諸臓器の成分分析	ラット諸臓器の成分分析、分析結果についての討議
15	実習のまとめ	実習内容および実習結果について要点をまとめる。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	応用栄養学Ⅰ(ライフステージ栄養)				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別特性からヒトの一生を分類し、各ｽﾃｰｼﾞにおける身体状況や生理的特徴、生活環境などを学ぶ。即ち妊娠や発育,加齢などによる人体の構造や機能の変化について、そしてそれに伴う栄養の在り方とともに栄養に関連した疾患についても学修し、栄養状態の評価･判定からｹｱについて学ぶ「栄養管理学」へと繋げることを目標とする。

《授業の到達目標》
○ﾋﾄの胎生期から高齢期にいたる各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ毎の発育･発達、加齢に伴う生理的、形態的特性や環境の変化について。
○各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞにおける栄養に関連した疾患について。
○身体と栄養素の関係や健康増進,疾病予防に寄与する栄養素の機能について。
以上の項目について理解する。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上のものは、成績評価対象外とする。定期試験の結果を中心とし、ﾚﾎﾟｰﾄ,小テスト,受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験70%、小ﾃｽﾄ20%、その他（ﾚﾎﾟｰﾄや受講態度など）10%を原則。

《テキスト》
『ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた人間栄養学　応用栄養学』森基子,玉川和子他著医歯薬出版、『管理栄養士･栄養士必携』日本栄養士会編　第一出版

《参考文献》
『日本人の食事摂取基準2010年版』　第一出版、
『応用栄養学』戸谷誠之,伊藤節子,渡邊令子編　南江堂
『新しい臨床栄養学』後藤昌義,瀧下修一著　南江堂
ﾈｵｴｽｶ『応用栄養学』江指隆年,中嶋洋子編著　同文書院

《授業時間外学習》
授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので、読んでおくこと。

《備考》
遅刻や早退を3回すると欠席1回とし、30分以上の遅刻や早退は欠席扱いとする。定期試験の出題範囲は知らせる。小ﾃｽﾄ等の予告は、原則としてしない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	応用栄養学について	授業内容と受講時における決まりごとの説明。 発育・発達・加齢変化と栄養について
2	成長期の栄養①	新生児期・乳児期の特性、栄養補給
3	成長期の栄養②	新生児期・乳児期における栄養関連の疾患
4	成長期の栄養③	幼児期の特性
5	成長期の栄養④	幼児期における栄養関連疾患
6	成長期の栄養⑤	学童・思春期の特性
7	成長期の栄養⑥	学童・思春期における栄養関連疾患
8	成人期の栄養①	成人期の特性
9	成人期の栄養②	成人期と生活習慣病
10	母性栄養①	妊娠期の特性
11	母性栄養②	妊娠期における栄養関連疾患
12	母性栄養③	授乳期の特性と栄養関連疾患
13	更年期の栄養	更年期の特性と栄養関連疾患
14	高齢期の栄養①	高齢期の特性
15	高齢期の栄養②	高齢期における栄養関連疾患

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	栄養管理学				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》
現在の日本では、生涯にわたる健康づくりが望まれている。健康づくりの3要素として、栄養･運動･休養の重要性があげられるが、とりわけ栄養管理は基本となる。人びとの栄養状況を正しく評価した上で健康づくりを総合的に推進することができるように、ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別に「応用栄養学Ⅰ」で学んだ各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの基礎的知識を基にして、栄養上の特徴、栄養状態の評価･判定および適切な栄養管理の在り方を学修する。

《授業の到達目標》
○健康の保持増進を目指し、身体と栄養の関係を知る。
○「栄養管理」について理解する。
○「応用栄養学Ⅰ」で学んだ各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞの基礎的知識を基にして、各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞにおける栄養状態を総合的に評価・判定し、身体状況に応じた栄養管理の在り方を理解できる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上のものは、成績評価対象外とする。定期試験の結果を中心とし、ﾚﾎﾟｰﾄ,小テスト,受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験70%、小ﾃｽﾄ20%、その他（ﾚﾎﾟｰﾄや受講態度など）10%を原則。

《テキスト》
『ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた人間栄養学　応用栄養学』森基子,玉川和子他著医歯薬出版、『管理栄養士･栄養士必携』日本栄養士会編　第一出版『日本人の食事摂取基準2010年版』　第一出版

《参考文献》
『応用栄養学』戸谷誠之,伊藤節子,渡邊令子編　南江堂
『栄養食事療法の実習　栄養ｱｾｽﾒﾝﾄと栄養ｹｱ』本田佳子編　医歯薬出版
『国民健康栄養の現状』健康･栄養情報研究会編　第一出版

《授業時間外学習》
授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので、読んでおくこと。

《備考》
遅刻や早退を3回すると欠席1回とし、30分以上の遅刻や早退は欠席扱いとする。定期試験の出題範囲は知らせる。小ﾃｽﾄ等の予告は、原則としてしない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養管理学ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	栄養ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの概要と受講時における決まりごとの説明
2	栄養ｱｾｽﾒﾝﾄ①	種類と方法：身体計測,臨床検査他
3	栄養ｱｾｽﾒﾝﾄ②	種類と方法：臨床検査,調査他
4	栄養ｹｱ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ・評価	栄養ｹｱ・ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑについて、栄養評価の種類など
5	食事摂取基準①	総論
6	食事摂取基準②	総論
7	食事摂取基準③	各論：ｴﾈﾙｷﾞｰ
8	食事摂取基準④	各論：たんぱく質
9	食事摂取基準⑤	各論：脂質
10	食事摂取基準⑥	各論：ミネラルとビタミン
11	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別栄養管理について	①妊娠･授乳期
12	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別栄養管理について	②乳児期
13	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別栄養管理について	③学童・思春期
14	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別栄養管理について	④成人期
15	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞ別栄養管理について	⑤高齢期

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養教育論				
担当者氏名	真鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

国民栄養の現状と問題点を明確にし、栄養管理が疾病予防や健康増進に深く関わることを学び、栄養管理の重要性を理解する。さらに、食知識・食態度、実際的調理技術(スキル)や社会資源の活用、周囲の行動・態度、社会・生活環境の影響をうけて段階的に形成されることを理解し、食行動変容に必要な理論を学ぶ。また、適切な食行動形成と健康増進に必要な栄養教育の理論と方法論についても理解をすすめる。

《授業の到達目標》

(1)食行動が個人のみならず、環境の影響もうけて形成されることを理解し説明できる。
(2)行動変容実現に必要な①問題行動の要因分析と健康的食行動の実践を誘導する行動科学理論、②教育計画の企画・立案で必要な教育学、③個別教育に必要なカウンセリングスキル、に関する基礎知識を習得する。

《成績評価の方法》

(1)定期試験の結果により成績評価を行う(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する)。
(2)授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》

『エッセンシャル　栄養教育論』春木　敏編、医歯薬出版、2009

《参考文献》

『栄養指導のためのヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2003
『実践ヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2001
『平成21年度国民健康・栄養調査報告書』厚生労働省、2011

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。
(2)復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。
※忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

日常生活の中で「？」と考える瞬間を持つように心がけてること。
開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」。「遅刻」3回で「欠席」1回

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育の目的・目標	栄養教育の内容を提供する教育者と受け取る学習者が、互いに影響し合い、成長し合い、学び合うことで、信頼・尊重できる人間関係の重要性を理解できる。
2	栄養教育の対象と機会	ライフステージ・スタイル、健康状態からどのように対象者を捉え、どのような場を設定しなければならないかを把握できる。
3	栄養教育の課題と行動科学理論の選択と展開	対象である学習者の課題に応じた行動科学的手法を選択し、どのように勧めていけるかを考える基本的な能力について理解する。
4	栄養教育マネジメントでの行動科学理論の活用	個々の学習者の状況を把握し、どのように行動科学理論を活用できるかの判断基準について理解する。
5	刺激-反応理論とヘルスビリーフモデル	レスポンデント条件付けやオペラント条件付けの基本となる刺激-反応理論やヘルスビリーフモデルの基本的理念を理解する。
6	行動変容段階モデル	行動変容段階モデル(ヘルスビリーフモデル)が体重コントロール、高脂肪食の改善、適正飲酒や運動の影響など、種々の生活改善に応用できることを説明できる。
7	合理的行動理論と計画的行動理論	目標とする生活習慣の改善や実践の各段階で的確に伝えるための段階的な計画の基となる理論を理解する。
8	社会的認知理論とソーシャルネットワーク等	社会的認知理論(社会的学習理論)が人の行動を通して、環境や行動が人との間で相互関係にあることを理解する。
9	プリシード・プレシードモデル	社会・疫学アセスメントの基となる対象の情報から、目標設定・課題の優先順位・実施方法の検討・計画設定、さらに、各段階でのアセスメントを行う必要性を理解する。
10	刺激統制法と反応妨害・拮抗法	行動変容に必要な環境条件の整備や不安・強迫管などの心理的状態への対応に対する基本的理論を理解する。
11	行動置換とオペラント強化	目的行動の防止のため、あるいは他の行動を強化するための理論的な基礎事項を理解する。
12	認知再構成と意思決定バランス	不都合な事項を都合よくする手法や「恩恵」と「負担」のバランスが意思決定につながることを理論的に理解する。
13	目標宣言・行動契約とセルフモニタリング	行動変容を起こすための目標設定と行動を規定し、自らがその行動を管理するための手法について理解する。
14	自己効力感とストレスマネジメント	行動に対する自信の強弱が行動変容に影響を与え、またその行動で生じるストレスをどのように管理するかという基本的理論を理解する。
15	ソーシャルスキルトレーニング	認知行動療法であり、コミュニケーション技術・能力の向上により困難を克服する技法の基礎理論を理解する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	健康栄養教育論				
担当者氏名	藤田 裕子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

栄養教育の実践基礎知識を学ぶだけに留まらず、管理栄養士として自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定、実践を行う。このことで、対象者側の気持ちを理解しつつ、説得力のある健康栄養教育の実践力を培う。

栄養教育の実際として、ライフステージ別の具体的な教育事例を様々な教材を使用し学んでいく。コーチング等を理解することで対象者の自発的な行動を促す支援方法を学ぶ。

《授業の到達目標》

○食事バランスガイドを説明でき、適正量を理解した上で、食事バランスを整えることができる。
○健康づくりのための身体活動量を理解し、現在の身体活動量についてのチェックができる。自らの身体活動量の目標達成のために、工夫して活動量を増やすことができる。
○ライフステージ別の栄養教育の実践に必要な知識と技術について理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験（60%） 課題等の提出物（20%） 授業中に実施する小テスト・レポート（20%） （※授業実施回数の1/3以上欠席したものは定期試験の受験資格を失う。）

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論』 春木敏 編（医歯薬出版）
必要に応じてプリント・教材を配布

《参考文献》

『「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル』日本栄養士会 第一出版 / 『ニュートリションコーチング』柳澤厚生 医歯薬出版 / 『コーチングで保健指導が変わる』柳澤厚生 医学書院 / 『ライフスキルを育む食生活教育』JKYB研究会 東山書房 / 『子どもの医学シリーズ④ 食事で子どもを変える本』二木武 世界文化社

《授業時間外学習》

(1) 予習方法：教科書の次回授業範囲を読んでおくこと。
(2) 自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定と実践を行うこと。（課題としてセルフモニタリングを数回実施）

《備考》

この授業を通して、自分自身が適切な食事や運動を心がけれるようになりましょう。そのことが、健康栄養教育の基盤につながります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食行動から捉える栄養教育	現代人の食行動にみられる問題点の背景について理解できる。楽しいゲーム的な栄養教育の体験。
2	栄養教育のための実践基礎知識Ⅰ	3食品群、6つの基礎食品群、食事バランスガイドなど、わかりやすい食事チェック教材がマスターできる。
3	栄養教育のための実践基礎知識Ⅱ	健康づくりのための運動指針を理解できる。自身の活動量をモニタリングし、健康的な身体活動計画を立てることができる。
4	栄養教育の方法	栄養教育に必要なスキル、効果的な教材の特徴が理解できる。
5	コーチングの栄養教育への適用	コーチングの概要と特徴がわかる。コーチングを栄養教育に適用した事例のロールプレイを行うことで対象者の気持ちの理解と、コーチングの効果を実感できる。
6	妊娠期を対象とする栄養教育	「妊婦の食事相談」のロールプレイを行うことで、妊娠期の栄養教育の特徴と留意事項、指導の流れがわかる。
7	授乳期を対象とする栄養教育	乳汁栄養と離乳食の特徴と留意事項がわかる。離乳期の食事相談には、どのようなものがあり、どのように答えたらよいかがわかる。
8	幼児期を対象とする栄養教育	幼児期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。遊び食べや野菜嫌いなどの食事相談にはどう答えるべきかが説明できる。
9	児童期を対象とする栄養教育	児童期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「おやつの選択」をテーマにした授業案を行い、児童目線で栄養教育を捉えることができる。
10	思春期を対象とする栄養教育	思春期の栄養教育の特徴と留意点がわかる。「丈夫な骨を作ろう」というテーマの授業案を体験し、カルシウム等の摂取について、自己管理能力を高められる。
11	成人期を対象とする栄養教育	成人期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「生活習慣病予防」をテーマにした模擬指導を体験し、セルフモニタリングを行うことで理解を深めることができる。
12	高齢者を対象とする栄養教育	高齢期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「お腹をすかしておいしく食べよう」という指導案を楽しく行うことで、指導展開を理解できる。
13	障がい者及び疾病者を対象とする栄養教育	障がい者、疾病者の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。それぞれの対象者にとって必要とされる栄養教育はどのようなものであるかを、自分なりに考えることができる。
14	食環境づくりと栄養教育	食料自給率の動向や、食の安全・安心への取り組みなどについて学び、食環境づくりにおける栄養教育の在り方を考えることができる。
15	栄養教育の国際的動向	世界の栄養問題、先進国における栄養教育、発展途上国における栄養教育の動向を学ぶ。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養教育実習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》
基礎栄養教育論で学んだ基礎知識を基に栄養教育の実際を実習する。栄養教育は対象者の食生活の実態や健康状態を把握して問題点を明らかにし具体的な改善策、指導計画を作成する。学生が自分自身を対象者として食生活の実態を把握・分析し問題点を抽出し、具体的な栄養計画をたてる栄養マネジメントのアセスメントからプランニングを行い、実習を通して栄養教育に必要な基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》
学生が自分自身を対象者として栄養アセスメントからプランニングを行うことで栄養教育の一連の流れが理解でき、栄養教育に必要な基礎知識と技術を身につけることができる。食事調査より栄養価算出を行うことで食事食品成分表の適正な活用、食品の常用量や概量の把握ができる。結果を分析することで自己の食生活の問題点を明らかにし改善のため行動変容することが目標である。

《成績評価の方法》
①授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は成績評価の対象外とする。
②筆記試験70%
③レポート30%

《テキスト》
①『四訂栄養教育演習・実習』（株みらい）②『知ってトクする調理のためのベーシックデータ』（女子栄養大学出版部）

《参考文献》
・『食品成分表』1年次に購入済
・『日本人の食事摂取基準2010年版』（第一出版）

《授業時間外学習》
各種の調査は自宅で行うことが多くなる。
次回の授業に必要となる資料となるので課題は必ず済ませて準備する必要がある。

《備考》
電卓を準備すること。（速く正確に計算するため操作しやすいサイズを準備すること）自己管理ができてはじめて他者への指導ができることから積極的に行動変容につなげよう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	基礎栄養教育実習の概要	授業展開のあらまし、成績評価方法の説明 栄養計算の方法
2	栄養調査Ⅰ	栄養調査のいろいろ（食事調査、生活時間調査）
3	栄養調査Ⅱ	栄養計算Ⅰ　私のある1日の栄養素摂取量算出
4	アセスメントⅠ	生活時間調査集計（消費エネルギー量算出、身体活動レベル判定） 身体状況調査（体格判定）
5	アセスメントⅡ	栄養診断Ⅰ　栄養摂取と消費エネルギーの比較
6	アセスメントⅢ	栄養診断Ⅱ　3日間の栄養価計算（コンピュータ処理）
7	プランニングⅠ	食事摂取基準の算定
8	プランニングⅡ	食品構成作成
9	アセスメントⅣ	栄養診断診断Ⅲ　食事調査と比較して
10	プランニングⅢ	栄養計画　目標設定
11	プランニングⅣ	モデル献立作成Ⅰ
12	プランニングⅣ	モデル献立作成Ⅱ
13	栄養教育Ⅰ	個別指導Ⅰ　指導計画作成
14	栄養教育Ⅱ	個別指導Ⅱ　個別指導実習
15	まとめ	筆記試験

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学Ⅰ				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

臨床栄養学の意義と目的、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養および内分泌・代謝疾患、消化器疾患の定義、病因・病態、診断、治療について学び、傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理と栄養教育ができる基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

○臨床栄養学の基礎知識の説明が可能となる。
○各疾患の定義、病因・病態、症状、診断、治療が理解できる。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。 (2)小テスト30% (3)定期試験70%
(4)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『エッセンシャル 臨床栄養学 第５版』佐藤和人他編、医歯薬出版
必要に応じてプリントを配布します。

《参考文献》

『人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療』竹中優編、医歯薬出版
『人体の構造と機能および疾病の成り立ち 人体の構造と生理機能』原田玲子他編、医歯薬出版
『病気がみえるシリーズ』メディックメディア

《授業時間外学習》

１．テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
２．教科書や配布プリントを必ず復習しておくこと。

《備考》

講義中に小テストを行う。
新聞やニュースなどから発信される医療や栄養情報に関心を持ちましょう。ＮＨＫ「今日の健康」は参考になります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養の概念	臨床栄養学の目的、意義、医療従事者としての心構えについて学びます。医療・介護制度の基本、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養についての基本を学びます。
2	医療と臨床栄養	治療における栄養マネジメントの意義、チーム医療、クリニカルパス、入院時食事療養制度と栄養食事指導料について学びます。
3	栄養ケアの記録	栄養ケア記録の意義、問題志向型システム（ＰＯＳ）の活用法について学びます。
4	医療・介護と臨床栄養	障害の分類、介護福祉制度（介護保険制度、高齢者の栄養ケアと介護予防、栄養マネジメント加算、介護保険制度における食事サービス、居宅療養管理指導と訪問介護）につ
5	栄養・食事療法、栄養補給法	栄養・食事療法と栄養補給の歴史、経口栄養法・経腸栄養法・静脈栄養法の種類、選択法と種類について学びます。
6	栄養評価	栄養評価の目的、臨床診査、栄養評価指標、モニタリング、再評価、栄養ケアの修正などについて学びます。
7	栄養障害	低栄養の病態生理、ビタミン欠乏症・過剰症、ミネラル欠乏症・過剰症の病態、症状、診断、治療について学びます。
8	内分泌・代謝	肥満・るいそうの定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
9	内分泌・代謝	脂質異常症の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
10	内分泌・代謝	糖尿病の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
11	内分泌・代謝	高尿酸血症・痛風の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
12	消化器疾患	口内炎、舌炎、胃炎、胃・十二指腸潰瘍、胃癌、胃食道逆流症の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
13	消化器疾患	潰瘍性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）、過敏性腸症候群、便秘の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
14	消化器疾患	肝炎、肝硬変、肝癌、脂肪肝、非アルコール性脂肪肝炎の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。
15	消化器疾患およびまとめ	胆石症、膵炎の定義、病因・病態、診断、治療について学びます。講義内容を総復習します。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学Ⅱ				
担当者氏名	木下 美子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

医療現場ではNST（栄養サポートチーム、Nutrition Support Team）という専門知識と技術をもったチームが臨床の場では必要とされ注目を浴びている。このチームの構成メンバーで重要な役割を担う臨床栄養担当の管理栄養士は幅広い医学知識と研究遂行努力が求められる。

臨床の現場で行われている疾病者の栄養状態の評価・判定、適切な栄養補給法などについて学ぶ。

《授業の到達目標》

将来、管理栄養士として、自分自身だけでなく家族や職域、或いは地域の人たちの健康管理を、それぞれの生活習慣にそって助言できる基本的な知識を得ることを目標とする。その上で、共に生きる（共生）ことを目標とする。

重要性と目的意識を明白にして理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験の結果（90%）を中心とし、小テスト。レポート等の結果を総合して評価する。

欠席回数が、授業回数の1/3以上のものは、成績評価対象外とする。

《テキスト》

プリント配布

『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病学会編）

《参考文献》

『新しい栄養学』後藤昌義,瀧下修一 共著（南光堂）

『栄養・健康科学シリーズ 臨床栄養学』
糸川嘉則 他編集（南江堂）

『人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 総論,各論Ⅰ・Ⅱ』
香川晴雄 他編集（南江堂）

『実践臨床栄養学・実習』藤原政嘉 他編集（建帛社）

《授業時間外学習》

予習方法:資料を配布するので読んでおくこと。

復習方法:授業内容を再確認する為にノートを整理すること。

『糖尿病食事療法のための食品交換表』（日本糖尿病学会編）で、食品の1単位の重量を覚えること。

《備考》

講義の順序は状況により変更することがある。

テキストは毎授業に持参すること。

小テストの提出をもって出席確認とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 心構えと対人関係	国家資格を取得することは通過点であるということを自覚し、自らの健康を作り、育て守る。その上で、共に生きる（共生）ことの大切さを説明。
2	臨床栄養教育（外来,入院時,退院時,在宅ケア）	臨床栄養学の目的、意義は、「食は命であり、薬である。」ことの重要性と目的意義を明白にして、理解すること。
3	要介護者への栄養教育 （入所,通所,居宅）	指導、教育者としての指標は、人、相談者、患者が評価者である。栄養の原点に立場をおき、指導者として重要性を理解。
4	腎疾患（糸球体腎炎,ネフローゼ症候群,他）	原疾患を問わずこの病態を慢性腎臓病として扱い、早期発見、早期対応が重要。このため各疾患および総体として慢性腎臓病への対応として、食事療法の重要性を説明。
5	摂食障害（神経性食欲不振,神経性過食症）	色々な調節機構の影響によりおこる摂食障害。臨床栄養学の基礎であり出発点である生命維持のための基本的な食欲。食欲に影響を与える因子について説明。
6	呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患,気管支喘息,他）	高齢者では呼吸器疾患による体力、食事摂取量の低下によって低栄養状態になりやすい。病態の理解と予防の重要性を説明。
7	血液系の疾患・病態 （貧血,出血性疾患,他）	血液は全身を循環し、体内代謝の総決算を反映する貴重な体内情報源である。栄養学的に直接関連する貧血に重点をおいて説明。
8	筋・骨格疾患（骨粗鬆症,骨軟化症,くる病,他）	活性型ビタミンＤ不足に原因した骨疾患である。ビタミンＤ不足によるＰ、Ｃａの吸収阻害。食事療法、運動療法の大切さを説明。
9	免疫・アレルギー疾患 （食物アレルギー）	食物アレルギー疾患が急増しつつある。食品を含む生活環境の変化、ストレス等による免疫、適応機構破綻に対して栄養学的対策を考えて理解したい。
10	クリティカルケア （外傷,熱傷,集中治療）	医療の質の標準化・作業効率化を推進し、入院日数の短縮化の為に、栄養部門もチーム医療へ参画し、的確な判断のもとに栄養管理の可能性を理解。
11	摂食機能障害（意識障害,咀嚼,嚥下障害,他）	加齢、脳血管障害、中枢神経系の変性疾患、抹消神経疾患や手術等の後遺症などによって生じるものに対しての説明。
12	乳幼児・幼児疾患（消化不良,周期性嘔吐症,他）	心身ともに未熟な点が多く、最大の特徴は発育することである。それが故に食事面の関与が大きい。疾患の病態について、栄養、食事による対策の重要点の説明。
13	妊産婦・授乳婦疾患 （妊娠糖尿病,他）	食生活、社会環境の変化で適切な栄養管理ができていない現状である。妊産婦、授乳婦の病体および疾患を理解する。
14	老年症候群（誤嚥,転倒,失禁,褥瘡）	高齢化社会になりつつある。病的老化となり疾患が増加、日常生活動作の低下の加速。低栄養となり悪循環ができる。病態と特徴的な疾患の理解。
15	まとめ 学習の振り返り	これまでの学習内容の再確認。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学Ⅰ				
担当者氏名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
地域や職場等の健康・栄養問題とそれを取り巻く要因に関する情報を収集・分析し、総合的に評価・判定する能力を養う。栄養政策を理解し、地域の人々のQOL向上を目指す活動ができる知識と技術の理解を深める。

《授業の到達目標》
1.ヘルスプロモーションとは何か説明できる。
2.対象や目的に応じた調査方法を設定することができる。
3.わが国の栄養施策について、その法的根拠を含めて対象や目的、内容等を説明することができる。

《成績評価の方法》
1.小テスト・課題10%+定期試験90%で評価。
2.30分以上の遅刻は、欠席扱い。
3.30分未満の遅刻3回で欠席1回の扱い。
4.授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
サクセス公衆栄養学
日本人の食事摂取基準
管理栄養士・栄養士必携　　以上すべて第一出版

《参考文献》
エッセンシャル栄養教育論（医歯薬出版）
国民衛生の動向（厚生統計協会）
健康日本21と栄養士活動（第一出版）
国民健康・栄養の現状（第一出版）

《授業時間外学習》
1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. テキスト中の演習問題を復習として解いておくこと。

《備考》
常日頃からニュース、新聞などにより、食に関する問題に注目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養の概念	ヘルスプロモーション　・エンパワメント　・疾病予防と公衆栄養活動
2	公衆栄養アセスメント	食事摂取基準の概念　・各指標の活用
3	公衆栄養アセスメント	食事摂取基準の地域集団への活用　・小テスト
4	栄養疫学１	栄養疫学の概要　・変動と誤差　・食事調査法
5	栄養疫学２	食事調査法
6	栄養疫学３	食事摂取量の評価
7	栄養疫学３	国民健康・栄養調査
8	健康・栄養問題の現状と課題１	わが国の人口問題　・高齢社会と健康・栄養問題　・少子化問題とその対策
9	健康・栄養問題の現状と課題２	健康状態の変化　・平均寿命と健康寿命
10	健康・栄養問題の現状と課題３	食事の変化とそれに伴う栄養素等摂取量の変化
11	健康・栄養問題の現状と課題３	食生活の変化　・食行動と食知識、食態度、食スキル
12	健康・栄養問題の現状と課題４	食環境の変化　・食料自給率　・食品流通
13	栄養政策１	地域保健法　・健康増進法　・健康増進基本方針
14	栄養政策２	栄養士法　・食育基本法　・食育推進基本計画
15	栄養政策３	食生活指針　・健康日本２１　・食事バランスガイド

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	給食経営管理論				
担当者氏名	和田 早苗				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
3年次に履修する「給食管理実習」においての前提科目です。高度な専門知識をもって特定給食施設の栄養管理業務を理解するとともに、マーケティング原理を生かし経営に関わる基本と管理手法を習得する。

《授業の到達目標》
特定給食施設の現場事例を交え管理栄養士の実務内容を理解する。給食業務の管理者として栄養管理、経営管理、安全・衛生管理、施設や労務管理の基本的理念を学修するとともに 対象者への適切な栄養管理法を修得し、食育実践の重要性を認識する。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。定期試験（80%） 平常時の受講態度（10%） 講義後に実施する小テスト（10%）小テストは復習として実施する。遅刻3回で1回欠席とする。

《テキスト》
『改定新版給食管理』 鈴木久乃他編 （第一出版）

《参考文献》
『日本人の食事摂取基準』（2010年版） 給食経営と管理の科学 井川聡子他編(理工図書)

《授業時間外学習》
次週の予習を行い、質問課題を持って参加すること。

《備考》
管理栄養士・栄養士の実務として最も重要な領域です。基礎知識をもとに特定給食施設の特徴を理解することができる教科です。3年次の実習に自信を持ってつなげましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	給食経営管理の概要	定義・関係法規
2	特定給食施設	管理栄養士・栄養士の役割
3	経営管理	マネジメント・組織
4	経営管理	マーケティング・原価管理
5	栄養管理	アセスメント・栄養計画
6	栄養管理	給食計画・献立計画
7	生産管理	食材購入計画
8	生産管理	作業計画
9	衛生・安全管理	人・食・施設・設備
10	衛生・安全管理	危機管理・ＨＡＣＣＰ・新調理システム・大量調理施設衛生管理マニュアル
11	施設管理	厨房機器と機能
12	施設管理	食環境・栄養教育
13	給食管理の評価	評価の機能・方法
14	各特定給食施設における給食管理の特徴	事業所・学校・病院（院外給食）
15	各特定給食施設における給食管理の特徴	福祉施設（幼児・高齢者）・委託給食 まとめ

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育心理学				
担当者氏名	大平 曜子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育科学の一分野として、人間形成に関わる独自な理論と方法を提示する実践的な学問です。受講者は、心理学的領域の理解をめざすとともに、人間科学的な視点を養います。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などの学びを通して、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得と専門領域の教育に応用する方法を学習します。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。
○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめる。
○教育効果の検証（評価）ができる。
○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（３０％）、定期試験（７０％）
授業実施回数の３分の１以上欠席した者は最終試験の受験資格はない。

《テキスト》

配布プリントを使用する。

《参考文献》

「絶対役立つ教育心理学」藤田哲也編著　ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業中の課題について参考文献等に目を通して、期限内に作成し提出する。

《備考》

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。
「本時の振り返り」の記入提出で、出席を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。 教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達、発達課題
5	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
6	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念、
7	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
8	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
9	教授過程	学習指導法、授業の最適化
10	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示、
11	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ、
12	教育評価（2）	測定と評価の実際
13	不適応行動	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害
14	教育における心理学の働き	教育相談、集団の機能と構造、人間関係
15	まとめ	これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳・特別活動を含む）				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育の目的達成のために学習指導要領に沿ってどのような教育内容をどのような手順で展開するかということを探究する授業である。教育課程は、広くは教育方法論において展開される領域であるが、教育内容の充実と選択の必要性から、教育課程の独立が成立した。以下のことを中心に授業は実施される。わが国の教育改革の歴史的展開と教育課程、教育課程の意義と目的、道徳教育及び特別活動の内容について。

《授業の到達目標》

教育課程は何か、教育課程はどのように編成されるか、編成された教育課程はどのような形態をしているのか、学習指導要領における教育課程の意義と特徴との理解等を到達目標とする。また、これらの到達目標を主体的に探究することも到達目標ということができる。

《成績評価の方法》

講義への積極的な参加(討議、プレゼンテーション、質疑応答など)30%、小課題10%、定期試験60%

《テキスト》

広岡義之編著　『新しい教育課程論』
ミネルヴァ書房　2010年

《参考文献》

文部科学省　『学習指導論　小学校　中学校　高等学校』
文部科学省　2012年

《授業時間外学習》

課題が不定期に提示されるので、その課題に取り組む必要がある。授業中の小課題には、現代の教育的課題と関わることが予想されるので、常日頃新聞を読んだり、多くの読書をする必要がある。講義後のノート整理は欠かさず実施することが求められる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育課程論オリエンテーション	教育課程論の授業に必要な基本的な視点、学習動機づけ、学習方法、評価などについて説明して、履修学生に履修決意をさせる。
2	教育課程の意義	教育課程の語源や歴史的発展を示し、教育課程成立時のその時代、その社会などについて考察し、教育課程の意義を考察し理解する。
3	学習指導要領と教育課程論	教育課程は、学習指導要領において展開されているので、両者の親密な関係をしっかり理解する。
4	学習指導要領の変遷とそれぞれの特徴	学習指導要領の変遷は、教育課程にどのような変化と特徴をもたせているか、整理していく過程で学習指導要領が教育課程にいかに深くかかわるか把握させる。
5	教育課程編成の教育目的・目標	教育基本法・学校教育法・学習指導論などにある教育の目的や目標を考えた得腕、教育課程編成の教育目的・目標について探究する。
6	保育・教育課程の構成	現在求められている保育課程・教育課程を明確にして、編成において何が求められるのかまた、具体的な形態としてどのようなものが考えられ実施されているか理解する。
7	小学校教育課程の構成	小学校教育課程において、どのようなカリキュラムが組まれどのような内容が教授され、何が課題かなどを具体的に探究する。
8	中学校教育課程の編成	中学校教育課程において、カリキュラムの特徴、教育内容、テキストの採択などに関して解説することを通して、何が現在の課題であるか考察する。
9	高等学校教育課程の編成	高等学校教育課程において、どのような目的でどのような内容をどのような手順で実施されているかを客観的に考え、現代の課題を考える力を身につけさせる。
10	教育課程と教育行政(教科書の作成から採択まで)	教育課程は、教育行政と深くかかわっていることを教科書採択などの具体的事例を挙げながら、教育課程の本質を探る能力を養う。
11	総合的学習の時間と教育課程論	総合的な学習の導入のいきさつと発展について、学習指導要領とのかかわりから探究する力をつける。
12	学習指導要領改訂の要点	学習指導要領の改訂に伴ってそれぞれの改訂の特徴が教育課程にどのように反映されているか理解する能力を養成する。
13	教育課程の歴史的展開と教育方法	教育課程の語源や歴史的発展を提示し、教育課程をさらに深く理解する。
14	教育課程における教育方法の諸課題	教育課程と教育方法との関わりから教育課程をより明確に位置付けることを試みる。教育学の成立から教育課程が独立するまでを明確に理解できるようにする。
15	教育課程の現代的課題	教育課程が現代の教職課程において高く評価されることを基本に、今後の教育課程の進むべき方向を探究することを履修学生が主体的に考察できるようにする。

科目名	教育方法・技術論				
担当者氏名	河野 稔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
現代的な教育の方法や技術について扱う。何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかどうかをどのように確かめるかを体験的に学習する。
授業設計のシステム的アプローチに基づいて教材を自作するための方法を解説し、毎回の授業で段階的に教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》
○教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
○授業設計のシステム的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
○独学を支援する教材の自作体験を通して、他の形態の指導にもシステム的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》
○自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
○小テストの結果（30%：3回実施予定）
○ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）
○欠席回数が授業実施回数の3分の1以上の場合は単位を与えない。

《テキスト》
鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル ― 独学を支援するために』北大路書房.

《参考文献》
稲垣忠・鈴木克明編著(2011)『授業設計マニュアル ― 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房.
中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》
予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。
復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》
パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	システム的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト
5	テストを作成する	学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニェの9教授事象と指導方略表
9	教材パッケージを作成する(1)	形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	形成的評価の7つ道具の相互チェック
11	教材パッケージを作成する(3)	7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	形成的評価の方法
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教材作成報告書の提出／学習のふり返り

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	生徒指導論(進路指導を含む)				
担当者氏名	上寺 常和				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

『生徒指導の手引』書、『生徒指導提要』と生徒指導に関するテキスト『新しい生徒指導・進路指導』における理論に基づいて、事例研究を分析し、生徒指導の課題を認識し、課題の解決のための探究を展開する。進路指導に関して、必要な資質を持った教員養成が、現在社会に求められていることを十分に意識して、キャリア教育との関わりを明確にしていく。成長と発達との関係から生徒指導について考察する。

《授業の到達目標》

生徒指導を、生徒指導の原理、生徒指導の方法論、学校教育における位置づけなどの理解をする。生徒指導が学校教育にどのような影響を与えることができるか解明する。進路指導の意味と方法論、進路指導に必要な資質を身につける。生徒指導がどのような過程で重視されることになったか、理解できるような能力を身につける。実際に、生徒を指導できる基本的な能力を身につける。

《成績評価の方法》

講義には積極に参加(20%)し、課題が出てきたときに必ず探究してレポート提出ないし発表をするよう(20%)に心がけてほしい。定期試験(30%)は必ず受けること、また60%以上の成績を取ることが求められる。グループディスカッションには、積極的な参加が求められる。

《テキスト》

加澤恒雄・広岡義之編著 『新しい生徒指導・進路指導』 ミネルヴァ書房 2007年

《参考文献》

文部科学省著 『生徒指導提要』 文部科学省 2011年

《授業時間外学習》

生徒指導に関わる事例研究に関する著書を収集し、または大学図書館で見つけ、重要と思われる本を読書することが必要である。また、事例研究の機会があればそれらに触れることは言うまでもなく、新聞をはじめマスコミが報道する記事は必ず目を通して、他の履修学生や教職を取っている先輩と生徒指導について話し合うことが必要である。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導に関するオリエンテーション	生徒指導の授業について説明、生徒指導の重要性を解明して教育課程における生徒指導の重要性について考える。
2	生徒指導の原理と目的について	生徒指導の領域の説明と生徒指導の原理と目的について解明する。
3	生徒指導の内容Ⅰ(内容を主として説明)	生徒指導において何をどのような手順で展開するか考える。
4	生徒指導の内容Ⅱ(内容の関わりを解明する)	生徒指導の内容それぞれがどのように関わっているか、有効な関わり方はどうあるべきか考察する。
5	生徒指導の方法	生徒指導の内容にふさわしい方法を考察し、方法をより有効に展開することを考えてみる。
6	生徒指導と新学習指導	生徒指導が新学習指導要領において活用されているか考える。
7	生徒指導と進路指導	生徒指導の中で進路指導がどのように位置づけられているか解釈することを試みる。
8	これからの進路指導	現在求められている生徒指導の現実とこれからの進路指導に求められるであろう者を考えてみる。
9	進路指導とガイダンス	進路指導におけるガイダンスの意義と機能について解明する。
10	青年期と生徒指導	青年期の心理とその発達と生徒指導の意義について考える。
11	青年期の心理的発達論と生徒指導	青年期の心理的発達論を歴史的観点から解明し、それらの理論が生徒指導にどのように生かされているか探究する。
12	生徒理解のさまざまな方法と技術	生徒理解にとって必要な方法と技術について、出来る限り新しいものを紹介する。
13	生徒指導と教育課程	教育課程と生徒指導の関係について明確にし、理解する。
14	進路相談	学校におけるカウンセリングと進路指導について明確にし、教育相談の意義をカウンセリングとの違いを明確にして生徒指導に生かすことを考える。
15	生徒指導の課題とキャリア教育	生徒指導の課題を取り上げ、キャリア教育を展開する際にどのように関わるか考える。

平成 22（2010）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	基礎ゼミⅠ	演習	2						2										
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2									
		栄養のための統計学入門	講義		2						2									
		栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2										
		実験基礎演習	演習	2						2										
		医学概論	講義	2					Ⓔ		2									
		臨床心理学	講義		2							2								
		コミュニケーション論	講義		2					2										
		栄養と薬物	講義		2										2			[溝邊 雅一]	169	
		バイオテクノロジー	講義		2				Ⓔ							2				
		食料経済	講義		2											2				
		健康科学	講義	2							2									
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習	演習	2							2									
		情報処理と栄養統計Ⅰ	講義		2		○	△				2								
		情報処理と栄養統計Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		公衆衛生学Ⅰ（公衆衛生）	講義	2		◇	○	△	Ⓓ					2				（多田 章夫）	170	
		公衆衛生学Ⅱ（健康管理）	講義		2		○	△							2			（多田 章夫）	171	
		社会福祉概論	講義		2	◇	○	△						2				[梅谷 公子]	172	
		生化学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		生化学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓑ			2								
		生化学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ			3								☆
		生化学実験Ⅱ	実験		1		○	△	Ⓑ				3							☆
		栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		栄養解剖学・人体生理学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓑ			2								
		栄養解剖学実験	実験		1	◇	○	△				3								☆
		人体生理学実験	実験		1		○	△					3							☆
		臨床病態学Ⅰ	講義		2	◇	○	△	Ⓔ			2								
		臨床病態学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓔ				2							
		生体防御論	講義		2		○	△	Ⓒ					2				[島田 邦夫]	173	
		食品微生物学	講義		2				Ⓒ						2			不開講		
		食品学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ	2										
		食品学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓒ					2				細川 敬三	174	
		食品学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ		3									☆
		食品学実験Ⅱ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ						3			細川 敬三	175	☆
		食品衛生学	講義	2		◇	○	△	Ⓓ				2							
		食品衛生学実験	実験		1		○	△	Ⓓ					3				中井 玲子	176	☆
		食品機能論	講義		2		○	△								2				
		調理学	講義	2		◇	○	△		2										
		調理学実験	実験	1		◇	○	△			3									☆
		調理学実習Ⅰ	実習	1		◇	○	△				3								☆
		調理学実習Ⅱ	実習		1		○	△					3							☆

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅲ群（専門に関する科目）	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ	2										
		基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ		2									
		栄養学実習	実習	1		◇	○	△	Ⓔ			3								☆
		応用栄養学Ⅰ（ライフステージ栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）	講義		2		○	△								2				
		栄養管理学	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		栄養管理学実習	実習		1		○	△						3				須見 登志子	177	☆
		基礎栄養教育論	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		健康栄養教育論	講義		2	◇	○	△					2							
		基礎栄養教育実習	実習		1	◇	○	△					3							☆
		健康栄養教育実習	実習		1	◇	○	△						3				矢埜 みどり	178	☆
		実践栄養教育演習	演習		2		○	△									2			
		臨床栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△				2								
		臨床栄養学Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		臨床栄養学実習	実習		1	◇	○	△							3			増村 美佐子	179	☆
		臨床栄養管理学	講義		2		○	△						2				[昆 美恵子]・[岩田 隆男]	180	
		臨床栄養管理演習	演習		2		○	△							2			増村 美佐子	181	
		公衆栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		公衆栄養学Ⅱ	講義		2		○	△						2	7	7	7	7 7 7 7 7	182	
		公衆栄養活動実習	実習		1	◇	○	△							3			7 7 7 7	183	☆
		給食経営管理論	講義		2	◇	○	△					2							
		メニュー管理実習	実習		1	◇	○	△						3				福本 恭子・和田 早苗	184	☆
		給食管理実習	実習		1	◇	○	△	Ⓔ					3				和田 早苗・福本 恭子	185	☆
		フードサービスマネジメント演習	演習		2		○	△							2			福本 恭子	186	
		総合演習	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅰ	演習		2		○	△								2				
		卒業演習Ⅱ	演習		2		○	△									2			
		給食管理臨地実習（校外実習）	実習		1	◇	○	△						2				福本 恭子	187	☆
		臨床栄養臨地実習	実習		2		○	△							4			増村 美佐子	188	☆
		公衆栄養臨地実習	実習		1		○	△								2				☆
		学校栄養教育論Ⅰ	講義		2			△						2				松尾 千鶴子・[宮田 さと子]	189	
		学校栄養教育論Ⅱ	講義		2			△							2			増村 美佐子・[宮田 さと子]	190	
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習		3											3				
		卒業研究Ⅱ	演習		3												3			

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年Ⅰ期に「フードスペシャリスト論」「フードコーディネート論」を開講する。

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄のⒶ～Ⓔは食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

Ⓐ～Ⓓ別表第14にかかげた科目・Ⓔは別表第15にかかげた科目

Ⓐ化学関係（教養科目「化学」）修得のこと） Ⓑ生物化学関係 Ⓒ微生物関係 Ⓓ公衆衛生学関係 Ⓔその他関連科目

Ⓐ～Ⓓ群から1科目以上、最低修得単位数（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ）22単位以上

最低修得単位数合計（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓔ）40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成22年度（2010年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職に関する科目	教職概論	講義		2			△		2									
		教育原理	講義		2			△		2									
		教育史	講義		2			▲							2			（岡本 洋之）	191
		教育心理学	講義		2			△					2						
		教育制度論	講義		2			△			2								
		教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			△					2						
		教育方法・技術論	講義		2			△					2						
		教育方法論	講義		2			△							2			（岡本 洋之）	192
		生徒指導論(進路指導を含む)	講義		2			△				2							
		教育相談(カウンセリングを含む)	講義		2			△			2								
		事前事後指導	講義		1			△							1			和田 早苗・亀谷 小枝	193
		栄養教育実習	実習		1			△								3			
		教職実践演習（栄養教諭）	演習		2			△									2		☆

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	栄養と薬物				
担当者氏名	溝邊 雅一				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○　2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○　3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
栄養評価や栄養による健康の管理の専門家を目指すものにとっては、健康の維持・増進に不可欠な薬物の知識を学習することは非常に重要である。本授業では、薬物の体内の動きや作用のしくみなどを学んだのち、主な疾病に用いられる薬物を各論的に学習する。講義の中で、食品や栄養との関連を講述し、管理栄養士として、健康管理や栄養指導がトータル的に実践できる薬物の基礎知識の習得を目指す。

《授業の到達目標》
① 薬物の投与方法、体内の動き、作用のしくみなどの基礎知識を習得し、重要事項について説明できる。
② 栄養との関連性が深い疾患名が列挙でき、その治療に用いられる主な薬物の作用機序などが概説できる。
③ 栄養指導における薬物の重要性と治療効果に影響する食物の影響を理解でき、概説できる。

《成績評価の方法》
定期試験７０％、平常評価３０％（授業における質問への対応、課題への取り組み、出席状況など）
授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上になったものには単位を与えません。

《テキスト》
『薬理学－疾病のなりたちと回復の促進２』大鹿英世、吉岡充弘著　　医学書院

《参考文献》
『薬理学』鈴木正彦 医学芸術社
『くすりの地図帳』伊賀立二、小瀧一、澤田康文監修 講談社
『わかりやすい栄養学』中村美知子、長谷川恭子編　ヌーベルヒロカワ
『クスリのしくみ事典』野口實、岡島重孝著　日本実業出版社

《授業時間外学習》
教科書・参考書及び配布レジュメによる予習・復習の自己学習を確実に行い講義に臨むこと。また、講義の進行に応じて実施する課題に真剣に取り組み、重要事項の把握と理解に努めること。課題の提出は期限を厳守すること。

《備考》
能動的に学習に取り組み、不明な事項は自ら調べ、積極的に質問すること。私語、携帯電話、飲食、出入り等の迷惑行為は厳禁であり、注意しても守れない場合は退席してもらう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	薬物の作用と薬物治療	薬物治療の目的、薬物の投与経路、薬物の作用・副作用など
2	薬物の体内動態と効果	薬物の吸収・代謝・排泄、食品との相互作用など
3	有害作用と薬物の管理	薬物のもつ有益性と有害性、薬物管理など
4	感染症治療薬	抗菌薬各論、感染症治療の問題点など
5	抗がん薬	がん治療における問題点、抗がん薬各論など
6	免疫治療薬	免疫反応のしくみ、免疫治療薬、予防接種薬など
7	抗アレルギー薬・抗炎症薬（１）	抗アレルギー薬、非ステロイド性抗炎症薬など
8	抗アレルギー薬・抗炎症薬（２）	ステロイド性抗炎症薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬など
9	末梢神経に作用する薬	交感神経作用薬、副交感神経作用薬、局所麻酔薬など
10	中枢神経に作用する薬（１）	全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、抗うつ薬など
11	中枢神経に作用する薬（２）	パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬、鎮痛薬など
12	物質代謝に作用する薬	ホルモン、ビタミン剤など
13	心臓・血管に作用する薬（１）	抗高血圧薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、強心薬など
14	心臓・血管に作用する薬（２）	利尿薬､脂質異常症治療薬、血液に作用する薬物など
15	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬	気管支喘息治療薬、鎮咳薬、消化性潰瘍治療薬、性ホルモン薬など

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学Ⅰ（公衆衛生）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

公衆衛生学は、人々が生活する環境において健康の障害となる要因を明らかにし、社会の組織的な活動により集団の疾病予防と健康の保持・増進を目指す学問である。衛生統計や疫学手法など、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し、集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶことが求められる。

《授業の到達目標》

1　公衆衛生学の概念と意義について説明できる
2　疫学的思考と方法について説明できる
3　現代社会の環境問題及びその対策について説明できる
4　主な保健統計指標について説明できる

《成績評価の方法》

定期試験90%、小テスト10%の割合で評価する。遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の1/3以上の場合）は定期試験の受験資格を失う。私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は欠席もしくは減点とする。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2011」　鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》

1　次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
2　毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
3　健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《備考》

この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念、公衆衛生の概念	健康とはどのような状態であるか、そして公衆衛生学は幅広い領域（保健統計、疫学、感染症、環境衛生、対人保健等）をカバーすることを理解する。
2	公衆衛生の歴史、公衆衛生活動	公衆衛生学が発達してきた歴史的な経緯を理解し、公衆衛生学においてはどのような観点で学習していくかを理解する。
3	環境と健康　（1）生態系の中の人間生活	健康に影響を及ぼす物理的因子、化学的因子、生物学的因子およびそれらによる健康被害を説明できる。
4	環境と健康　（2）環境汚染（大気、水質等）	大気汚染を引き起こす成分とその健康被害、上水道・下水道・環境中の水質基準と水質汚染、廃棄物処理とリサイクルについて説明できる。
5	環境と健康 環境汚染（公害、地球環境）	日本で過去に発生した代表的な公害（水俣病等）、現在、地球規模で問題となっている環境問題（地球温暖化等）についてそれぞれ、原因や健康問題を説明できる。
6	環境と健康　（4）食品衛生	食中毒、食品安全関連法律、食品安全性確保のための政策（ポジティブリスク、ＨＡＣＣＰ、食品安全委員会等）について説明できる。
7	環境と健康　（5）環境管理	モニタリングとサーベイランスの相違、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションについて説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について説明できる。
10	保健統計・保健統計指標	保健統計の意義を理解するとともに、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数等の保健統計指標を説明できるようになる。
11	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について説明できる。
12	疫学の概念・・バイアス・交絡因子	疫学の概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて説明できる。
13	疫学の方法・疫学の指標	各疫学的研究法（記述疫学、コホード調査、症例対照研究、介入研究等）の手法、特徴、利点欠点を説明でき、オッズ比や相対危険度を求めることができる。
14	感染症（1）	感染症の感染経路、免疫、アウトブレークの種類やの疫学的調査、院内感染について説明できる。
15	感染症（2）	感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法の変遷、感染症拡大防止対策として、新感染症法及び学校安全衛生法に基づく感染者の隔離について説明できる。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学Ⅱ（健康管理）				
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》
公衆衛生学Ⅱ（健康管理）においては、地域で生活する人々の疾病予防や健康の保持増進のために、個人や個人をとりまく社会が何をすべきかを学ぶことが授業の狙いである。具体的には、生活習慣の実態と問題、疾患予防の疫学と予防、社会環境（保健・医療・福祉）の実態について学習する。

《授業の到達目標》
1　生活習慣の現状と課題について説明できる
2　主要な疾患の疫学について説明できる
3　健康維持に関する行政や地域保健のしくみについて説明できる
4　社会保障制度や医療保健に関連する法規や役割などに関する基礎的知識を習得する

《成績評価の方法》
定期試験90%、小テスト10%の割合で評価する。遅刻は欠席扱いとし、出席率の低い者（授業欠席回数が授業回数の1/3以上の場合）は定期試験の受験資格を失う。私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は欠席もしくは減点とする。

《テキスト》
「シンプル衛生・公衆衛生学2011」　鈴木庄亮・久道茂

《参考文献》
国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要に応じて紹介する。

《授業時間外学習》
健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること
次回の授業範囲を予習し
毎回授業後、ノートを整理し内容を把握すること

《備考》
この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	疾病の予防、スクリーニング	疾病予防の段階（一次予防、二次予防、三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）について説明できる。
2	健康つくりと健康日本２１	健康づくりの変遷（プライマリヘルスケア、ヘルシーシティ）及び健康日本21について説明できる。
3	生活習慣の現状と対策（栄養・運動）	健康日本21における運動・身体活動及び栄養・食生活分野における健康指標及びその達成状況について説明できる。
4	生活習慣の現状と対策（休養・喫煙・飲酒）	健康日本21における休養、喫煙、飲酒分野における健康指標及びその達成状況及び対策について説明できる。
5	生活習慣の現状と対策（歯科保健）	健康日本21における歯の健康分野における健康指標及びその達成状況及び8020運動について説明できる。
6	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について説明できる。
7	母子保健・成人保健	母子保健の目的、水準、母子保健施策、子育て支援、老人保健法から高齢者の医療の確保に関する法律への変遷について説明できる。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について説明できる。
10	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について説明できる。
11	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について説明できる。
12	メタボリックシンドロームの疫学と予防対策	メタボリックシンドロームの定義、基準、発症機序（インスリン抵抗性による疾患多発）、特定健診・特定保健指導について説明できる。
13	精神疾患と精神保健	精神障害の定義、主な精神疾患、精神保健福祉活動、精神医療、精神保健福祉法成立経緯について説明できる。
14	保健・医療・福祉	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、病院機能評価について説明できる。
15	社会福祉と社会保障	社会保障、社会保険、公的扶助、社会福祉、国民医療費、医療保険給付制度について説明できる。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	社会福祉概論				
担当者氏名	梅谷 公子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

社会福祉の基礎理論・法と制度の事前学習を行い、発表することによって自分のものとする。また、現場での実際の事例を伝え、人間理解を促す。

《テキスト》

特に定めなし

《参考文献》

講義中に適宜紹介する

《授業の到達目標》

社会福祉の法や制度の基礎をしっかり身につけ、社会の一員としてチームの中で仕事をすることを理解する。また、人間を生きるということをよく知り、人に寄り添ってその栄養学であることを事例を通して身につける。

《授業時間外学習》

事前に学習しておく内容について授業中に知らせる。

《成績評価の方法》

授業欠席回数が授業実施回数の３分の１以上の者は、成績評価対象外とする。課題への取り組み態度・提出物50%、定期試験50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会保障の概念	自分達が生活していく中にも社会保障が必要であることを知る。
2	国の役割と法律、衛生法規	国の法律のもと、身近な地域が動くことを知る。
3	地方自治のしくみ、県・市町村の役割	県と市町村、それぞれの役割を知る。
4	医療制度	医療保健の概要を知る。
5	医療制度の実際	医療費、医療施設、医療従事者とは何か、その役割を知る。
6	福祉制度	介護保険、障害者保険の概要を知る。
7	福祉制度の実際	要介護認定、ケアプラン、介護施設、在宅ケアなどを知る。
8	地域保健	保険所、保健センターなどの役割を知り、栄養士との関わりを知る。
9	母子保健	母子保健の概要を知る。
10	高齢者保健	老人保健事業の概要を知る。
11	高齢者保健の実際	介護予防の実際、包括支援センターの役割などを知る。
12	産業保健	労働者が健康に働けるための労働安全衛生対策などを知る。
13	学校保健	学校保健の概要を知る。
14	学校保健の実際	学校保健従事者、児童や生徒の健康のあり方を知る。
15	身の回りの国際保健	ＷＨＯ、ＰＡＯ、ＵＮＩＣＥＦ、ＮＧＯ、ＮＰＯの役割を知る。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生体防御論				
担当者氏名	島田 邦夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私達の体には、意思とは無関係に外敵や異物を排除し、病気にかからないで健康を保とうとする機構が備わっている。「免疫」という生体防御である。微生物による感染症とその防止対策について習得する。併せて保健医療サービス(臨床栄養) の担い手である管理栄養士が適切な栄養対策を立てるために知っておくべき専門的な知識の習得を目的とする。

《授業の到達目標》

① 生体防御の破綻によって起こる疾患を説明できる。 ② 免疫システムの構成成分とその役割を理解・説明できる。 ③ 栄養・運動・老化による生体防御への影響を説明できる。 ④ 主要な病原体とその感染症の病態と特徴を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

(1) 受講態度・学習意欲 20% （小試験により評価）、 (2) 定期試験 80% （なお、試験は記述式が中心となる）
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》

『 管理栄養士講座： 感染と生体防御 』 森口 覚・酒井 徹・山本 茂 編著 （建帛社：最新版）

《参考文献》

『一目でわかる微生物学と感染症』 S.H.Gillespie, K.B.Bamford 著、山本直樹 他 5名監訳 （メディカル・サイエンス・インターナショナル）

《授業時間外学習》

(1) 日本での感染症、世界での感染症を調べてみる。 (2) 予習：次回授業内容を理解するために、教科書に目を通しておく、不明点は授業時に質問する。 復習：授業内容を再確認する。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして整理まとめる。「聞く」は一時の恥、「聞かざる」は一生の恥！

《備考》

本科目履修にあたり生化学や病理学、臨床栄養学、公衆衛生学等関連科目を十分に学修しておくことが必要である。話題になる感染症について、日頃から関心を高めておく。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション,「生体防御論」のいざない	感染とは・・・？ 感染から身体を守るシステム（生体防御）
2	生体防御とは・・・？	プロジェクター(映像)を用い、生体防御論の全体像を把握・理解する。病原体を良く知り、逆襲に備え、その戦略をねる。
3	免疫と生体防御	健康を守る警備隊(免疫)が、たえずパトロールしながら体内を監視している。それが生体防御。
4	感染防御機構の破綻	体液性免疫・細胞性免疫、サイトカイン、外敵と戦う生体、破綻すると何が起きるのか？
5	アレルギー疾患	食物アレルギー（特定原材料、花粉症と果実アレルギー）、自己免疫疾患
6	老化と免疫	加齢に伴う免疫能の変化
7	栄養と生体防御	生体内脂質は傷害か防御か・・・？精神的ストレス・栄養不全と生体防御、マラスムスとクワシオコール
8	運動と生体防御、健康保持・増進と運動	運動性貧血はなぜ起きる・・・？免疫力回復、病魔に負けない強い体を作るには・・・？
9	感染症と法律	感染症予防法、学校感染症、検疫感染症、予防接種法
10	細菌感染症	細菌とは・・・？主要な細菌による感染症と検査法（遺伝子診断）
11	ウイルス感染症	ウイルスとは・・・？主要なウイルスによる感染症と検査法（遺伝子診断）
12	その他の感染症、消毒と滅菌	クラミジア・リケッチア感染症、真菌感染症、原虫感染症（寄生虫疾患）、消毒と滅菌の違いは・・・？
13	性行為感染症、院内感染症	性行為の多様化に伴う性感染症（STD）、医療現場における感染症
14	新興感染症・再興感染症	地球環境開発に伴う感染症と有史以来の感染症、新興・再興とは・・・？
15	人獣共通感染症、感染経路	動物から感染する感染症、感染症を引き起こす病原体の侵入門戸（経口・経皮・経気感染）

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学Ⅱ				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
（1）「食品学Ⅰ」で学んだ食品の栄養成分・成分の反応性・物性などの知識を基にし，個々の食品素材とこれらを原料とする加工食品について理解する。
（2）食品の変質を制御するための保蔵（保存）方法の原理を変質と関連づけながら食品の変質について学ぶ。

《授業の到達目標》
（1）いろいろな食品素材の生物学的分類・栄養学的特徴・理化学的性状・用途について学ぶ。
（2）食品の保蔵（保存方法）の原理と実際について学ぶ。
（3）加工食品の製造方法の原理と実際について学ぶ。
（4）以上の内容を学び，食品素材と加工食品の生産から消費にいたる過程を正しく認識・理解することにより，食品をよりよく利用できるようになる。

《成績評価の方法》
（1）定期試験(100%)により評価を行います。
（2）遅刻は、授業開始15分までです。授業開始15分以降は、欠席となります。
（3）授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
テキストは使用しない。
適時プリントを配付する。

《参考文献》
食品学Ⅰ,菅原龍幸ら編（建帛社）、食品学Ⅱ,菅原龍幸ら編（建帛社）、食品学各論,高野克己編（樹村房）、食品学加工学及び実習,筒井知巳編（樹村房）、食べ物と健康Ⅰ,管理栄養士国家試験教科研究会編（第一出版）、食品学―食品成分と機能性-,久保田紀久枝ら編（化学同人）、食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学,長澤治子編著（化学同人）

《授業時間外学習》
講義終了後、その日の内に復習し、ノートの整理をして疑問点を残さないようにして下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要と食品の現状 食品の加工と保蔵の意義	食品学Ⅱで学習する内容と食品・加工食品の現況およびその保存の意義について概説する。
2	食品の変質	食品の変質にともなう劣化の要因について概説する。
3	食品保蔵の原理（1）： 水分の除去と浸透圧	食品保蔵のための具体的方法である「水分の除去と浸透圧」についてその原理と実際の例について学ぶ。
4	食品保蔵の原理（2）： pHの調節・低温貯蔵	食品保蔵のための具体的方法である「pHの調節・低温貯蔵」についてその原理と実際の例について学ぶ。
5	食品保蔵の原理（3）： 殺菌方法	食品保蔵のための具体的方法である「殺菌方法」についてその原理と実際の例について学ぶ。
6	農産食品（1）： 穀類・いも類・豆類	穀類・いも類・豆類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
7	農産食品（2）： 野菜類	野菜に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
8	農産食品（3）： 果実類・種実類など	果実類・種実類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
9	水産食品（1）： 魚類	魚類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
10	水産食品（2）： 藻類・貝類など	藻類・貝類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
11	畜産食品（1）： 鳥獣肉類	鳥獣肉類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
12	畜産食品（2）： 乳類・卵類	乳類・卵類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
13	油脂類・発酵食品	食用油脂原料の特徴とその油脂の製造・特性について学ぶ。 発酵食品の製造方法について学ぶ。
14	嗜好品・甘味料類	嗜好品・甘味料類の種類とその製造方法について学ぶ。
15	インスタント食品・調理済食品・コピー食品	現在利用されているインスタント食品・調理済食品・コピー食品の種類と」製造方法について学ぶ。

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学実験Ⅱ				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
（1）食品成分中のカルシウムがどのような方法で測定されていかを知るために、日本食品標準成分表で使用されている方法により測定を行う。
（2）加工食品（授業計画に示した7品目）の原料に含まれる成分的特性を知り、原料に含まれるどの成分の特性が加工食品の製造に利用されているかを考え，実際に製造する。
（3）３カ所の工場見学を予定している。

《授業の到達目標》
（1）食品中のカルシウムの量を原子吸光光度計を用いて測定する。（2）「食品学Ⅱ」で学んだ中から代表的な加工食品の製造を体験し、加工食品の製造方法の理解を深めるとともに、原料となる食品素材の成分がどのように加工食品の製造に寄与しているのかを理解する。（3）加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ない、その理解を深める。

《成績評価の方法》
（1）実験のレポート(60%)・定期試験(40%)で評価を行う。実験態度等が適切でない場合は、減点します。（2）遅刻は、授業開始15分までです。授業開始15分以降は、欠席となります。（3）授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
必要に応じ資料を配布する。

《参考文献》
五訂日本食品標準成分表分析マニュアルの解説，財団法人日本分析センター編（中央法規）
基礎からの食品・栄養学実験，村上俊男編（建帛社）
食品加工学の実習・実験，茶珍和雄ら（化学同人）
食品学加工学及び実習，筒井知巳編（樹村房）

《授業時間外学習》
実験終了後、その日の内にノートの整理をしてレポートを作成して下さい。なお、レポートの提出は、各実験が終了後、1週間以内です。

《備考》
（1）実験材料の入荷状況で実験の順番が入れ替わることがあります。（2）工場見学は、時間割に示した日時以外に実施しますので、日時が決まり次第連絡します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験概要説明と準備、検量線作成方法と利用方法	食品学実験Ⅱで実験する内容を概説する。 カルシウムの測定に必須である検量線の作成と利用方法について学ぶ。
2	カルシウムの測定（1） 測定用試料の調製	カルシウム量の測定に使用する標準試料と濃度未知の試料の調製を行う。
3	カルシウムの測定（2） 原子吸光光度計で測定	原子吸光光度計で測定し、濃度未知試料のカルシウム量を算出する。
4	リンゴジャムの製造	加工用リンゴ（紅玉）を原料としてジャムを製造し、ペクチンンのゲル化の要因を理解する。
5	うどんの製造	中力粉を原料としてうどんを製造し、小麦粉に含まれるグルテンの特性を理解する。
6	木綿豆腐の製造	大豆を原料として木綿豆腐を製造し、大豆タンパクと苦汁の特性を理解する。
7	絹ごし豆腐の製造	大豆を原料として絹ごし豆腐を製造し、大豆タンパクとグルコノデルタラクトンの特性を理解する。
8	蒲鉾の製造	魚肉を原料として蒲鉾を製造し、魚肉タンパク（アクトミオシン）の特性を理解する。
9	ソーセージの製造	豚肉を原料としてソーセージを製造し、畜肉タンパク（アクトミオシン）の特性を理解する。
10	バター・カッテージチーズの製造	牛乳を原料としてバター・カッテージチーズを製造し、乳脂肪・乳タンパク（カゼイン）の特性を理解する。
11	ナチュラルチーズ理解と利用	牛乳を原料としたナチュラルチーズの特性を理解する。
12	旨味の効果に関する実験	アミノ酸系と核酸系の旨味について理解するとともに、その効果について学ぶ。
13	冷凍食品の理解と利用	冷凍食品の理解とその適切な利用方法について学ぶ。
14	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。
15	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。

科目名	食品衛生学実験				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理力）				

《授業の概要》

本科目において受講者は、食品衛生学の中でも特に重要な食中毒に関連した細菌類、食品添加物の検査を、実際に自分の手で行うことにより、基本操作を習得する。更に、自身の身体や食材に付着した細菌類の採取および検査を行い、日常生活における汚染状態の把握とその防止に対する理解を深め、市販の食材から食品添加物の検出を試みることで、市場における使用状況を実感として理解できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

○「食中毒に関連した主要な細菌類」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。　○「食中毒の実際とその予防」について説明、実行できるようになる。　○「汎用されている食品添加物」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。　○「食品添加物の適切な利用とは？」について主体的に考え、伝えることができるようになる。

《成績評価の方法》

・授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。授業開始時刻より10分以上の遅刻は入室を認めない（但し、遅延証明書等の届がある場合は考慮する）。
・成績評価点数＝Σ各項目評価(各得点率%×100)/評価項目数
（項目：レポート課題等の提出物評価、筆記試験）

《テキスト》

前編として「微生物学編」、後編として「化学編」を詳しく、平易に記載した実験書（プリント）を配付する。

《参考文献》

「食品衛生実験」東京顕微鏡院（編）、三共出版
「食品衛生ハンドブック」藤原・栗飯（監修）、南江堂
「原色食品衛生図鑑」細貝他3名（編）、建帛社
「カラーアトラス環境微生物」山崎（編）、オーム社

《授業時間外学習》

○予習の方法:配付した実験書（プリント）を読んでくること。また、適宜課題を出すので、その課題をやってくること。
○復習の方法:毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

・実験用の白衣（実験着。なるべく調理系実習等に併用しないもの）を必ず着用すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス 基本操作の確認（1）	コース概略と受講上の注意（微生物実験の諸注意および安全対策など）を理解する。 標準菌の接種・培養の手法について理解する。
2	基本操作の確認(2)(3) 応用実験（1）	標準菌の培養観察、単染色と顕微鏡観察の手法について理解する。 鼻腔常在細菌の培養検査の手法について理解する。
3	基本操作の確認（4） 応用実験（2）	グラム染色と顕微鏡観察の手法について理解する。 鼻腔常在細菌の培養観察の手法について理解する。
4	応用実験(3)(4)	食肉の雑菌検査（接種・培養）の手法について理解する。 手指・手の平の雑菌検査（接種・培養）の手法について理解する。
5	応用実験(5)(6)	食肉の雑菌検査（培養観察）の手法について理解する。 手指・手の平の雑菌検査（培養観察）の手法について理解する。
6	微生物編のまとめ	微生物編で学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。 また、理解度を確認するため、確認テスト①に取り組む。
7	化学編のガイダンス	化学編実験の諸注意を理解し、試薬調製など実験準備に取り組む。
8	漂白剤	漂白剤（亜硫酸塩、次亜塩素酸塩）の検出法について理解する。
9	着色料（1）	毛糸染色法：合成着色料の分離・同定法を理解する。
10	着色料（2） 保存料	薄層クロマトグラフィー：合成着色料の分離・同定法を理解する（継続）。 保存料（ソルビン酸）の検出法について理解する。
11	発色剤	発色剤（亜硝酸塩）の検出法について理解する。
12	油脂の酸化とその防止（1）	過酸化物価の手法について理解する。
13	油脂の酸化とその防止（2）	過酸化物価の手法について理解する（継続）。
14	化学編のまとめ	化学編の実験データを整理し、内容を振り返り、総合考察を行う。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。 また、理解度を確認するため、確認テスト②に取り組む。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	栄養管理学実習				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》
「応用栄養学」、「栄養管理学」で学んだことを基に、対象者の身体状況,栄養状態,生活習慣を把握し、また身体計測,臨床検査値から健康状態を評価して、栄養ｹｱができることを目標に、個々人の適切な栄養補給や食事計画について、実習および献立作成を通じて学ぶ。またﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞにおける栄養管理のための媒体や資料を作成するとともに、常に「食」への関心を持つように食に関する記事を探求し、討議、ﾚﾎﾟｰﾄする。

《授業の到達目標》
○各ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞにおける対象者の特性を理解して調理、献立作成ができる。
○設定された対象を把握し栄養ｹｱﾌﾟﾗﾝを考え、伝えることができる。　○栄養管理のための媒体や資料作成ができる。
○食と健康への関心を深める。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上のものは、成績評価対象外とする。ﾚﾎﾟｰﾄや試験の結果を中心とし、実習時の服装身だしなみ、受講態度を総合的に評価する。配分は、試験とﾚﾎﾟｰﾄ合わせて80%、その他（服装や受講態度など）20%を原則とする。

《テキスト》
『応用栄養学　栄養ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ演習・実習』竹中優,土江節子編　医歯薬出版　　『日本食品標準成分表2010』　『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編　第一出版

《参考文献》
『ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた人間栄養学　応用栄養学』森基子,玉川和子他著医歯薬出版
『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版
『栄養食事療法の実習　栄養ｱｾｽﾒﾝﾄと栄養ｹｱ』本田佳子編　医歯薬出版

《授業時間外学習》
授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので、読んでおくこと。

《備考》
遅刻（早退を含む）3回は、欠席1回に相当する。30分以上の遅刻は、欠席として扱う。ﾚﾎﾟｰﾄは、提出期日を守らないと減点あるいは、配点なしとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	「栄養管理学実習」ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	授業内容と実習時における決まりごとの説明
2	乳児期の栄養①	説明と実習：調乳と離乳食初期
3	乳児期の栄養②	説明と実習：離乳食
4	乳児期の栄養③	栄養管理：「栄養ケアについて」および離乳食献立作成
5	幼児期の栄養①	幼児期食実習
6	幼児期の栄養②	栄養管理：「栄養ケアについて」および幼児食献立作成
7	幼児期の栄養③	学生献立実習
8	学童期の栄養①	学童期食実習
9	学童期の栄養②	栄養管理：「栄養ケアについて」および学童期食献立作成
10	成人期の栄養①	生活習慣病予防食実習
11	成人期の栄養②	栄養管理：「栄養ケアについて」および生活習慣病予防食献立作成
12	成人期の栄養③	生活習慣病の食教育ﾘｰﾌﾚｯﾄ作成
13	高齢期の栄養①	高齢期食実習
14	高齢期の栄養②	高齢期食実習とくに嚥下困難食
15	高齢期の栄養③	栄養管理：「栄養ケアについて」および高齢期食献立作成

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	健康栄養教育実習				
担当者氏名	矢埜みどり				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○　2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》
本実習は、2年生履修の「栄養教育論」の知識をもとに、実際に栄養教育に取り組む科目です。個別及び集団栄養教育に必要な対象者のニーズアセスメント、指導計画の立案、教材作成を行い、実践力を養います。

《授業の到達目標》
ニーズアセスメントから、計画、実施、評価を行うことで、マネジメントサイクルの流れを理解する。　また本人の知識だけでなく、行動のスキル、周囲の人々の協力、環境などの要因の解決が必要な事を実感できる。

《成績評価の方法》
個別・集団の栄養教育に必要なアセスメントの内容（10点）、教育計画案（10点）、教育内容（10点）、評価（10点）、最終レポート（10点）で、採点する。
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
『エッセンシャル　栄養教育論:』春木敏 編（医歯薬出版）（2年時に購入済み）

《参考文献》
『健康・栄養科学シリーズ　栄養教育論』　丸山千鶴子、足達淑子　武見ゆかり　南江堂
『医療・保健スタッフのための件行動理論の基礎　松本千明　医歯薬出版

《授業時間外学習》
指示されたテキストの内容は必ず、理解して参加する事
また、ニーズアセスメントの方法、教育の立案、教材作成など時間外にも作成する必要があります。

《備考》
知識の伝達だけでは、行動が変化しない難しさを実感し、行動変容に何が大切なのかを意識する事。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育におけるマネジメントサイクルの理解	栄養マネジメントの流れを理解し、プリシード・プロシードモデルを復習する
2	個別の栄養教育（ニーズアセスメント）	個別の栄養教育を実施するための、必要なアセスメント項目を整理し、問診票の作成及び食事調査を実施する
3	個別の栄養教育（栄養教育計画）	食事調査及び問診の結果から、対象者のQOL、健康、問題行動、問題行動を引き起こす要因を分析し、教育の優先順位を決定する。
4	個別の栄養教育（栄養教育計画）	相手の行動段階を把握し、活用できる行動モデルを選択する。1ヶ月の期間を決めて、長期、中期、短期、経過目標及び評価項目を作成し、教育計画の原案を作成する。
5	個別の栄養教育（栄養教育の教材作成）	市販されている教材やオリジナルの教材にどのような物があるかを調査し、プレゼンし、それらの教材をもとに教育に必要な教材を準備する。
6	個別の栄養教育（栄養教育計画と実施）	3回の教育計画を再考し、第1回目の栄養教育を6人で1グループとなり、栄養教育を実践するとともに、他人の栄養教育を観察する。
7	個別の栄養教育（実施と評価）	1週間後の変化を問診し、栄養教育の経過評価を行なったのち、計画案を推敲し第2回の栄養教育を実践する。
8	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	第3回の個別の栄養教育。その後集団のニーズアセスメントを行うために、大学生の食生活の問題点をブレストを用いて整理し、グループで取り上げるテーマを決定する
9	個別の栄養教育（評価と改善）	1カ月後の個別の栄養教育の効果を評価項目をもとに評価・改善する
10	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	問題点の要因が明らかになるようなアンケート項目を検討し、パイロット調査を行う。
11	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	パイロット調査の結果を入力し、統計処理の方法を説明する。アンケート項目を再検討し、アンケートを実施する
12	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	アンケート結果を入力し、問題行動の要因が何かを分析する。
13	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	分析結果を各班でプレゼンテーションする。
14	集団の栄養教育（教育計画）	アンケートの結果をもとに、5回シリーズのの教育計画を作成する
15	栄養教育のまとめ	個別の栄養教育、集団の栄養教育についてまとめを行う

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学実習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

食事は、命を繋ぐために不可欠であり、入院患者にとっては楽しみの一つである。病態に応じた適切な栄養管理（食事提供）は患者の治療効果を上げ、ＱＯＬを高める。そのためには、疾患の概要を十分理解し、栄養スクリーニング、栄養アセスメントを行い、患者の嗜好や各学会の診療ガイドラインに沿った栄養ケアプランを作成する必要がある。作成した栄養ケアプランに従った調理、試食は患者理解に繋がる。

《授業の到達目標》

○病態別の栄養アセスメント（身体計測値、臨床診査、臨床検査、摂取量調査）が実施できる。
○病態別の栄養ケアプラン（栄養基準、食品構成、食品の選択、調理法）の説明および実施が可能となる。
○限られた時間内で業務をこなす力を身につける。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。 (2)授業態度10% (3)課題提出40% (4)定期試験50%
(5)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア第8版』本田佳子編、医歯薬出版、『臨床調理 第５版』玉川和子著、医歯薬出版 ＊別紙確認のこと

《参考文献》

『ｴｯｾﾝｼｬﾙ 臨床栄養学 第５版』佐藤和人他編、医歯薬出版
『改定 臨床栄養管理－栄養ｹｱとｱｾｽﾒﾝﾄ』渡辺早苗他、建帛社
『栄養科学ｼﾘｰｽﾞ 臨床栄養管理学実習』塚原丘美編、講談社
『臨床栄養』月間、医歯薬出版
『栄養食事療法ｼﾘｰｽﾞ』渡邉早苗編、建帛社

《授業時間外学習》

授業に必要な課題（自作献立）を作成すること。
実習終了後はレポートを作成し、復習に努めること。
治療効果を高める食事提供や栄養教育を実施するには、調理知識・技術、食品学の知識（成分、機能）にも精通しておく必要があります。日常生活の中で、常に食を意識する習慣をつけましょう。

《備考》

計算機を毎回持参してください。
提出物は期限を厳守してください。
白衣・帽子を忘れた場合は実習に参加できません。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養ケアの概要	栄養補給法とその種類、栄養必要量の算定(エネルギー、たんぱく質、炭水化物、脂質）、栄養ケアプランの概要について学びます。
2	栄養スクリーニング 栄養アセスメント	低栄養患者症例について栄養スクリーニング、栄養アセスメントを実施します。栄養アセスメントキットにより、身体計測を行います。
3	栄養ケアプラン	低栄養患者症例について、必要栄養量の算定、濃厚流動食の試飲を行います。
4	治療食作成 （摂食・嚥下障害）	摂食・嚥下のメカニズムを食品を使って確認後、摂食・嚥下疾患者に適した食事を調理実習します。作成した食事と市販食品との比較も行います。
5	糖尿病の食事療法	糖尿病症例について、栄養アセスメントを実施後、栄養ケアプランの立て方を学びます。糖尿病食品交換表の説明後、献立作成を行います。
6	治療食作成 （脂質異常症）	脂質異常症症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、脂質異常症の治療食を作成します。
7	治療食作成 （高血圧）	高血圧症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、減塩食の治療食を作成します。
8	治療食作成 （肝臓病）	肝臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、肝臓病治療食を作成します。
9	治療食作成 （糖尿病食）	糖尿病自作献立（朝・昼・夕・間食）に基づいた、治療食を作成します。献立については、他者からの評価を行います。
10	腎臓病の食事療法	腎臓病症例について栄養アセスメントを実施後、栄養ケアプランの立て方を学びます。腎臓病食品交換表の使い方を説明後、献立作成を行います。
11	治療食作成 （鉄欠乏性貧血）	鉄欠乏性貧血症例について栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び、鉄補給食のための治療食を作成します。
12	治療食作成 （食物アレルギー）	食物アレルギーの概要、栄養ケアプランの立て方を学びます。三大アレルゲンを除去した間食について治療食を作成します。
13	治療食作成 （腎臓病食）	腎臓病食自作献立（朝・昼・夕・間食）に基づいた、治療食を作成します。献立については、他者からの評価を行います。
14	実施疾患ついてのプレゼンテーション	学修してきた疾患について、各自の栄養ケアプランを発表します。
15	まとめ	栄養補給法についてのまとめを行います。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養管理学				
担当者氏名	昆 美惠子、岩田 隆男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

臨床栄養の専門職として、医療、保健、介護福祉などの施設において、他職種の専門職とともに協力しあい、チーム医療に参画できる知識や技術を習得する。そのため、傷病者の病態や栄養状態の特徴を学び、適切な栄養評価を行い、栄養計画、栄養教育などの栄養管理が実施できる能力を身につける。

《授業の到達目標》

①各疾患の病態、特徴を把握し理解できる。②臨床検査の種類、正常値を把握し、病態、病期が判定できる。③栄養評価を実施し、栄養計画、栄養教育が実施できる。④治療用特殊食品、病者用食品などの栄養価、特性についての知識を習得し、栄養マネジメントが実施できる。⑤栄養サポートチームなどのチーム医療に参画できる。

《成績評価の方法》

期末筆記試験８０点（６０分）、小テスト２０点、（筆記試験は教科書、参考書、電子辞書など一切持ち込みはできません）授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》

『改訂　臨床栄養管理―栄養ケアとアセスメント』（建帛社）著者：渡邊早苗、松崎政三、寺本房子ほか共著、適宜プリント資料

《参考文献》

『検査値に基づいた栄養指導』ポケットブック版（株式会社チーム医療）著者：足立香代子
『目で見る臨床栄養学 ＵＰＤＡＴＥ』（医師薬出版）著者：中村丁次ほか34名に医師薬出版が加筆修正編集

《授業時間外学習》

医療も日進月歩の世界であり、医療制度もまた変動が激しいため、新聞、インターネット、雑誌、学会誌、ラジオ、テレビなどの情報も、意欲的に認識する学習態度を持ちましょう。

《備考》

各疾患の栄養療法の基礎知識と、臨床検査値の読み方の復習が必要です。身近な人々の健康、疾患について関心を持ち、実際的な情報を得ながら学習しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養管理の基礎	栄養評価・栄養アセスメントの方法、血液・尿・便・生理機能などの臨床検査値の見かた、内分泌検査、免疫機能検査などの見かたについて学ぶ。
2	臨床栄養管理の実施	日本人の食事摂取基準・2010年版、栄養必要量の算定、栄養素の補給、栄養素材の機能、食物が医薬品に及ぼす影響などについて学ぶ。
3	病院給食アセスメント	院内栄養基準、食料構成表、治療食献立表、栄養指導表、特別用途食品として病者用食品、特定保健用食品の区別、栄養補給法など栄養管理計画について学ぶ。
4	内分泌・代謝性疾患・肥満	肥満症、脂質異常症・メタボリックシンドロームと特定保健指導について学び、これらの危険因子を把握し栄養指導が実施できる技術を身につける。
5	内分泌・代謝性疾患・糖尿病	糖尿病の病態と分類、小児糖尿病の病態を理解し、症例から栄養指導、糖尿病教室の運営の方法などについて学ぶ。
6	内分泌・代謝性疾患・糖尿病の合併症	糖尿病と糖尿病特有の３大合併症、糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症について学び、それぞれの病期に適した栄養管理、栄養指導が実施できる能力を身につける。
7	内分泌・代謝性疾患・多様な代謝機能異常症	高尿酸血症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、先天性代謝異常症について学び、栄養管理、栄養指導が実施できる技能を身につける。
8	循環器系疾患	動脈硬化症、高血圧症、心疾患、脳梗塞、認知症、パーキンソン病、慢性閉塞性肺疾患（ＣＯＰＤ）の病態を把握し、栄養管理、栄養指導の方法を会得する。
9	腎臓疾患	急性･慢性腎炎：ＣＫＤ、腎不全、人工透析療法の病態について学び、それぞれの病期に適切な栄養管理、栄養指導方法について学ぶ。
10	消化器系疾患１	口腔・食道疾患、胃･十二指腸潰瘍、栄養管理について学ぶ。【岩田】
11	消化器系疾患２	炎症性腸疾患、クローン病の病態について学ぶ。【岩田】
12	消化器系疾患３	胃癌、胃手術前・後の病態。胃術前･術後の治療食と栄養管理について学ぶ。【岩田】
13	消化器系疾患４	急性･慢性肝炎、肝硬変、肝不全、脂肪肝、胆嚢炎、膵臓疾患の病態と栄養管理について学ぶ。【岩田】
14	嚥下障害の栄養法	嚥下障害の病態、濃厚流動食の選択などの栄養マネジメント、褥瘡対策の指針,食物アレルギーと除去食品・代替食品などについて学ぶ。【岩田】
15	血液疾患、感染症、骨代謝疾患	神経性食欲不振症の病態,血液疾患の種類、感染症と熱性疾患、骨粗鬆症の病態について学ぶ。【岩田】

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養管理演習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

疾患の治療や予防に必要な栄養管理法が選択できる技術を学修する。現在までに習得した臨床栄養学、栄養管理学、栄養教育の知識と技術を駆使し、提示した病態症例について栄養スクリーニングを行い、その結果に基づいて適切な栄養ケアプランを作成する。また、模擬患者体験、高齢者擬似体験、治療食の試食を通じて傷病者への理解およびコミュニケーション力を身につけることを目的とする。

《授業の到達目標》

○病態の判定に必要な検査値が理解できる。
○病態に応じた栄養アセスメントができる。
○傷病者に配慮したコミュニケーション法を身につける。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。 (2)小テスト15% (3)課題提出15% (4)定期試験70%
(5)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア 第８版』本田佳子編、医歯薬出版
『臨床調理 第５版』玉川和子著、医歯薬出版

《参考文献》

『栄養科学ｼﾘｰｽﾞ 臨床栄養管理学実習』塚原丘美編、講談社
『改定 臨床栄養管理－栄養ｹｱとｱｾｽﾒﾝﾄ』渡辺早苗他、建帛社
『改訂３版 すぐに役立つ 栄養指導マニュアル』中村丁次、日本医療企画

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：授業内に指示された項目について予習しておくおと。また、適宜課題を指示する。
(2)復習の方法：授業内容を再確認し、不明な点は質問および自学すること。

《備考》

講義中に数回小テストを行う。
計算機を毎回持参すること。
提出物は時間厳守のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養状態の評価判定	p
2	肥満症の栄養管理	肥満症の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。肥満症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
3	肥満症の栄養管理	前回に検討した肥満症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
4	糖尿病の栄養管理	糖尿病の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。糖尿病症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
5	糖尿病の栄養管理	前回に検討した糖尿病症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
6	胃疾患の栄養管理	胃疾患の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。胃疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
7	胃疾患の栄養管理	前回に検討した胃疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
8	肝疾患の栄養管理	肝疾患症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。肝疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
9	肝疾患の栄養管理	前回に検討した肝疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
10	腎疾患の栄養管理	腎疾患症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。腎疾患症例の検査値から、病態および病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
11	腎疾患の栄養管理	前回に検討した腎疾患症例に対する栄養ケアプラン、栄養教育が実施できる。
12	高齢者の栄養管理	高齢者疑似体験装具を着用し、高齢者の身体機能の低下を疑似体験することで、高齢者への接し方、食生活状況を理解できる。
13	高齢者の栄養管理	高齢者施設の管理栄養士から、現場でのアセスメントと栄養指導の実際について学び、理解するとともに、実践に結びつけることができる。
14	高齢者の栄養管理	高齢者症例の病態、特徴を把握し、病因などが理解できる。高齢者症例の検査値から、病態、病期が判定でき、適切な栄養管理ができる。
15	まとめ	これまでの学習内容と得られた知見を再確認し、具体的に説明することができる。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学Ⅱ				
担当者氏名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
保健・医療・福祉・介護システムの中で、各種サービスの調整、人的資源など社会資源の活用、コミュニケーションの管理などの仕組みについて学修する。

《授業の到達目標》
1.集団の特性や諸問題を把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・評価することができる。
2.プログラム運営に際し、適切な社会資源の活用や、環境への働きかけの手法を理解し、説明することができる。

《成績評価の方法》
1.小テスト・課題20%+定期試験80%で評価。
2.30分以上の遅刻は、欠席扱い。
3.30分未満の遅刻3回で欠席1回の扱い。
4.授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
サクセス公衆栄養学
日本人の食事摂取基準
管理栄養士・栄養士必携　　以上すべて第一出版

《参考文献》
エッセンシャル栄養教育論（医歯薬出版）
国民衛生の動向（厚生統計協会）
健康日本21と栄養士活動（第一出版）
国民健康・栄養の現状（第一出版）

《授業時間外学習》
1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. テキスト中の演習問題を復習として解いておくこと。

《備考》
「管理栄養士」の名称にふさわしい積極的な受講態度を求める。
食問題に注目しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養マネジメント	マネジメントサイクル　・アセスメントとしての食事摂取基準（復習）
2	公衆栄養アセスメント１	食事摂取基準の地域集団への活用（復習）
3	公衆栄養アセスメント２	食事摂取基準小テスト　・質問調査の方法と活用
4	公衆栄養アセスメント３	既存資料の活用　・健康・栄養情報の収集と管理
5	公衆栄養プログラムの目標設定	課題の抽出　・目標設定
6	公衆栄養プログラムの計画・実施	地域社会資源の把握と管理　・コミュニティーオーガニゼーション
7	公衆栄養プログラムの評価	評価デザイン　・プリシード・プロシードモデルによる評価
8	公衆栄養プログラムの展開１	プログラム関係者・機関の役割（保健所、保健センター、ボランティア団体）
9	公衆栄養プログラムの展開２	都道府県と市町村による活動の違い
10	公衆栄養プログラムの展開３	母子保健対策　・学童・思春期
11	公衆栄養プログラムの展開４	成人（健康フロンティア戦略、新健康フロンティア戦略）
12	公衆栄養プログラムの展開５	成人（特定健康診査・特定保健指導）
13	公衆栄養プログラムの展開６	高齢者（介護システム）　・障害者
14	公衆栄養プログラムの展開７	特別用途食品　・栄養成分表示　・給食施設支援
15	諸外国の健康・栄養政策	諸外国の現状と課題　・国際機関と活動内容　・取組や政策

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養活動実習				
担当者氏名	未定				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ◎　3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
地域社会の健康・栄養問題やニーズ等を、確かな情報収集・分析により実態把握し、適切な課題分析・地域診断に基づく公衆栄養プログラムの作成・実施・評価を行うことのできる専門的な知識や技術を修得する。

《授業の到達目標》
1.地域の特性や社会資源を活用した公衆栄養活動プログラムを作成することができる。
2.プログラムの実践から評価、フィードバックを行うことができる。

《成績評価の方法》
1.個人課題40%,グループ実習40%,筆記試験20%で評価。
2.60分以上の遅刻は欠席、60分未満の遅刻3回で欠席1回の扱い。
3.健康科学部履修規定に準ず。

《テキスト》
『国民衛生の動向2012/2013年版』（厚生統計協会）
公衆栄養学ⅠとⅡで使用したテキスト

《参考文献》
「エッセンシャル栄養教育論」春木敏　編（医歯薬出版）
「健康日本21と栄養士活動」（社）日本栄養士会　編（第一出版）
「国民健康・栄養の現状」（第一出版）

《授業時間外学習》
1.個人課題の作成を、各自で取り組み事。
2.グループでの健康教育の実践の媒体準備やリハーサルを、各グループで調整実施しておくこと。

《備考》
グループ活動ではメンバーに迷惑をかけないよう、報告・連絡・相談を怠らないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養アセスメント１	集団のアセスメント（国民健康栄養調査の結果より栄養問題を把握する）
2	公衆栄養アセスメント２	社会資源の活用（既存資料より食生活、健康問題を把握する）
3	公衆栄養プログラム計画１	目標設定～カリキュラム作成
4	公衆栄養プログラム計画２	授業案作成
5	公衆栄養プログラム計画３	グループ実施案の作成・準備
6	公衆栄養プログラムの実践１	グループ実施案の準備・リハーサル
7	公衆栄養プログラムの実践２	講話による健康教育のロールプレイング１
8	公衆栄養プログラムの実践３	講話による健康教育のロールプレイング２
9	公衆栄養プログラムの実践４	グループ実施案の準備・リハーサル
10	公衆栄養プログラムの実践５	試食のある健康教育のロールプレイング１
11	公衆栄養プログラムの実践６	試食のある健康教育のロールプレイング２
12	公衆栄養プログラムの評価１	個人課題の作成
13	公衆栄養プログラムの評価２	ロールプレイング実施授業案のプロセス評価
14	公衆栄養プログラムの改訂	個人課題の作成
15	公衆栄養プログラムの改訂	個人課題の作成　　・筆記試験

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	メニュー管理実習				
担当者氏名	福本 恭子、和田 早苗				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
給食経営管理論の知識や調理学実習での調理技術、献立作成の基本を生かし、特定給食施設での給食を想定した献立作成能力を修得する。

《授業の到達目標》
集団を対象とした献立管理および、給食管理実習の円滑な遂行と完成度を高めるための実務を理解する。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は成績評価対象外とし、遅刻3回を1回分の欠席とする。
給食管理実習と連携した各業務における実践力と態度(20%)および帳票作成（20%）、特定給食施設の献立作成（40%）と献立の試作と検討（20%）

《テキスト》
『給食経営管理実習の手引き』(給食管理実習共通テキスト)

《参考文献》
『給食管理』鈴木久乃他編、第一出版、2000
『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部、2007
『大量調理施設衛生管理のポイント』中央法規出版、2011
『日本人の食事摂取基準2010年版』第一出版、2009

《授業時間外学習》
給食管理実習と連携した実習であり、円滑な実習運営のため、事前事後の作業に伴う授業時間外学習が考えられる。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合オリエンテーションⅠ	実習の概要説明、給食管理実習との連携について
2	総合オリエンテーションⅡ	栄養計画（献立計画）各種帳票内容説明
3	事前準備　試作検討	各種計画表作成（献立表、発注・日計表、衛生管理計画表、栄養教育媒体等）
4	調理・給食実習	事前準備（帳票、発注、打ち合わせ会）
5	調理・給食実習	実習日（検収、調理、供食、後片付け、ゴミ捨て、反省会）
6	調理・給食実習	事後報告（帳票、会計報告、給食報告会）
7	献立計画	特定給食施設を想定した献立計画
8	献立試作	献立計画に基づき献立の試作
9	献立検討①	献立の見た目、量、味の検討
10	献立検討②	献立の作業手順、栄養、価格検討
11	献立評価	献立の総合評価
12	調理・給食実習	＊第3週から第5週の実践活動を各グループごとでローテーションにより作業する
13	献立計画、試作、検討、評価	＊第7週から第11週をローテーションにより作業する
14	総合評価Ⅰ	各給食管理実習のグループの報告会準備
15	総合評価Ⅱ	特定給食施設を想定した献立の総合評価とまとめ

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理実習				
担当者氏名	和田 早苗、福本 恭子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

2年時に学んだ給食経営管理論での知識を生かし、特定給食施設の管理栄養士・栄養士として実際の給食施設を想定しながら「経営管理」や「給食運営」の実践を行う。実際の給食施設での管理の機能を学び管理者の役割を理解し技能を修得する。

《授業の到達目標》

集団を対象とした、栄養管理や食事計画、食品管理等 大量調理での作業計画の実際を実務する。栄養管理・食事管理及びサービスを効果的かつ安全に運営するためのシステムを構築、顧客管理の意義を理解しマーケティングをより効果的に行うなかで管理者としての役割(組織の統括）学び、技能（手法）を習得する。

《成績評価の方法》

欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。給食管理実習において総合的に評価する遅刻3回を1回の欠席とする。実践力と態度（30%）・管理者としての役割や統制能（30%）・マーケティング戦略能力（20%）・給食経営管理実習に伴う帳票作成（10%）・理解度テスト（10%）

《テキスト》

『給食管理』鈴木久乃他編　（第一出版）2年次Ⅱ期に使用
『知ってトクする調理のためのベーシックデーター』『給食経営管理実習の手引き』（初回に購入する500円）

《参考文献》

『大量調理衛生管理ポイント』（中央法規出版）
『日本人の食事摂取基準』［2010版］
『最新日本食品成分表』1年次に購入済み
『臨床栄養管理ー栄養アセスメントー』

《授業時間外学習》

栄養教育のための媒体作成や購入物資の検収は事前準備が必要となる。当日の作業が円滑に実践できるように管理者としての配慮は常に必要とされる。約束された食事提供時間に合わせた業務の開始は授業時間外に設定することになる場合もある。実習後の反省会、実習室の清掃等時間の延長も考えられる。

《備考》

実習はグループでの取組となります。コミュニケーション能力を発揮し成果を高め、多くの達成感を得る事ができるよう積極的に参加すること。専用シューズ・食費負担必要

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合オリエンテーションⅠ	実習の概要説明　　グループ編成　作業分担
2	総合オリエンテーションⅡ	栄養計画　（献立計画）各種帳票内容説明
3	事前準備　試作検討	各種計画表作成 （献立表、発注・日計表、衛生管理計画表、栄養教育媒体など）
4	調理・給食実習	（食材の検収、調理、供食、後片付け、栄養教育媒体計画）
5	反省会	（調理、供食実習のまとめ、会計報告、帳票作成）
6	事前準備	試作検討・各種帳票作成
7	給食実習	調理実習（実践活動）
8	反省会	（評価報告・会計報告等）
9	事前準備	試作検討・各種帳票作成
10	給食実習	調理実習（実践活動）
11	反省会	（評価報告・会計報告等）
12	事前準備	試作検討・各種帳票作成
13	給食実習	調理実習（実践活動）
14	反省会	（評価報告・会計報告等）　＊第3週～第5週の実践活動を書くグループに分かれ、ローテーションで作業を進め、1グループが4回程度厨房内の授業を経験する。
15	総合評価	各グループの発表・全体の報告会

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	フードサービスマネジメント演習				
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》
外食産業や中食産業の発展がめざましい中、給食市場においても競争が激化している。そこで、経営学の手法を用いて給食の効果的な事業活動を考察する。

《授業の到達目標》
給食経営管理分野に関連した経営学、人的資源管理、マーケティング、生産管理、流通等の基礎を理解し、給食の経営に応用展開できる能力を習得する。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。授業態度(20%）、グループ発表（30%）、定期試験（50%）

《テキスト》
『食品の消費と流通』日本フードスペシャリスト協会編、建帛社, 2011

《参考文献》
『フードシステムの経済学』時子山ひろみ・荏開津典生著、医歯薬出版、2010

《授業時間外学習》
わが国の経済動向や食品業界の問題について常に関心を払うこと。授業内容を復習し、再確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	フードサービスマネジメント演習の概要説明
2	給食の経営	経営資源の理解と給食における経営資源を考える。
3	給食の経営	グループ討議と発表（給食における経営資源）
4	給食の経営	マーケティングの理解と給食におけるマーケティングを考える
5	給食の経営	グループ討議と発表（給食におけるマーケティング）
6	給食の経営	製品のライフサイクル、マーケティングの拡張
7	食品の流通	流通経路について理解する。
8	食品の流通	生鮮食料品の流通、卸売市場を理解する。
9	食品の流通	卸売業、小売業について理解する。
10	食品の流通	食事の形態、外食の市場規模について理解する。
11	食品の流通	グループ討議と発表（食品の流通）
12	給食の危機管理	食品消費と環境問題を理解する。
13	給食の危機管理	食品消費と安全を理解する。
14	給食の危機管理	グループ討議と発表（給食の危機管理）
15	まとめ	フードサービスマネジメント演習のまとめ

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理臨地実習（校外実習）				
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
特定給食施設における実際の活動を通して、給食業務に必要なサービス提供に関して管理栄養士・栄養士として具備すべき知識や技能を修得する。また、課題発見とその解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントに必要な専門的知識・技能の総合を図ることをめざす。時間割上の科目名における臨地実習に関わる事前及び事後指導、事業所・福祉施設などの特定給食施設においての臨地実習を１週間及び報告会を行います。

《授業の到達目標》
・学内での給食管理実習と実際の現場実習との違い等、課題を発見し、その対処方法を考えることが出来る。
・報告会によって、様々な喫食者への食事サービス提供がある現状を理解できる。
・チームワーク及びコミュニケーションの重要性を体験できる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
実習施設の評価表60%、臨地実習ノート等提出物20%、事前・事後指導（報告会を含む）への取組み20%

《テキスト》
「平成24年度臨地実習ノート」

《参考文献》
「平成24年度臨地実習ノート」の参考図書を参照、さらに必要な文献、資料等を各自準備すること。

《授業時間外学習》
給食の運営や給食管理、栄養の指導等に関わる教科の理解を深め、習得したいことを見出し、そのことについて予習しておくことが実習施設において積極的な学習に繋がると考えます。

《備考》
平素から実習生、社会人としてのマナーを自覚し、健康管理に留意してください。心身に不安がある場合は、学内の健康管理センターで相談してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	事前指導①	給食管理臨地実習（校外実習）における事前指導 臨地実習ノートの使い方、レポートの提出について
2	事前指導②	給食管理臨地実習（校外実習）における事前指導 臨地実習の心構え、諸注意
3	事前指導③	給食管理臨地実習（校外実習）における事前指導 外部講師による講演
4	事前指導④	給食管理臨地実習（校外実習）における事前指導 実習先の決定、実習先ごとの打ち合わせ
5	事前指導⑤	給食管理臨地実習（校外実習）における事前指導 衛生管理（検便等）、貸与物品、保険、最終打ち合わせ
6	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
7	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
8	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
9	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
10	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
11	事後指導①	給食管理臨地実習（校外実習）における事後指導 臨地実習ノートの提出、貸与物品の返却
12	事後指導②	給食管理臨地実習（校外実習）における事後指導 実習報告会準備
13	事後指導③	給食管理臨地実習（校外実習）における事後指導 実習報告会（事業所給食）
14	事後指導④	給食管理臨地実習（校外実習）における事後指導 実習報告会（福祉施設）
15	事後指導⑤	給食管理臨地実習（校外実習）における事後指導 まとめ

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養臨地実習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	実習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》

実習前教育を通じて、管理栄養士としての素養を磨く。臨地実習では、現在までに学習してきた知識･技術を元に、医療現場における管理栄養士の役割の理解、チーム医療における管理栄養士の専門性の認識、入院から退院までの栄養アセスメント、栄養ケアの理解、献立立案から提供までの一連の作業を体験し、今後備えるべき知識・技術の方向性を修得する。

《授業の到達目標》

○臨床現場での管理栄養士の役割が説明できるようになる。
○チーム医療での管理栄養士の役割が説明できるようになる。
○病態に応じた栄養アセスメント、栄養ケアプラン（栄養補給法）の立て方が説明できるようになる。
○ベッドサイド、集団･個別での栄養管理や栄養・食事指導が理解できるようになる。
○他職種との関わりが理解できるようになる。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。
(2)臨地実習（実習指導管理栄養士の評価）60%
(3)事前・事後指導への取組み20%
(4)臨地実習ノートの提出20%

《テキスト》

『平成24年度臨地実習ノート』
必要に応じて資料を配布する
１、２、３年次使用テキスト

《参考文献》

１、２、3年次使用テキスト
『臨地実習マニュアル［臨床栄養学］第4版』寺本房子編著、建帛社
『ＮＳＴ完全ガイド　栄養療法の基礎と実践』東口高志編、照林社

《授業時間外学習》

・臨床栄養学に関する基礎知識について復習しておくこと。
・実習前は、臨地実習ノート「予習編」について自学し発表すると共に提出する。提出者のみ、実習受講が認められる。
・実習後はすみやかに臨地実習ノート「実習編」および実習施設での課題等についてまとめ、提出する。リーダーについては、臨地実習報告書も提出する。

《備考》

医療現場にて、2週間の実習を行う。現在までに身につけた知識、技術、事前教育内容を活かし、実習の効果を上げる。守秘義務の徹底など医療人・社会人としてのマナー尊守のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習事前教育1 オリエンテーション	臨床栄養臨地実習の目的など概要説明
2	臨地実習事前教育2	先輩栄養士の臨地実習報告会
3	臨地実習事前教育3	先輩栄養士の臨地実習報告会
4	臨地実習事前教育4	臨地実習予習内容発表会
5	臨地実習事前教育5	臨地実習予習内容発表会
6	臨地実習事前教育6	臨床現場管理栄養士による講話
7	臨地実習事前教育7	臨床現場管理栄養士による講話
8	臨地実習事前教育8	外部講師による講話 ・人権に関する講話
9	臨地実習事前教育9	外部講師による講話 ・マナー：手紙の書き方
10	臨地実習事前教育10	外部講師による講話 ・マナー：礼儀作法
11	臨床臨地実習１	臨床現場管理栄養士の指導による実習
12	臨床臨地実習２	臨床現場管理栄養士の指導による実習
13	臨床臨地実習３	臨床現場管理栄養士の指導による実習
14	臨床臨地実習４	臨床現場管理栄養士の指導による実習
15	臨地実習事後指導１	臨床栄養臨地実習のまとめと発表

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論Ⅰ				
担当者氏名	松尾 千鶴子、宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

成長期の身心・栄養特性、食と健康に関する基礎知識を把握し、学校教育のなかで、管理栄養士及び教育職員として、食にかかわる指導・管理の内容と位置づけを理解し、基本的な教育力を培うことを目指します。

《授業の到達目標》

・食を取り巻く社会の変化に伴う学童の食生活・栄養摂取状態、肥満や痩身志向、アレルギー等について理論的な説明ができる。
・学校組織における栄養教諭の位置づけや職務と役割を学び、学校給食の管理運営、他教科ならびに家庭と地域とのかかわりの実際を理解することができる。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、課題レポート等の提出物 30%（授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のとき試験を受けることができない。）

《テキスト》

未定（後日決定）

《参考文献》

『栄養教諭とはなにか－「食に関する指導」の実践－』女子栄養大学教諭研究会編（女子栄養大学出版部）
『子どもの栄養・食教育ガイド』坂本 元子（医歯薬出版）
『栄養教諭（季刊）』全国学校栄養士協議会編（日本文教出版）

《授業時間外学習》

教育ならびに学校給食、子どもの食に関する様々な情報に関心をもち、新聞や調査データ等を読む習慣をつけることが望ましい。

《備考》

欠席しないようにしましょう。継続して受講すること、また分からないことは質問することで理解力を高めます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	成長期	これまで学んだ成長期の発育・発達と栄養特性を再認識し、食に関する指導・管理の意義について理解する。
2	健康と食生活	健康と食生活のかかわり及び望ましい食習慣の形成を理解する。
3	食生活の課題	食生活を取り巻く様々な課題を知り、その対応策を理解する。
4	疾病と食生活	調査にみられる食生活に関する実態把握、肥満等疾病の発症と食生活のかかわりを理解する。
5	法令・諸制度	法令（学校教育法、食育基本法等）や諸制度について理解する。
6	法令・諸制度	法令（学校給食法等）や諸制度について理解する。
7	法令・諸制度	学校組織、校務分掌、栄養教諭の位置づけについて理解する。
8	法令・諸制度（栄養教諭制度）	学校組織、校務分掌、栄養教諭の位置づけについて理解する。
9	学校給食	歴史や意義・目的を踏まえ、教育的意義と役割を理解する。
10	学校給食	衛生管理の取り組みについて、その経緯と現状を理解する。
11	学校給食	家庭及び地域とのかかわりについて理解する。
12	社会的事項と栄養教諭	社会の実状、家庭及び地域とのかかわりについて理解する。
13	日本の食文化	学校給食の管理、食に関するの指導における食材との接し方、その地の食文化とのかかわりを把握する。
14	日本の食文化	学校給食の管理、食に関するの指導における食材との接し方、その地の食文化とのかかわりについて把握する。
15	世界の食文化	学校給食の管理、食に関するの指導において、外国の風習と食文化とのかかわりについて理解する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論Ⅱ				
担当者氏名	増村 美佐子・宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

学校栄養教諭は、食に関する指導に係る全体計画策定のための企画・立案をする能力が必要となる。ここでは、給食・各教科（家庭科、体育科、生活科など）における目標や内容を学修した上で、食に係る指導の充実のため、学校・家庭・地域との連携の中でどのような指導を行っていくとよいかを考えながら指導案を作成し、作成した媒体を用いた模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

○給食・各教科における目標や内容、学校・家庭・地域との連携が理解できる。
○食に関する指導を通じて、教材研究や指導案の作成ができる。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。 (2)レポート20% (3)模擬授業20% (4)定期試験60%
(5)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《テキスト》

『栄養教諭論 理論と実際』金田雅代編著、建帛社、2012
『小学校 学習指導要領』平成20年3月告示、文部科学省

《参考文献》

『栄養教諭のための 学校栄養教育論』笠原賀子、医歯薬出版
『食育指導ガイドブック』中村丁次監修、丸善株式会社
『季刊 栄養教諭』全国学校栄養士協議会編、日本文教出版
『子どもの栄養と食育がわかる辞典』足立己幸、成美堂出版

《授業時間外学習》

各教科に対する指導案を各自で作成しますので、計画的に教材研究を進めておいて下さい。

《備考》

毎日、新聞やニュースに目を通し、子どもを取巻く現状や、栄養・健康・社会情勢についての情報を収集し、スクラップする習慣を身につけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食に関する指導に係わる全体的な計画の作成	・食に関する年間指導計画の策定方法を学ぶ ・食に係わる指導の評価法を学ぶ
2	給食の時間における食に関する指導	・給食の時間における食に関する指導を学ぶ ・地場作物を活用した食に関する指導を学ぶ
3	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
4	体育、保健体育科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
5	道徳、特別活動における食に関する指導	・学習指導要領における道徳、特別活動の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
6	食生活の時間における食に関する指導	・学習指導要領における食生活の時間の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
7	総合的な学習の時間における食に関する指導	・学習指導要領における総合的な学習の時間の時間の目標および内容を学ぶ ・課題設定、指導計画、指導案づくり、指導方法等を学ぶ
8	個別栄養相談指導	・児童・生徒、保護者に対する個別指導等を学ぶ ・他の児童・生徒への指導上の配慮を学ぶ
9	学校、家庭、地域が連携した食に関する指導	・家庭や地域との連携の必要性と取組み方を学ぶ ・連携する地域との関係機関・団体等を学ぶ
10	実践演習（1）	・食に関する指導の指導案の作成方法を学ぶ
11	実践演習（2）	・作成した指導案を発表し、相互評価する
12	実践演習（3）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
13	実践演習（4）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
14	実践演習（5）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
15	総括（まとめ）	・食に関する領域・内容における指導方法のまとめを行う

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育史				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

本授業では,「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく,子どもの遊び,子育て,大人と子どもの関係,海外留学など,広くとらえ,みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には,受講生は日ごろ読んでいる本の中から,教育史的内容を含むものを1冊以上選び,その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は,文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと,無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では,みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ,それについて発表することにより,教育史を身近に感じてもらうことが,本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と,発表への評価(70%)による。ただし, 大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき, 変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考文献》

妹尾河童『少年H』,さくらももこ『まる子だった』,黒柳徹子『窓際のトットちゃん』,司馬遼太郎『竜馬がゆく』,ヘッセ『車輪の下』,サンテグジュペリ『星の王子さま』,童門冬二『上杉鷹山』,乙武洋匡『五体不満足』,ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが,その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	教育方法論				
担当者氏名	岡本 洋之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
受講生は数名ずつのチームに分かれ,それぞれに割り当てられたキーワード(「アルコール」,「煙草」,「麻薬・覚醒剤」等)に関して,図書やインターネット等を使って調べたうえで,ポスターや紙芝居,冊子を作ったり,マイクロソフト・パワーポイント等を用いて模擬授業を行う。

《授業の到達目標》
本授業では,「教育と情報」と題して,栄養教諭の職務を遂行するのに必要な情報を収集(受信),整理したうえで,子どもたちを前にしてプレゼンテーション(発信)を行うのに必要な知識と技術(情報機器の活用を含む)を学ぶ。

《成績評価の方法》
提出物(20%)と,発表への評価(80%)による。ただし,大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき,変更することがある。

《テキスト》
とくに定めない。

《参考文献》
・宅間紘一『学校図書館を活用する学び方の指導』(全国学校図書館協議会)2002年
・鈴木義幸『熱いビジネスチームをつくる4つのタイプ―コーチングから生まれた―』(ディスカヴァー・トゥエンティワン)2002年

《授業時間外学習》
模擬授業づくりのためのチームでの作業。その他は必要に応じて指示する。

《備考》
本授業では,模擬授業を行う単位であるチームを,「チーム学習研究会」(指導者:西之園晴夫・佛教大学教授)での教育工学研究成果に基づいて編成する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	心理テストを用いたチーム分け
2	チームごとに分かれての作業(1)	授業の構想づくり
3	チームごとに分かれての作業(2)	情報機器の活用プラン作成等
4	模擬授業(1)	テーマ例:骨粗鬆症/運動
5	模擬授業(2)	テーマ例:栄養素/休養
6	模擬授業(3)	生活習慣病と栄養/麻薬・覚せい剤
7	模擬授業(4)	テーマ例:地産地消/アルコール
8	模擬授業(5)	テーマ例:おやつのとり方/ガン
9	模擬授業(6)	テーマ例:咀嚼力/循環器疾患
10	模擬授業(7)	テーマ例:食物ピラミッド/ストレス対処法
11	模擬授業(8)	テーマ例:子どもの食事/むし歯
12	模擬授業(9)	テーマ例:発育と発達/カゼ
13	模擬授業(10)	テーマ例:朝食欠食/タバコ
14	模擬授業(11)	テーマ例:行政のとりくみ
15	本授業の総括	講義「授業と情報の受発信」

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	事前事後指導				
担当者氏名	和田 早苗、亀谷 小枝				
授業方法	講義	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力					

《授業の概要》
栄養教育実習の概要を説明するとともに、学校教育における食に関する指導の重要性を確認する。栄養教諭としての専門性の向上及び、児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置付けを確認します。事後指導では、反省点を捉え直し、知識・技術の定着のために課題や問題点を明確にしていきます。

《授業の到達目標》
栄養教諭としての専門性の向上のみならず、児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標の策定など、栄養教育実習の位置づけを確認することができます。事後指導に於いては、実習報告書を作成するとともに、受講生の前で発表することで、他の学生の経験を共有することが出来るとともに、実習経験をより確実なものにすることができます。

《成績評価の方法》
授業中の態度（40%）及び報告会のプレゼンテーション（30%）、報告書（30%）で評価する。

《テキスト》
栄養教育実習ノートを作成し配布する。

《参考文献》
『栄養教育論　理論と実習』　金田雅代編著　（建帛社）
『栄養教諭とはなにか　食に関する指導の実践』　女子大学栄養教諭研究会編　（女子栄養大学出版）　『あすからの「子どもの食育」にすぐ役立つ本』　「食生活」編集部編　（（株）ガサン）

《授業時間外学習》
実習校への事前訪問、事後訪問も含まれる。事前訪問までに実習校の歴史、規模、教育方針も調べておくこと。

《備考》
事後指導は４年次の教育実習後に行う。成績の最終評価は、教育実習・事後指導後に行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	３年Ⅱ期　事前指導-1 オリエンテーション	教育実習に向けての心得や授業の概要を理解する。
2	３年Ⅱ期　事前指導-２ 実習に関する書類作成	実習要領を理解する。実習に関する必要書類の確認を行い、実際に書類を作成する。
3	３年Ⅱ期　事前指導-３ 事前訪問指導	実習校への事前訪問の仕方及び実習ノートへの記入方法を理解する。
4	３年Ⅱ期　事前指導-４ 実習手続き	実習手続きの方法を理解し、実習に必要な書類の作成を行う。
5	４年Ⅰ期　事前指導-５ 直前指導	教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の最終確認を行う。
6	４年Ⅰ期　事後指導-1 実習報告書作成	教育実習報告書の作成方法の確認及び報告書の作成を行う。
7	４年Ⅰ期　事後指導-２ 実習報告会	教育実習の内容をまとめ、各自発表する。発表内容に対し意見交換を行い、実習内容の理解を深める。
8	４年Ⅰ期　事後指導-３ まとめ	教育実習の事前・事後指導をふりかえり、事前指導、実習、事後指導で身についたこと等を確認する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

平成 21（2009）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅰ群（領域に関する科目）	基礎ゼミⅠ	演習	2						2										
		基礎ゼミⅡ	演習	2							2									
		栄養のための統計学入門	講義		2						2									
		栄養のための基礎生物化学	講義	2					Ⓑ	2										
		実験基礎演習	演習	2						2										
		医学概論	講義	2					Ⓔ	2										
		臨床心理学	講義		2							2								
		コミュニケーション論	講義		2					2										
		栄養と薬物	講義		2										2					
		バイオテクノロジー	講義		2				Ⓔ							2		[森田 尚文]	199	
		食料経済	講義		2											2		(池本 廣希)	200	
		健康科学	講義	2							2									
	Ⅱ群（専門基礎に関する科目）	健康情報処理演習	演習	2							2									
		情報処理と栄養統計Ⅰ	講義		2		○	△				2								
		情報処理と栄養統計Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		公衆衛生学Ⅰ(公衆衛生)	講義	2		◇	○	△	Ⓓ					2						
		公衆衛生学Ⅱ(健康管理)	講義		2		○	△							2					
		社会福祉概論	講義		2	◇	○	△						2						
		生化学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		生化学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓑ			2								
		生化学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ			3								☆
		生化学実験Ⅱ	実験		1		○	△	Ⓑ				3							☆
		栄養解剖学・人体生理学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ		2									
		栄養解剖学・人体生理学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓑ			2								
		栄養解剖学実験	実験		1	◇	○	△				3								☆
		人体生理学実験	実験		1		○	△					3							☆
		臨床病態学Ⅰ	講義		2	◇	○	△	Ⓔ			2								
		臨床病態学Ⅱ	講義		2		○	△	Ⓔ				2							
		生体防御論	講義		2		○	△	Ⓒ					2						
		食品微生物学	講義		2				Ⓒ						2					
		食品学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓑ	2										
		食品学Ⅱ	講義		2	◇	○	△	Ⓒ			2								
		食品学実験Ⅰ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ		3									☆
		食品学実験Ⅱ	実験		1	◇	○	△	Ⓑ						3					☆
		食品衛生学	講義	2		◇	○	△	Ⓓ				2							
		食品衛生学実験	実験		1		○	△	Ⓓ					3						☆
		食品機能論	講義		2		○	△								2		[登成 健之介]	201	
		調理学	講義	2		◇	○	△		2										
		調理学実験	実験	1		◇	○	△			3									☆
		調理学実習Ⅰ	実習	1		◇	○	△				3								☆
		調理学実習Ⅱ	実習		1		○	△					3							☆

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 Ⅰ	1年 Ⅱ	2年 Ⅰ	2年 Ⅱ	3年 Ⅰ	3年 Ⅱ	4年 Ⅰ	4年 Ⅱ	平成24年度の担当者	ページ	
専門教育科目	Ⅲ群（専門に関する科目）	基礎栄養学Ⅰ（健康栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ	2										
		基礎栄養学Ⅱ（基礎栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ		2									
		栄養学実習	実習	1		◇	○	△	Ⓔ				3							☆
		応用栄養学Ⅰ（ライフステージ栄養）	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）	講義		2		○	△								2		眞鍋 祐之	202	
		栄養管理学	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		栄養管理学実習	実習		1		○	△						3						☆
		基礎栄養教育論	講義	2		◇	○	△	Ⓔ			2								
		健康栄養教育論	講義		2	◇	○	△					2							
		基礎栄養教育実習	実習		1	◇	○	△					3							☆
		健康栄養教育実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		実践栄養教育演習	演習		2		○	△									2	矢埜 みどり	203	
		臨床栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△				2								
		臨床栄養学Ⅱ	講義		2		○	△					2							
		臨床栄養学実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		臨床栄養管理学	講義		2		○	△						2						
		臨床栄養管理演習	演習		2		○	△							2					
		公衆栄養学Ⅰ	講義	2		◇	○	△	Ⓔ				2							
		公衆栄養学Ⅱ	講義		2		○	△						2						
		公衆栄養活動実習	実習		1	◇	○	△							3					☆
		給食経営管理論	講義		2	◇	○	△					2							
		メニュー管理実習	実習		1	◇	○	△						3						☆
		給食管理実習	実習		1	◇	○	△	Ⓔ					3						☆
		フードサービスマネジメント演習	演習		2		○	△							2					
		総合演習	演習		2		○	△								2		*1	204～211	
		卒業演習Ⅰ	演習		2		○	△								2		*2	212	
		卒業演習Ⅱ	演習		2		○	△									2	*2	213	
		給食管理臨地実習（校外実習）	実習		1	◇	○	△						2						☆
		臨床栄養臨地実習	実習		2		○	△							4					☆
		公衆栄養臨地実習	実習		1		○	△								2			214	☆
		学校栄養教育論Ⅰ	講義		2			△						2						
		学校栄養教育論Ⅱ	講義		2			△							2					
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	演習		3											3		*3	215～221	
		卒業研究Ⅱ	演習		3												3	*3	222～228	

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年Ⅰ期に「フードスペシャリスト論」「フードコーディネート論」を開講する。

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄のⒶ～Ⓔは食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

Ⓐ～Ⓓ別表第14にかかげた科目・Ⓔは別表第15にかかげた科目

Ⓐ化学関係（教養科目「化学」）修得のこと） Ⓑ生物化学関係 Ⓒ微生物関係 Ⓓ公衆衛生学関係 Ⓔその他関連科目

Ⓐ～Ⓓ群から1科目以上、最低修得単位数（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ）22単位以上

最低修得単位数合計（Ⓐ+Ⓑ+Ⓒ+Ⓓ+Ⓔ）40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 細川・矢埜・須見・松村・松尾・富永・和田・増村ㅗ

*2 野田・本澤・細川・矢埜・大西・内田・須見・松村・眞鍋・和田・富永・湯瀬・中井・増村・亀谷・福本ㅗ

*3 細川・矢埜・大西・内田・中井・増村・亀谷

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科　平成21年度（2009年度）入学者対象

（　　）は兼担、[　　]は兼任講師

授業科目の区分		授業科目の名称	授業方法	単位数 必修	単位数 選択	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当（数字は週当り授業時間） 1年 I	1年 II	2年 I	2年 II	3年 I	3年 II	4年 I	4年 II	平成24年度の担当者	ページ
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職に関する科目	教職概論	講義		2			△		2									
		教育原理	講義		2			△		2									
		教育史	講義		2			▲							2				
		教育心理学	講義		2			△					2						
		教育制度論	講義		2			△			2								
		教育課程論（道徳･特別活動を含む）	講義		2			△					2						
		教育方法・技術論	講義		2			△					2						
		教育方法論	講義		2			△							2				
		生徒指導論(進路指導を含む)	講義		2			△				2							
		教育相談(カウンセリングを含む)	講義		2			△			2								
		総合演習	演習		2			△							2				
		事前事後指導	講義		1			△							1				
		栄養教育実習	実習		1			△								3		和田 早苗・亀谷 小枝	229 ☆

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	バイオテクノロジー				
担当者氏名	森田 尚文				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
食の科学を修得する上で原材料およびその利用・活用に関する技術的な展開を理解することは食の安全・安心にも関連して必須と言える。特にバイオテクノロジーの全般的な理解と将来の展望が見込める学識を身につけさせたい。

《テキスト》
バイオが開く人類の夢（藤目幸擴、法律文化社）

《参考文献》

《授業の到達目標》
バイオテクノロジーの歴史的な歩みを知る
バイオテクノロジーの基礎技術・技法の理解
食に関わるバイオテクノロジーの実例

《授業時間外学習》
食品バイオ産業(工場等）の工場見学

《成績評価の方法》
定期試験(70%)、小テスト(30%)

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	組織培養の基本（１）	植物の病気からの脱出
2	組織培養の基本(2)	クローン植物の育成
3	組織培養の基本(３)	洋ランの大量増殖と人口種子
4	組織培養の基本(４)	遺伝資源の長期保存
5	組織培養の基本(５)	バイオで植物の再生
6	ベトナムにおける各種の麺類について	ベトナムにおける伝統的な澱粉を使用しての麺類について その分類、製造法、利用方法、栄養特性の改善について紹介する
7	植物の遺伝子操作（１）	遺伝子操作による品種の改良
8	植物の遺伝子操作（２）	肥料いらずの農業
9	バイテクによる有用物質の生産（１）	エチレンによる青果物の成熟と貯蔵
10	バイテクによる有用物質の生産（２）	香りと色の創造
11	バイテクによる有用物質の生産（３）	植物バイオによる医薬品の生産への応用
12	バイテクを応用した植物育成	夢の果物を作ったり、花の色の改良、新しい野菜の生産について
13	バイオテクノロジーの成果	有用微生物による日常食する食糧生産への利用
14	遺伝子組み換え技術による畜産、水産への利用	良質の畜産、養豚および魚類の増産などへの利用について
15	まとめ	バイオテクノロジーの将来展望

《専門教育科目　Ｉ群（領域に関する科目）》

科目名	食料経済				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ｉ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○　1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○　1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○　1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○　2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ◎　3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会				

《授業の概要》
世界人口の急増と食のグローバル化の中で、食料価格高騰の時代を迎えている。このことの経済学的意味を考え、「地産地消」「食育」「学校給食」「食と健康」「栄養循環」「食物連鎖」「食の安全・安心」等について授業する。また、今後の日本農業のあり方や各家庭の食卓のあり方、工業と農業の違いや農産物価格形成の特性について授業し、市場経済の有効性と市場の失敗についても学修する。

《授業の到達目標》
「食べるということ」の意味を深く理解し、「食と健康」に関する問題を発見・分析・解決する力を鍛え、管理栄養士として現場で活躍できる実践力を身につける。

《成績評価の方法》
授業中の課題提出　30%　　試験　70%

《テキスト》
なし

《参考文献》
池本廣希著『地産地消の経済学』　新泉社　2008年

《授業時間外学習》
新聞から食料問題に関する記事を集める。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	「食べるということ」について問題提起　－人口と食料－から
2	序章　はじめに	生命系の世界からみた食環境と経済
3	第1章　今なぜ、地産地消か	これでいいのかわが家の食卓（パワーポイント使用）
4	①食育と学校給食	地域の栄養循環と食環境について考える
5	②農業と工業の違い	農業と工業の本質的相違から生じる諸問題について考える
6	③自然と土に触れる生活	水や土に触れることの大切さを食農教育として体験する意義について考える
7	④「食の安全・安心」について	「食の安全・安心」のあり方について食のグローバル化と食のローカル化を対峙し考える
8	第2章　日本の食料・農業政策と経済政策	①戦後復興と学校給食
9	第2章　日本の食料・農業政策と経済政策	②高度経済成長と農業・食料
10	第2章　日本の食料・農業政策と経済政策	③高度経済成長と日米貿易
11	第2章　日本の食料・農業政策と経済政策	④円高と食料自給率の急落
12	第2章　日本の食料・農業政策と経済政策	⑤第3の開国と自由貿易の強化
13	第3章　21世紀の食料問題	①地産地消と食の地域自給
14	第3章　21世紀の食料問題	②いなみ野台地のため池灌漑とこれからの水問題
15	まとめ	口頭試問

《専門教育科目 Ⅱ群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品機能論				
担当者氏名	登成 健之介				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》
近年、多くの食品素材から抗変異性、抗酸化性、制ガン性、血圧調整、整腸作用等の健康の維持・増進に作用する機能性成分が見出されている。これら生体機能性成分の性質を知り、生体との係わりを学ぶことで、今問題のガン、心疾患、糖尿病、肥満等の生活習慣病の予防につなぐことができる。

《授業の到達目標》
食品素材中の機能性成分と作用について（例えば、ポリフェノール類による抗酸化機能、食物繊維、オリゴ糖による整腸作用、脂肪酸による脂質代謝機能等）説明でき、その生体への係わりについても説明できる。各種機能性食品を類別でき、法的位置付けを把握できる。

《成績評価の方法》
小テスト２回（各１０％）、定期試験（７０％）、授業終了時の課題（１０％）
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
改訂　食品機能学　青柳康夫編著　建帛社

《参考文献》
・食品機能学　寺尾純二他著　光生館　・食品学　食品成分と機能性　久保田紀久編　東京化学同人　・ネオエスカ　新訂食品機能論　五明紀春著　同文書院

《授業時間外学習》
高度の内容が多いので授業の予習は勿論、食品学、生化学で履修した基本事項を確認しておくこと。質問事項は自分でも予め調べて、疑問点を明確にしおておくこと。

《備考》
テキスト、プリント持参しない者、私語、携帯電話使用など積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。試験はテキスト等の持込不可。１/３以上の授業欠席で単位を認めない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品機能学とは	生体調整機能と食品機能学
2	機能性食品と制度	機能性食品（保健機能食品、特別用途食品、健康食品）との分類と法的位置付け
3	抗酸化機能（１）	活性酸素の生成と生体への影響
4	抗酸化機能（２）	抗酸化物質と抗酸化機能性食品
5	消化吸収促進機能（１）	カルシウム、鉄等ミネラル吸収メカニズム、小テスト（１）
6	消化吸収促進機能（２）	ミネラル吸収機能食品とビタミン吸収メカニズム
7	難消化吸収阻害	難消化成分と生体（食物繊維とコレステロール低減作用）
8	微生物活性機能	乳酸菌と生理作用（プロバイオティクスとプレバイオティクス）
9	難消化性炭水化物	糖アルコール、機能性オリゴ糖他
10	食物繊維機能性食品	食品素材と機能、小テスト（２）
11	脂質関連代謝機能（１）	ｎ－３系とｎ－６系脂肪酸、ジアシルグリセロール
12	脂質関連代謝機能（２）	コレステロールの吸収と代謝
13	酵素阻害機能（１）	血圧（レニン・アンジオテンシン系）と降圧作用食品
14	酵素阻害機能（２）	消化関連酵素阻害と糖尿病
15	免疫系におよぼす機能	免疫機能を活性化する食品

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）				
担当者氏名	真鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

身体活動やストレス、生活環境の変化により起こる生体内の反応には栄養が深く関わっており、その栄養ケア・マネジメントを正しく実践することが重要である。そこで本講義では、身体活動・運動時の生理的特徴、ストレスと生体防御、特殊環境下での代謝変化を理解し、さらにこれら条件下での栄養ケア・マネジメントに関する理論を深く理解し、実践的に対応できる能力を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1)身体活動・運動が生体に及ぼす影響を具体的に説明できる。 (2)ストレスの定義とストレス時の生体反応について分かりやすく説明できる。 (3)特殊環境下における種々の生理的変化と栄養学的対応法を具体的に説明できる。 (4)運動時、ストレス時、特殊環境下での実践的栄養ケア・マネジメントプランを提案できる。

《成績評価の方法》

(1)定期試験の結果により成績評価を行う。(なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する。)
(2)授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》

『応用栄養学－ライフステージ別、環境別－』木戸康博、真鍋祐之編、医歯薬出版、2012

《参考文献》

『再改訂 動く、食べる、休むScience(健康づくりの生理学)』上田伸男編、アイ・ケイコーポレーション、2009
『栄養科学シリーズNEXTスポーツ・運動栄養学』加藤秀夫、中坊幸弘編、講談社サイエンティフィク、2009

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。 (2)復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。
忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

開始30分までを「遅刻」、30分以上は「欠席」。「遅刻」3回で「欠席」1回。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	運動にともない、その強度や時間により変化するエネルギー代謝や呼吸・循環機能の応答について説明できる。
2	体力と運動トレーニング	体力・トレーニングとは何かを理解し、運動トレーニングが体力に及ぼす影響について説明できる。
3	運動基準と運動指針	健康・体力の維持・増進における身体活動・運動の意義を学び、実施の基本となる運動基準・運動指針を理解する。
4	運動の健康への影響	運動にともなって糖質や脂質の代謝にどのような影響が出るか、また血圧や骨格にどのような影響が出るかを説明できる。
5	運動と糖質・たんぱく質の摂取	運動時の主たるエネルギー源となる糖質や身体構成に必要なたんぱく質の必要量の変化について理解する。
6	水分・電解質補給	運動、とくに激しい運動でみられる発汗にともなう水分及び電解質損失に対する適切な補給法を理解する。
7	運動と貧血	運動にともないみられる貧血の原因とその対応について説明できる。
8	食事内容と摂取タイミング	運動実施時に摂取すべき食事の内容とその摂取タイミングが吸収・利用に影響することを説明できる。
9	筋グリコーゲンの再補充	運動により減少した筋グリコーゲンをどのようにすればより多くすることができるかについて理解する。
10	運動時の食事摂取基準の活用	運動時には各栄養素の体内需要が増加するが、その需要増を満たすために食事摂取基準をどのように活用するかを理解する。
11	ウエイトコントロールと運動・栄養	ウエイトコントロールを行う場合の運動と栄養の相乗効果につい説明できる。
12	栄養補助食品の利用	栄養補助食品とは何かを理解し、身体活動・運動時の栄養素摂取における栄養補助食品の利用方法について説明できる。
13	ストレスと栄養ケア・マネジメント	ストレスの定義やストレス時の生体反応を学び、ストレス条件下における栄養ケア・マネジメントのあり方について正しく理解する。
14	特殊環境と栄養ケア・マネジメント（1）	高温・低温環境下で起こる生体の生理的変化を学び、高温環境でみられる熱中症が起こった場合の水分・電解質補給の重要性についても理解を深める。
15	特殊環境と栄養ケア・マネジメント（2）	高圧・低圧、無重力下で起こる体内代謝の変化と、この変化に対する栄養ケア・マネジメントを理解する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	実践栄養教育演習				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）				

《授業の概要》
食生活改善のための媒体である食事バランスガイドや問題解決を必要としている人への援助を行うために欠かせないカウンセリングの基礎を学ぶ。そのうえでライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育の企画、実施、評価を行うことで、栄養マネジメント能力を高めることが出来る。

《授業の到達目標》
地域の食文化とライフステージの特徴を反映した食事バランスガイドを作成することで、バランスガイドの目的と策定の背景、ライフステージの特徴を理解することが出来る。カウンセラーの3条件を理解し、簡単な面接が出来るようになる。集団栄養教育を企画、実践できるようになる

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。
授業態度(40%)，提出レポート(60%)で評価する。

《テキスト》
『食事バランスガイドーフードガイド（仮称）検討会報告書ー』第一出版編集部編（第一出版）
『エッセンシャル　栄養教育論』　春木敏著　（医歯薬出版）（購入済み）

《参考文献》
『ニュートリションコーチング』　柳澤厚生著　医歯薬出版
『行動変容のための面接レッスン』行動カウンセリングの実践　安達淑子著　医歯薬出版

《授業時間外学習》
予習の方法
基礎栄養教育論のテキストの該当範囲をよく読むこと。
復習の方法
作成した資料を再度読み直し、作成出来ていないところは、必ず完成させて授業に臨むこと。分からないところは第一回講義のときにメールアドレスを知らせますので、質問すること。

《備考》
演習科目であることから，積極的な授業参加が重要である。
個別指導の準備と並行して媒体作成及びコーチングの時間を組み込んでいくため2限継続して実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食事バランスガイドの理解	食事バランスガイドを理解し、地産地消、食文化の継承、ライフステージを意識した地域版バランスガイドを作成する
2	カウンセリングの基礎知識	カウンセリングの基礎である、傾聴、受容、共感、自己一致について理解する
3	地域版バランスガイドの発表	グループごとに作成した、バランスガイドのライフステージ別の特徴、地域の特徴を理解する
4	カウンセリングの実践	カウンセリングの視線、頷き、簡単受容、繰り返しなどの基礎を踏まえた後、効果的な質問について理解する。
5	コーチングとアサーション	栄養教育に必要なコーチングとアサーションについて、ロールプレイを用いて理解する
6	栄養教育プランニングの復讐	ヘルスプロモーション、プリシード・プロシードモデルについて復習する
7	栄養教育プランニング（診断）	ライフステージの特徴を理解し、グループごとに栄養教育モデルを作成する。
8	栄養教育プランニング（計画）	栄養アセスメントデータから教育目標を設定する
9	栄養教育プランニング（授業案作成）	先行因子（知識・態度）、強化因子（周りの人の態度）、促進因子(本人の技術）、環境のそれぞれの問題を解決出来るような5回シリーズの授業案を作成する
10	栄養教育プランニング（教材作成）	企画した授業案の中で中心となる授業の回に必要な教材（媒体・ワークシート）を作成する
11	栄養教育プランニング（評価の方法）	企画、経過、影響評価シート作成
12	栄養教育の実施	作成した模擬授業を各班、ロールプレイで行う
13	栄養教育の実施	評価の高かった2名の班について、実勢に模擬授業を実践する。
14	栄養教育の評価	模擬授業について、企画、経過、影響、結果、経済、総合評価を行う
15	まとめ	まとめ

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
これまで学んできた学習の中で、食べ物と健康に関わるテーマとして食後血糖値を取り上げる。このために、食品摂取後に血糖値がどのように変化するかを測定して、食品が血糖値にどのように影響するかについて学ぶ。このことにより、食生活がいかに健康に重要であるかを管理栄養士の立場として考えるようになれる。

《授業の到達目標》
食生活がいかに健康に影響するのかということを知り、管理栄養士として、食に関する指導の重要性を認識できるようになる。

《成績評価の方法》
（1）「授業態度」と「レポート」により評価します。
（2）授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
必要に応じ資料を配布します。

《参考文献》
必要に応じ指示をします。

《授業時間外学習》
情報収集や論文検索は課題として授業時間外に実施する場合があります。

《備考》
本授業は、時間割上の2時限では演習時間が不足する場合がありますので、授業時間以外にも学習を実施する可能性があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス・情報収集	総合演習で実施する内容を概説する。食後血糖値について概説するとともに食後血糖値に関する情報収集方法について説明する。
2	収集情報によるディスカッション・演習の準備	収集した情報に基づき各自が発表を行い、ディスカッションにより理解を深める。翌週からの血糖値測定の準備を行う。
3	基準食（米飯）での測定・結果の解析	基準食（米飯）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
4	基準食（米飯）での測定・結果の解析	基準食（米飯）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
5	基準食（ブドウ糖）での測定・結果の解析	基準食（ブドウ糖）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
6	基準食（ブドウ糖）での測定・結果の解析	基準食（ブドウ糖）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
7	検査食での測定・結果の解析	検査食（はと麦パンケーキ１）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
8	検査食での測定・結果の解析	検査食（はと麦パンケーキ２）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
9	検査食での測定・結果の解析	検査食（はと麦クッキー１）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
10	検査食での測定・結果の解析	検査食（はと麦クッキー２）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
11	検査食での測定・結果の解析	検査食（紫黒米パンケーキ１）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
12	検査食での測定・結果の解析	検査食（紫黒米パンケーキ２）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
13	検査食での測定・結果の解析	検査食（紫黒米パンケーキ３）摂取後の血糖値測定を行い、その結果をまとめる。
14	実施結果のまとめ	測定した結果のまとめとともにレポートの作成を行う。
15	結果の発表	まとめた結果を各自発表し、討議を行う。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
管理栄養士としての素養を深め、実践力を育てるため、地域の高齢者を対象に健康教育を開催する。

《授業の到達目標》
対象者に対するニーズアセスメントの結果だけでなく、高齢者の生理的、精神的特徴を含めた健康教育を企画出来るようになる。さらに、半期間の実践を通して報告、連絡、相談の重要性を知るとともに、教育内容に対する評価を通して、管理栄養士としての能力を身につけることが出来る。

《成績評価の方法》
授業態度(50%）と授業案及び作成媒体(50%）により評価します。なお授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とします。

《テキスト》
『エッセンシャル　栄養教育論』　春木　敏著　医歯薬出版

《参考文献》
『国民健康・栄養調査』　第一出版
『日本人の食事摂取基準　2,010版』　第一出版
『脳を鍛える大人の料理ドリル』　川島隆太著　くもん出版

《授業時間外学習》
時間割上の2時間だけで出来るわけではない。空いている時間を有効に利用して各自が自主的に取り組むものであり、時間割上の授業時間は、健康教室の実践（発表）の時間と思うこと。

《備考》
卒業研究に匹敵すると考えて、各自が資料や文献を調べるなど積極的に進める必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	住民に対して行った事前調査を説明し、これまでの経緯について説明する。その後、今年度の健康教育のテーマを討議により決定する。
2	事前調査の分析、問題点の発見、教育内容の検討	事前調査の結果を分析し、問題点の発見、教育内容の検討を行う
3	全体計画の作成、担当回の教育内容検討・準備	各担当分の教室の内容、料理内容を持ち寄り全体の流れについて検討を行う
4	第1回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
5	第1回健康教育デモンストレーション	第1回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
6	第2回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
7	第2回健康教育デモンストレーション	第2回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
8	第3回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
9	第3回健康教育デモンストレーション	第3回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
10	第4回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
11	第4回健康教育デモンストレーション	第4回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
12	第5回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
13	第5回健康教育デモンストレーション	第5回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
14	事後調査	健康教室参加者と健康教室実施者に対する事後調査を実施する
15	分析・評価	今年度の健康教室の評価を行うために、調査した結果の入力、分析、評価を行う。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
管理栄養士として、これまで修得した知識・技能を統合する能力を養うための演習。栄養病理学や応用栄養学の範囲の中で、それぞれ課題を見出し、論文検索、実験や調査･研究をおこなって課題を解決することで、教科書では得られない栄養学の知識や興味をより深める。また、まとめる力や伝える力を養い、栄養ｹｱができる基礎作りを目標とする。

《授業の到達目標》
○栄養学に関した論文を読み、論文の目的や趣旨を理解して、まとめる。
○ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをして、参加者が理解できるように効果的に伝える。○興味を持った研究テーマに積極的に取り組み、研究を成し遂げ、　ﾚﾎﾟｰﾄにまとめることができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上のものは、成績評価対象外とする。平常時の受講態度、研究への取り組み方および成果について提出論文および発表状況などを総合的に評価する。配分は、授業へ取り組み40%、成果発表20%、論文（提出ﾚﾎﾟｰﾄ）40%を原則とする。

《テキスト》
なし

《参考文献》
なし。適宜紹介する。

《授業時間外学習》
研究ﾉｰﾄを作成し、毎回授業終了後は、記録する。ノートを見て発見したり、反対に不備な点や、反省点を見出し、改善点を考える。配分時間割内だけでできるわけでない。授業時間に、テーマの進捗状況や方向性の指導を受け、空いている時間を有効に利用して各自が自主的に取り組むこと。卒業研究に匹敵する。

《備考》
遅刻（早退を含む）3回は、欠席1回に相当する。30分以上の遅刻は、欠席として扱う。論文（ﾚﾎﾟｰﾄ）提出期日を守らないと減点あるいは、配点なしとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ	総合演習の授業方法と受講に際しての決まりごとの説明
2	文献検索と読み方	栄養に関連した論文を見つける。まとめ方の説明。
3	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ①	各自が読んだ論文内容についてﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。 他のものは、視聴して、発表者と質疑応答する。なおﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ回数は、受講人数により変更あり。
4	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ②	各自が読んだ論文内容についてﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。 他のものは、視聴して、発表者と質疑応答する。なおﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ回数は、受講人数により変更あり。
5	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ③	各自が読んだ論文内容についてﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。 他のものは、視聴して、発表者と質疑応答する。なおﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ回数は、受講人数により変更あり。
6	ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ④	各自が読んだ論文内容についてﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝする。 他のものは、視聴して、発表者と質疑応答する。なおﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ回数は、受講人数により変更あり。
7	研究テーマを決める	興味があるテーマ、その方法について、話し合い。
8	実験・調査研究①	各自あるいは、グループで研究に取り掛かる。
9	実験・調査研究②	研究の継続。12週目まで
10	実験・調査研究③	研究の継続。12週目まで
11	実験・調査研究④	研究の継続。12週目まで
12	実験・調査研究⑤	研究の継続。12週目まで
13	成果発表①	発表時間を区切って、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ。質疑応答。
14	成果発表②	13周目の続き
15	まとめ	ﾚﾎﾟｰﾄ作成

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
栄養（基礎栄養）、食品に関して、最新の進歩、もしくは最新の問題を探索し、それらの科学的根拠を調査し、問題点を探り、どうすればその問題が解明あるいは解決できるのかを考え、さらに調査もしくは実験（計画）を進める。

《テキスト》
探索する

《参考文献》
探索する

《授業の到達目標》
栄養（基礎栄養）に関する進歩と問題点を探り、それらに適切な評価ができ、さらに解決への取組みができること。

《授業時間外学習》
文献を探索し、講読する。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。文献の探索（１５％）、解説（１５％）、計画（１５％）、実施（１５％）、レポート（４０％）により評価する。

《備考》
自ら積極的に対応・対処しましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	
2	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する。
3	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する。
4	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する
5	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する
6	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する
7	文献の検索と読み方	文献を検索し、購読する
8	文献の解説	購読した文献を解説する。
9	文献の解説	購読した文献を解説する。
10	文献の解説	購読した文献を解説する。
11	文献の解説	購読した文献を解説する。
12	文献の解説	購読した文献を解説する。
13	レポートの作成	購読した文献についてレポートを作成する。
14	レポートの作成	購読した文献についてレポートを作成する。
15	学習のまとめ	文献およびレポートについて、要約する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	松尾 千鶴子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

健康や食品の調理機能、食文化の視点から、自ら課題を見い出してテーマを設定する。その調査研究を遂行するなかで幅広い知識・技能を養い、管理栄養士としての実践力を培うことを目指します。

《授業の到達目標》

・自ら設定したテーマの調査研究方法を計画することができる。　・設定テーマに関する文献を調べる能力、理解する能力を養うことができる。
・計画の進捗状況をもって目標達成に向けて自己管理ができる。
・調査研究中に出合う人々とコミュニケーションを図ることで、その能力を高めることに繋がる。

《成績評価の方法》

計画書の進捗状況 30%、中間報告書 30%、最終報告書（論文）40%、（授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上のとき試験を受けることができない。）

《テキスト》

特に使用しない。

《参考文献》

適宜、紹介する。

《授業時間外学習》

作成した計画書にj従って遂行できているかどうかを確認し、目標達成に向かって取り組むことが大切です。

《備考》

時間割上の時間だけで学習できるわけではありません。空き時間等を活用して積極的な取り組が肝要です。進捗状況をもとに助言・指導をします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要とテーマ	健康、食品の調理機能、食文化のいずれかから研究テーマ、テーマの背景及びどこまで調査研究をするのか定める。
2	計画書の作成	テーマ遂行のための日程及び内容を決める。
3	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
4	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
5	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
6	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
7	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
8	成果の中間報告	実験又は実習等の結果について口述する。
9	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
10	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
11	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
12	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
13	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
14	調査研究	文献調査や資料収集、調理（実習・実験）
15	成果の最終報告	実験又は実習等のまとめを口述する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
管理栄養士としての素養を深め、実践力を養うため、地域高齢者を対象に健康教室を開催する。

《授業の到達目標》
対象者に対するニーズアセスメントの結果だけでなく、高齢者の生理的、精神的特徴を含めた健康教育を企画することができるようになる。さらに、半期間の実践を通して報告、連絡、相談の重要性を知るとともに教育内容に対する評価を通して、管理栄養士としての能力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が授業実施回数の1/3以上の者は成績評価対象外とする。評価は、課題に対する取り組み、運営が60%、提出レポート40%で評価する。授業開始30分以上の遅刻は欠席とする。また、遅刻3回で欠席1回とする。

《テキスト》
なし

《参考文献》
必要に応じて指示する。

《授業時間外学習》
授業の企画や献立作成および試作・栄養価計算は各自で行い、その結果を演習時に持参すること。教育実習はグループ毎で行うので、事前にリハーサルを終えておくこと。実習後、経過評価のため回収したデータの集計や図表化は済ませておくこと。

《備考》
卒業研究に匹敵すると考え、各自が資料や文献を調べるなど背積極的に進める必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	住民に対して行った事前調査を説明し、これまでの経緯について説明する。その後、今年度の健康教育のテーマを討議により決定する。
2	事前調査の分析、問題点の発見、教育内容の検討	事前調査の結果を分析し、問題点の発見、教育内容の検討を行う
3	全体計画の作成、担当回の教育内容検討・準備	各担当分の教室の内容、料理内容を持ち寄り全体の流れについて検討を行う
4	第1回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
5	第1回健康教育デモンストレーション	第1回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
6	第2回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
7	第2回健康教育デモンストレーション	第2回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
8	第3回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
9	第3回健康教育デモンストレーション	第3回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
10	第4回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
11	第4回健康教育デモンストレーション	第4回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
12	第5回健康教室準備	テーマに沿った授業案及び媒体作成を行う。また調理献立名を検討し、試作する。
13	第5回健康教育デモンストレーション	第5回健康教室のデモンストレーションを担当班を主体に行う。スタッフ間の連携、準備の不備、教室の流れなどについて確認する
14	事後調査	健康教室参加者と健康教室実施者に対する事後調査を実施する
15	分析・評価	今年度の健康教室の評価を行うために、調査した結果の入力、分析、評価を行う。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	和田 早苗				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》
特定給食施設における適正な給食管理や栄養管理が行えるよう、インターシップを導入し管理栄養士としての知識・技能を発揮できるよう応用力や実践力を習得する。

《授業の到達目標》
栄養管理における課題は各自が設定し取り組む。また幼児や高齢者等を対象に“食”と“健康”について栄養管理業務の実際を学び、技能を身につけ管理栄養士としての実践力を身につけることができる。

《成績評価の方法》
授業欠席回数が、授業実施回数の1/3以上の者は、成績評価対象外とする。管理栄養士としての到達をみ、平常時の受講態度など総合的に評価する。授業への取組（40%）　成果発表（30%）　提出レポート・論文（30%）遅刻が3回で1回の欠席とする。

《テキスト》
必要に応じプリントや資料は配布する。

《参考文献》
現在までに使用した教科書、文献等

《授業時間外学習》
近隣の市町に校外授業として、実践の場を協力いただいています。授業では時間割上の2時間だけではできる内容ではない。工夫した時間の活用で積極的に取組み、実践の場を有効に活用することが多くの達成感を味わい、多くの問題発見にもつながります。

《備考》
各自の設定した課題については進捗状況を見ながら方向性を指導する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	（実践方法と活動内容）
2	テーマの設定・実践計画	（個人課題の設定と具体的取り組み法）
3	実践内容の研究計画（1）	事前調査
4	実践準備	（栄養管理・媒体作成）
5	実践・調査研究	個人課題により内容計画
6	実践内容の研究計画（2）	事前調査
7	実践準備	（栄養管理・媒体作成
8	実践・調査研究	個人課題により内容計画
9	実践内容の研究計画（3）	事前調査
10	実践準備	（栄養管理・媒体作成）
11	実践・調査研究	個人課題により内容計画
12	実践内容の研究計画（4）	事前調査
13	実践準備	（栄養管理・媒体作成）
14	実践・調査研究	個人課題により内容計画
15	調査研究の評価・報告	個人課題の成果発表　　＊施設の都合や取組内容によって時期的な変更もある。　積極的な取組により回数も増える。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

管理栄養士としての素養を深め、実践力を養うため、地域の生活習慣病患者（肥満症、糖尿病、高血圧症、脂質異常症）を対象とした臨床栄養学教室を開催する。また、全年齢層の集まる地域行事に参加し、生活習慣病についての発表（展示・掲示）を行い、住民の生活習慣病に対する意識等を調査する。

《授業の到達目標》

○対象者のニーズアセスメントができる。
○栄養評価・判定に基づく適正な栄養管理ができる。
○疑問点を解明するための探究心をもつことができる。
○コミニュケーション力、プレゼンテーション力が向上する。

《成績評価の方法》

(1)授業実施回数の1/3以上の欠席者は、成績評価対象外とする。
(2)授業時の取組み姿勢40%
(3)成果発表30%
(4)提出レポート30%

《テキスト》

必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

『国民栄養の現状』健康・栄養情報研究会編、第一出版
『日本字の食事摂取規準2010年版』厚生労働省策定、第一出版
現在までに利用した教科書等

《授業時間外学習》

本授業は時間割上の２時間だけで出来るわけでない。空いている時間を有効に使い、各自が積極的に取組む必要がある。時間割上の授業時には各自のテーマの進行状況や方向性を指導する。

《備考》

対象者は傷病者や地域の方です。大学生にふさわしい言葉遣い、身だしなみで対応すること。授業の到達目標をよく読み、自己成長を目指すこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	授業の概要および到達目標について説明する。 ①臨床栄養学教室および地域行事のテーマについて情報収集を行う。
2	テーマの決定	①臨床栄養学教室のテーマを決定し、ニーズアセスメント用紙の作成を行う。 ②地域行事にて行うテーマ・内容の検討を行なう。
3	臨床栄養学教室の計画 地域行事の準備	①臨床栄養学教室のニーズアセスメントの実施および内容の検討を行う。 ②地域行事のためのニーズアセスメント用紙および媒体作成を行う。
4	臨床栄養学教室の計画 地域行事の準備	①事前調査内容の分析、問題点の発見、栄養ケアプランを作成する。 ②地域行事のためのニーズアセスメント用紙および媒体作成を行う。
5	臨床栄養学教室の計画 地域行事のまとめ	①事前調査内容の分析、問題点の発見、栄養ケアプランを作成する。 ②地域のニーズアセスメント結果を発表する。
6	臨床栄養学教室の準備	事前調査結果の解析、提供料理の試作および評価を行う。
7	臨床栄養学教室の準備	第1回臨床栄養学教室の開催準備（発注・媒体作成･アンケート作成など）を行う。
8	第1回臨床栄養学教室の開催	生活習慣病患者を対象とした行動変容に繋がる栄養学教室を開催する。
9	データの分析・評価	第1回臨床栄養学教室結果を分析し、次回教室につなげる。 情報の提供料理の試作および評価を行う。
10	臨床栄養学教室の準備	第2回臨床栄養学教室の開催準備（媒体作成･アンケート作成など）を行う。
11	臨床栄養学教室の準備	第2回臨床栄養学教室の開催準備（発注・媒体作成･アンケート作成など）を行う。
12	第2回臨床栄養学教室の開催	生活習慣病患者を対象とした行動変容に繋がる栄養学教室を開催する。
13	研究成果のまとめ	第２回臨床栄養学教室の結果を分析する。
14	研究成果のまとめ	事後調査、分析、まとめ、論文作成を行う。
15	研究成果の発表	栄養学教室の成果について報告会を実施する。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習Ⅰ				
担当者氏名	内田亨・大西隆仁・亀谷小枝・須見登志子・富永しのぶ・中井玲子・野田千征子・福本恭子・細川敬三 本澤 真弓・増村 美佐子・松尾 千鶴子・松村 末夫・真鍋 祐之・矢埜 みどり・湯瀬 晶文・和田 早苗				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

専門職である管理栄養士として必要とされる個別の知識・情報を多様な状況に応じて適宜利用できるように収集して身に付け、これらを自らに適した分類内容ごとに整理し、さらに常時有効な情報源とするために統合できる学習力を育むことを目標に進める。

《授業の到達目標》

(1)専門基礎及び専門科目で学習した内容を関連づけて考えることができる。
(2)管理栄養士として必要な専門知識及び技能を確実に修得し、資格者としての質を向上させる。

《成績評価の方法》

(1)試験の結果で成績評価する。
(2)授業開講回数のうち、欠席回数が1/3に達した者は成績評価から除外する。

《テキスト》

各教科で指定された教科書及び随時配布されるプリント

《参考文献》

授業時に各担当教員から適宜紹介する。

《授業時間外学習》

日々学習した内容を再確認するとともに、不足する部分に関する検索を継続的に行う。

《備考》

栄養マネジメント学科所属全教員が担当する。
授業開始30分までを遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
2	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
3	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
4	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
5	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
6	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
7	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
8	管理栄養士への道	管理栄養士として最低限必要な基本的専門知識の網羅的収集ができる。
9	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
10	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
11	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
12	管理栄養士への道	収集した管理栄養士の基本的基礎知識をわかりやすく整理できる。
13	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。
14	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。
15	管理栄養士への道	自ら収集・整理した管理栄養士の基本的基礎知識を利用しやすく統合できる。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習Ⅱ				
担当者氏名	内田亨・大西隆仁・亀谷小枝・須見登志子・富永しのぶ・中井玲子・野田千征子・福本恭子・細川敬三 本澤 真弓・増村 美佐子・松尾 千鶴子・松村 末夫・真鍋 祐之・矢埜 みどり・湯瀬 晶文・和田 早苗				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

専門職である管理栄養士として必要とされる個別の知識・情報を多様な状況に応じて適宜利用できるように収集して身に付け、これらを自らに適した分類内容ごとに整理し、さらに常時有効な情報源とするために統合できる学習力を育むことを目標に進める。

《授業の到達目標》

(1)専門基礎及び専門科目で学習した内容を関連づけて考えることができる。
(2)管理栄養士として必要な専門知識及び技能を確実に修得し、資格者としての質を向上させる。

《成績評価の方法》

(1)試験の結果で成績評価する。
(2)授業開講回数のうち、欠席回数が1/3に達した者は成績評価から除外する。

《テキスト》

各教科で指定された教科書及び随時配布されるプリント

《参考文献》

授業時に各担当教員から適宜紹介する。

《授業時間外学習》

日々学習した内容を再確認するとともに、不足する部分に関する検索を継続的に行う。

《備考》

栄養マネジメント学科所属全教員が担当する。
授業開始30分までを遅刻とし、遅刻3回で欠席1回とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
2	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
3	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
4	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
5	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
6	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
7	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
8	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
9	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を適確なプランとして展開できる。
10	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
11	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
12	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
13	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
14	管理栄養士への道	専門基礎及び専門科目の学習により収集・整理・統合した情報を随時展開する能力を活用できる。
15	管理栄養士への道	管理栄養士資格の取得により、社会で役立つ人材となるべき自信と自己評価能力に必要なことが理解できる。

《専門教育科目 Ⅲ群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養臨地実習				
担当者氏名	未定				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎　3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）				

《授業の概要》
学内で修得した知識・技術を、実践活動の場において適用し、公衆栄養活動で必要とされる課題発見・解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うことができる総合的な能力を身につける。

《授業の到達目標》
1.保健所等で行われている公衆衛生（公衆栄養含む）業務について説明することができる。
2.地域の実態に応じた公衆栄養プログラムを実践、評価することができる。
3.他職種との連携を図ることができる。

《成績評価の方法》
1.臨地実習60%（各臨地実習先指導管理栄養士の評価）＋事前事後指導40%
2.実習先施設および学内事前・事後教育の態度、実習ノートにより上記を評価。

《テキスト》
『管理栄養士・栄養士必携』（社）日本栄養士会　編（第一出版）
保健所等の指示による。

《参考文献》
『国民健康・栄養の現状』（第一出版）
『国民衛生の動向』（厚生統計協会）
『健康日本21と栄養士活動』（社）日本栄養士会（第一出版）

《授業時間外学習》
1.都道府県と市町村行政の違いについて、事前に復習しておくこと。
2.各臨地実習先が管轄する地域の施策や公衆栄養プログラムの内容について、予習しておくこと。

《備考》
実習先施設の都合で授業計画は変更することもある。
身だしなみ・言葉使いに注意すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習事前教育１	臨地実習の仕組み　　公衆栄養活動とは（復習）
2	臨地実習事前教育２	保健所と保健センターの違い（復習）
3	臨地実習事前教育３	地域における行政栄養士による健康づくりおよび食生活の改善の基本指針（復習）
4	臨地実習事前教育４	実習先施設が所管する地域の課題把握とそれに対する実際の活動
5	臨地実習事前教育５	小テスト　　事前課題の検討
6	臨地実習事前教育６	実習先での身だしなみ、言葉使いなど社会人としてのマナー
7	保健所等のプログラムによる実習１	（保健所または保健センターの）組織と活動の概要　　課題の発見
8	保健所等のプログラムによる実習２	栄養改善事業への参加　　課題の計画立案
9	保健所等のプログラムによる実習３	栄養改善事業への参加　　課題の計画立案
10	保健所等のプログラムによる実習４	栄養改善事業への参加　　計画した課題の実践
11	保健所等のプログラムによる実習５	実習のまとめ　　実践した課題の評価結果
12	臨地実習事後教育１	都道府県保健所（兵庫県）の実習に関する報告会１
13	臨地実習事後教育２	都道府県保健所（兵庫県）の実習に関する報告会２
14	臨地実習事後教育３	都道府県保健所（県外）の実習に関する報告会
15	臨地実習事後教育４	市町村保健センターの実習に関する報告会

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
（1）研究テーマに沿って、「①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥中間報告」の順に行い、研究方法について学ぶ。
（2）研究の進捗状況を中間報告会にて発表する。

《テキスト》
必要に応じ資料を配付する。

《参考文献》
必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》
各自の研究テーマについて、①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものとするとともに新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》
実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》
実験態度(50%)・中間報告(50%)で評価を行う。

《備考》
1人1テーマを基本とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要の説明 研究テーマの決定	卒業研究で実施する内容を概説する。 各自の研究テーマを選ぶ。
2	実験計画の立案	各自の研究テーマに基づき、1年間の実験計画のスケジュールを立てる。
3	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
4	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
12	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
13	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
14	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
15	中間報告	作成した図表を使って15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
研究テーマにそって論文検索を行い、集めた論文は輪読会を行い、これまで研究がどのような方法でなされ、どこまで明らかになっているのか、何が問題なのかを理解する。問題点を踏まえ、今後の研究内容を計画する、研究をすすめる。えられたデータは、集計し、分析、考察を行う。

《授業の到達目標》
論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《成績評価の方法》
平常の授業態度（50%）、発表及び報告書（50%）を合わせて評価する

《テキスト》
テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》
検索及び配付された論文は、必ず何度も何度も読み返して下さい。
得られた結果は、終了後ただちに整理して下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要説明及びテーマ決定	卒業論文について、説明を行い、卒業論文のテーマを決定する
2	論文購読	自分の研究内容に合った論文（各自1編）について、目的、方法、結果について説明を行い、質問の応答する
3	論文購読	引き続き、残った学生の輪読会を行う
4	研究計画	自分の研究テーマについて、さらに論文を読み、自分の研究テーマについてのこれまでの研究の歴史を理解する
5	研究計画	研究計画を立てる
6	研究・データ分析	計画に沿って研究に着手する
7	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告をすること
8	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
9	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
10	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
11	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
12	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
13	研究・データ分析	話し合いを元に研究の方向性を確認しながら進める
14	途中経過のまとめ	これまで得ることのできたデータを整理する
15	中間報告	研究の進行度、方向性を確認し、Ⅱ期の研究計画について再検討を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 Ⅰ				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
研究テーマについて論文検索を行い、今までどのような研究が行われてきたのか理解する。実験計画書を作成し、研究テーマに沿って実験を行う。その結果を観察し記録する。データ解析と整理を行い、考察する。実験成果をまとめて、発表と報告書を作成する。

《授業の到達目標》
研究によって真理を追究し、新しい事実を求めることを目標とする。研究目的と方法を理解し、論理的に物事を考えるような習慣を身につける。

《成績評価の方法》
研究に対する態度と実験ノート(50%)、中間発表(50%)

《テキスト》
適宜プリントや資料を配布する。

《参考文献》
適宜プリントや資料を配布する。

《授業時間外学習》
指定された参考文献や論文(日本語、英語)を予め読んでおくこと。

《備考》
勉強会や論文(英語を含む)の抄読会を適宜行う。共同研究者として、曲木助手も指導を行うことがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明とその理解	研究内容の概まかな説明をおこなう。
2	文献検索および抄読会	参考文献の検索と論文を読む。
3	研究計画書の作成	研究計画書の作成と実験の準備をおこなう。
4	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
5	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
6	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
7	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
8	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
9	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
10	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
11	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
12	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
13	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
14	まとめ	実験データの整理と解析したデータの考察を行う。
15	中間発表	実験データと解析したデータを発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
研究テーマを設定し､文献検索により既知の事実を整理し､計画を立てて実験を開始する。日々のデータを評価・解析し､方向性を探る。最終的に、研究成果を整理し､根拠に基づいた考察を行い、中間報告としてまとめ、発表する。

《テキスト》
必要に応じ配布する。

《参考文献》
必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》
○実験し新たなことを発見できる喜びを実感できる。。
○疑問点を抽出し、解決するために考えることができる。
○理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》
論文の作成・報告書の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》
実験態度 50%、 中間報告書 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマの設定	卒業研究のテーマの候補を示すので、興味持てる内容を選択する。
2	研究計画・材料調整	議論の上、テーマに沿っておおよその実験計画を立てていく。必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	研究計画・材料調整	議論の上、より具体的な実験計画を立てていく。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
11	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
12	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
13	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
14	結果のまとめ	実験結果を整理し、中間報告書の作成を開始する。
15	中間報告	中間報告書に沿って結果を発表する。

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
この科目では「食と健康の専門家」の仕上げ教育として、「研究＝課題発見とその解決」の能力を磨くことを目的としている。
特に食品学および栄養学に関連する内容をテーマに設定し、実験を中心とした研究活動を行い、「研究する姿勢」を学習する。

《授業の到達目標》
○自然科学分野（実験系）における研究の特徴（流れ）を理解し、人に伝えることができるようになる。 ○ロジカル・シンキング（論理的思考）スキルが身につく。 ○ディスカッション能力が向上する。 ○論理的な文章の作成能力が向上する。 ○一般的な実験器具および分析機器の取り扱いについて習熟する。 ○「食と健康」について多面的かつ実践的に理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》
平常の受講態度（50%）と実験報告書（50%）を合わせて評価する。

《テキスト》
テキストは使用しない。
必要に応じて論文等の文献使用を指示、指導する。

《参考文献》
必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》
○指定された参考文献を予め読み込み、各実験に臨むこと。
○実験記録の整理に努め、研究遂行の円滑化を心がけること。
○報告書作成等、研究成果のとりまとめを授業時間外にも行う必要がある。

《備考》
卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマ設定と概要説明	研究テーマの背景について理解する。
2	文献調査	研究テーマに関連した文献について調査し、理解を深める。
3	実験計画	実験計画を立てる。
4	実験準備	試薬調製、器具の準備等を行う。
5	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する。
6	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する（継続）。
7	実験とデータ解析	基本的な実験手法を元に、研究材料の実験に取り組む。得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる。
8	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
9	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
10	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
11	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
12	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
13	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
14	報告書作成およびディスカッション	実験データを元に、研究報告書（中間報告書）を作成する。
15	報告書完成	研究報告書（中間報告書）を完成させる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマに沿った論文検索を行い、現在までに行なわれてきた研究について明らかにし、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、中間発表を行う。

《授業の到達目標》

○各自の研究テーマについて、論文検索、研究計画、研究、データ解析、データのまとめ方、卒業論文作成という一連の課程を通し、研究能力を身につける。
○研究テーマに対する理解を深める。
○研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
○分析結果について自分の意見まとめ、発表する能力を身につける。

《成績評価の方法》

(1)研究態度50%　(2)中間報告50%で評価を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

必要に応じて指示する。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《備考》

卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。
データの取扱いには十分注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマ設定	卒業研究の目的、研究とは何か、について説明し、各自の研究テーマを検討する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
6	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
7	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
8	研究計画	本格的な研究方法を検討する。
9	研究計画	本格的な研究方法を検討する。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
12	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
13	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
14	結果のまとめ	得られたデータをまとめ、考察する。
15	中間報告	得られた結果をまとめ、発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅰ				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
本授業は、これまでの講義や実験・実習のような既知の知識を修得するのではなく、新たな真実を見つけなければならない。そのためには、自ら探求心を持ち、試行錯誤を重ねながら粘り強く継続する力が必要である。研究の流れとして、テーマを設定、文献検索・講読をし、研究計画を立て、調査、実験を実施する。得られた結果を整理、分析、考察し、研究計画を再考しながら進める。研究結果を整理し、中間報告書の作成を行う。

《授業の到達目標》
・自分の研究テーマ・内容について説明できる。
・研究の流れを理解し、論理的思考力を育てる。
・探求心を持ち、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけ、そこから新たな発見をする喜びを知る。
・研究する態度を身につけることで総合的な能力の向上を目指す。

《成績評価の方法》
・平常の受講態度：50%、中間報告書：50%の割合で成績評価を行う。

《テキスト》
随時、資料を配付する。

《参考文献》
必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》
・研究テーマにそった文献検索、文献講読、研究結果のまとめや研究計画の再考、報告書の作成などを授業時間外に行う必要がある。

《備考》
・卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明	卒業研究の概要を理解する。各自の研究テーマを設定し、内容について理解を深める。
2	文献調査	文献検索の方法を理解し、各自のテーマにそった文献検索と文献講読を行う。
3	研究計画	各自のテーマにそった研究計画を考える。
4	研究計画	各自のテーマにそった研究計画を考える。
5	調査・実験の準備	調査方法や実験準備について確認し、各自の調査・実験準備を行う。
6	調査・実験の準備	調査方法や実験準備について確認し、各自の調査・実験準備を行う。
7	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
8	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
9	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
10	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
11	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
12	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
13	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
14	中間報告結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、中間報告ができるようにまとめる。
15	中間報告	中間報告の内容を整理し、報告書を作成する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
（1）卒業研究Ⅰの続きとして「①実験・②データ解析・③データのまとめ・③卒業論文の作成」の順に行う。
（2）1年間の実験結果を卒業論文にまとめる。

《テキスト》
必要に応じ資料を配付する。

《参考文献》
必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》
卒業研究Ⅰの続きとして、実験・データ解析・卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し，基本操作を確実なものとするとともに、新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》
実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》
実験態度(50%)・卒業論文(50%)で評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
2	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
3	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
4	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
12	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
13	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
14	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
15	報告会	作成した卒業論文をもとにして、15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
卒業研究Ⅰで取り組んだ内容を中心にデータの処理方法や論文の書き方を学習します。

《授業の到達目標》
論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《成績評価の方法》
平常時の授業態度（50%）と発表及び卒業論文（50%）を合わせて評価する。

《テキスト》
テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》
必要に応じて提示する

《授業時間外学習》
論文購読、データー処理は、授業時間外にも行う必要があります。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究および分析	統計処理の方法及び統計用ソフトに使用方法ついて説明を行う
2	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
3	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
4	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
5	研究・データ分析	分析結果を元に論文の流れについて打ち合わせを行う
6	研究・データ分析	論文用の図・表の作成
7	研究・データ分析	論文用の図・表の訂正および不足分の分析を行う
8	研究・データ分析	論文量の図・表の完成
9	研究・データ分析	再度論文の形式を確認し、得られた結果を元に論文の下書きを行う
10	論文作成	再度論文の形式を確認し、得られた結果を元に論文を書く
11	論文作成	指摘された部分を再度分析し、論文の完成度を上げる
12	論文作成	論文の表現について、再度推敲する
13	論文作成	報告会用のプレゼン資料を作成する
14	報告会	自分の卒業論文について発表会を行う
15	まとめ	論文提出

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 II				
担当者氏名	大西 隆仁				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
研究テーマについて論文検索を行い、今までどのような研究が行われてきたのか理解する。実験計画書を作成し、研究テーマに沿って実験を行う。その結果を観察し記録する。データ解析と整理を行い、考察する。実験成果をまとめて、発表と報告書を作成する。

《授業の到達目標》
研究によって真理を追究し、新しい事実を求めることを目標とする。研究目的と方法を理解し、論理的に物事を考えるような習慣を身につける。

《成績評価の方法》
研究に対する態度と実験ノート(50%)、卒業論文と研究発表(50%)

《テキスト》
適宜プリントや資料を配布する。

《参考文献》
適宜プリントや資料を配布する。

《授業時間外学習》
指定された参考文献や論文(日本語、英語)を予め読んでおくこと。

《備考》
勉強会や論文(英語を含む)の抄読会を適宜行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
2	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
3	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
4	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
5	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
6	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
7	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
8	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
9	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
10	実験とデータ解析	実験を行い、そのデータ解析をする。
11	まとめ	実験データの整理と解析したデータの考察を行う。
12	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
13	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
14	卒業論文の作成	データを論理的に評価し論文を作成する。
15	研究発表	作成した卒業論文を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法		単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
卒業研究Ⅰの続きとして､計画を立てて実験を開始する。最終的に、研究成果を整理し､根拠に基づいた考察を行い、卒業研究としてまとめ、発表する。

《テキスト》
必要に応じ配布する。

《参考文献》
必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》
○研究の流れを理解できる。。
○自分で新たな実験方法の考案ができる。
○理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》
卒業論文の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》
実験態度 50%、 卒業論文 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画・材料調整	卒業演習Ⅰで得た結果を更に発展させるために議論し、実験計画を立てる。
2	研究計画・材料調整	実験計画にそって必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実整理する。
11	結果のまとめ	実験結果を整理し、卒業論文の作成を開始する。
12	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
13	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
14	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
15	報告会	卒業論文に沿って結果を発表する。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	中井 玲子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》
この科目では「食と健康の専門家」の仕上げ教育として、「研究＝課題発見とその解決」の能力を磨くことを目的としている。
特に食品学および栄養学に関連する内容をテーマに設定し、実験を中心とした研究活動を行い、「研究する姿勢」を学習する。

《授業の到達目標》
○自然科学分野（実験系）における研究の特徴（流れ）を理解し、人に伝えることができるようになる。 ○ロジカル・シンキング（論理的思考）スキルが身につく。 ○ディスカッション能力が向上する。 ○論理的な文章の作成能力が向上する。 ○一般的な実験器具および分析機器の取り扱いについて習熟する。 ○「食と健康」について多面的かつ実践的に理解し、説明できるようになる。

《成績評価の方法》
平常の受講態度（50%）と卒業研究論文（50%）を合わせて評価する。

《テキスト》
テキストは使用しない。
必要に応じて論文等の文献使用を指示、指導する。

《参考文献》
必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》
○指定された参考文献を予め読み込み、各実験に臨むこと。
○実験記録の整理に努め、研究遂行の円滑化を心がけること。
○報告書作成等、研究成果のとりまとめを授業時間外にも行う必要がある。

《備考》
原則として、卒業研究Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマ設定と概要説明、実験計画	研究テーマの背景について理解し、実験計画を立てる。
2	文献調査	研究テーマに関連した文献について調査し、理解を深める。
3	実験準備	試薬調製、器具の準備等を行う。
4	実験手法のトレーニング	基本的な実験手法について学習する。
5	実験とデータ解析	基本的な実験手法を元に、研究材料の実験に取り組む。得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる。
6	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
7	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
8	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
9	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
10	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
11	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
12	実験とデータ解析	研究材料の実験に取り組み、得られた実験結果を元に、適宜、メンバーでディスカッションを行いながら以降の実験計画を立てる（継続）。
13	卒業研究論文予稿作成およびディスカッション	実験データを元に、卒業研究論文予稿を作成し、完成に向けてメンバーでディスカッションする。
14	卒業研究論文作成	卒業研究論文予稿を修正し、完成に向けて更にメンバーでディスカッションする。
15	卒業研究論文完成	卒業研究論文を完成させる。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究Ⅰで得た成果を元に、研究テーマに沿った研究を継続して実施する。不足している事項を明らかにするために、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、発表を行う。

《授業の到達目標》

○研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
○得られた情報を客観的に評価する能力を身につける。
○分析結果について自分の意見まとめ、発表する能力を身につける。

《成績評価の方法》

(1)研究態度50%　(2)卒業論文50%で評価を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考文献》

必要に応じて指示する。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《備考》

卒業研究Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。
データの取扱いには十分注意してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマの設定	卒業研究Ⅰで得られたデータから、再度研究テーマを設定する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
6	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
7	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
8	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
9	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	結果のまとめ	得られたデータをまとめる。
12	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
13	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
14	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
15	発表	各自のテーマから得られた結果について発表し、評価を得る。

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	亀谷 小枝				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》
本授業は、これまでの講義や実験・実習のような既知の知識を修得するのではなく、新たな真実を見つけなければならない。そのためには、自ら探求心を持ち、試行錯誤を重ねながら粘り強く継続する力が必要である。卒業研究Ⅰに引き続き、研究テーマにそった文献検索・講読、調査、実験を実施する。得られた結果を整理、分析、考察し、研究計画を再考しながら進める。最後に研究成果を整理し、卒業論文を作成する。

《授業の到達目標》
・自分の研究データや情報から客観的に評価できる能力を養う。
・研究の流れを理解し、論理的思考力を育てる。
・探求心を持ち、粘り強く物事に取り組む姿勢を身につけ、そこから新たな発見をする喜びを知る。
・研究する態度を身につけることで総合的な能力の向上を目指す。

《成績評価の方法》
・平常の受講態度：50%、卒業論文：50%の割合で成績評価を行う。

《テキスト》
随時、資料を配付する。

《参考文献》
必要に応じて提示する。

《授業時間外学習》
・研究テーマにそった文献検索、文献講読、研究結果のまとめや研究計画の再考、報告書の作成などを授業時間外に行う必要がある。

《備考》
・卒業研究Ⅰに引き続き履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
2	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
3	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
4	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
5	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
6	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
7	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
8	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
9	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
10	調査・実験とデータ解析	調査・実験とデータ解析を行う。併せて、文献検索、文献講読、研究内容についてディスカッションを実施し、理解を深める。
11	結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、論文の作成ができるようにまとめる。
12	結果のまとめ	これまでの調査・実験の結果を分析・考察し、論文の作成ができるようにまとめる。
13	卒業論文の作成	卒業論文の予稿を作成し、ディスカッションを行い、文章の書き方や研究内容について理解を深める。
14	卒業論文の作成	卒業論文の予稿を作成し、ディスカッションを行い、文章の書き方や研究内容について理解を深める。
15	卒業論文の作成	卒業論文を修正し、完成させる。

《栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目》

科目名	栄養教育実習				
担当者氏名	和田 早苗、亀谷 小枝				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》
本実習は、栄養教諭としての専門的知識の習得と技術の向上を目指し、さらに教職に関する実践的能力と研究能力及び態度を養っていく事を目標とする。栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図る。実際の学校現場において、児童及び生徒に対する食に関する授業研究、生徒指導、学校行事などに主体的に取り組み、体験的学習を深め、栄養教育における実践的な指導力を養う。

《授業の到達目標》
実習には、管理と指導の二領域がある。管理の部分では、安全で安心できる食事を調整し、それを指導に生かすものであること、指導では、児童・生徒に直接向かい合うことから出発するので、常に児童・生徒に愛情をもち、人格を尊重する態度で接することが大切であることを理解することが出来る。また、各実習校で、学校経営、校務分掌や学校教育方針等を理解し、栄養教諭としての職務を体験することが出来る。

《成績評価の方法》
①実習校の指導教諭による実習態度、課題内容などの評価･･･80%
②栄養教育実習ノートの記述内容･･･20%

《テキスト》
事前事後指導で配布した栄養教育実習ノートを使用する他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考文献》
『栄養教諭養成における実習の手引き』　田中信　監修･編著（東山書房）

《授業時間外学習》
実習時間だけでなく、帰宅後も実習内容は詳細に記録し、実習目標や課題について可能な範囲で研究・考察を行うこと 。

《備考》
将来、栄養教諭になりたいという強い希望を持つ学生以外の履修は不可

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習	実習は、原則として、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町の小学校で行なう。各実習校における指導教諭の計画に基づく1週間のプログラムで実施する。
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		